取扱説明書

ご使用のまえによくお読みください。

ACCORD COUPE

HONDA

ACCORD COUPE

HONDA
本田技研工業株式会社
東京都港区南青山２－１－１

万一、異常や故障などの不具合が生じた場合は、ホンダクリオ店で点検整備を受けてください。
各所在地、電話番号については、別冊の「サービス網一覧」をご覧ください。

30SV2600
00X30-SV2-6000

Printed In U.S.A.

ⓘⓉ Ⓨ ⓗⓒ 11449401R

HONDA

このたびはホンダ車をお買い上げいただき、
ありがとうございます。

この本は、 **ACCORD** *の取り扱いについて*

必要事項を説明しています。
安全で快適なドライブをお楽しみいただくために、
ご使用前に必ずお読みください。

●この本はドライバーの動作に沿って各部の取り扱いを説明し、
また、装備、万一のときの応急処置、お車の手入れなど、必要な情報を説明しています。

●「**安全ドライブのための必読6ポイント**」や、





マークのところは重要です。しっかりお読みください。



安全のため守っていただきたいこと



お車のため守っていただきたいこと



知っておいていただきたいこと

知っておくと便利なこと

- 運転はルールを守り、マナーよく。
  - ・シートベルトを着用しましょう。
  - ・法定速度を守りましょう。
  - ・子供やお年寄りをいたわりましょう。
  - ・駐停車は、ルールに従いましょう。
  - ・迷惑運転はやめましょう。
  - ・自然環境保護に気をくばりましょう。
- 保証に関することは別冊の整備手帳に記載しておりますので、ご使用前に必ずお読みください。
- 安全、快適にご使用いただくために、点検整備は必ず行ってください。
- ご不明な点は、担当セールスマンにおたずねください。
- 取扱説明書は別冊の「整備手帳」とともに、いつもお車に保管してください。
- お車をゆずられるときは、つぎに所有されるかたのために、この本を車につけておいてください。
- アコードクーペには右ハンドル車と左ハンドル車がありますが、取扱説明書のイラストは主として右ハンドル車をもとに書いてあります。

車の仕様などの変更により、この本の内容と実車が一致しない場合がありますのでご了承ください。

CONTENTS

◆ 安全ドライブのための必読6ポイント

1．車を運転する前に

2．車を運転するときに

3．安全装備

4．ドライブを快適にする装備

5．万一のとき

6．車の手入れ

7．車との上手なつきあいかた

● サービスデータ

● さくいん

1．お出かけまえに 12
2．お子さまに思いやりを 15
3．正しい知識で最適運転 16
4．オートマチック車の注意ポイント 20
5．駐車や停車はしっかりと 24
6．こんなことにも注意をしよう 26
11

●各部の開閉 32
●各部の調節 44
●シートベルト 49
●運行前点検 53
31

●メーター 64
●表示灯 66
●警告灯 68
●スイッチの使いかた 73
●エンジンのかけかた 80
●運転のしかた 82
63

●SRSエアバッグシステム 96
●アンチロックブレーキシステム(ABS) 99
●その他の安全装備 101
95

●ヒーター・エアコン 104
●オーディオ 120
●室内装備品 149
103

●工具・スペアタイヤ・発炎筒 158
●故障したとき 160
●事故が起きたとき 162
●けん引 163
●パンクしたとき 165
●警告灯が点灯したとき 172
●オーバーヒートしたとき 174
●電気系統が異常のとき 175
●こんなことでお困りのとき 184
157

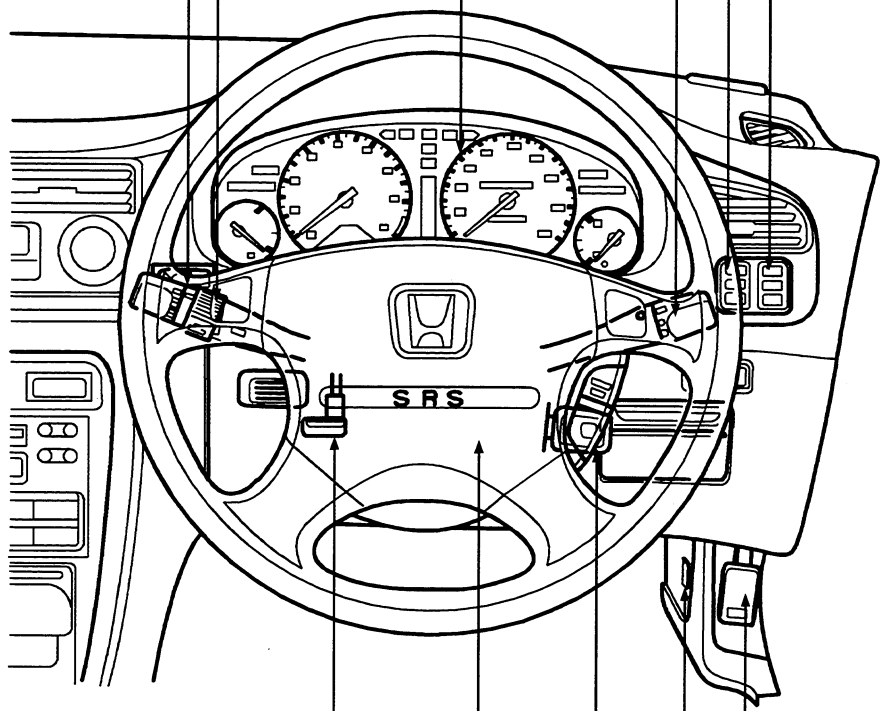
●6か月点検 188
●簡単な整備 198
187

●純正部品 212
●車にあった部品の使用 212
●経済走行のために 212
●積雪・寒冷時の取り扱い 213
211

220

226

右ハンドル車



サンルーフスイッチ タイプ別装備 42

クルーズコントロールメインスイッチ タイプ別装備 91

ライト／方向指示器スイッチ 74、75

メーター 64
表示灯 66
警告灯 68

ワイパー／ウォッシャースイッチ 77

リヤデフロスタースイッチ 78

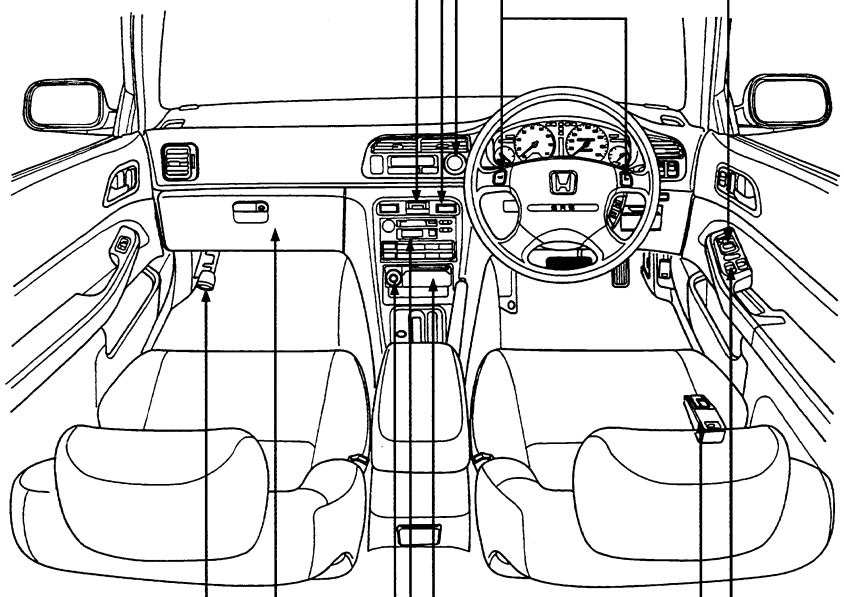
チルトステアリング 47

SRSエアバッグシステム(運転席用) タイプ別装備 97

エンジンスイッチ 73

ヒューズボックス 176

ボンネット解除ノブ 35



時計 149

非常点滅表示灯スイッチ 76

ヒーター・エアコン 104

ホーンスイッチ SRSエアバッグシステム装備車 79

ドアミラー調節スイッチ 48

パワーウィンドースイッチ 40

トランクオープナー 37

フューエルリッドオープナー 39

灰皿 152

オーディオ 120

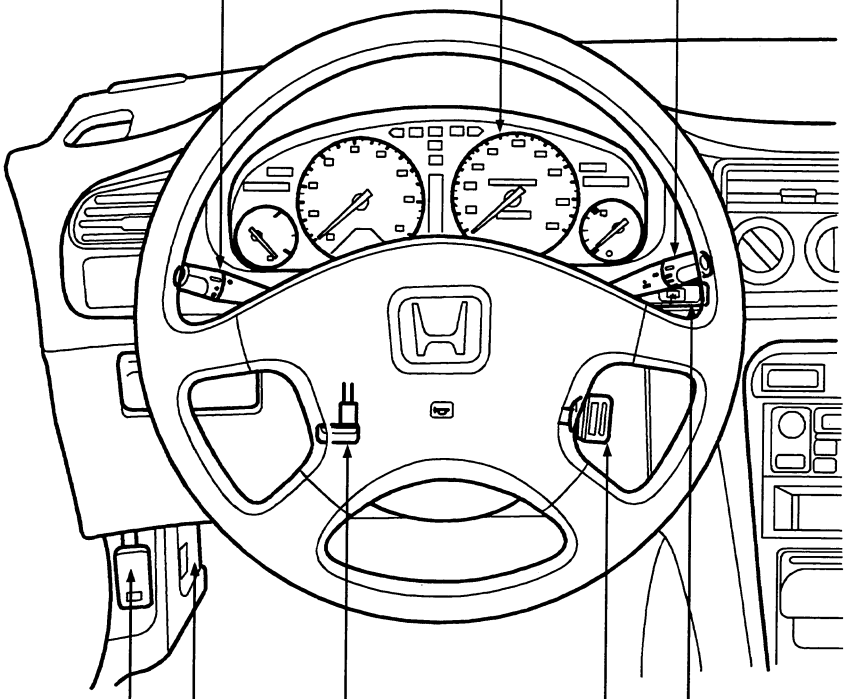
シガレットライター 151

グローブボックス 154

発炎筒 158

ビジュアル目次

左ハンドル車



ワイパー／ウォッシャースイッチ 77

メーター 64
表示灯 66
警告灯 68

ライト／方向指示器スイッチ 74、75

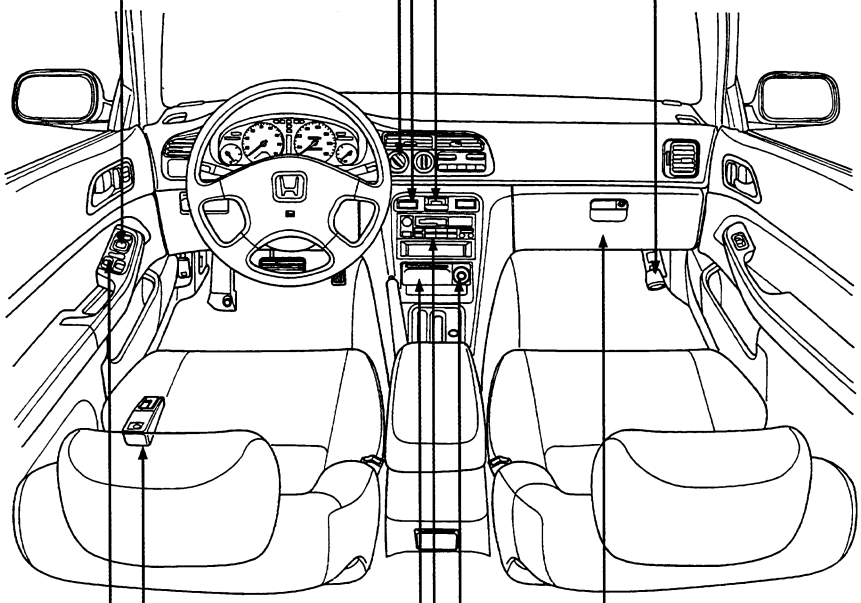
ボンネット解除ノブ 35

ヒューズボックス 176

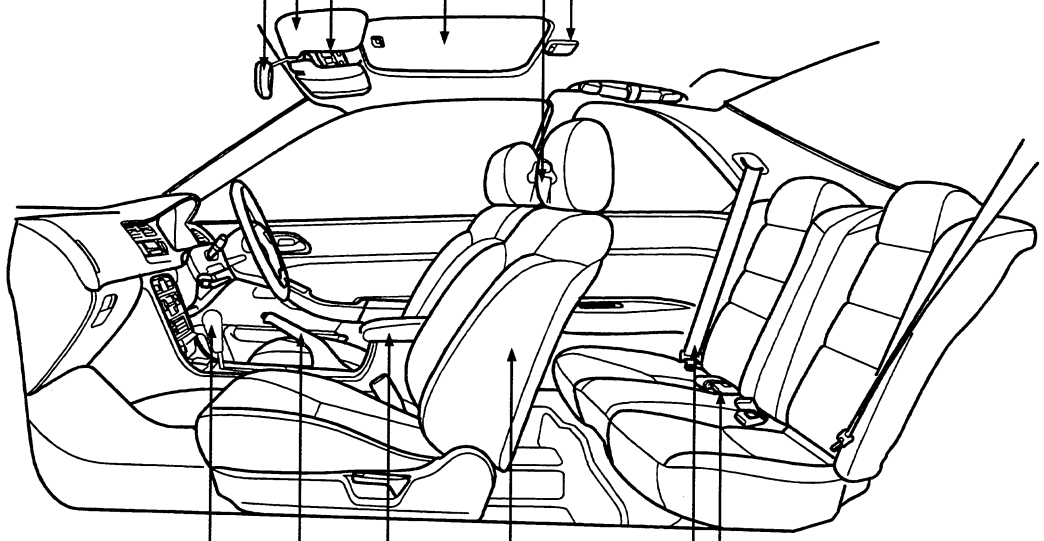
チルトステアリング 47

エンジンスイッチ 73

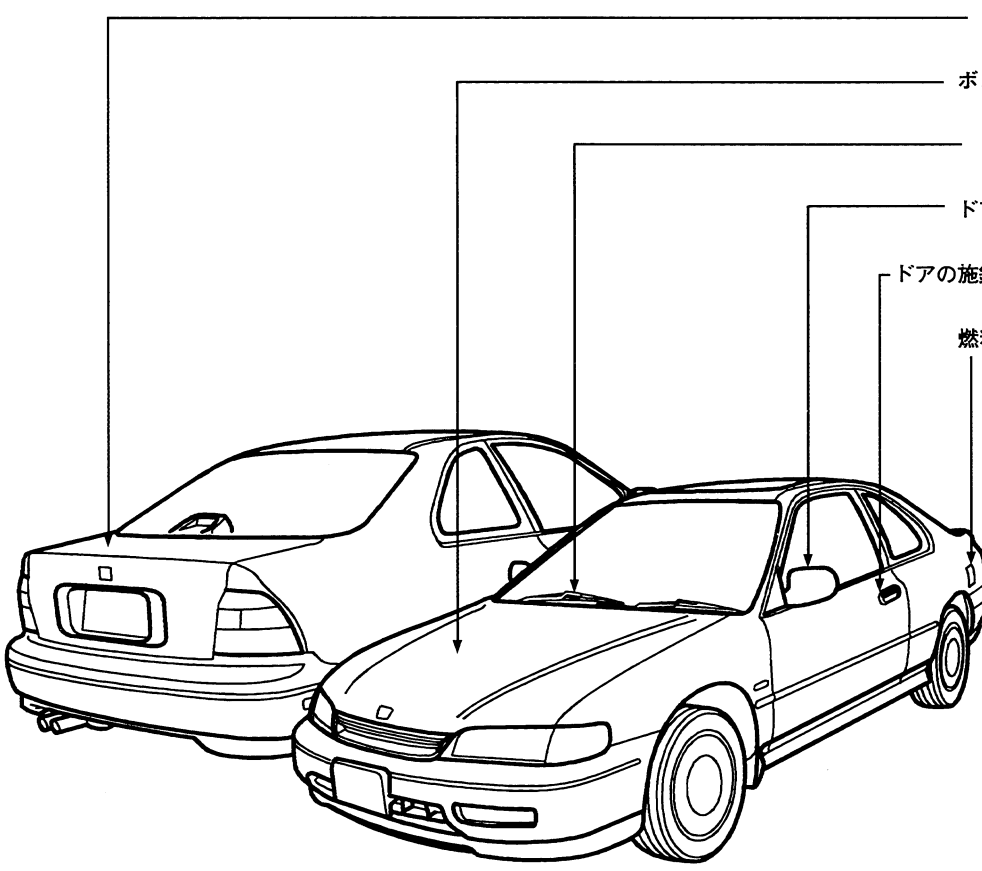
リヤデフロスタースイッチ 78



ドアミラー調節スイッチ 48
ヒーター・エアコン 104
非常点滅表示灯スイッチ 76
時計 149
発炎筒 158
グローブボックス 154
シガレットライター 151
オーディオ 120
灰皿 152
トランクオープナー 37
フューエルリッドオープナー 39
パワーウィンドースイッチ 40



室内灯 150
前席シートベルト 50
サンルーフ タイプ別装備 42
スポットライト 150
サンバイザー 153
ルームミラー 48
セレクトレバー 82
駐車ブレーキ 80
コンソールボックス 154
シート 45
後席シートベルト 51



点検

- 運行前点検……53
- 6か月点検……188

補給

- エンジンオイル……198
- 冷却水……199
- ウォッシャー液……200

交換

- タイヤ……167
- エアクリーナーエレメント……204
- ワイパーブレードラバー……205
- ヒューズ、電球(バルブ)……176

MEMO

安全ドライブのための必読 6 ポイント

ご使用の前に特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことをまとめてあります。

お出かけまえに ……12

お子さまに思いやりを……15

正しい知識で最適運転……16

オートマチック車の注意ポイント……20

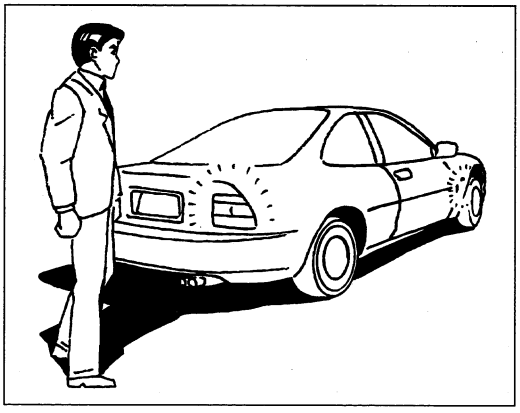
駐車や停車はしっかりと ……24

こんなことにも注意をしよう……26

お出かけまえに・・・

お出かけまえには点検を。
〈53ページ参照〉

- 安全・快適にお使いいただくために、ホンダの点検要領に従って必ず点検しましょう。
- 普段と違う点に気付いたら、ホンダクリオ店で、早めに点検を受けましょう。
  （音、におい、水・油もれ・・・）

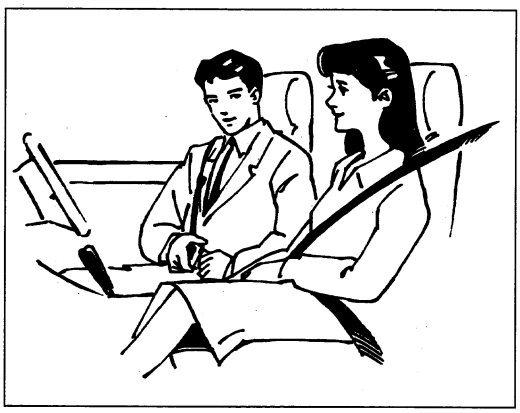


- 走行中も車の状態に気を配り、いつもと違う音やにおい、運転感覚などを感じたら早めに点検しましょう。

シートベルトを正しく着用。
〈49ページ参照〉

●運転する人はもちろん、同乗する人にも着用させましょう。

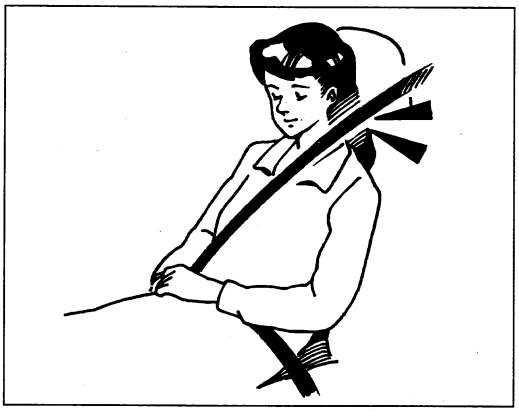
●腰骨のできるだけ低い位置に着用してください。



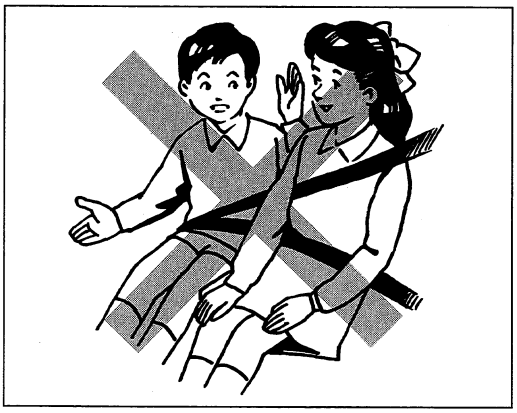
●ベルトにねじれがないか確かめてください。



●ベルトがくび、あご、顔などに当たらないようにしてください。



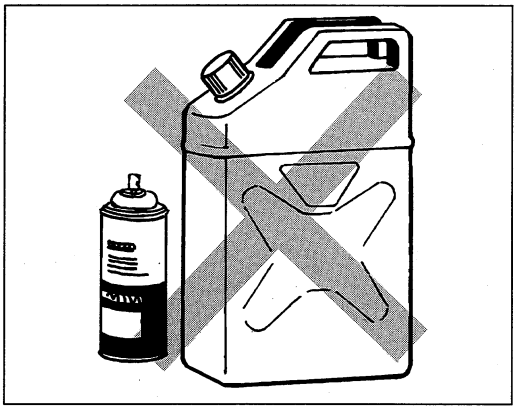
●一本のベルトを二人以上で使用しないでください。



安全ドライブのための必読6ポイント

燃料の入った容器やスプレー缶などはのせないで。

・引火、爆発のおそれがあります。

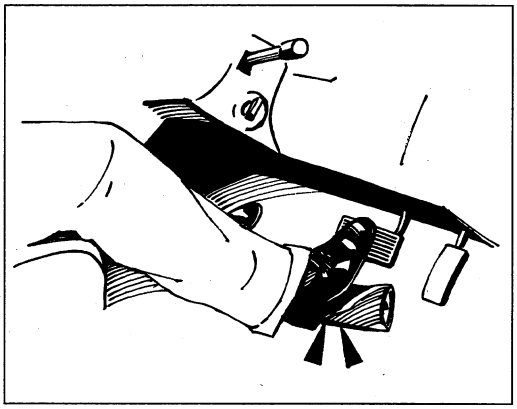


運転のさまたげになるものには注意を。

●運転者の足もとに、物を置かないでください。

●フロアマットが、ペダルに引っかからないように注意してください。

・ブレーキやアクセルのペダル操作が、確実にできないおそれがあります。



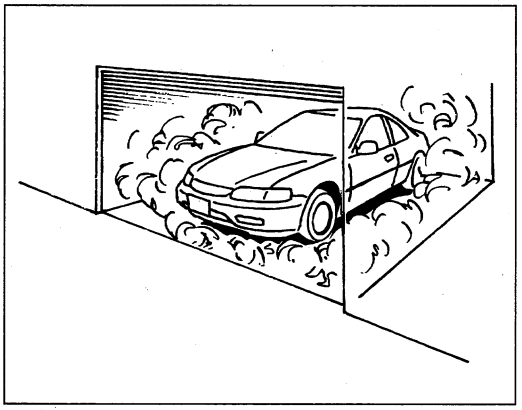
●手荷物はシートの高さを越えないようにしましょう。

・後方視界をさまたげたり、急ブレーキのときなどに荷物が飛び出すおそれがあります。



車庫や屋内では、エンジンをかけたままにしないで。

・換気の悪いところでは、一酸化炭素中毒の危険があります。





お子さまは、うしろの席に。

●助手席にのせるのは避けましょう。

・**不意の動作が気になったり、スイッチ・レバー類のいたずらなど運転のさまたげになるおそれがあります。**

ドア、ウィンドー、サンルーフ、シートの操作は必ず大人が。

●手、足、くびなどをはさまないよう、気をつけてください。

●パワーウィンドーのメインスイッチは、"OFF"にしておきましょう。
〈40ページ参照〉

●走行中、一時停止のときなど、窓やサンルーフから手や頭、物などを出さないよう、注意してください。

・**思わぬ障害物で事故のおそれがあります。**

車から離れるときは、お子さまも一緒に連れて。

●お子さまだけを車内に残さないでください。

・**炎天下の車内は、高温になり危険です。**

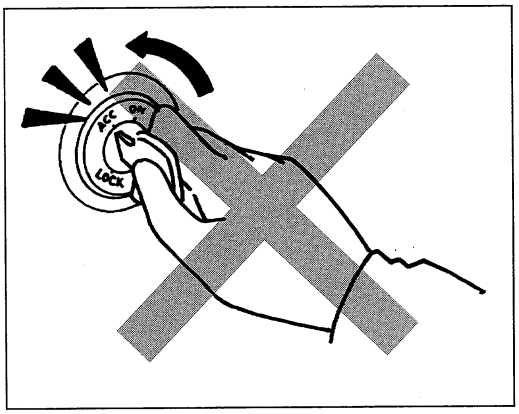
・**お子さまのいたずらにより車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。**

正しい知識で最適運転

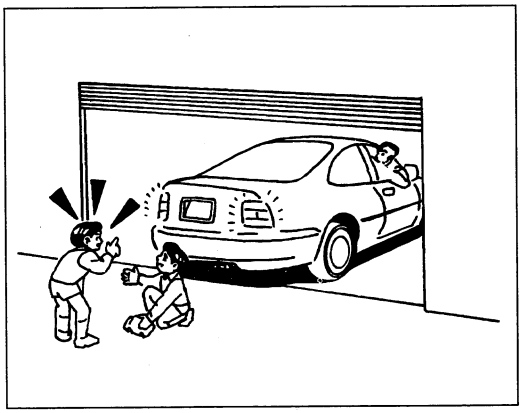
3

●走行中ハンドルの中に手を入れて、スイッチを操作しないでください。
・ハンドル操作のさまたげになり大変危険です。

●走行中はエンジンを止めないでください。
・ブレーキ倍力装置が作用しないため、ブレーキのききが悪くなります。
・パワーステアリングのパワー装置がはたらかなくなり、ハンドル操作が重くなります。



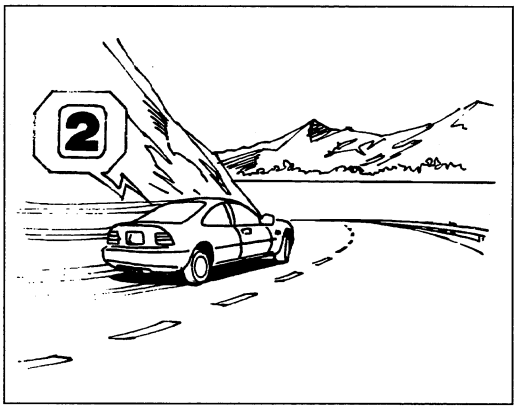
●車をバックさせるときには、子供や障害物に十分注意してください。
・バックミラーでは確認しきれない死角(車の直後など)があります。



長い下り坂では*エンジンブレーキを。

- ブレーキペダルを踏み続けるとブレーキが過熱して、ききが悪くなることがあります。
- 長い下り坂では、走行速度に合わせ、ギヤを一段ずつ落として、エンジンブレーキを併用してください。
  オートマチック車は[D3]または[2]を使ってください。特に強いブレーキ力が必要なときは、[1]を使ってください。

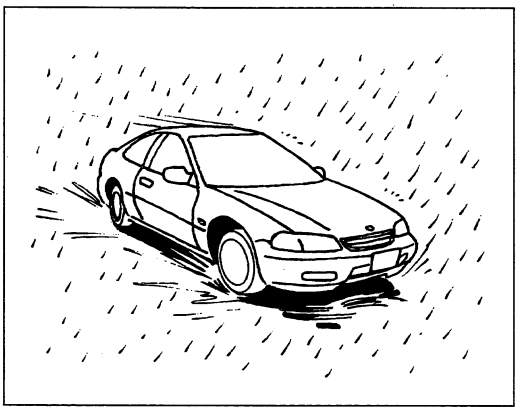
  *** エンジンブレーキとは、走行中アクセルペダルを戻したときにかかるブレーキ力で、低速ギヤほどよくききます。**



雨天時の走行には注意を。

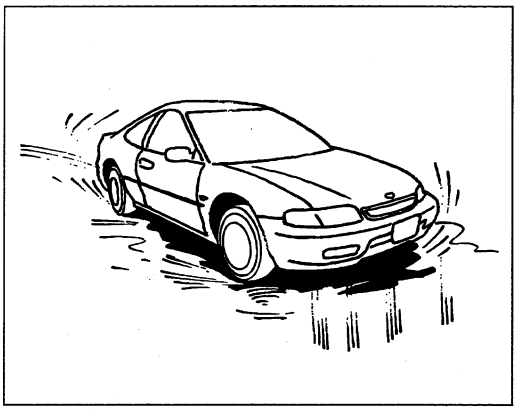
- 雨天時やぬれた道路では、路面が滑りやすくなっておりタイヤのグリップ力が低下するため通常より注意深い運転が必要です。
  また、わだちなどの水のたまりやすい場所では、*ハイドロプレーニング現象を起こしやすいので注意してください。
  このようなところを運転するときは、急加速・急ブレーキや急ハンドルを避け、スピードを落として安全運転に心がけてください。
  特に、摩耗したタイヤは、ハイドロプレーニング現象を起こしやすいので十分注意してください。

  *** ハイドロプレーニング現象とは、路面が水でおおわれているところを高速で走行しようとしたときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態になることをいいます。**
  このような状態になると、ハンドルやブレーキがきかなくなり、非常に危険です。



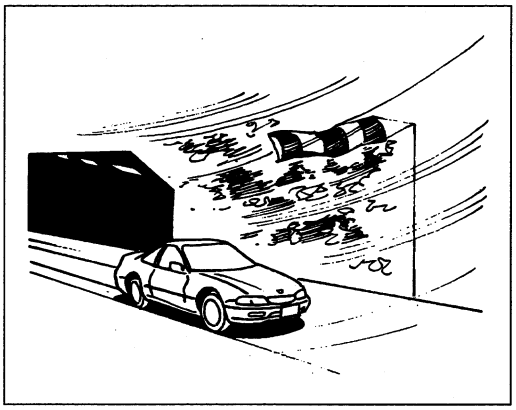
水たまりに入ったあとはブレーキのきき具合を確認。

●水たまり走行後や洗車後は、ブレーキペダルを軽く踏んできき具合を確認してください。
ブレーキのききが悪いときは、前後の車に十分注意しながら低速で走行し、ブレーキのききが回復するまで、繰り返しブレーキペダルを踏んでください。



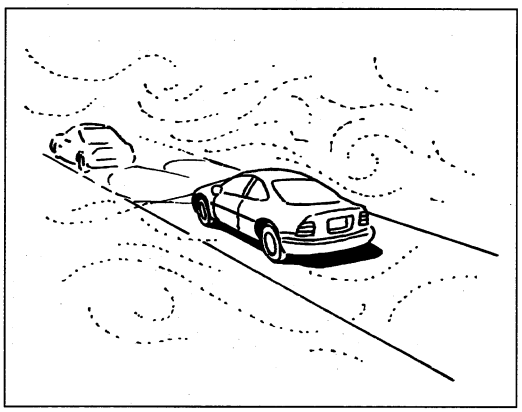
横風の強い日は。

●横風を受け、車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、スピードを徐々に下げて進路を立て直してください。
・トンネルの出口、橋・土手の上、山を削った切り通し、大型トラックを追い越したり、追い越されたりするときなどには、特に横風が発生しやすいので十分注意してください。



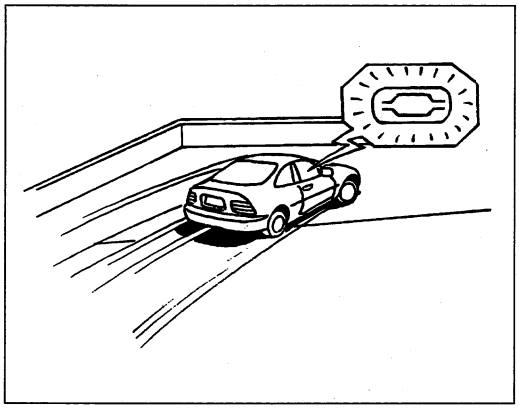
霧が出たときは。

●霧が出たときは、視界が悪くなりますので、前照灯を早めに点灯します。
前照灯は必ず下向きにし、中央線、ガードレールや前の車の尾灯などをめやすにして、速度を落として運転してください。



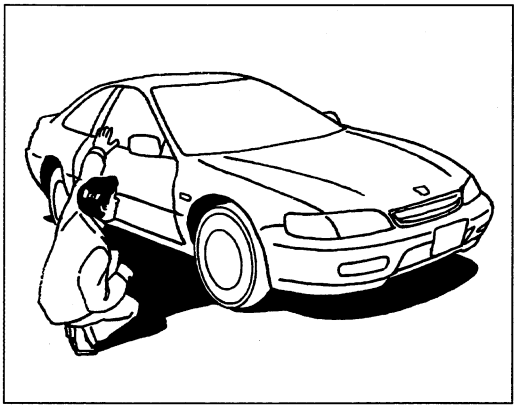
走行中異常があったら。

●警告灯が点灯したら、ただちに安全な場所に停車し処置をしてください。
〈68ページ参照〉



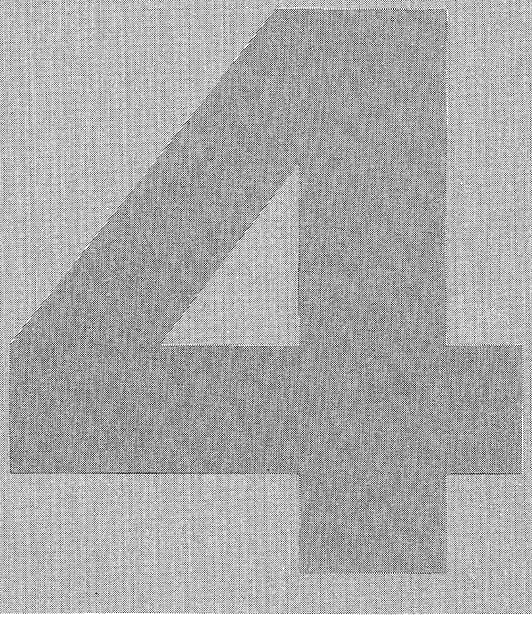
●走行中にタイヤがパンクやバースト(破裂)してもあわてずに、ハンドルをしっかり握り、徐々にブレーキをかけてスピードを落とし、安全な場所に停車してください。
・急ブレーキは、ハンドルをとられることがあり危険です。

●床下に強い衝撃を受けたときは、ただちに車を止めて、ブレーキ液や燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。



オートマチック車の注意ポイント

オートマチック車は、その特性や操作上の注意をよく理解することが大切です。
「オートマチック車の運転のしかた」もあわせてお読みください。
〈85ページ参照〉



オートマチック車の特性を正しく理解。

クリープ現象とは

●エンジンがかかっているとき、セレクトレバーがPN以外に入っていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくりと動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウンとは

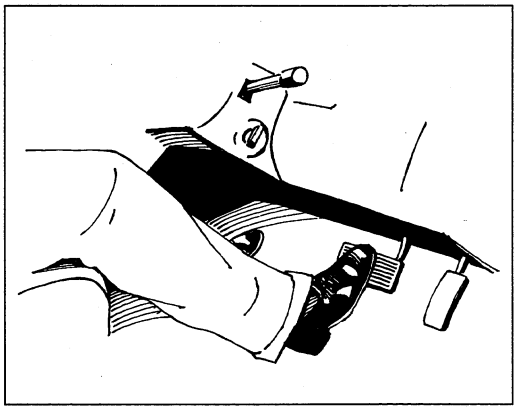
●D4またはD3で走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り換わり、エンジンの回転数が上がって、力強い加速を得ることができます。
これをキックダウンといいます。

ブレーキは右足で。

●ブレーキペダルは右足で踏む習慣をつけましょう。
・不慣れな左足では、適切なブレーキ操作ができず危険です。

エンジンをかけるまえに。

●ペダルの踏みまちがいのないよう、右足でペダルの位置を確認しておきましょう。



エンジンをかけるとき。

●安全のため、セレクトレバーは駆動輪が固定されるPでエンジンをかけましょう。

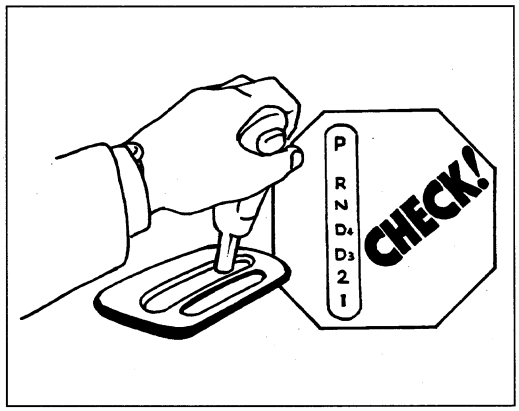


スタートするとき。

●思いちがいを防ぐため、セレクトレバーの位置を目で確認しましょう。

●アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しないでください。

・急発進して思わぬ事故のもとになります。



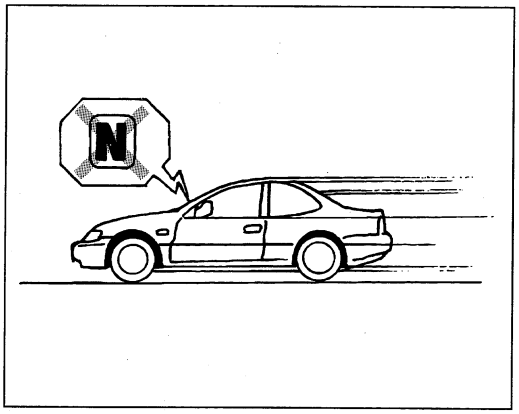
●エンジン始動直後は、自動的にエンジンの回転が上がり、クリープ現象が強くなりますので、ブレーキペダルはしっかり踏んでいてください。

・エアコン作動時も同じです。

走行しているとき。

●走行中は、セレクトレバーをNにしないでください。

・エンジンブレーキが全くきかず、思わぬ事故のもとになります。



●上り坂で、速度を保とうとしてアクセルペダルを踏み込んだとき、キックダウンにより、急にエンジン回転が上がり、思ったより速度が出てしまうことがあります。
アクセルペダルは、慎重に操作してください。

●下り坂では、エンジンブレーキも使いましょう。

・フットブレーキを使いすぎると、ブレーキが過熱して、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。

停車しているとき。

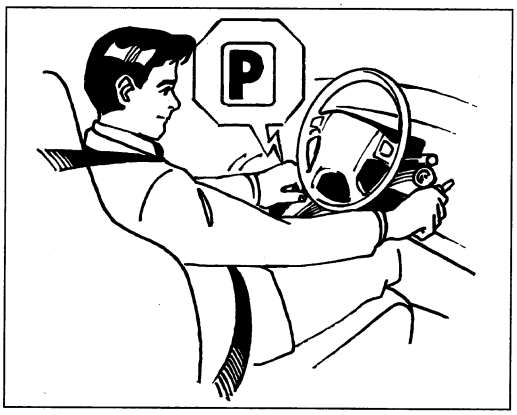
●停車中の空ぶかしは、やめましょう。

・万一、セレクトレバーがPN以外のとき、思わぬ急発進のもとになります。

駐車するとき。

●駐車するときは、セレクトレバーをPに入れ、エンジンを止めましょう。

・万一、セレクトレバーがPN以外に入っていると、クリープ現象で車が動き出したり、乗り込むときに、誤ってアクセルペダルを踏み込んで急発進したりするおそれがあります。



ほかに気をつけたいこと。

●後退したあとは、すぐⓇからⓃにもどす習慣をつけましょう。

・ちょっと後退したときなど、Ⓡに入れたことを忘れてしまうことがあります。

●前進から後退、後退から前進するときは車を完全に止め、ブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーを操作してください。

・車が完全に止まらないうちにレバーを操作すると、トランスミッション破損のおそれがあります。

●車が完全に止まらないうちに、Ⓟに入れないでください。

・急停止して危険であるばかりでなく、トランスミッション破損のもとになります。

シフトロック装置の正しい理解を。

●ブレーキペダルを踏んでいないと、Ⓟからのセレクトレバー操作はできません。

・エンジンスイッチが、"ACC"または"LOCK"のときには、ブレーキペダルを踏んでも、レバーは操作できません。

・セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。

●Ⓟ以外では、エンジンスイッチからキーは抜けません。

・Ⓟ以外では、キーが"ACC"から"LOCK"に回りません。

●Ⓡに入れるとチャイムが鳴ります。

・セレクトレバーがⓇの時にチャイムが鳴り、Ⓡに入っていることを運転者に知らせます。

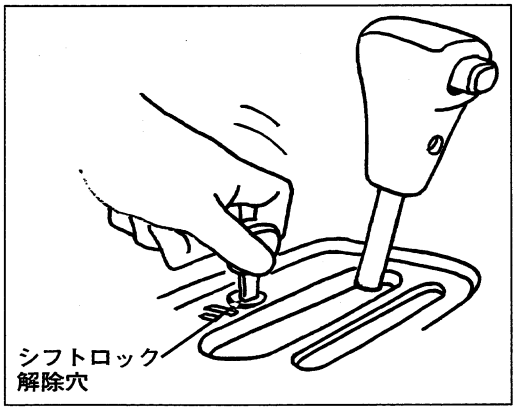
・車外の人には音が聞こえませんので、ご注意ください。

●万一、Ⓟからセレクトレバーが操作できないときは:

・エンジンスイッチからキーを抜き、

・キーをシフトロック解除穴に差し込み、

・キーを押しながら、セレクトレバーを操作します。



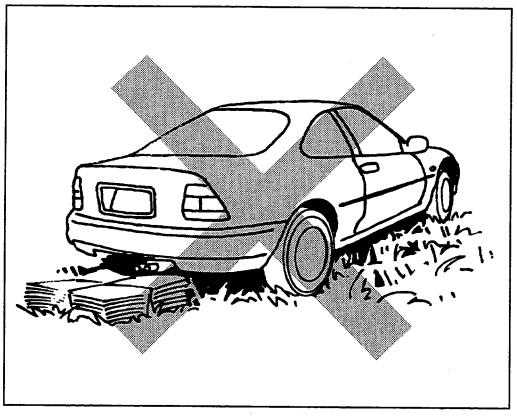
駐車や停車は しっかりと

5

可燃物には注意を。

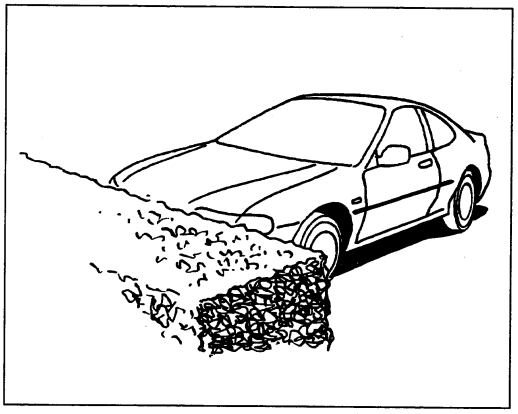
●枯草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには、駐停車しないでください。

・排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。



植込みなどにも注意して。

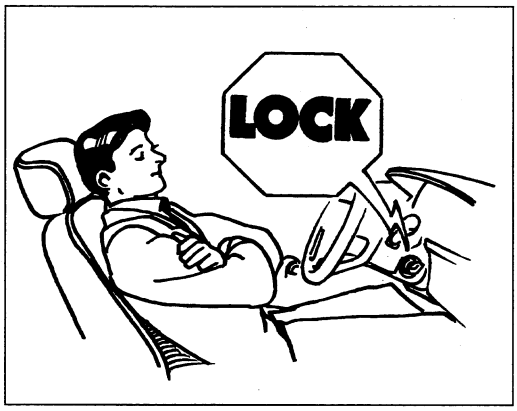
●植込みなどの近くに駐停車するときには、排気ガスが当たらないように、車の向きを決めましょう。



仮眠するときはエンジンを止める。

●エンジンを必ず止めてください。

・無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ事故を起こすおそれがあります。
また、無意識にアクセルペダルを踏み続けたりした場合、オーバーヒートなどを起こしたりエンジンや排気管などの異常過熱による火災事故が発生するおそれがあります。

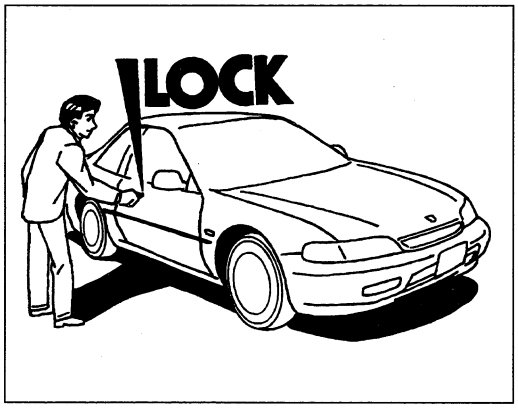


車から離れるときには施錠を。

●必ずエンジンを止めて、ドアを施錠してください。

●車内の見えるところに、貴重品などを置かないようにしましょう。

●お子さまも連れていきましょう。



車の移動はエンジンをかけて。

●車を移動するときは、必ずエンジンをかけてください。

・下り坂を利用しての移動などは、思わぬ事故を招くことがあります。

坂道での駐車は。

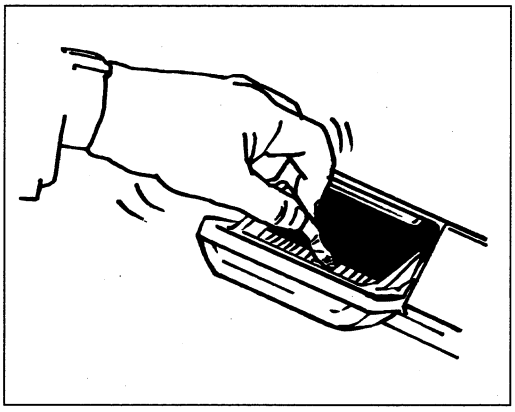
●駐車ブレーキをかけ、セレクトレバーを[P]に入れてください。
さらに、タイヤに輪止めをすると効果があります。

こんなことにも注意をしよう

6

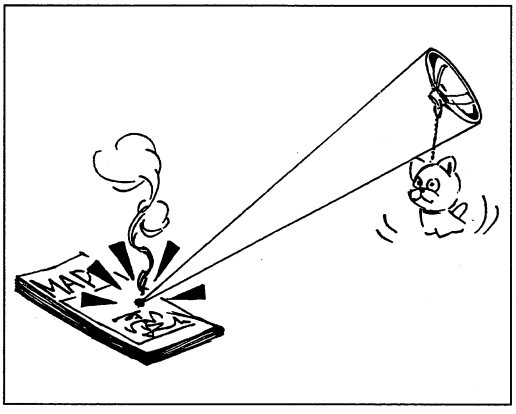
タバコの吸いがらは火を消して。

- タバコ、マッチなどは、確実に火を消してから灰皿に捨て、灰皿は必ず閉めてください。
- 灰皿の中に吸いがらをため過ぎたり、燃えやすいものを入れたりしないでください。



アクセサリーの取り付けには注意を。

- ガラス面にアクセサリーなどを取り付けないでください。
  - **運転をさまたげたり、吸盤がレンズのはたらきをして火災を起こしたり、思わぬ事故のもとになります。**



ラジエーターキャップに気をつけて。

●ラジエーターキャップが熱いときは、外さないでください。

・蒸気や熱湯が吹き出し危険です。



ハンドルをいっぱいに回した状態をつづけない。

●ハンドルをいっぱいに回した状態から、さらに回そうとする力をかけつづけないでください。

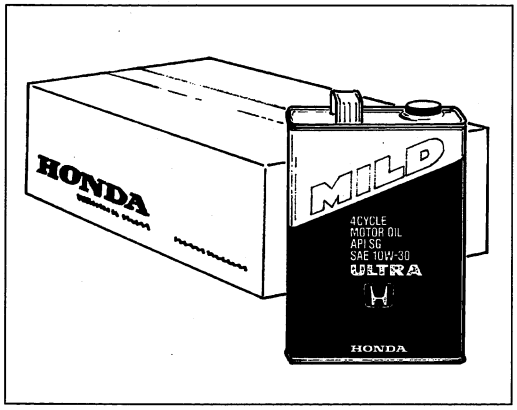
・パワーステアリングポンプがオイル潤滑不良をおこし、損傷することがあります。

改造はしない。

●ホンダ純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を、使用しないでください。

・適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故のもとになったりすることがあります。

・ホンダが運輸省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。

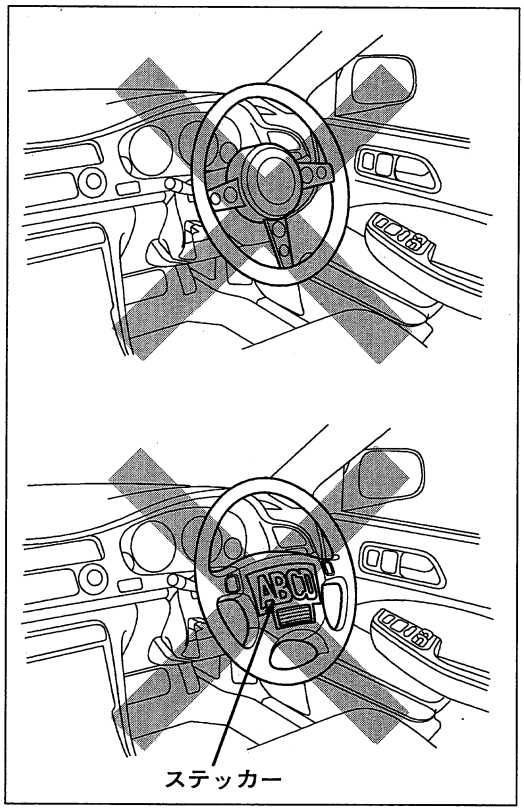


●ホイールは、ACCORD専用品をご使用ください。
・専用品以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすことがあります。
ホンダクリオ店にご相談ください。

●無線装置や自動車電話などの取り付けの際には、必ずホンダクリオ店にご相談ください。
・装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。



●運転席用SRSエアバッグシステム装備車は、ハンドルを交換したり、パッドにステッカー類を貼ったりしないでください。
・SRSエアバッグが正常に機能しなくなります。
・次の場合は、必ず、ホンダクリオ店にご相談ください。
①ハンドルまわりの修理
②センターコンソール付近の修理
③カーステレオ等用品の取り付け
④ダッシュボード周辺の板金塗装および修理


ステッカー

MEMO

1

車を運転する前に

各部の開閉

キー……32
ドアの施錠・解錠……32
ボンネット……35
トランク……37
燃料補給口……39
パワーウィンドー……40
サンルーフ……42

各部の調節

正しい運転姿勢……44
シート……45
チルトステアリング
（上下調節式ハンドル）……47
バックミラー（後写鏡）……48

シートベルト

前席シートベルト……50
後席シートベルト……51

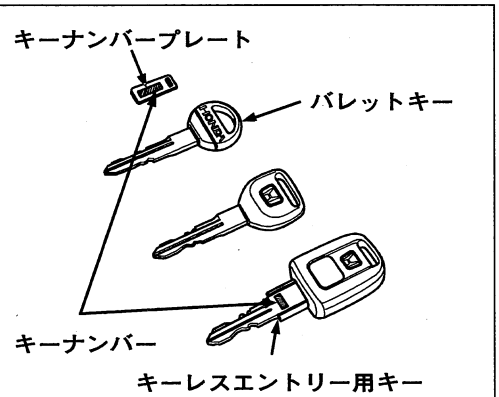
運行前点検

①前日の異状箇所の点検……54
②エンジンルームをのぞいて……54
③車のまわりを回りながら……58
④運転席にすわって……61

各部の開閉

キー

キーは、エンジンの始動、停止のほかに、ドアやグローブボックスの施錠・解錠、トランクの解錠に使えます。
バレットキーではグローブボックスの施錠・解錠、トランクの施錠・解錠はできません。



キーレスエントリー用キーはドアの施錠・解錠がキーを差し込まずにできます。

キーレスエントリー　→34ページ

アドバイス

●キーナンバーを控えておいてください。
キーを紛失したときは、キーの種類(通常のキーまたはキーレスエントリー用キー)とキーナンバーをホンダクリオ店へご連絡いただければ、購入することができます。

ドアの施錠・解錠

注意

●ドアは確実に閉めてください。半ドアでは走行中にドアが開くおそれがあります。
●ドアを開けるときは、周囲の安全を十分確かめてください。不用意に開けると後続車などがぶつかるおそれがあります。

アドバイス

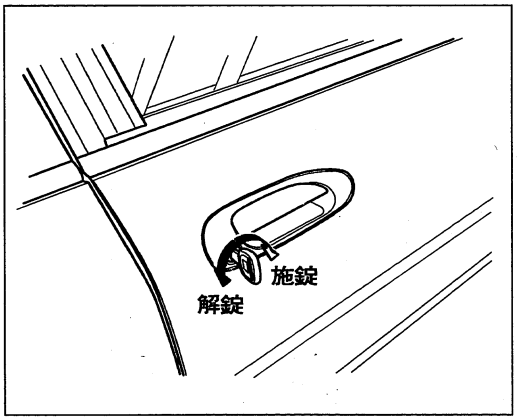
●強風時にドアを開閉するときは、風にあおられないよう注意してください。

アドバイス

●車から離れるときは、エンジンを止めドアを必ず施錠してください。
また、車内の見えるところに、貴重品などを置かないようにしましょう。

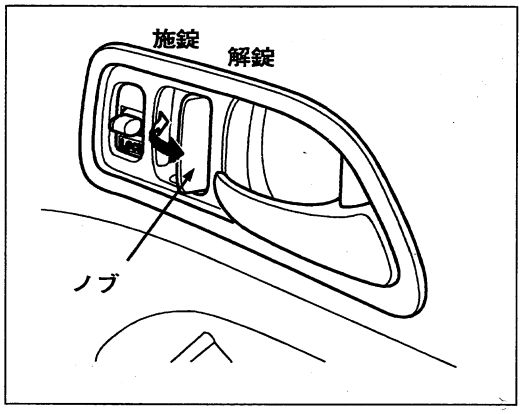
●車外から行う場合

キーを確実に差し込んで回します。
運転席ドアを施錠(解錠)すると助手席ドアも同時に施錠(解錠)します。

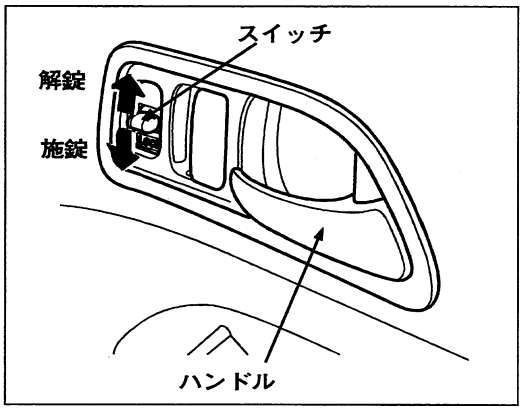


●車内から行う場合

ノブを矢印の方向に動かすことにより、施錠(解錠)できます。



運転席ドア部のスイッチを操作すれば両方のドアの施錠(解錠)ができ、ノブの操作では施錠のみ連動します。



運転席ドアは内側のハンドルを引くと解錠されます。

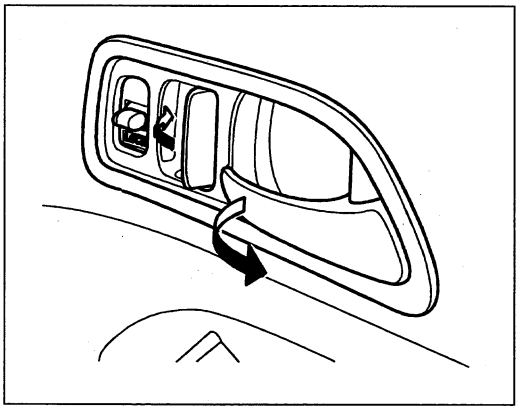
●キーを使わないで施錠する場合

アドバイス

●キー閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠しましょう。

運転席ドア

ドアハンドルを引いたまま車内のノブまたはスイッチを施錠の方向に動かしてドアを閉めると、施錠できます。



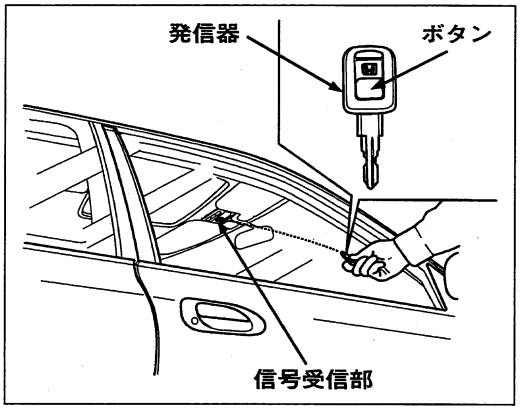
運転席ドアを施錠すると、助手席ドアも同時に施錠されます。

助手席ドア

ノブを施錠の方向に動かしてドアを閉めると、施錠できます。

●キーレスエントリー

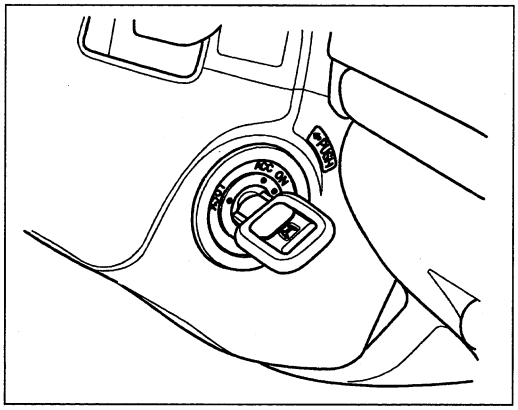
ドアの施錠・解錠がキーを差し込まずにできます。キーをスポットライトにある信号受信部に向け、発信器のボタンを押します。
ボタンを押すとすべてのドアは施錠(解錠)され、もう一度押すと解錠(施錠)されます。



アドバイス

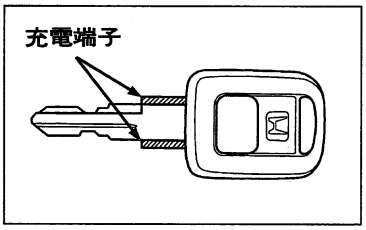
- 発信器には、精密な電子部品が組み込まれています。発信器の故障を防ぐため、次のことをお守りください。
  - ・直射日光が当たるところやダッシュボードの上など、高温になるところに置かないでください。
  - ・衝撃を与えないでください。
  - ・水にぬらさないでください。
- 確実に作動させるため次のことに気をつけてください。
  - ・発信器はドアガラスより50cm以内の距離で使ってください。
- 蛍光灯の下などでは、正常に作動しないことがありますが、異常ではありません。
- 車を離れるときは、ドアハンドルを引いて施錠されていることを確認してください。

この発信器は充電式ですので電池交換の必要はありません。
運転中は、常に充電されています。



アドバイス

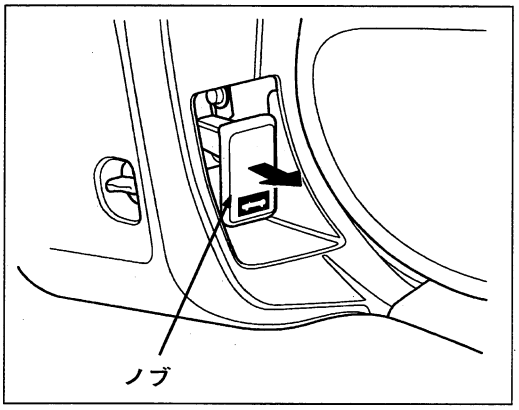
- 長時間使用しなかったときなどに作動しない場合があります。
  これは、内蔵電池の放電によるもので異常ではありません。そのまま15分以上運転していただければ充電されます。充電しても作動しない場合は、ホンダクリオ店で点検を受けてください。
- キーの充電端子を傷つけないようにしてください。
  キーが差し込めず、充電できなくなることがあります。



ボンネット

●開けかた

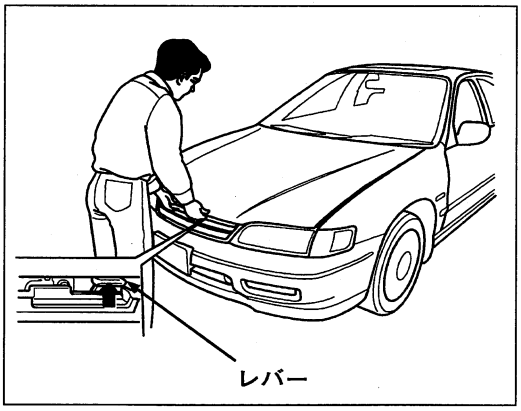
運転席足元のノブを引きます。



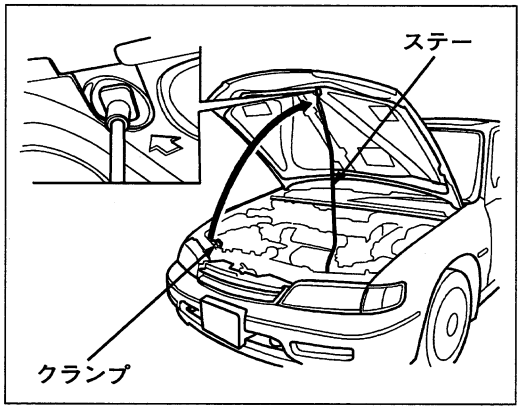
ボンネット前部が少し浮き上がるので、レバーを押し上げながら開けます。

アドバイス

●ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けないでください。ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷します。

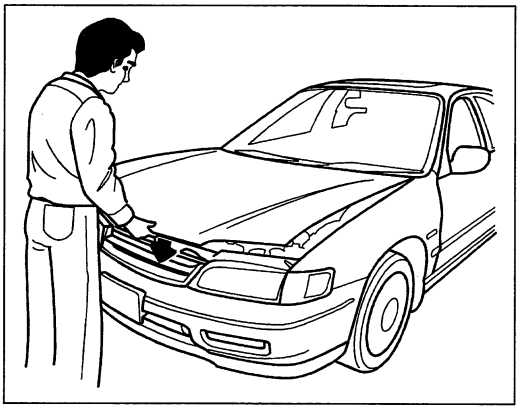


必ずステーを確実にかけ、固定します。



●閉めかた

ステーを外し、クランプに納めます。
ボンネットを静かに下げ、手を離します。
ボンネットが完全に閉まっていることを確認します。



注意

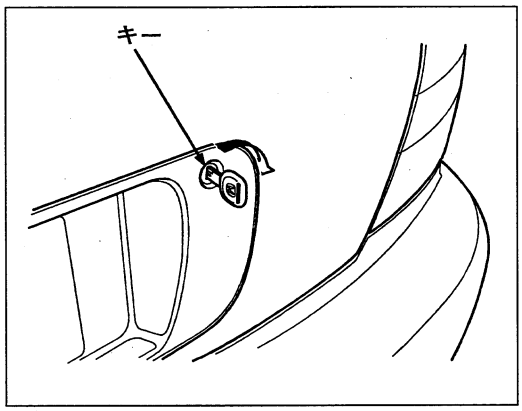
- ボンネットを開けているときに、風にあおられてステーが外れることがあります。特に風の強いときは、ご注意ください。
- ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。
- ボンネットが完全に閉まっていないままで走行すると開くおそれがあります。走行前に必ず確認してください。

トランク

●解錠

車外から行う場合

キーを確実に差し込んで矢印の方向に回すと解錠できます。

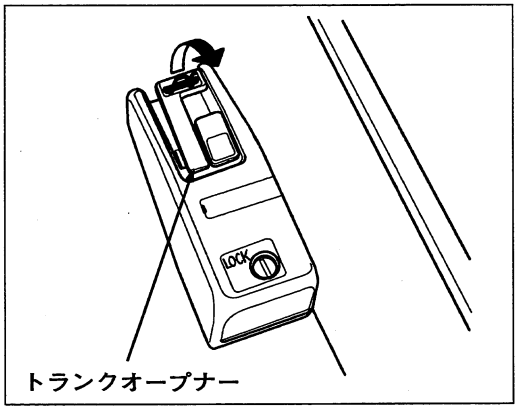


アドバイス

●差し込んだキーを持ってトランクを開閉しないでください。キーシリンダーを破損するおそれがあります。

車内から行う場合

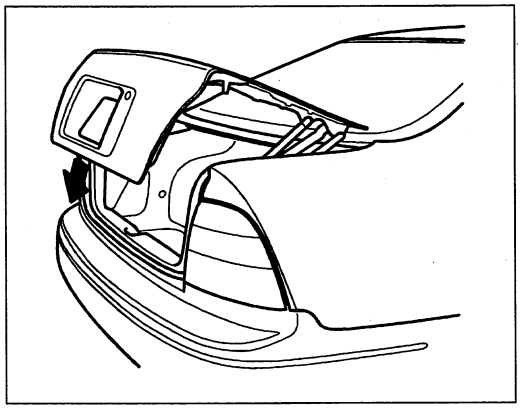
トランクオープナーを引き上げると解錠できます。



トランクオープナー

●施錠

トランクを閉めれば施錠できます。



注意

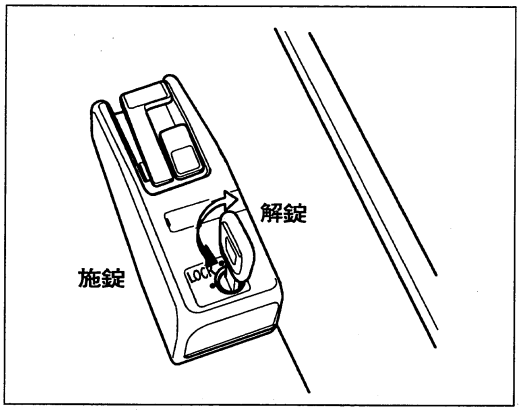
- トランクは途中までしか開けていないと自重で閉まることがあります。
- 風にあおられて閉まることがあります。特に風の強いときは、ご注意ください。
- トランクを閉めるときは手などをはさまないように注意してください。
- エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないでください。やけどなど思わぬけがをすることがあります。

アドバイス

- トランクを開けたまま走行しないでください。車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。
- トランクを閉めるときは次のことに気をつけてください。
  - ・キーをトランク内に置き忘れないようにしてください。
  - ・トランク上面を強く押さえないでください。

• トランクオープナーの施錠・解錠

キーを確実に差し込んで矢印の方向に回すと施錠(解錠)できます。
バレットキーでは解錠できません。



燃料補給口

燃料補給口は車の左側後方にあります。
使用燃料:

SiR	無鉛プレミアム ガソリン (無鉛ハイオク)
2.2Vi	無鉛ガソリン

タンク容量: 64 ℓ

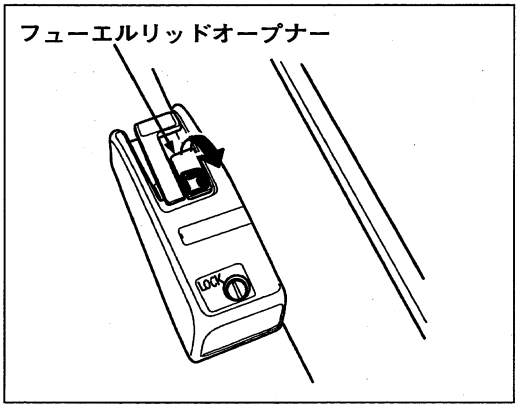
注意
- 燃料補給時は火気厳禁です。エンジンは必ず止めてください。

アドバイス
- 有鉛ガソリンを使うと、触媒装置などを損ないます。また、粗悪ガソリンや不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響を与えます。

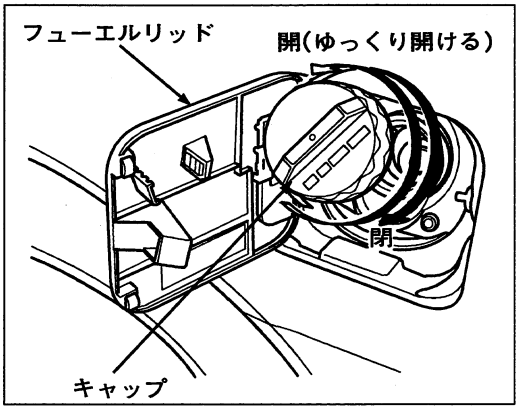
アドバイス
SiR
- 無鉛レギュラーガソリンをお使いになることもできますが、この場合エンジン性能を十分に発揮できません。

●フューエルリッドの開けかた

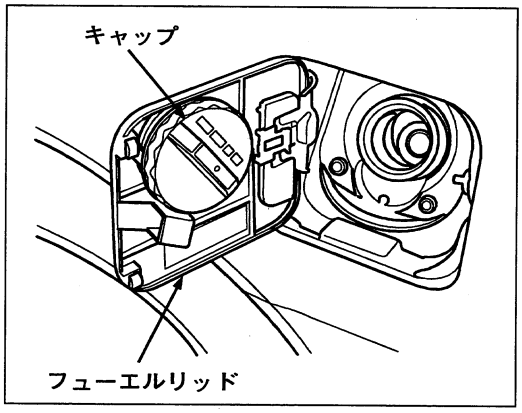
運転席下側にあるフューエルリッドオープナーを引き上げるとリッドが開きます。



●キャップの開閉



外したキャップはフューエルリッドの裏側に置けます。



●閉めるとき

キャップを"カチッ"という音が2回以上するまで締め付けます。フューエルリッドは手で押さえつければ閉まります。

パワーウィンドー

エンジンスイッチが"ON"のとき使えます。

●運転席ウィンドーの開閉

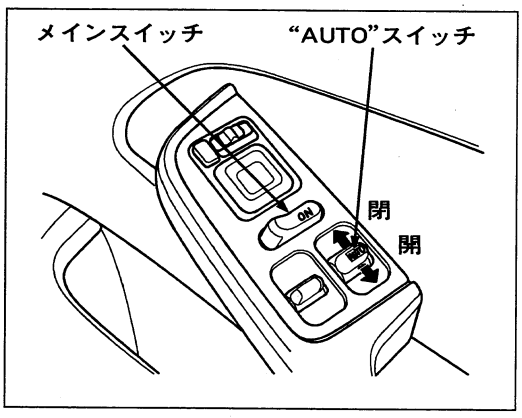
パワーウィンドーのメインスイッチが"ON"でも"OFF"でも作動します。

"AUTO"(自動)スイッチを軽く押すと、押している間のみウィンドーは作動します。

"AUTO"スイッチを強く押すと、手を離してもウィンドーは自動で全開または全閉されます。

自動開閉中にウィンドーを停止させるには、ウィンドーの作動方向とは逆へ瞬間的にスイッチを操作します。

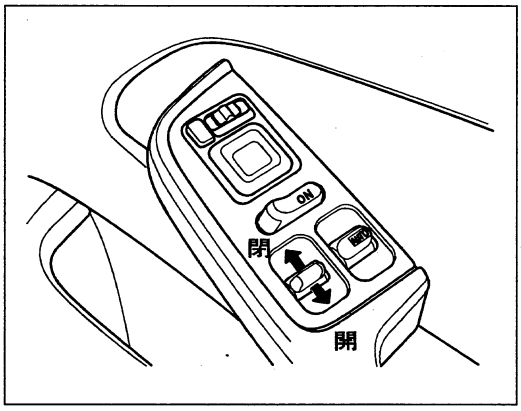
押し続けると逆方向にウィンドーが作動します。



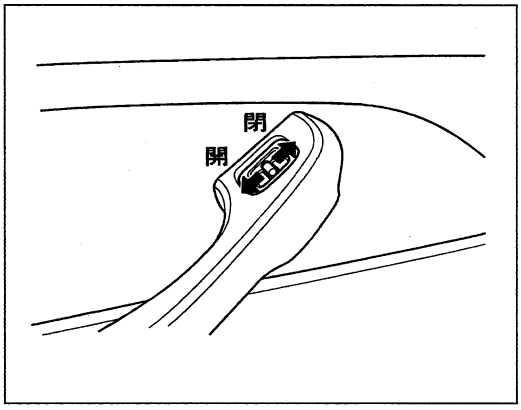
●助手席ウィンドーの開閉

運転席ドアスイッチまたは助手席ドアに取り付けられているスイッチで操作します。
助手席ドアウィンドーを開閉するときは、メインスイッチを"ON"にしないと作動しません。
スイッチを操作している間ウィンドーが作動します。

運転席ドアスイッチ



助手席ドアスイッチ



●キーオフオペレーション

エンジンスイッチを"OFF"にしても、運転席ドアを開けてから約30秒以内であれば、ドアを開けている間パワーウィンドーの操作ができます。

注意

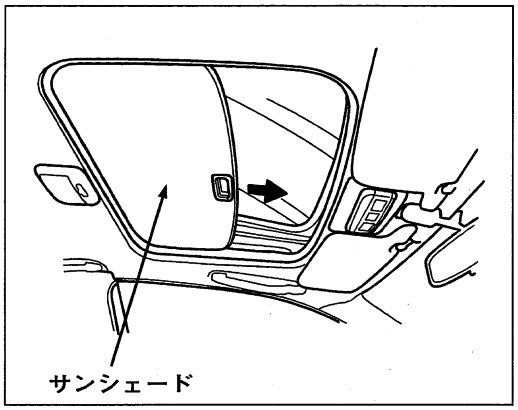
- パワーウィンドーを閉めるときは、手やくびなどをはさまないように注意してください。特にお子さまには気をつけてください。
- 車から離れるときはキーを抜き、お子さまも一緒に連れて行ってください。いたずらなど誤った操作をして思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- ウィンドーの開閉はお子さまではなく大人が操作するようにしてください。
- 小さなお子さまが同乗しているときは、お子さまが誤って操作しないよう、メインスイッチを"OFF"にしておきましょう。

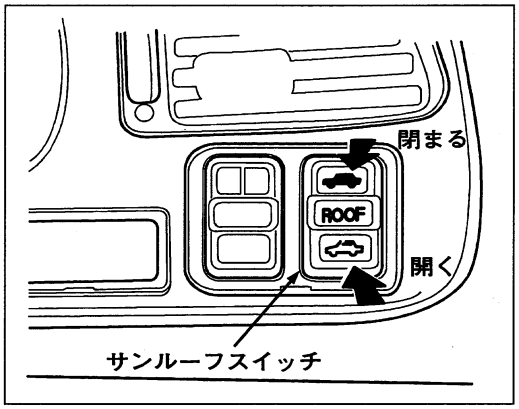
サンルーフ
タイプ別装備

●サンシェード(遮光板)
サンシェードは手動で開閉します。
サンルーフを開ける場合は同時に作動します。
サンルーフが開いた状態ではサンシェードは全閉できません。

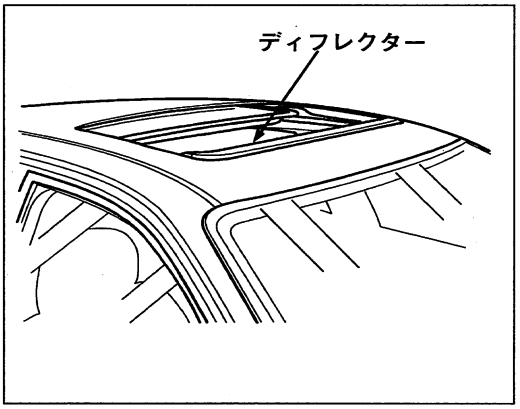


アドバイス
●サンシェードは全開か全閉の位置で使ってください。途中で止めて使うと、走行中の振動で音が出ることがあります。

●開閉
エンジンスイッチが"ON"のとき開閉できます。
スイッチを押している間、サンルーフが作動します。



サンルーフを開けると、室内への風の巻き込みを防ぐディフレクター(整流板)が自動的に上がります。



注　意

●走行中または一時停止時にルーフ開口部から頭や手、物などを出さないでください。
思わぬ障害物で事故のおそれがあります。
●開閉操作は手やくびなどをはさまないように十分注意してください。特にお子さまには気をつけてください。

アドバイス

●サンルーフやルーフ開口部の縁に腰をかけたり荷物を乗せるなどの大きな力を加えないでください。サンルーフが破損するおそれがあります。
●降雪時、厳寒時などには凍結することがあります。このような場合は故障の原因となるので作動させないでください。
●サンルーフが全開または全閉後は作動スイッチを押し続けないでください。故障の原因となります。
●万一、電動でサンルーフが閉まらなくなった場合は手動で閉めてください。
サンルーフが作動しない時
→183ページ

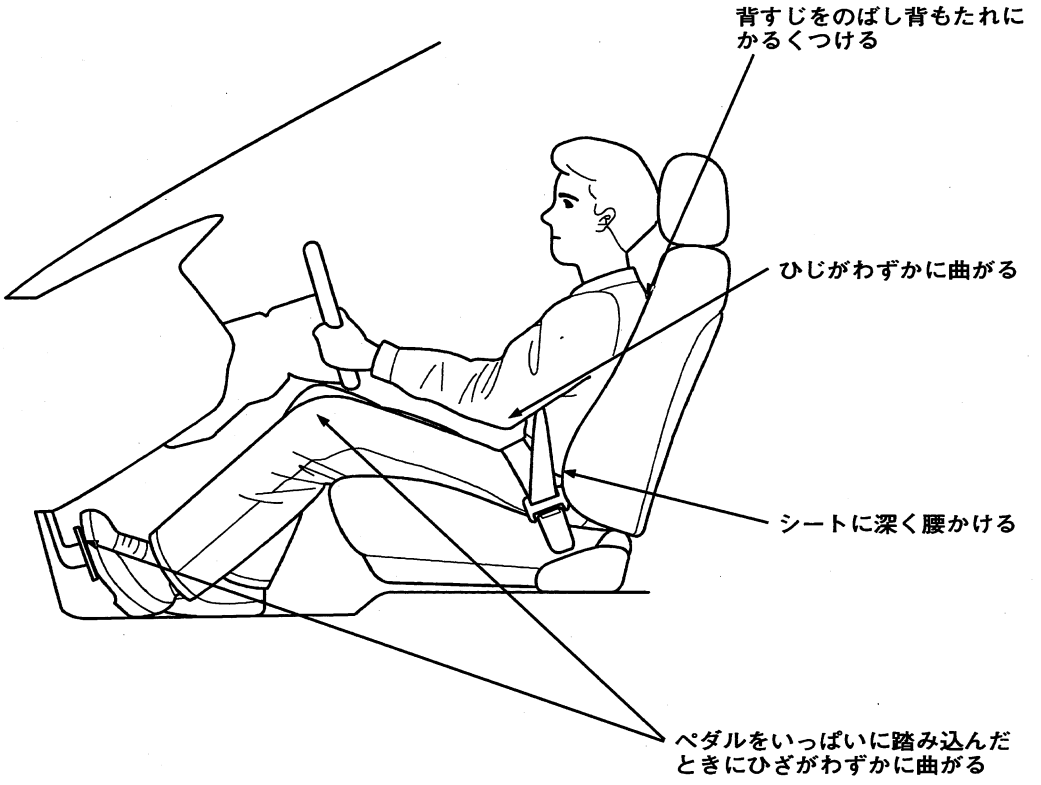
アドバイス

●車から離れるときや洗車のときは、サンルーフが完全に閉まっていることを確かめてください。
●降雨後や洗車後はルーフ上の水を除去してから開けてください。また、積雪時にはルーフ上の雪を除去してから開けてください。室内に水や雪が入るおそれがあります。

各部の調節

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。
正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドルが楽に操作できる姿勢をいいます。



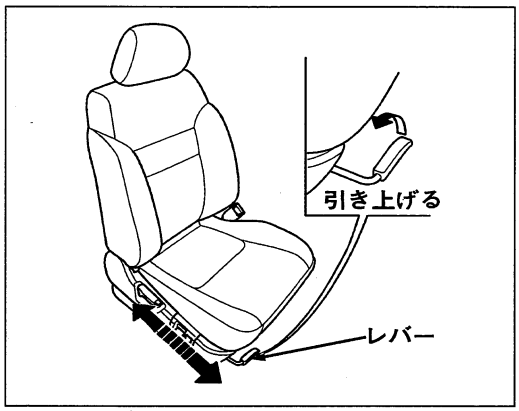
注意

- シート各部の調節は走行する前に行い、調節後は固定されていることを必ず確認してください。
  走行中に調節するとシートなどが必要以上に動くことがあり運転の妨げとなります。
- シートの背もたれは必要以上に倒さないでください。万一のとき、シートベルトの下に滑り込んだりして、シートベルト本来の機能をはたさないことがあります。

シート

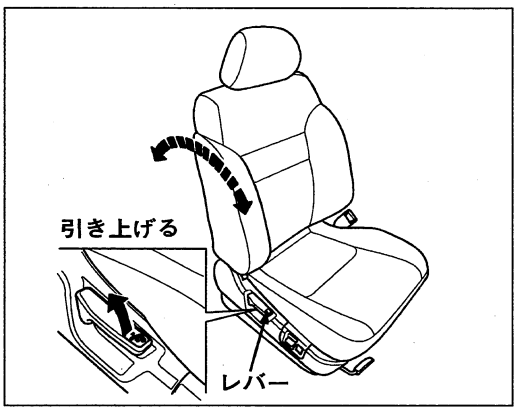
●前後位置の調節

レバーを引き上げながら、前後にシートを動かして調節します。



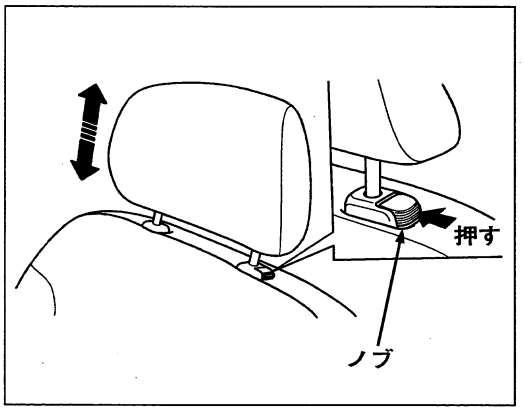
●背もたれの調節

レバーを引き上げながら、背もたれの角度を調節します。



●ヘッドレストの調節

ヘッドレストを持ち上げると高くなります。
低くするときはノブを押しながらヘッドレストを下げます。
運転する前に耳とヘッドレストの中心が同じ高さになるように調節してください。



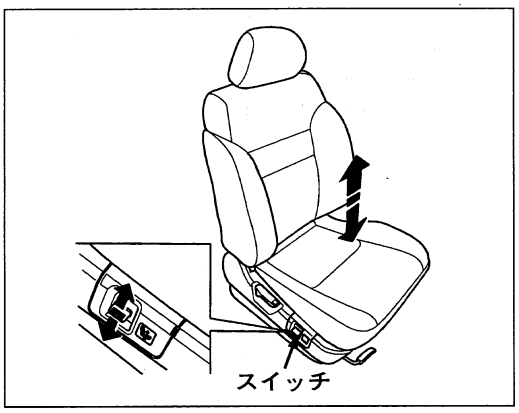
注意

●ヘッドレストを外した状態で走行しないでください。
また、固定できる高さを越えて使わないでください。万一のとき、外れて本来の機能をはたさないことがあります。

●高さの調節(運転席のみ)

タイプ別装備

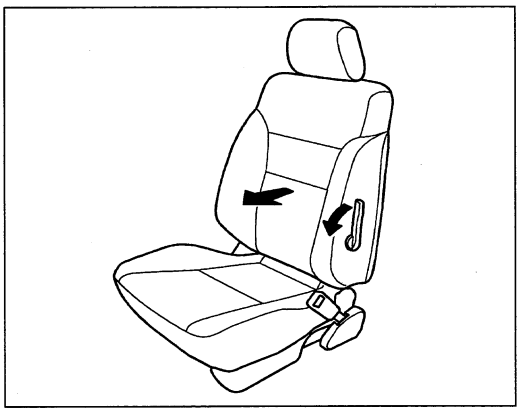
スイッチの操作により、シートの高さを調節できます。



●ランバーサポート(運転席のみ)

タイプ別装備

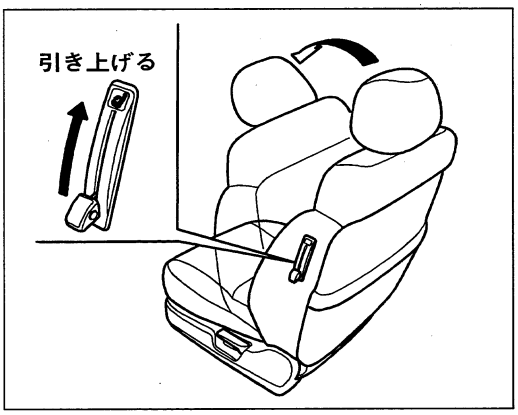
レバー操作により、背もたれ腰部の硬さを調節できます。
お好みの硬さでお使いください。



●後席への乗り降り

助手席(ウォークイン機構)

レバーを引き上げると、背もたれが前に倒れるとともに、助手席全体が前へ移動して乗り降りがしやすくなります。

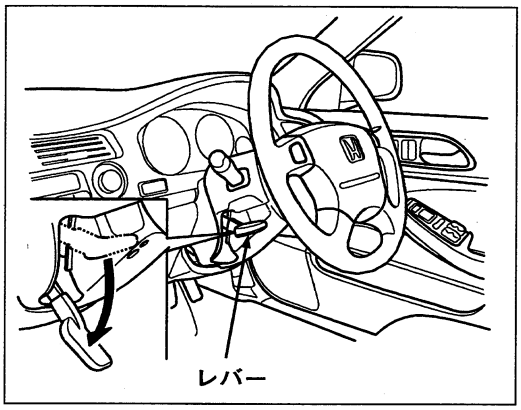


注意

●シートを操作するときは、思わぬけがを防ぐため、お子さまやお年寄りなどに十分注意してください。

チルトステアリング（上下調節式ハンドル）

ハンドルコラムの左にあるレバーを押し下げます。レバーを押し下げている間、ハンドルの高さを変えることができます。
ハンドルを適切な高さにしたら、そのままハンドルを押さえながら、レバーを元の位置まで確実に引き上げ、ハンドル高さを固定します。



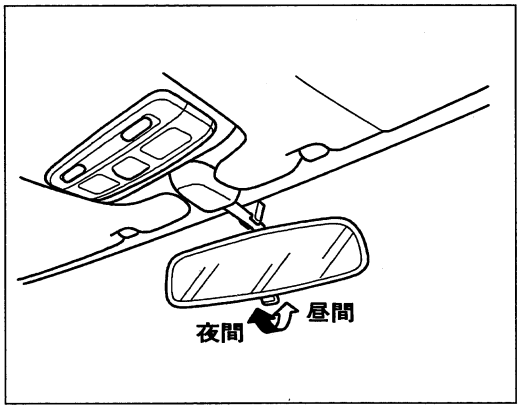
注意

●調節は走行する前に行い、調節後はハンドルに上下方向の力を加え固定されていることを必ず確認してください。
走行中に調節するとハンドルが必要以上に動くことがあり運転の妨げとなります。

バックミラー(後写鏡)

●ルームミラー(防眩式室内後写鏡)

夜間走行時、後続車のライトがまぶしいときにノブを夜間の位置に切り換えるとライトの反射が弱くなります。



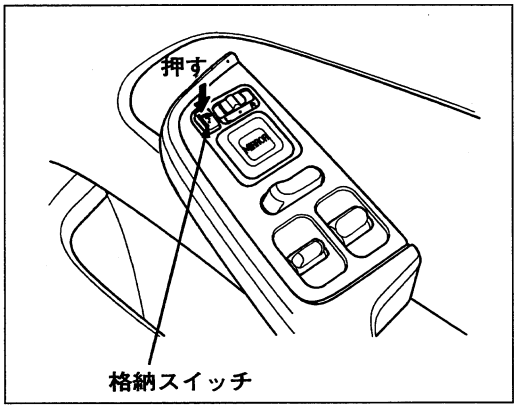
角度調節はノブを昼間の位置にして行ってください。

●ドアミラー

格納

エンジンスイッチが"ON"のとき格納スイッチを押すと、左右のミラーがたたまれます。もう一度スイッチを押すと元の位置に戻ります。

走行するときは必ず元に戻してください。



アドバイス

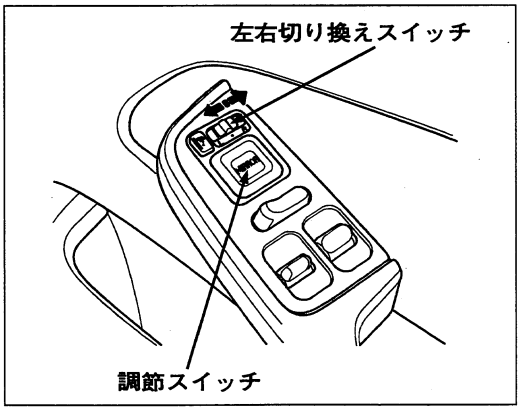
●ミラーを倒したまま走行しないでください。

角度調節

エンジンスイッチが"ON"のときスイッチを操作すると、ミラーの角度調節ができます。

①左右切り換えスイッチを調節したい方に動かします。

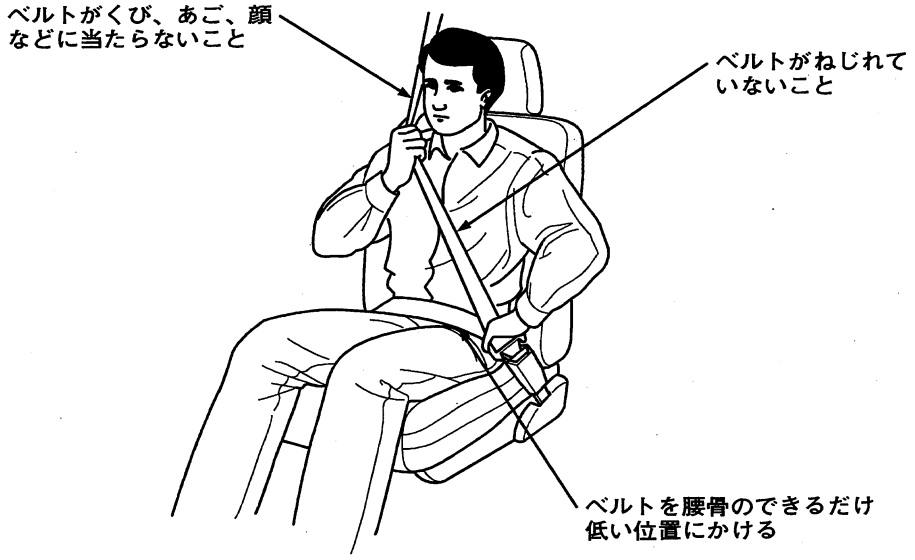
②調節スイッチで角度を調節します。



直接手でミラーを動かして角度を調節することもできます。

シートベルト

シートベルトは、車を運転するまえに運転者は必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。特に前席は、法律でも義務づけられています。



注意

- ベルトは一人用です。二人以上で一本のベルトを使わないでください。本来の機能が発揮されず、危険です。
- シートベルトは、くび、あご、顔などに当たらないように着用してください。小さなお子さまなどは、万一のとき危険ですので、後席に乗り、二点式シートベルトをご使用ください。また、装備されているシートベルトは大人用ですので、一人ですわることのできない小さなお子さまなどは、このベルトを直接使わないでください。
- 妊娠中の女性や疾患のあるかたのベルトの着用は、万一のとき腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがありますので、医師にご相談ください。

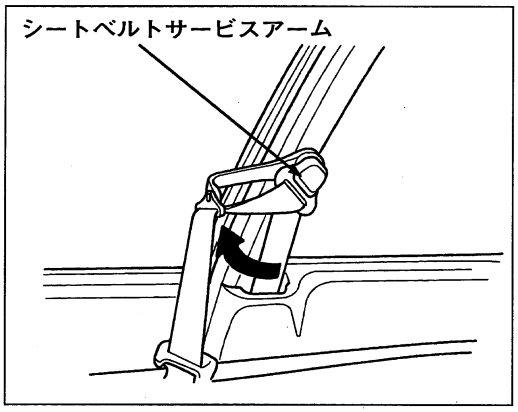
アドバイス

- 小さなお子さまにはチャイルドシートをお使いください。
  ホンダアクセス商品をご用意していますので、ご購入、ご使用に際してはホンダクリオ店にご相談ください。
- ベルトを着用した状態で万一、事故に合った場合は機能を損なっている可能性があるため、ベルト一式を交換してください。
- シートベルトを十分に機能させるために、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。
- ベルトが汚れた場合は、中性洗剤を溶かしたぬるま湯に布をひたしてふき取り乾かしてください。薬剤を使ったり漂白や染色は絶対しないでください。ベルトを弱めます。

前席シートベルト

●シートベルトサービスアーム（運転席のみ）

シートベルトをより使いやすくするためのものです。
シートベルトサービスアームを車両前方に“カチッ”という音がする位置まで持ち上げて使用してください。



●テンションリデューサー

ベルト着用時の圧迫感を軽減する装置です。
エンジンスイッチが“ON”でシートベルトを着用したときに、はたらきます。

●着用のしかた

①正しい運転姿勢でシートにすわります。
(→44ページ)
②タングプレートをつかみ、ゆっくり引き出します。



③ベルトにねじれがないようにし、タングプレートをバックルの中へ“カチリ”と音がするまで差し込みます。



④ベルトがねじれたり、引っかかったりしていないかを確認します。

注意

●ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、局部的に強い力を受けて危険です。
ねじれないように使ってください。

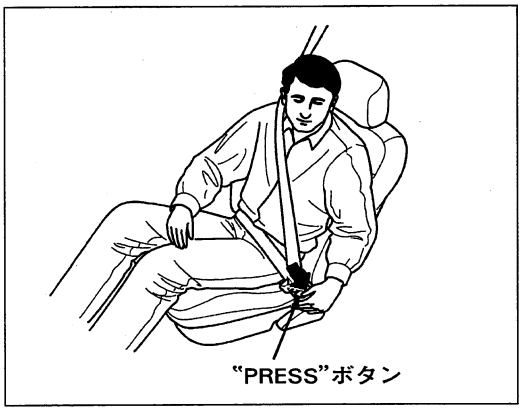
⑤ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかかるように引き、たるみがないように身体に密着させます。



注意

●ベルト締め付け力を丈夫な腰骨の部分に拡散するため、ベルトは上腹部を避け腰骨のできるだけ低い位置にぴったり着用してください。

⑥外すときはバックルの"PRESS"ボタンを押します。
ベルトが自動的に収納されますので、ひっかかったり、ねじれたりしていないかを確認します。



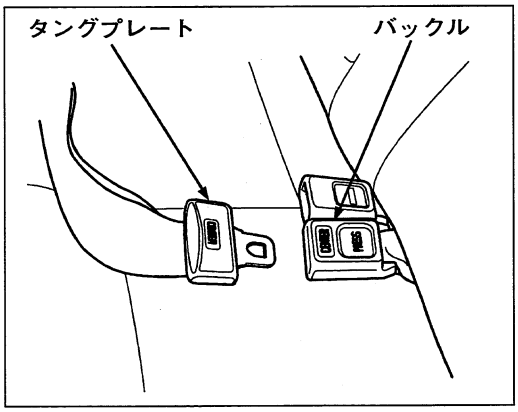
後席シートベルト

●左右三点式シートベルト

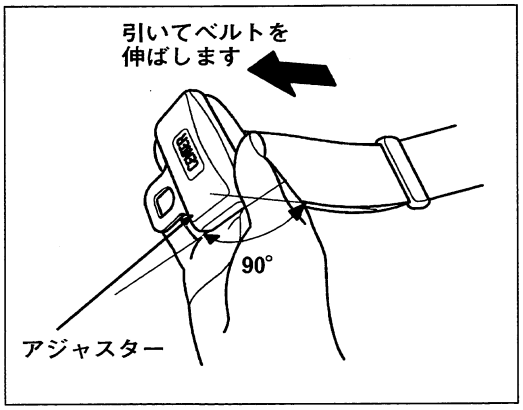
ベルトの着用のしかたは、前席シートベルトと同じです。

●中央二点式シートベルト

タングプレートを差し込む相手を間違えないようにしてください。中央席用ベルトには、タングプレート側とバックル側に"CENTER"(センター)の表示があります。



①アジャスターを図のようにし、ベルトを引いて必要な長さより少し長めにします。



②ベルトにねじれがないようにし、タングプレートをバックルの中へ"カチリ"と音がするまで差し込みます。



注意
●ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、局部的に強い力を受けて危険です。
ねじれないように使ってください。

③腰骨にかかるようにベルトを図のように引き、腰部に密着させます。



注意
●ベルト締め付け力を丈夫な腰骨の部分に拡散するため、ベルトは上腹部を避け腰骨のできるだけ低い位置にぴったり着用してください。

④外すときはバックルの"PRESS"ボタンを押します。
外したベルトはタングプレートとバックルを結合しておきます。

運行前点検

運行前点検は、自動車を使う人が、１日１回、運転する前に実施するよう法令により義務づけられています。
この点検は、エンジンルームをのぞいたり、車のまわりを回ったり、また、運転席にすわって車の状態をみることによって容易に出来るものです。
運行前点検を確実に行うためには一定の順序で行うことが効果的です。
点検作業は、車を水平な場所に置いて行ってください。
右に点検順序を示します。

アドバイス

- **異常を知らずに使用し続けると、事故や故障のもとになります。必ず運行前点検を行ってください。**
- **異常が認められた場合は、事故や故障を防ぐため必ずホンダクリオ店で点検を受けてください。**

運行前点検の順序

❶前日の異状箇所の点検

→54ページ

❷エンジンルームをのぞいて

→54ページ

ブレーキ液量の点検
※エンジンオイル量の点検
※冷却装置の点検
※発電機ベルトの点検

❸車のまわりを回りながら

→58ページ

反射器、ナンバープレートの点検
灯火装置、方向指示器の点検
タイヤの点検(※溝の深さの点検)

❹運転席にすわって

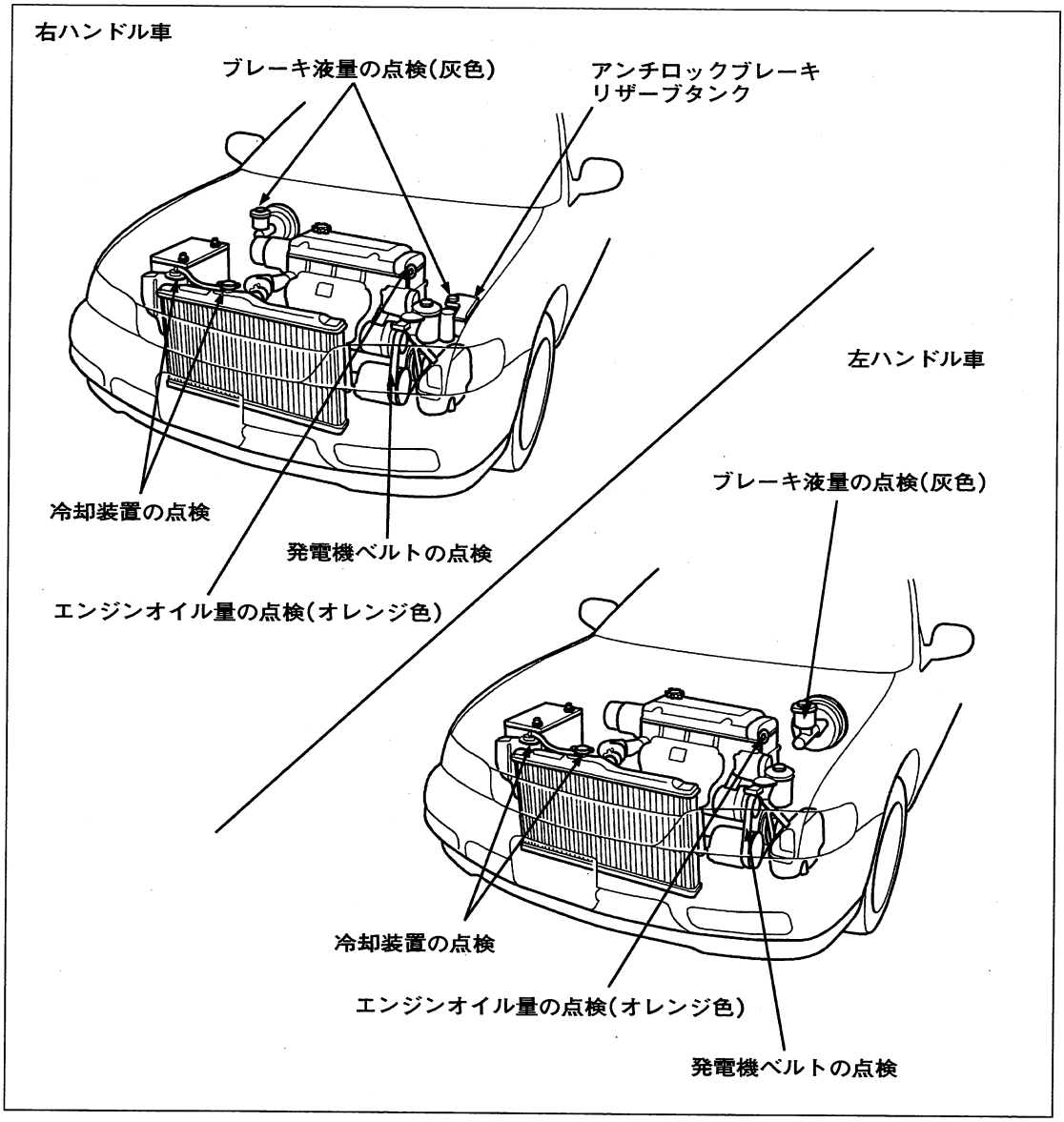
→61ページ

後写鏡の点検
駐車ブレーキの点検
ブレーキの点検
※燃料の量の点検

※印の点検項目は、80km/h以上で走行できる高速道路などを走行する予定がない場合には、行わなくてもよい項目です。

❶前日の異状箇所の点検
運行に支障がないかを点検します。

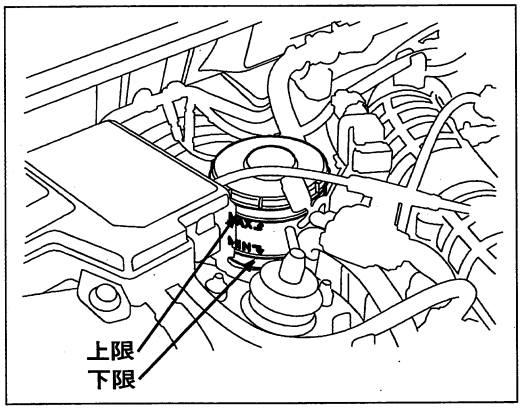
❷エンジンルームをのぞいて



ブレーキ液量の点検

リザーブタンクの液量が上限(MAX)と下限(MIN)の間にあるかを点検します。

●ブレーキリザーブタンク



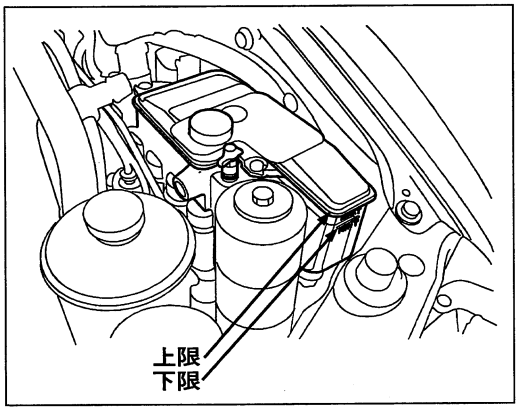
液面が下限より下がっていたらただちにホンダクリオ店へご連絡ください。

アドバイス

●リザーブタンクの液量は、ブレーキパッドの摩耗と共に徐々に減少しますが、異常ではありません。
液の減りかたが著しいときや、下限より下がっているときはブレーキ系統の液漏れなどが考えられ、この場合正常なブレーキ力が得られなくなるおそれがあります。

●アンチロックブレーキリザーブタンク

ABS装備車

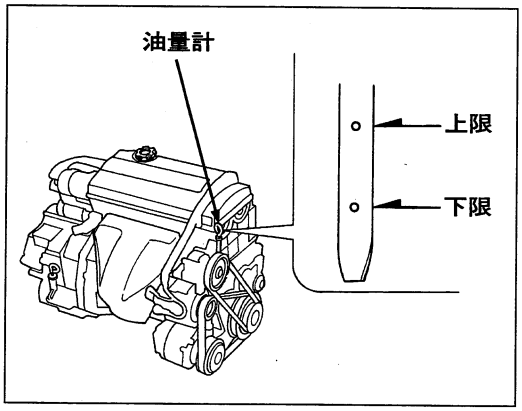


液面が下限より下がっていたらホンダクリオ店で点検を受けてください。

エンジンオイル量の点検

エンジン始動前に行います。
エンジンオイルの量が、油量計(オイルレベルゲージ)の目盛りの上限と下限の間にあるかを点検します。
点検は、油量計を抜き取り、付着しているオイルをふいて、再びいっぱいに差し込み、もう一度抜いてオイルの量をみます。
下限に近くなったら上限まで補給してください。

エンジンオイルの補給　→199ページ



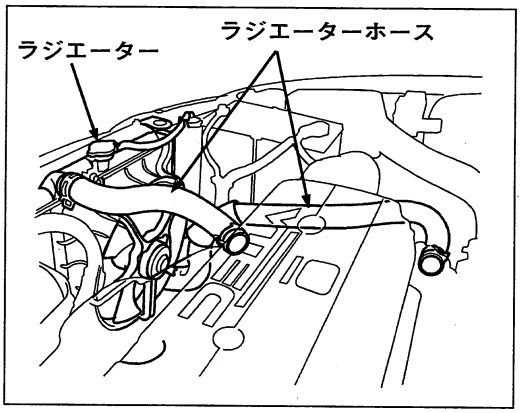
アドバイス

●正確にオイル量を点検するために、次のことをお守りください。
・車を水平な場所に置いて行ってください。
・エンジン始動前か、エンジンを止めてから少なくとも3分以上たってから点検してください。

冷却装置の点検

●水漏れ

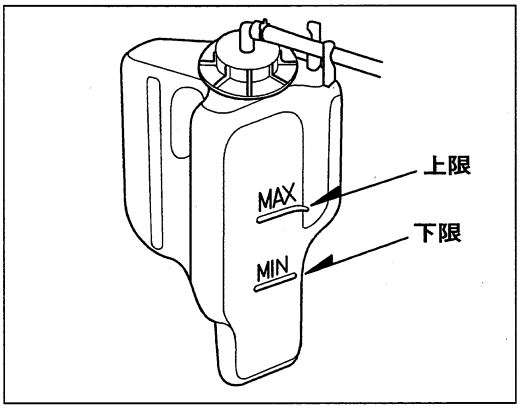
ラジエーター、ラジエーターホースなどから水漏れがないかを点検します。
このとき、車を停めておいた地面に水が漏れたあとがないかも調べます。



●冷却水の量

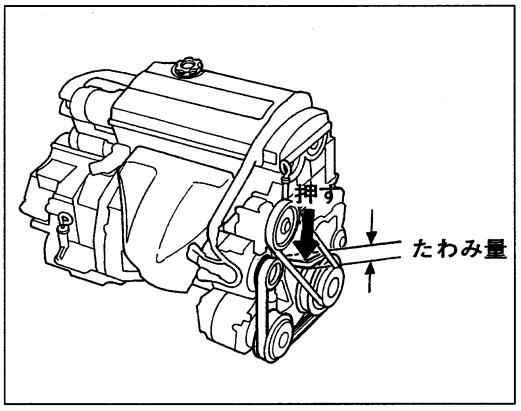
リザーブタンク内の冷却水の量が上限(MAX)と下限(MIN)の間にあるかを点検します。
液面が下限より下がっていたらすぐ補給してください。

冷却水の補給　→200ページ

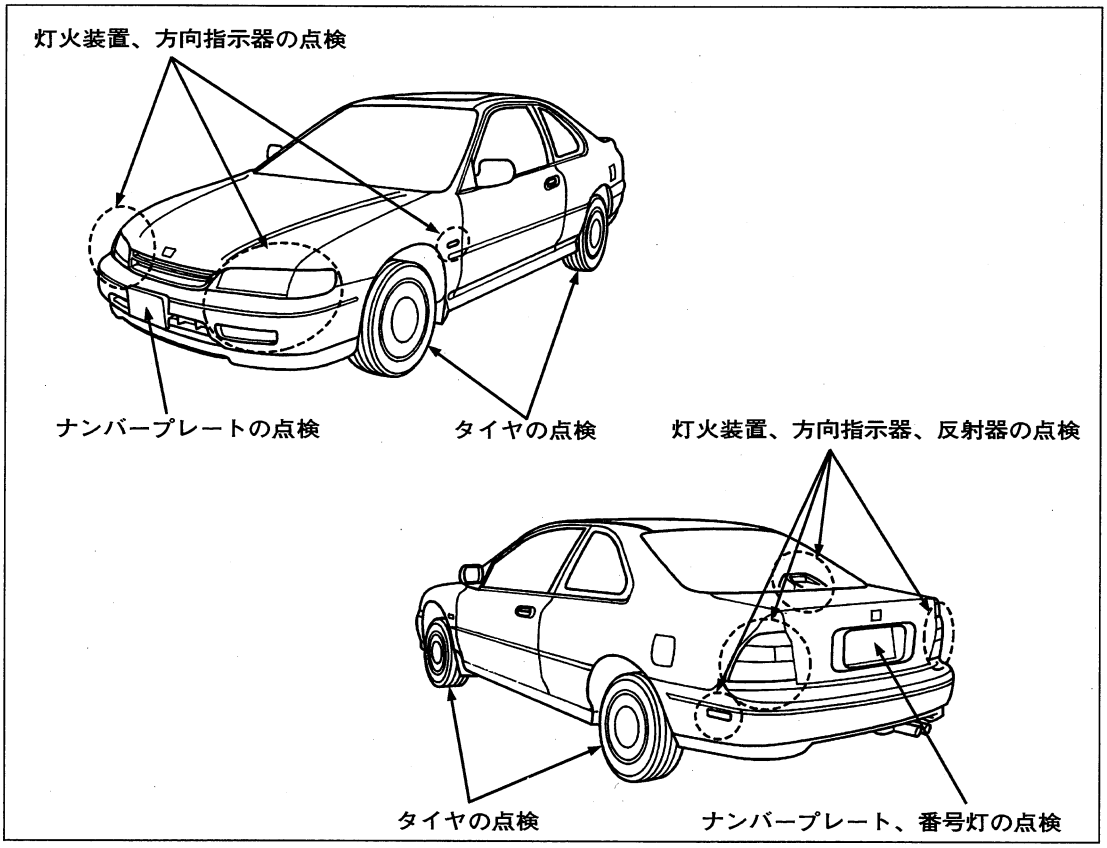


発電機ベルトの点検

ベルトの中央部を強く押して(約10kgの力)、たわみ量を点検します。
このときベルトに傷がないかも点検します。
適正たわみ量：8—10.5 mm



❸車のまわりを回りながら



反射器、ナンバープレートの点検

反射器、ナンバープレートに著しい汚れや損傷がないかを点検します。
また、ナンバープレートが確実に取り付けられているかも手でさわって調べます。

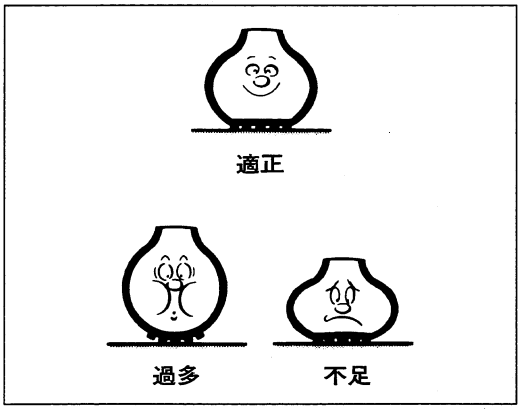
灯火装置、方向指示器の点検

エンジンスイッチを"ON"にし、
・前照灯　・車幅灯　・尾灯
・番号灯　・後退灯　・方向指示器
などを作動させて、点灯または点滅するかを点検します。
このとき、レンズに汚れや損傷がないかも調べます。
ブレーキペダルを軽く繰り返し踏み、制動灯が点灯するかを点検します。
点検は壁や鏡を利用するか、他の人に見てもらうなどして確認します。

タイヤの点検

●空気圧

タイヤの接地部のたわみ状態を見て、空気圧が適当であるかを点検します。



• 標準タイヤ

（空車時：単位kg/cm²）

空気圧 / サイズ	前輪		後輪	
	一般	高速	一般	高速
185/70R14 88S 185/70R14 88H	2.1		2.1	
195/60R15 86H 195/60R15 88H	2.1		2.1	
205/55R15 87V	2.2		2.2	

• 応急用スペアタイヤ

（空車時：単位kg/cm²）

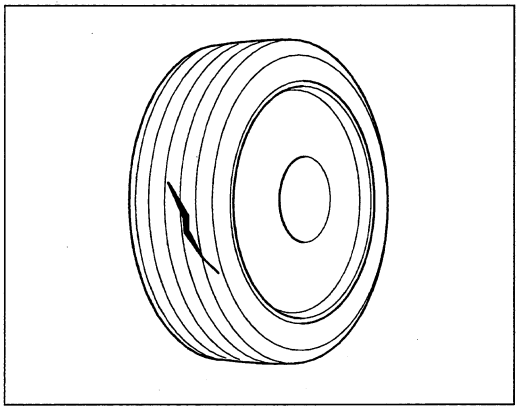
空気圧 / サイズ	前輪		後輪	
	一般	高速	一般	高速
T125/70D15 T135/80D15	4.2			

アドバイス

タイヤの空気圧やサイズは、運転席側ドア開口部に表示してあります。

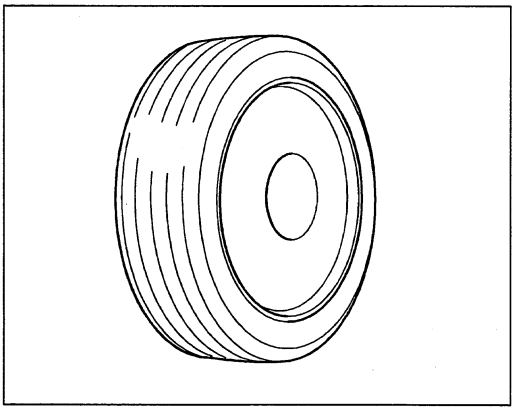
●亀裂、損傷

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。



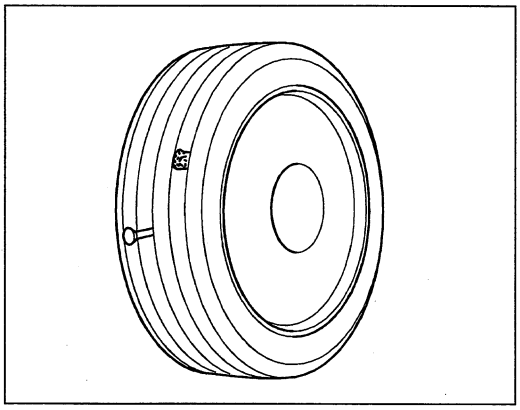
●異状な摩耗

タイヤの接地面に、極端にすり減っている個所がないかを点検します。



●異物のかみ込み

タイヤに釘や石などがささったり、かみ込んだりしていないかを点検します。

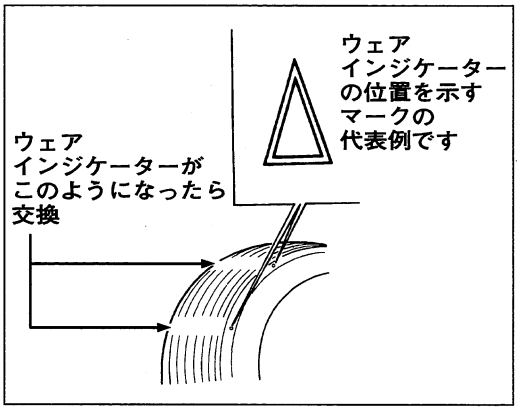


●タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さに不足がないかをウェアインジケーター(摩耗限度表示)により点検します。

ウェアインジケーターが表われたらタイヤを交換してください。

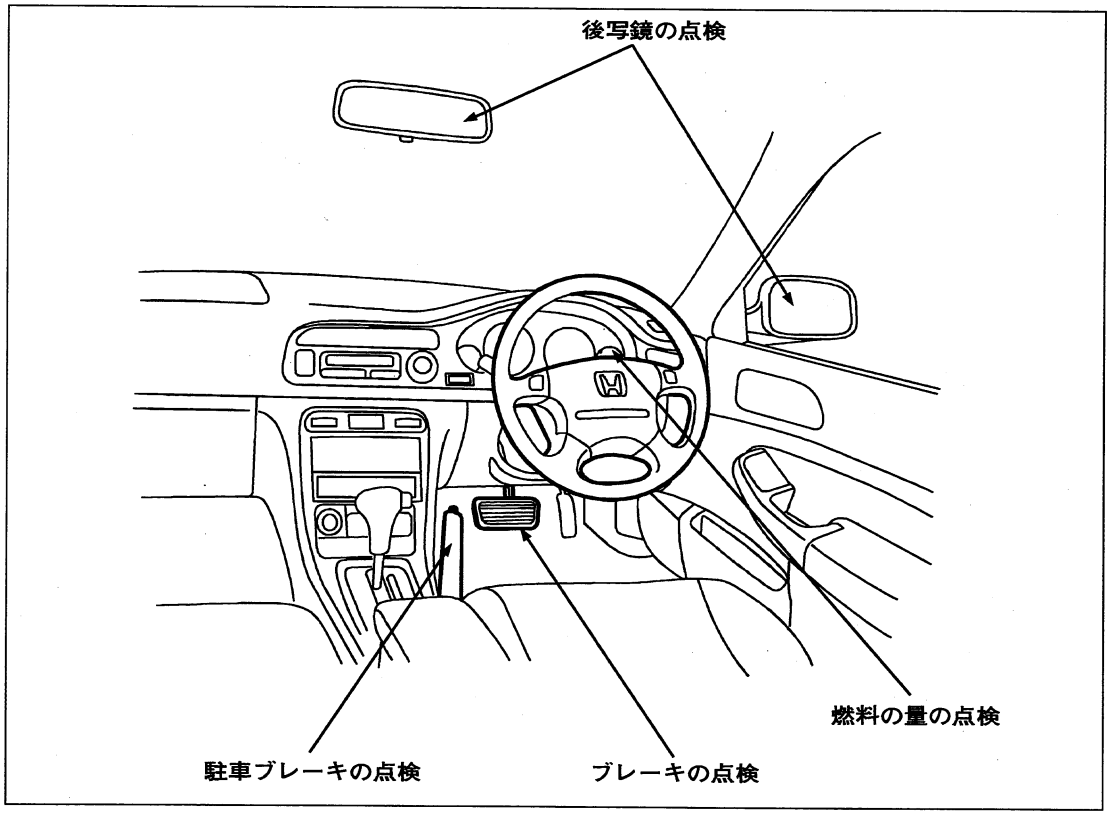
タイヤ交換　→167ページ



アドバイス

- ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が1.6mmだけ浅くなっています。
- タイヤの摩耗、損傷、石など異物のかみ込みおよび指定外の空気圧は、乗り心地、操縦性、タイヤの寿命を損ないます。

❹運転席にすわって



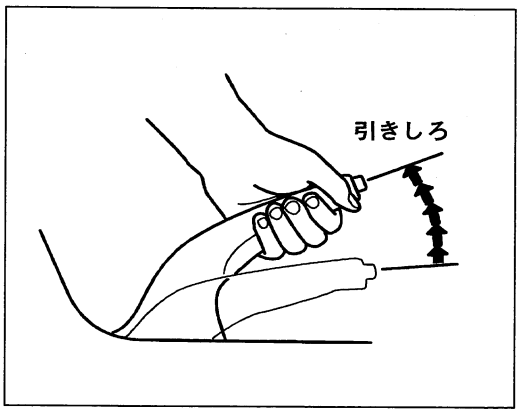
後写鏡の点検

運転席に正しくすわって、後方や側方の状況が十分に確認できる位置に、後写鏡が調整されているかを点検します。

駐車ブレーキの点検

レバーをいっぱいに戻した状態からゆっくり引き上げて(約20kgの力)、下記回数の引っかかり音でレバーがロックするかを点検します。

引きしろ：7－11回



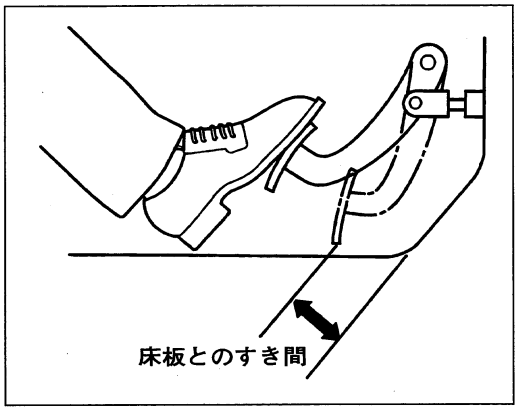
ブレーキの点検

エンジンを始動し、2～3回ブレーキペダルを踏み込んだのち、ブレーキペダルを力強く(約20kgの力)5秒以上踏み続けて床板とのすき間を点検します。

適正な床板とのすき間: 90 mm 以上
115 mm 以上*

(参考値)
カーペットとのすき間: 64 mm 以上
89 mm 以上*

＊: 左ハンドル車



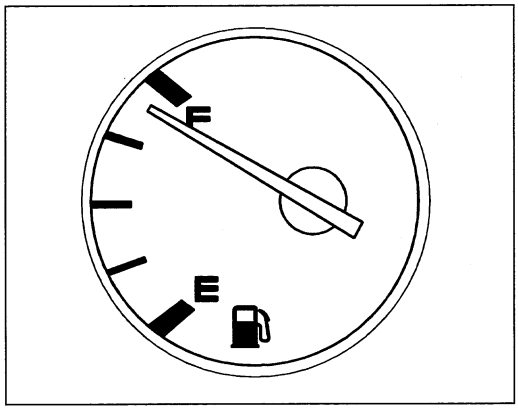
アドバイス

- ブレーキペダルを踏み込んだとき、ふわふわする感じがある場合、または踏み続けたとき、ブレーキペダルがさらにはいり込む場合は、空気の混入や液漏れが考えられます。このようなときには、ブレーキのきき不良や片ぎきのおそれがあります。
  ただちにホンダクリオ店へご連絡ください。
- ブレーキパッドが摩耗して使用限界になると、走行中に金属的な摩擦音がします。
  ただちにホンダクリオ店で交換してください。

燃料の量の点検

燃料計により燃料の量が十分であるかを点検します。

燃料補給について →39ページ



2

車を運転するときに

メーター……64

表示灯……66

警告灯……68
セーフティインジケーター……72
警告灯の電球切れの点検……72

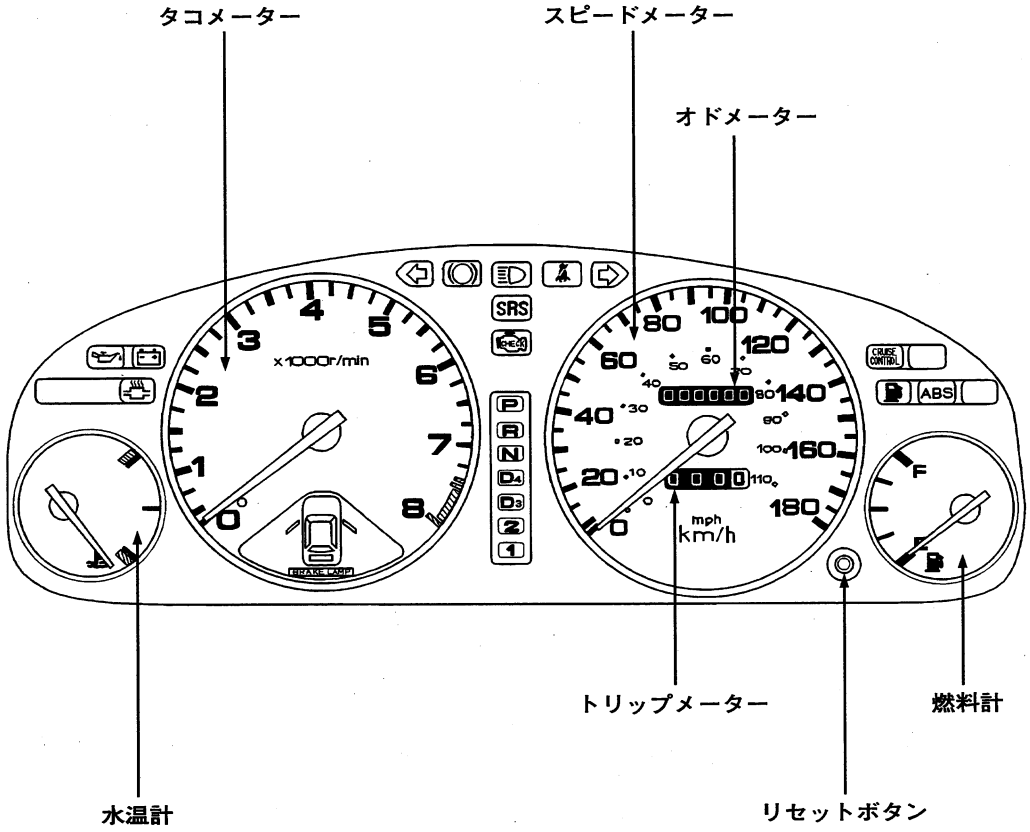
スイッチの使いかた
エンジンスイッチ……73
ライトスイッチ……74
方向指示器スイッチ……75
非常点滅表示灯スイッチ……76
ワイパー／ウォッシャースイッチ……77
リヤデフロスタースイッチ……78
ホーンスイッチ……79

エンジンのかけかた
エンジンをかける前に……80
エンジンのかけかた……81

運転のしかた
セレクトレバーの操作……82
オートマチック車の運転のしかた……85
クルーズコントロール……91

メーター

イラストは代表例を掲載していますので、タイプによって装備は異なります。



スピードメーター
走行速度をkm/hで示します。

タコメーター
1分間あたりのエンジン回転数を示します。



●エンジン故障の原因となりますので、下表の限界回転数以上のレッドゾーンに入らないように運転してください。特に高速走行時、変速(シフトダウン)するときには注意してください。

タイプ	限界回転数(rpm)
2.2Vi	6,300
SiR	7,400

オドメーター
走行距離の累計をkmで示します。

トリップメーター
区間距離を知りたいときは、リセットボタンを押して"0"に戻して使います。

燃料計
エンジンスイッチの位置に関係なく常に燃料の残量を示します。
"E"に近づいたら早めに補給してください。

燃料補給について　→39ページ



●燃料補給後、エンジンスイッチを"ON"にしてから正しい量を示すまで、しばらく時間がかかります。

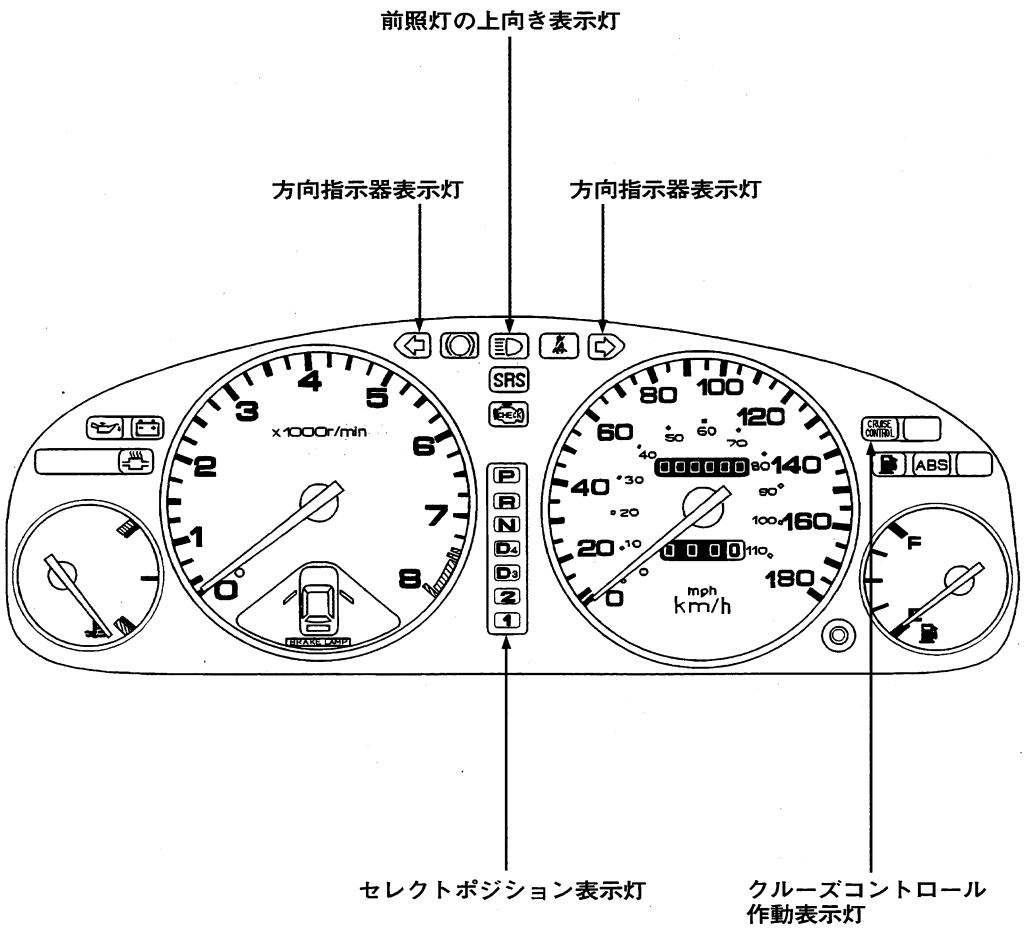
水温計
エンジン冷却水の温度を示します。
走行中は目盛の赤いマークより下側をさすのが正常です。

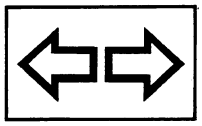


●針が赤いマークに入った場合はオーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停めてエンジンを冷やしてください。
そのまま走行を続けるとエンジン故障の原因となります。
オーバーヒートしたとき
→174ページ

表示灯

イラストは代表例を掲載していますので、タイプによって装備は異なります。





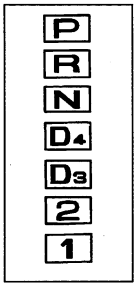
方向指示器表示灯
方向指示器のランプの点滅状態を表示します。

アドバイス

●電球が切れたときや、ワット(W)数の違ったものを使ったときは、表示灯の点滅が異常になります。
電球(バルブ)の交換
→179ページ
電球(バルブ)のワット数
→221ページ



前照灯の上向き(ハイビーム)表示灯
前照灯が上向きのときに点灯します。



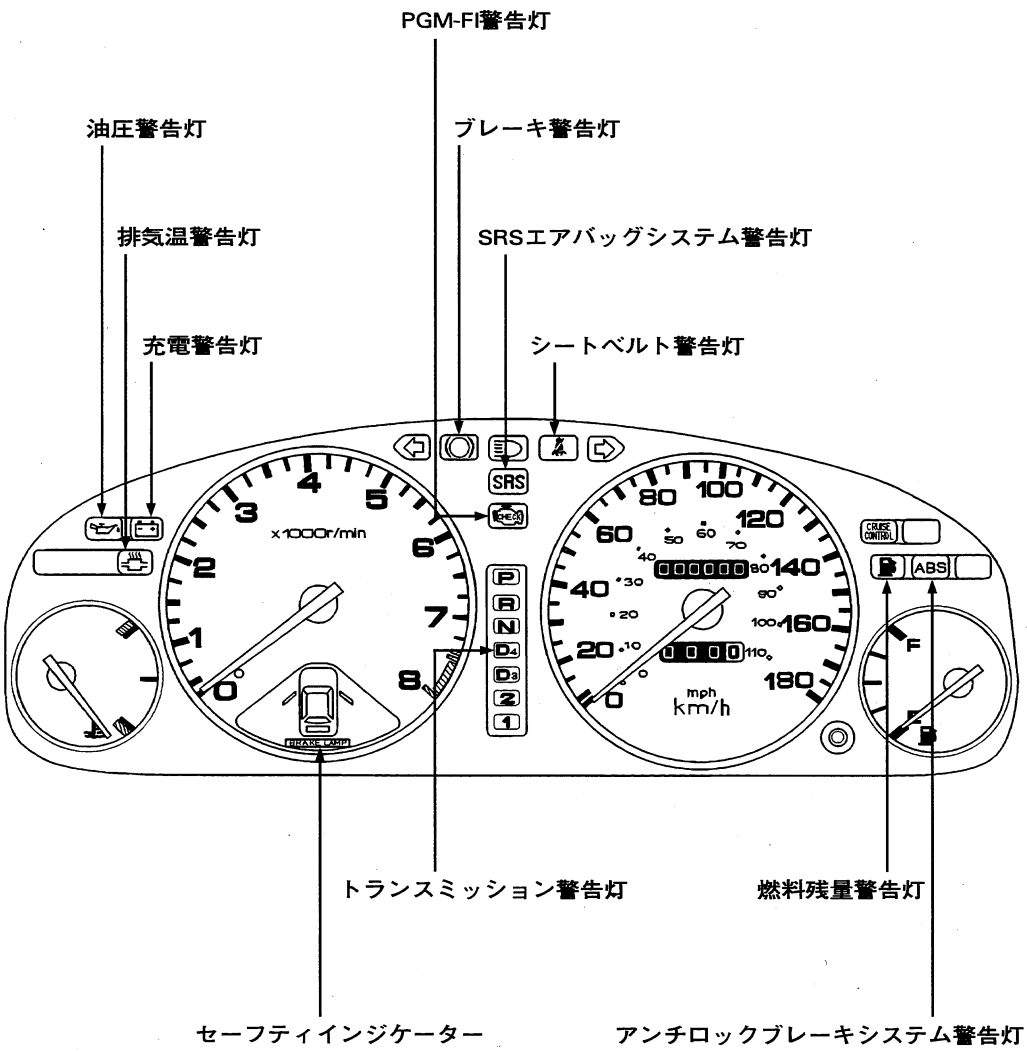
セレクトポジション表示灯
使用中のセレクトレバー位置が表示されます。トランスミッションが異常のときには、D4が点滅します。
トランスミッション警告灯　→69ページ

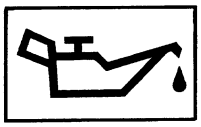


クルーズコントロール作動表示灯
タイプ別装備
自動定速走行しているときに点灯します。
クルーズコントロール　→91ページ

警告灯

イラストは代表例を掲載していますので、タイプによって装備は異なります。



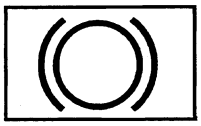


油圧警告灯

エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯します。

アドバイス

- エンジン回転中に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車してエンジンを止め、エンジンオイル量を点検してください。エンジンオイルが減っていないのに点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、ただちにホンダクリオ店へご連絡ください。
  エンジンオイル量の点検 →56ページ
- 点灯したまま走行しないでください。エンジンが破損するおそれがあります。



ブレーキ警告灯

駐車ブレーキレバーが完全に戻っていないときやブレーキ液量がいちじるしく減少しているときに点灯します。

アドバイス

- 走行中点灯したときや駐車ブレーキを解除しても消灯しないときは、ブレーキ液量を点検し、下限より下がっていたらただちにホンダクリオ店へご連絡ください。
  ブレーキ液量の点検 →55ページ
- ブレーキ液量が下限以下になっていないのに点灯するときや、駐車ブレーキをかけても点灯しないときは、お早めにホンダクリオ店で点検を受けてください。

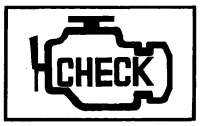


トランスミッション警告灯
（セレクトポジション表示灯兼用）

トランスミッションが異常のときに点滅します。

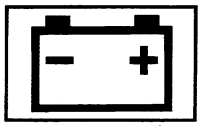
アドバイス

- 万一、運転中に点滅したときは、急発進、急加速を避けてただちにホンダクリオ店で点検を受けてください。



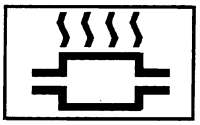
PGM-FI警告灯
エンジン制御システムが異常のときに点灯します。

アドバイス
- 運転中に点灯した場合は、高速走行を避けて、ただちにホンダクリオ店で点検を受けてください。



充電警告灯
充電系統が異常のときに点灯します。
（排気温警告灯も同時に点灯します。）

アドバイス
- 運転中に点灯した場合は、電気の消費を減らすため、ヒーター・エアコンスイッチ、リヤデフロスタースイッチを"OFF"にして、ただちにホンダクリオ店で点検を受けてください。
  発電機ベルトの点検
  →57ページ



排気温警告灯
触媒装置の温度が異常に高いときに点灯します。

アドバイス
- **充電警告灯が点灯すると排気温警告灯も同時に点灯します。この場合は充電系統の異常を知らせています。**

走行中に点灯したときは、枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10分間以上エンジンを止めて、冷えるまでお待ちください。

アドバイス
- 警告灯が点灯した状態で運転は続けないでください。触媒装置を焼損することがあります。
- 走行中に一度点灯した警告灯は、触媒装置の温度が下がっても修理するまで消灯しません。
  触媒装置保護のため、急加速、急減速などの無理な運転を避け、50km/h以下の速度で、最寄りのホンダクリオ店まで走行し点検を受けてください。



シートベルト警告灯

エンジンスイッチを"ON"にすると、運転席シートベルトを着用するまで点灯し続けます。運転席シートベルトを着用しないでエンジンスイッチを"ON"にすると、ブザーが約6秒間鳴ります。



燃料残量警告灯

燃料タンク内のガソリン残量が8ℓ前後になったときに点灯します。

燃料の補給　→39ページ



SRSエアバッグシステム警告灯

SRSエアバッグシステム装備車

→98ページ

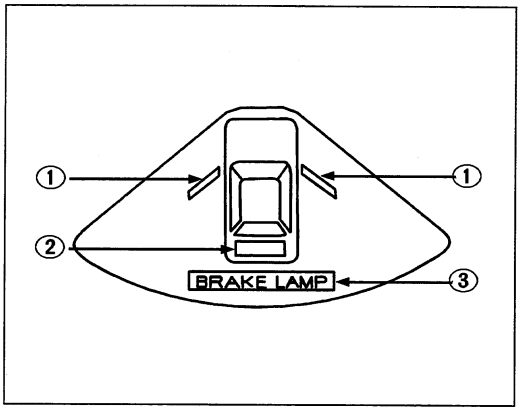


アンチロックブレーキシステム(ABS)警告灯

ABS装備車

→100ページ

セーフティインジケーター



①ドア開閉警告灯
ドアが完全に閉まっていないときに点灯します。
ドアを完全に閉めてください。

②トランク開閉警告灯
トランクが完全に閉まっていないときに点灯します。
トランクを完全に閉めてください。

③制動灯電球切れ警告灯
制動灯の電球切れのときに点灯します。
点灯したときはホンダクリオ店で点検を受けてください。

電球(バルブ)の交換　→179ページ

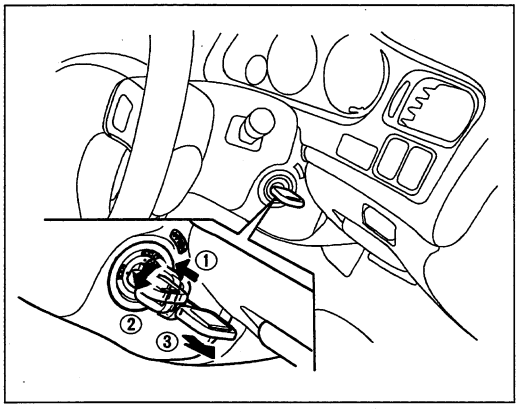
警告灯の電球切れの点検

エンジンスイッチを"ON"にしたとき、下記の警告灯類が点灯するのが正常です。

- **油圧警告灯**
  (エンジン始動後消灯)
- **ブレーキ警告灯**
  (駐車ブレーキレバーを完全に戻すと消灯)
- **トランスミッション警告灯**
  (数秒後消灯)
- **PGM-FI警告灯**
  (数秒後消灯)
- **充電警告灯**
  (エンジン始動後消灯)
- **排気温警告灯**
  (エンジン始動後消灯)
- **SRSエアバッグシステム警告灯**
  (約6秒後消灯)
- **アンチロックブレーキシステム(ABS)警告灯**
  (エンジン始動後消灯)
- **セーフティインジケーター内の警告灯**
  (数秒後消灯)

スイッチの使いかた

エンジンスイッチ



"LOCK"
キーを抜き差しする位置です。
"ACC"でキーを押し込んで"LOCK"まで回してキーを抜けば、ハンドルは固定されます。

"ACC"
エンジンをかけずにラジオなどのアクセサリーを使用するときの位置です。

アドバイス
- "LOCK"から"ACC"にキーが回らないときは、ハンドルを左右に動かしながらキーを回せば容易に回ります。
- 車から離れるときは、バッテリー保護のため必ず"LOCK"にしてください。

"ON"
運転するときの位置です。

アドバイス
- エンジンを止めた状態で"ON"のまま、長時間放置しないでください。
  バッテリー容量が低下し、エンジンがかからなくなることがあります。

"START"
エンジン始動位置です。
始動したら、キーから手を離してください。
自動的に"ON"に戻ります。

●キー抜き忘れ警告ブザー
エンジンスイッチが"ACC"または"LOCK"でキーを差し込んだまま車を離れようとしたとき(運転席ドアを開けたとき)、ブザーが鳴りキーの抜き忘れを知らせます。

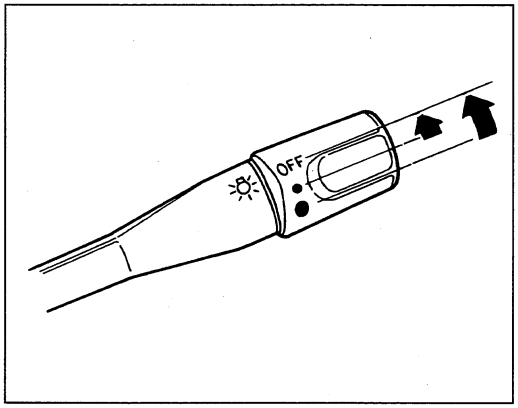
●キーインターロックについて
キーを抜くときは、セレクトレバーをPに入れます。

アドバイス
- セレクトレバーがP以外のときは、エンジンスイッチが"LOCK"まで回らないので、キーを抜くことができません。

ライトスイッチ

●ライトの点灯・消灯

エンジンスイッチの位置に関係なく次のように点灯、消灯します。



ライト名 / スイッチ位置	前照灯	計器類照明灯 車幅灯・尾灯 番号灯
OFF	—	—
●	—	点灯
⬤	点灯	点灯

アドバイス

●エンジンが止まっている状態で、ライト類を点灯したままにしないでください。バッテリーあがりの原因となります。

●ライト消し忘れ警告ブザー

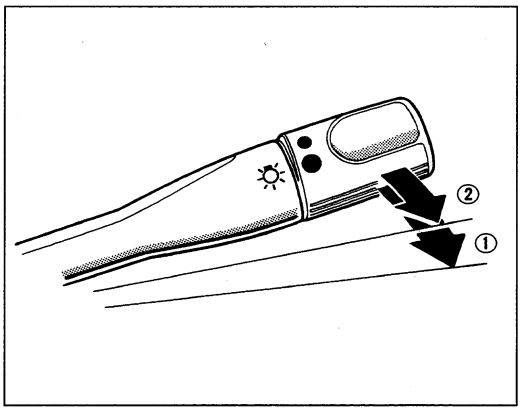
エンジンスイッチが"ACC"または"LOCK"で、ライトを消し忘れたまま車を離れようとしたとき(運転席ドアを開けたとき)、ブザーが鳴りライトの消し忘れを知らせます。

●前照灯の上向き(ハイビーム)と下向き(ロービーム)の切り換え

レバーを①の位置まで引くと上向き下向きの切り換えができます。遠くまで照らしたいとき上向きにします。表示灯が点灯して上向きであることを知らせます。

前照灯の上向き(ハイビーム)表示灯

→67ページ



アドバイス

●対向車のあるときや市街地走行など、上向きが不適切なときは下向きにします。

●追越合図

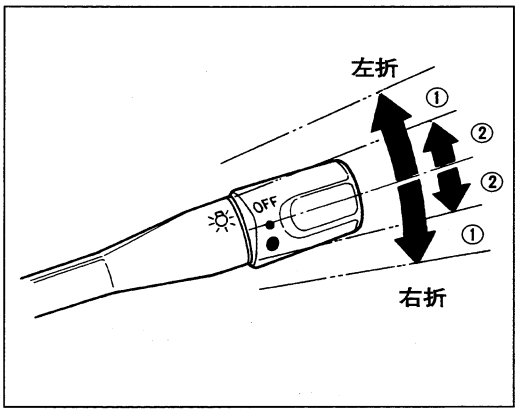
レバーを軽く②の位置まで引いたり離したりすると、前照灯の上向きが点滅します。先行車に合図を送るときなどに使います。
ライトスイッチの位置に関係なく使えます。

アドバイス

●前照灯が上向き(ハイビーム)のときは作動しません。

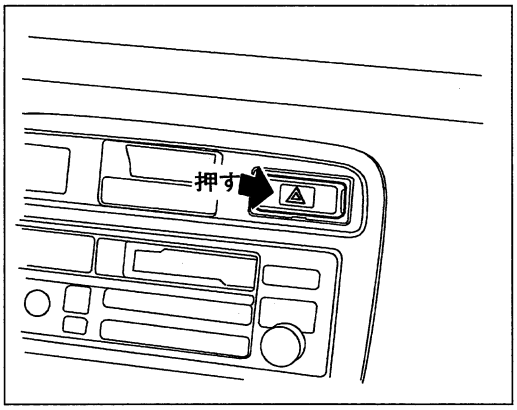
方向指示器スイッチ

エンジンスイッチが"ON"のとき使えます。
ふだんは①の位置で使います。
この位置ではハンドルの切り角が小さいときには戻らない場合もあります。戻らないときは手で戻してください。
車線変更などでは②の位置に軽く手で押さえながら使います。



非常点滅表示灯スイッチ

スイッチを押すとすべての方向指示器のランプが点滅します。
故障でやむをえず路上駐車するとき使います。



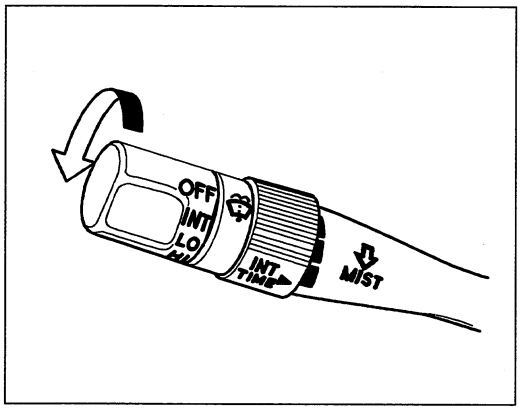
アドバイス

●非常時にのみお使いください。
完全充電の新しいバッテリーでも約3時間以上使うとバッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。

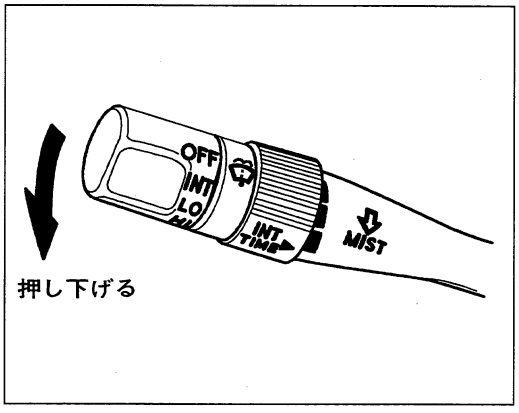
ワイパー／ウォッシャースイッチ

エンジンスイッチが"ON"のとき使えます。

●ワイパースイッチ



OFF ……停止
INT(間欠)……雨量の少ないとき
LO(低速)……普通雨量のとき
HI(高速)……雨量の多いとき



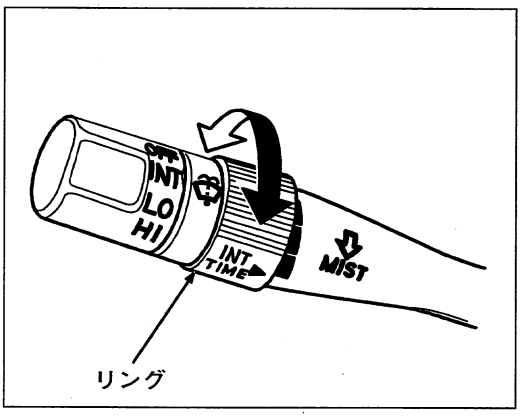
* MIST(ミスト)……レバーを押し下げている間、HI(高速)で作動します。

* MISTとは、英語で"もや、霧"という意味です。

間欠時間の調節

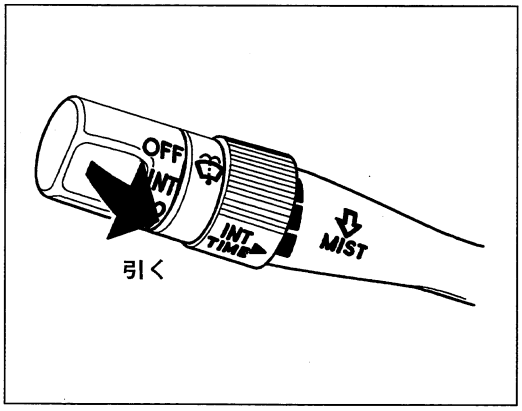
タイプ別装備

ワイパーの間欠作動の間隔を約2秒から12秒の範囲で調節できます。間隔のセットはリングを回して行います。
スイッチを"INT"位置にすると、あらかじめセットされた間隔でワイパーが作動します。



●ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くとウォッシャー液が噴射し、ワイパーが2～3回作動します。

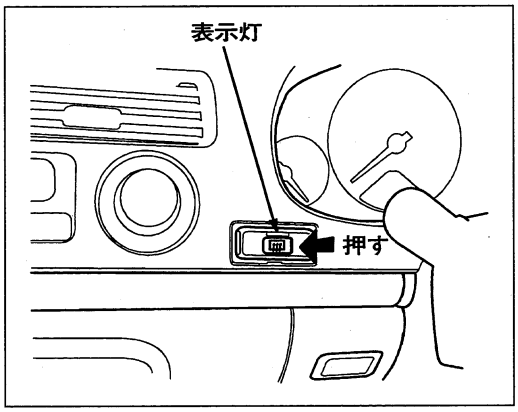


アドバイス

- ウォッシャー液を噴射してからワイパーを動かしてください。
  空ぶきはガラス面に傷をつけたり、ブレード(ゴム部)を傷めたりします。
- ウォッシャー液が出ないときはウォッシャースイッチを切ってください。
  ウォッシャー液がないままで動かすとポンプの故障の原因となります。
- 寒冷時、ブレード(ゴム部)がガラス面に張りつくことがありますのでヒーターで前面ガラスを暖めてください。
  凍りついたまま動かすとブレード(ゴム部)を傷めたり、ワイパーモーターの故障の原因となります。
  デフロスター →111、117ページ
- 寒冷時ウォッシャー液を噴射するときは吹きつけられた液が凍結しないように先にヒーターを使って前面ガラスを暖めてください。
  デフロスター →111、117ページ

リヤデフロスタースイッチ

エンジンスイッチが"ON"のとき使えます。
リヤデフロスターはスイッチを押すと"ON"になり、同時に作動表示灯が点灯し後面ガラスが暖められ曇りが取れます。もう一度スイッチを押すと"OFF"になり、作動表示灯は消灯します。



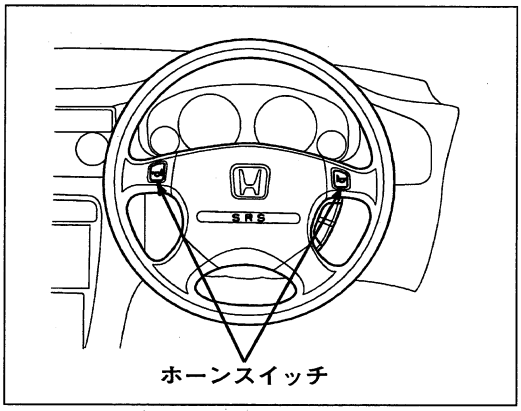
アドバイス

- この装置は消費電力が大きいので曇りが取れたら“OFF”にしてください。万一、“ON”のままであっても、一定時間経過後自動的に“OFF”になります。
  また、エンジンの回転が低いとき長時間使わないでください。
  バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。
- リヤウィンドーの内側に電熱線が装着されています。
  電熱線は傷つきやすいので清掃のときは電熱線に沿ってやわらかい布でふいてください。
  また、手荷物などで傷つけないようにしてください。

ホーンスイッチ

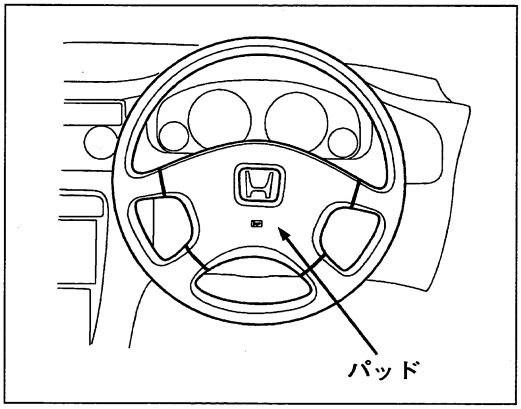
SRSエアバッグシステム装備車

ハンドルにあるスイッチを押すとホーンが鳴ります。



SRSエアバッグシステム非装備車

ハンドルのパッドを押すとホーンが鳴ります。

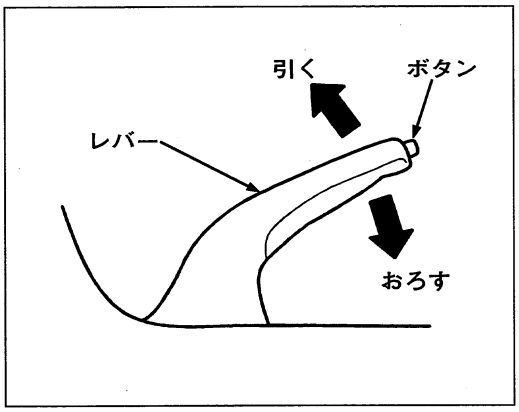


エンジンのかけかた

エンジンをかける前に

●駐車ブレーキ

ボタンを押さずにレバーをいっぱいに引くと、後輪ブレーキがききます。
戻すときはレバーを軽く引き上げながら、レバー先端のボタンを押し込み、そのまま下に完全におろします。



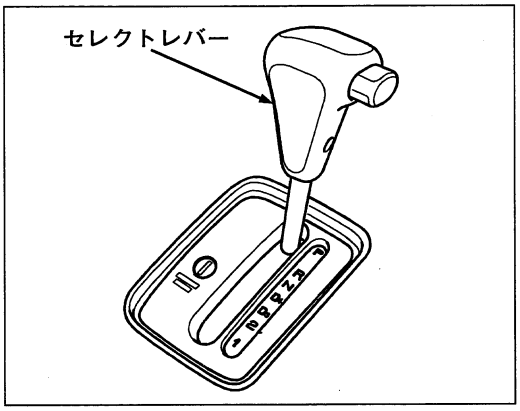
アドバイス

●駐車するときは、車が動き出さないように必ず駐車ブレーキをかけてください。
寒冷時の駐車ブレーキの取り扱い　→218ページ

●セレクトレバー

オートマチック車

駐車ブレーキをかけ、セレクトレバーがPの位置にあることを確認してください。
セレクトレバーの操作　→82ページ



エンジンのかけかた

注意

●換気の悪い車庫や屋内ではエンジンをかけたままにしないでください。一酸化炭素中毒をおこす危険があります。

アドバイス

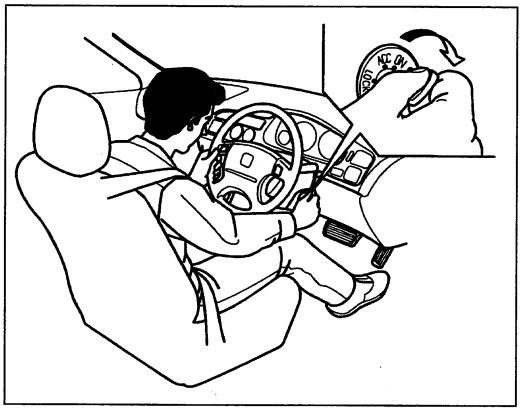
●排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えない場合は、排気系や燃料系の異常が考えられますので、必ずホンダクリオ店で点検を受けてください。

●消費電力の大きいライト類、ヒーター・エアコン、リヤデフロスターのスイッチは"OFF"にした方が始動は容易になります。

●寒い日や数日以上運転しなかったときは、エンジン保護のため必ず暖機が完了して(水温計の針が動き出して)から走行してください。

●バッテリーあがりを防ぐため、スターターは連続して15秒以上回さないでください。
15秒回してもエンジンが始動しなかったときは、一度キーを"ACC"に戻して10秒以上待ってから再始動してください。

①アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回してください。



②エンジンがあたたまっていると始動に時間がかかることがあります。アクセルペダルを半分程度踏み込んだまま、スターターを回してください。エンジンが始動したらアクセルペダルを徐々に戻してください。

③エンジン始動後は、PGM-FIの働きによりエンジン回転が高くなりますが、自動的に適正回転に下がります。

運転のしかた

セレクトレバーの操作

●それぞれの位置のはたらき

P パーキング

駐車およびエンジンを始動する位置。
キーを抜く位置。



●セレクトレバーがP以外のときは、エンジンスイッチが"LOCK"まで回らないので、キーを抜くことができません。

R リバース

車を後退(バック)させる位置。
チャイムが鳴り、セレクトレバーがRに入っていることを運転者に知らせます。

N ニュートラル

ニュートラル(動力が伝達されない状態)
およびエンジン始動できる位置。

D4 D3 ドライブ

D4
通常の走行をする位置。
(1速から4速まで自動的に変速されます。)

D3
上り坂、下り坂に使う位置。
(1速から3速まで自動的に変速されます。)

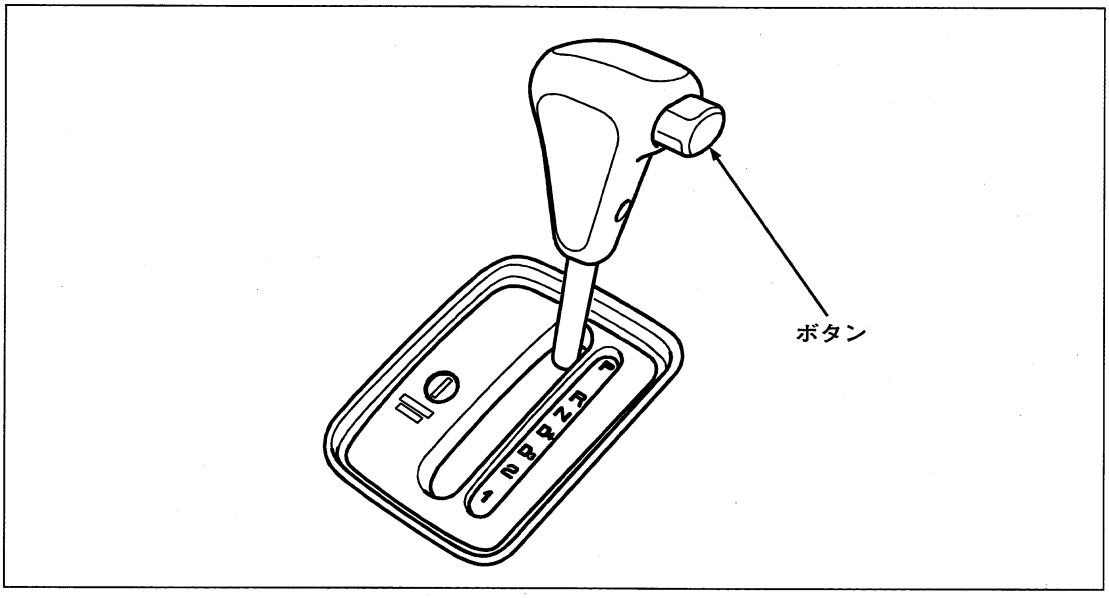
2 セカンド

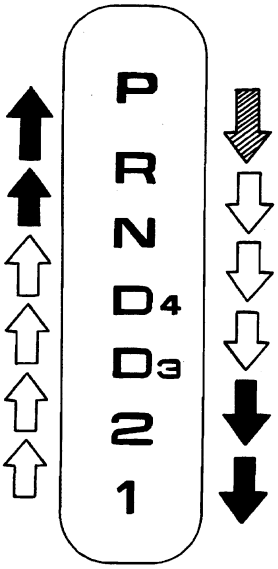
エンジンブレーキが必要なときや、雪道などの滑りやすい路面での発進に使う位置。
(2速のままで変速されません。)

1 ロー

強力なエンジンブレーキが必要なときに使う位置。
(1速のままで変速されません。)

●セレクトレバーの動かしかた





ブレーキペダルを踏んだまま、ボタンを押してレバーを操作します。

ボタンを押さずにレバーを操作します。

ボタンを押してレバーを操作します。

アドバイス

- セレクトレバーの操作は誤操作防止のため各位置ごとに節度をつけ、確実に行ってください。
- Pのときは、ボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- エンジンスイッチが"ACC"または"LOCK"のときは、ブレーキペダルを踏んでもPから他の位置に切り換えられません。
- いつもボタンを押して操作すると意に反してPR2 1に入れてしまうおそれがあります。
  ⇧⇩ の操作は、ボタンを押さずに動かす習慣をつけてください。

●速度範囲

セレクトレバーの位置	速　度　範　囲	変　速　範　囲
D4	0 km/h～	1↔2↔3↔4速
D3	0 km/h～	1↔2↔3速
2	0～100km/h	2速固定
1	0～ 60km/h	1速固定*

*:急激なエンジンブレーキによるショックを避けるため50km/h以上で1へ切り換えた場合は、一旦2速に入ります。

注　意

●滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。シフトダウンする際の車速には、十分注意してください。

アドバイス

●走行中、2または1への切り換えは、エンジンを過回転させないため2または1の速度範囲内で行ってください。

アドバイス

●法定速度を守って走行してください。

●1,000km走行するまではエンジン保護のため急発進、急加速を避け控えめな運転をしてください。

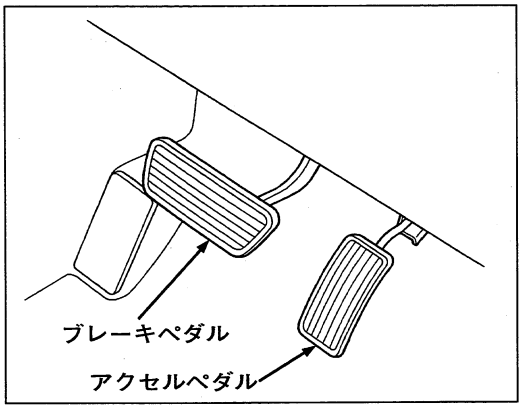
●エンジンの回転をあやまって限界回転数以上のレッドゾーンで運転した場合、エンジン保護装置により、燃料供給が停止されます。そのとき、軽い衝撃を感じることがありますが、異常ではありません。

オートマチック車の運転のしかた

オートマチック車は、クラッチ操作とギヤの切り換えを自動化したもので、その分、操作の負担が軽くなり、運転が楽になりますが、運転の基本を十分理解し、正しく操作する習慣をつけてください。

エンジンをかける前に

正しい運転姿勢をとり、右足でアクセルペダルとブレーキペダルが確実に踏めるか確認します。



注意

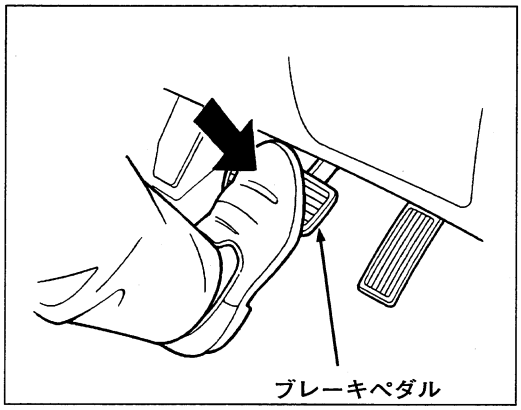
- ペダルの踏みまちがいを防ぐため、ペダルの位置を実際に踏んでみて足におぼえさせておくことが重要です。
- 不慣れな左足では、適切なブレーキ操作ができず危険です。
- 車を少し移動させるときにもペダルが確実に踏めるように、正しい運転姿勢をとりましょう。

エンジン始動

①駐車ブレーキがかかっていることを確認。
②セレクトレバーがPに入っていることを確認。

アドバイス
●Nでも始動できますが、安全のため駆動輪が固定されるPで行ってください。

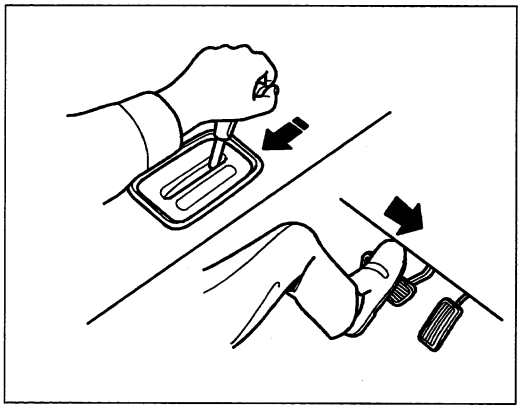
③ブレーキペダルを右足で踏んで始動。



アドバイス
●始動時にアクセルペダル操作が必要な場合は、始動後、右足でブレーキペダルを踏んでください。

発進

①右足でブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを前進はD4（またはD3）、後退はRに入れる。



注意
●セレクトレバーをPN以外に入れると、クリープ現象により、アクセルペダルを踏まなくても車が動き出します。ブレーキペダルを踏んでいてください。
●エンジン始動直後は、自動的にエンジンの回転が上がり、クリープ現象が強くなりますので、ブレーキペダルはしっかり踏んでいてください。
●アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しないでください。急発進して思わぬ事故の原因となります。

アドバイス
●セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。

②レバーの位置を目で再確認。
③駐車ブレーキをもどす。
④ブレーキ警告灯が消灯したことを確認。
(→69ページ)
⑤ブレーキペダルを徐々に離して、アクセルペダルをゆっくりと踏む。

注意

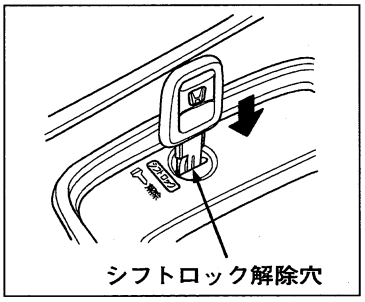
●マニュアル車は、発進時の速度を、クラッチ操作とアクセル操作を併用して調節しますが、オートマチック車は、アクセル操作のみで行うので、アクセル操作は慎重に行ってください。

急な坂道での発進

セレクトレバーの位置を目で確認し、
・駐車ブレーキをかけたままブレーキペダルを離し、
・アクセルペダルをゆっくり踏んで、
・車が動き出す感触を確認しながら、
・駐車ブレーキをもどして発進。

アドバイス

●万一、ブレーキペダルを踏んでもPから他の位置に切り換えられないときは、エンジンスイッチからキーを抜き、シフトロック解除穴にキーを差し込み、押しながらレバーを操作してください。

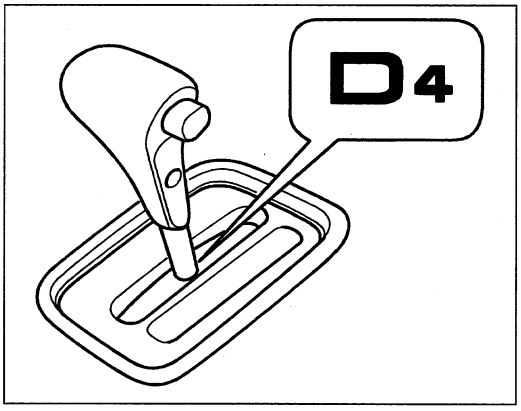


走行

走行中はセレクトレバーをNにしないでください。

注意
●Nにするとエンジンブレーキが全くきかなくなるため、思わぬ事故の原因になります。またNにしても燃費の差はありません。

通常走行



セレクトレバーをD4にして走行します。アクセルペダルの踏み加減と走行速度により、1速から4速まで自動的に変速されます。

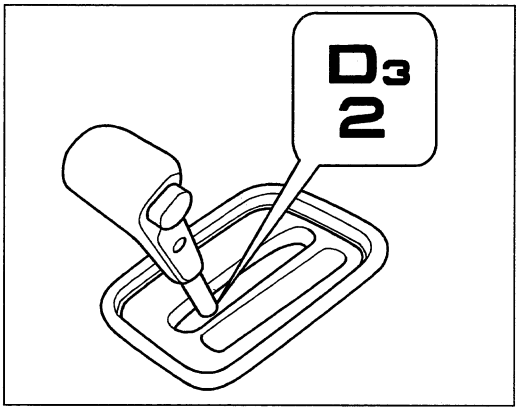
注意
●高速走行中に2または1に入れないでください。急激なエンジンブレーキがかかり、エンジンが過回転になり故障したり、タイヤがスリップすることがあります。

急加速したいとき

アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、キックダウンして急加速します。

上り坂走行

坂の勾配に応じ、セレクトレバーをD3または2にしておくと、エンジン回転数の変化が少ない、なめらかな走行ができます。



下り坂走行

下り坂をD4のまま走行すると、エンジンブレーキのききが弱く、速度が出すぎてしまうことがあります。このようなときには、セレクトレバーをD3または2にします。
さらに強力なエンジンブレーキが必要なときは、1にします。

注意
●フットブレーキを使いすぎるとブレーキが過熱して、ききが悪くなるおそれがあります。長い下り坂や急な下り坂では、必ずエンジンブレーキを併用してください。

停車

①Dのままブレーキペダルをしっかりと踏んでおく。
必要に応じて駐車ブレーキをかける。


アドバイス

●アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でPN以外に入れた状態で、アクセルをふかしながら車を停止させたりしないでください。
トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。


アドバイス

●急な上り坂での停車はクリープ現象で前へ進もうとする力よりも車が後退しようとする力の方が大きくなり、車が後退することがあります。ブレーキペダルを踏み、駐車ブレーキをかけてください。
●セレクトレバーがPN以外でエアコンスイッチが入っている場合などは、エンジン回転数が断続的に高くなりクリープ現象が強まります。ブレーキペダルを特にしっかりと踏み込んでください。

②停車時間が長くなるときはセレクトレバーをNに入れる。


注　意

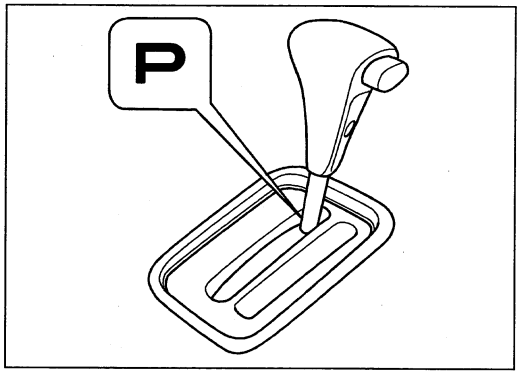
●停車中、空ぶかしをしないでください。万一、セレクトレバーがPN以外のとき、思わぬ急発進の原因になります。


アドバイス

●停車後、再発進するときは、思い違いのないようセレクトレバーがDにあることを確認してください。

駐車

①車を完全に止める。
②ブレーキペダルを踏んだまま、駐車ブレーキをかける。
③セレクトレバーをPに入れる。



アドバイス

●駐車の際は、セレクトレバーが必ずPに入っていることを確認してください。セレクトレバーがPのときは、駆動輪が固定されるため、車が動き出す心配がなく安全です。

④エンジンを止める。

注意

●エンジンをかけたままにしておくと、万一、セレクトレバーがPN以外に入っていたとき、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏み急発進するおそれがあります。

アドバイス

●車が完全に止まらないうちにPに入れないでください。
・トランスミッション破損の原因となります。

ほかに気をつけたいこと

車を少し移動させるとき

このような場合でも、正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

車を後退させるとき

この場合、体をうしろにひねった姿勢になり、ペダルの操作がしにくくなります。ブレーキペダルは確実に踏めるよう注意してください。

クルーズコントロール
タイプ別装備

高速道路または加速、減速の繰り返しの少ない自動車道などを定速で運転するとき、アクセルペダルを踏まなくても車速を一定に保つ装置です。
車速は、D4またはD3のときに約30～100km/hの範囲で希望値に設定できます。
また、アクセルペダルを踏まずに車速を上げ下げしたり、一時的な減速後、もとの車速に自動的に戻すことができます。

注意

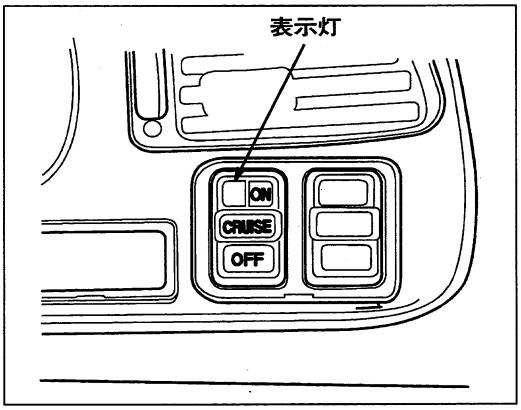
●つぎのような道路では安全のため、使用しないでください。
- 混んでいて車間距離が十分とれない道路
- 急なカーブ、急な下り坂のある道路
- 凍結や積雪などで滑りやすい道路

アドバイス

●上り坂や下り坂では、条件により、一定車速を保てない場合があります。

●希望車速をセットし、定速走行をしたいときの操作

①“CRUISE”(クルーズ)スイッチの“ON”側を押して、クルーズコントロールを“ON”にします。
“ON”のとき表示灯が点灯します。
“OFF”側を押すと“OFF”になります。

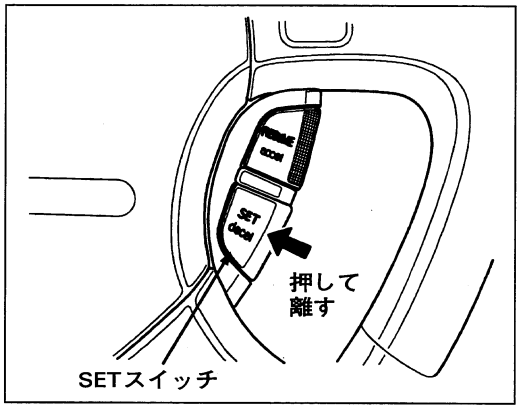


エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”にすると“CRUISE”スイッチは自動的に“OFF”になります。
クルーズコントロールを使うときは、“CRUISE”スイッチの“ON”側を押して“ON”にしてください。

②アクセルペダルを加減して希望の車速になったら“SET”(セット)スイッチを押して離すと、離したときの車速にセットできます。車速がセットされ自動定速走行になると、メーター内の表示灯が点灯します。

クルーズコントロール作動表示灯

→67ページ



アドバイス

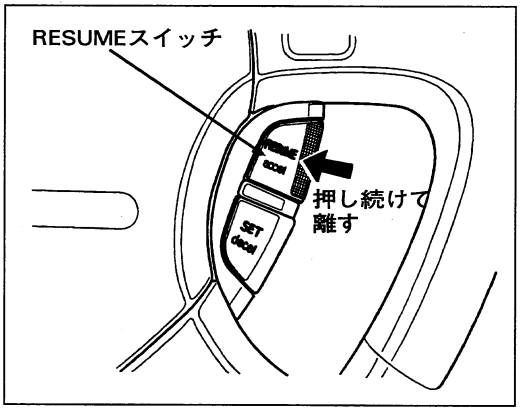
●自動定速走行をしないときは、安全のため“CRUISE”スイッチの“OFF”側を押して“OFF”にしておいてください。

●設定車速を上げたいときの操作(自動定速走行中)

“RESUME”(リジューム)スイッチによるとき

“RESUME”スイッチを押し続けます。希望車速になったときスイッチを離すと、離したときの車速にセットされます。

* RESUME(リジューム)とは英語で“回復する、復帰する”という意味です。



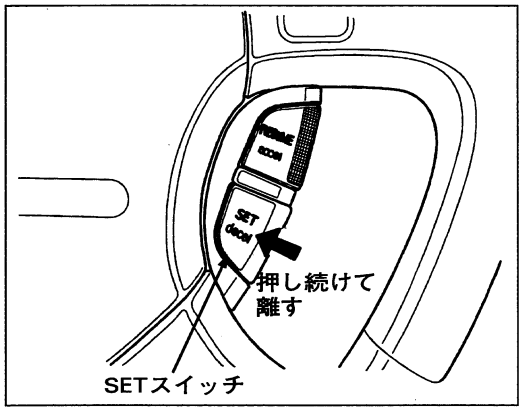
アクセルペダルによるとき

アクセルペダルで加速し希望車速になったとき“SET”スイッチを一度押して離すと、離したときの車速にセットされます。

●設定車速を下げたいときの操作（自動定速走行中）

“SET”スイッチによるとき

“SET”スイッチを押し続けると減速します。希望車速になったときスイッチを離すと、離したときの車速にセットされます。



ブレーキペダルによるとき

ブレーキペダルを踏んで希望車速に減速し、ブレーキペダルから足を離してから“SET”スイッチを押して離すと、離したときの車速にセットされます。

●一時的に加速したいときの操作（自動定速走行中）

アクセルペダルを踏み込むと車速が上がります。
アクセルペダルを離すともとの設定車速に戻り、定速走行ができます。

●設定車速を少し上げたいときの操作（自動定速走行中）

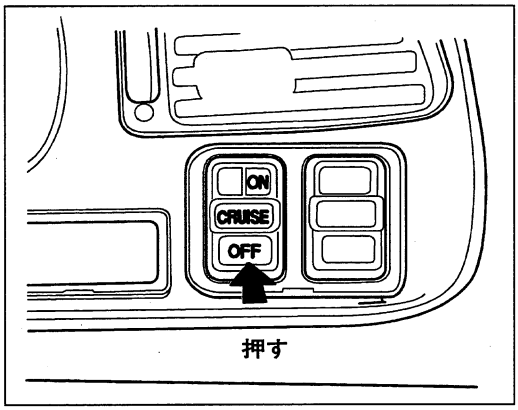
“RESUME”スイッチを瞬間的に（約0.5秒間）押して離します。そのときの車速に対して約1.5km/h増速します。

●設定車速を少し下げたいときの操作（自動定速走行中）

“SET”スイッチを瞬間的に（約0.5秒間）押して離します。そのときの車速に対して約1.5km/h減速されます。

●自動定速走行状態を解除したいとき

"CRUISE"(クルーズ)スイッチの"OFF"側を押して"OFF"にしてください。



次の場合にも解除されます。
①ブレーキペダルを踏んだとき
②セレクトレバーを2 1または N にしたとき
③車速がセットされた速度より約16km/h以上下がったとき
④車速が約30km/hより下がったとき

●解除前の設定車速に戻したいとき

前記①、②、③いずれかの操作で解除されても車速が約30km/h以上になっている場合は、"RESUME"スイッチを押して離すと、もとの設定車速まで戻り自動定速走行ができます。

アドバイス

●"SET"または"RESUME"スイッチを押しながら前記①、②、③いずれかの操作をしたときは"RESUME"スイッチでの車速の復帰はできません。

3

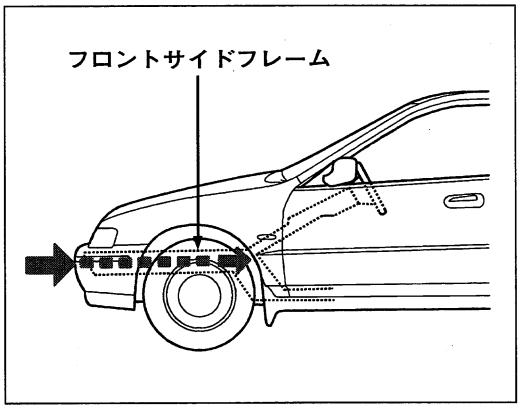
安全装備

SRSエアバッグシステム……96
アンチロックブレーキシステム（ABS）…99
その他の安全装備……101

SRSエアバッグシステム（運転席用シートベルト補助乗員保護装置）

タイプ別装備

SRSエアバッグシステムは、エンジンスイッチが"ON"のとき、前方向からの衝突によりフロントサイドフレームに強い衝撃を受け、センサーが一定以上の衝撃（正しくシートベルトを着用していてもハンドルに顔面があたり、けがをするような場合）を感知するとシステムが作動し、エアバッグが膨らんで運転者の顔面への衝撃を緩和する構造になっております。



このシステムは、シートベルトと併用することでその効果を発揮します。

SRSエアバッグシステムはシートベルトに代わるものではありません。
必ず、シートベルトを着用してください。

*SRS：サプリメンタルレストレイントシステム（Supplemental Restraint System）の略で補助拘束装置の意味

次のような場合、エアバッグが膨らんでも乗員保護の効果がないので、システムは作動しません。

・横方向、後部からの衝突
・転覆
・シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突

また、次のようなフロントサイドフレームに衝撃が伝わりにくい衝突の場合、システムが正常であっても作動しないことがあります。

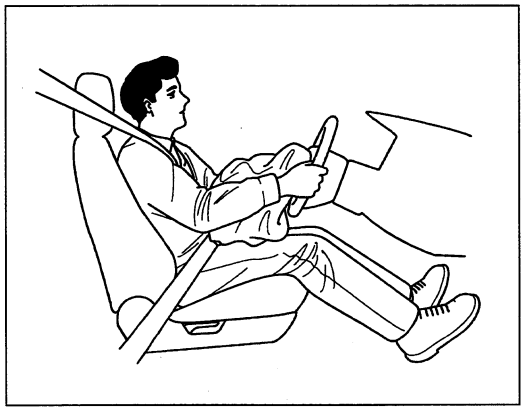
・出会い頭、電柱、立木などへの衝突
・トラックなどへの潜り込み
・部分的な衝突や斜め方向からの衝突

アドバイス

●膨らんだエアバッグはすぐにしぼみます。視界を妨げません。
●エアバッグが膨らむと白煙が出ますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。
●エアバッグは一度膨らむと再使用できません。
ホンダクリオ店で交換してください。
●ハンドルまわりやセンターコンソール付近の修理、カーステレオ等用品の取付けおよびダッシュボード周辺の板金塗装および修理をする場合は、SRSエアバッグシステムに影響を及ぼすおそれがありますので、必ずホンダクリオ店にご相談ください。

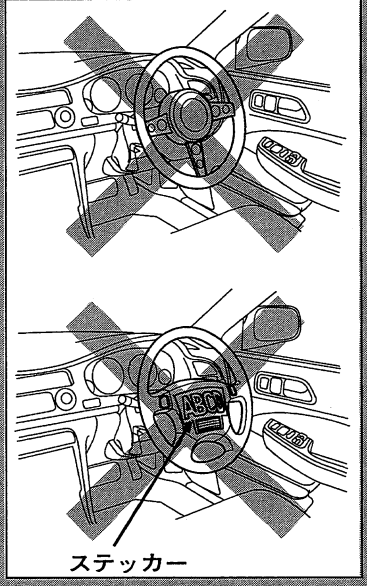
●運転席用SRSエアバッグシステム





注　意

●ハンドルを交換したり、パッドにステッカー類を貼ったりすると正常に機能しなくなります。

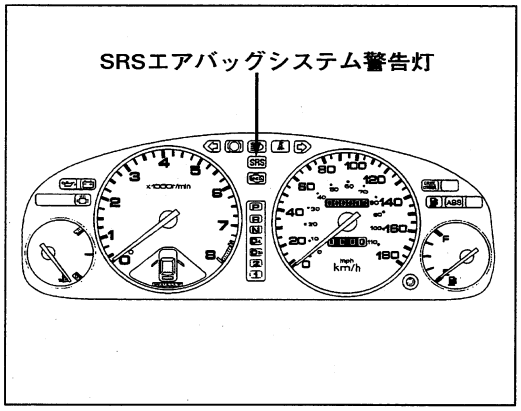


アドバイス

●運転席のみのSRSエアバッグシステム装備車は、ステアリングパッド内にSRSユニットを内蔵しているため、ハンドルに衝撃を与えないでください。

●SRSエアバッグシステム警告灯

メーター内に組み込まれており、SRSユニットがシステムの異常を検出すると点灯します。



エンジンスイッチを"ON"にしたときに約6秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

●警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにホンダクリオ店で点検を受けてください。
- 運転中に点灯したとき
- エンジンスイッチを"ON"にしても点灯しないとき、あるいは約6秒経過しても消灯しないとき

必要なときにエアバッグが膨らまないおそれがあります。

●定期点検について

SRSエアバッグシステムは、性能を維持するため、定期的に点検が必要です。点検は、お車を最初に登録してから10年後に1回目を、その後は5年ごとに受けてください。

アンチロックブレーキシステム(ABS) タイプ別装備

アンチロックブレーキシステムは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとする装置です。ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。これはアンチロックブレーキシステムが作動しているときの現象で異常ではありません。そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。

注意

- この装置は制動距離を短くするためのものではありません。アンチロックブレーキシステムを装備していない車両と同様に、路面が滑りやすくなるほど長い制動距離が必要になります。
  また、アンチロックブレーキシステムが作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、ハイドロプレーニング現象が起こりやすい雨天時の高速走行などにおいても過信せず、安全運転に心がけてください。
- 悪路、砂利道、深い新雪などの路面では、アンチロックブレーキシステムの装備されていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。
  このような道路条件では速度は控めにして車間距離を十分にとって運転してください。

アドバイス

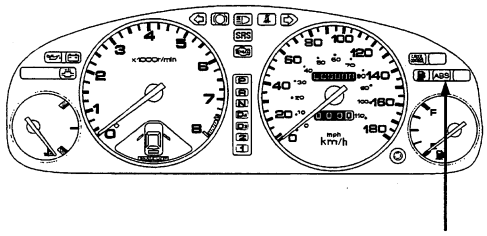
●エンジン始動直後、ブレーキペダルに軽いショックを感じることがありますが、これはアンチロックブレーキシステムの機能チェックですので異常ではありません。
また、エンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、これはアンチロックブレーキポンプの作動音で異常ではありません。

●車両を確実に停止させるため、低速(約10km/h以下)ではアンチロックブレーキシステムは作動せず、普通のブレーキと同じ作動になります。

●タイヤは必ず四輪とも同一指定サイズのものをお使いください。サイズ(外径)の異なるタイヤを混用すると、アンチロックブレーキシステムが正常に機能しなくなることがあります。

●アンチロックブレーキシステム(ABS)警告灯

メーター内に組み込まれており、アンチロックブレーキシステムが異常のときに点灯します。



アンチロックブレーキシステム警告灯

エンジンスイッチを"ON"にしたとき点灯し、エンジン始動後に消灯するのが正常です。

アドバイス

●警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにホンダクリオ店で点検を受けてください。
・運転中に点灯したとき
・エンジンスイッチを"ON"にしても点灯しないとき、あるいはエンジンを始動しても消灯しないとき
なお、この場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。(アンチロックブレーキとしての作動はしません。)

その他の安全装備

ほかに、次のような安全装備を採用しています。

●シフトロック装置
セレクトレバーの誤操作防止を助けます。
(→23ページ)

●ハイマウントストップランプ
ストップランプを高い位置にも設置し、後方から見えやすくしています。

●後席3点式シートベルト
上半身も拘束する3点式シートベルトを後席(外側2座席)にも採用しています。
(→51ページ)

●シートベルト未着用警報装置
シートベルトの未着用をランプとブザーで知らせ、ベルトの着用を促します。
(→71ページ)

●ドアビーム
側面から外力が加わったときに、ドアの変形を抑える効果があります。

●ロールオーバーバルブ
車が転倒したとき、燃料タンクブリーザーからの燃料流出を防止します。

●難燃性材料使用の内装
フロアカーペットやシートなどには、燃え広がりにくい素材を採用しています。

MEMO

4

ドライブを快適にする装備

ヒーター・エアコン

吹き出し風の調節……105
オートエアコン……106
ヒーター・マニュアル式エアコン……113

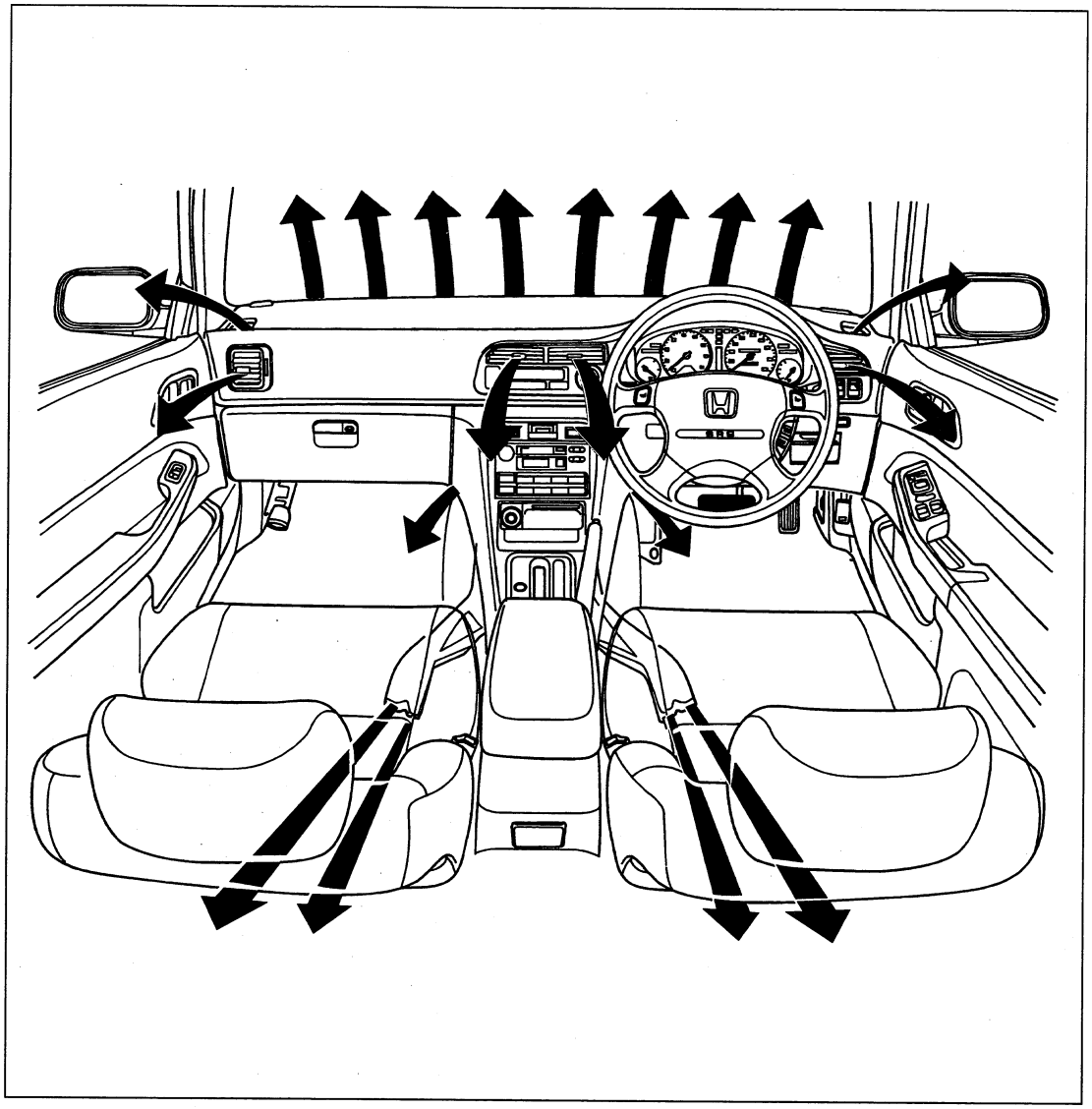
オーディオ

上手な使いかた……120
アンテナ……121
オーディオインデックス……123
AM/FMラジオ一体式カセットステレオ（BOSEサウンドシステム）……124
AM/FMラジオ一体式カセットステレオ……138

室内装備品

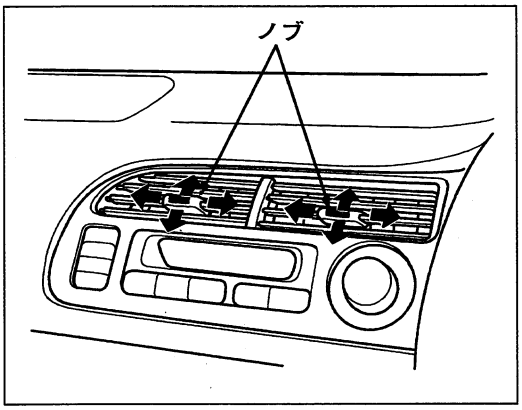
時計……149
室内灯……150
スポットライト……150
エンジンスイッチ照明灯……150
シガレットライター……151
灰皿……152
サンバイザー……153
トランクスルー……153
小銭入れ(コインボックス)……154
小物入れ……154
カップホルダー……155

ヒーター・エアコン

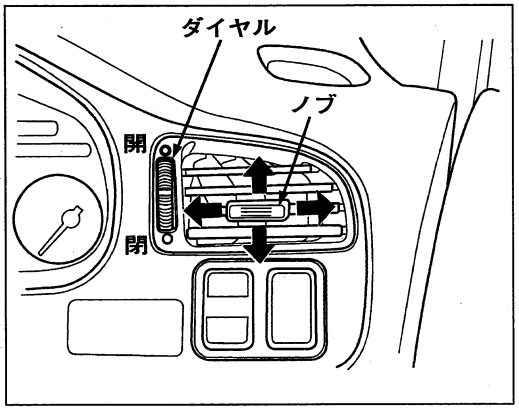


吹き出し風の調節

ノブを上下または左右に動かして、吹き出し風の向きを調節します。



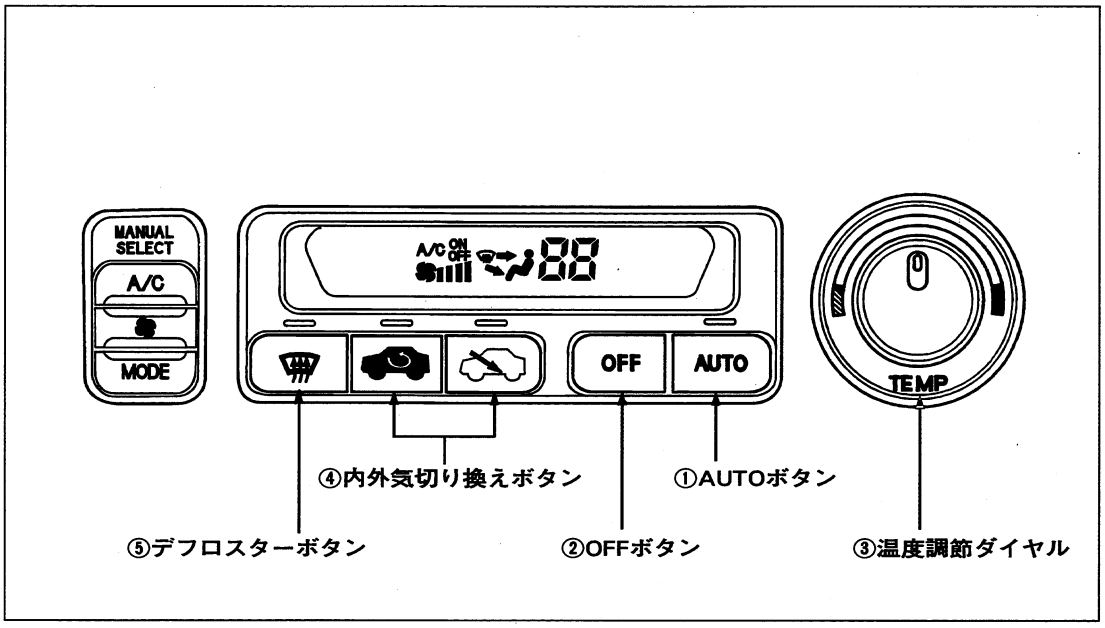
側面の吹き出し口の開閉は、ダイヤルで行います。
送風が必要なときは、ダイヤルを"開"のほうに回します。



アドバイス

●側面ガラスが曇ったときは、吹き出し風がガラスに直接当るよう両側の吹き出し口の向きを調節すれば、より早く曇りを取ることができます。

オートエアコン


MANUAL SELECT
A/C
MODE
A/C ON OFF
OFF
AUTO
TEMP
④内外気切り換えボタン
①AUTOボタン
⑤デフロスターボタン
②OFFボタン
③温度調節ダイヤル

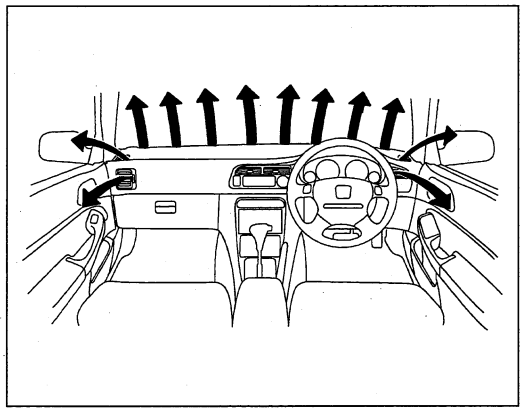
①AUTOボタン
ボタンを押すとオートエアコンが作動し、表示灯が点灯します。

②OFFボタン
ボタンを押すとエアコン、ファンの作動が停止します。

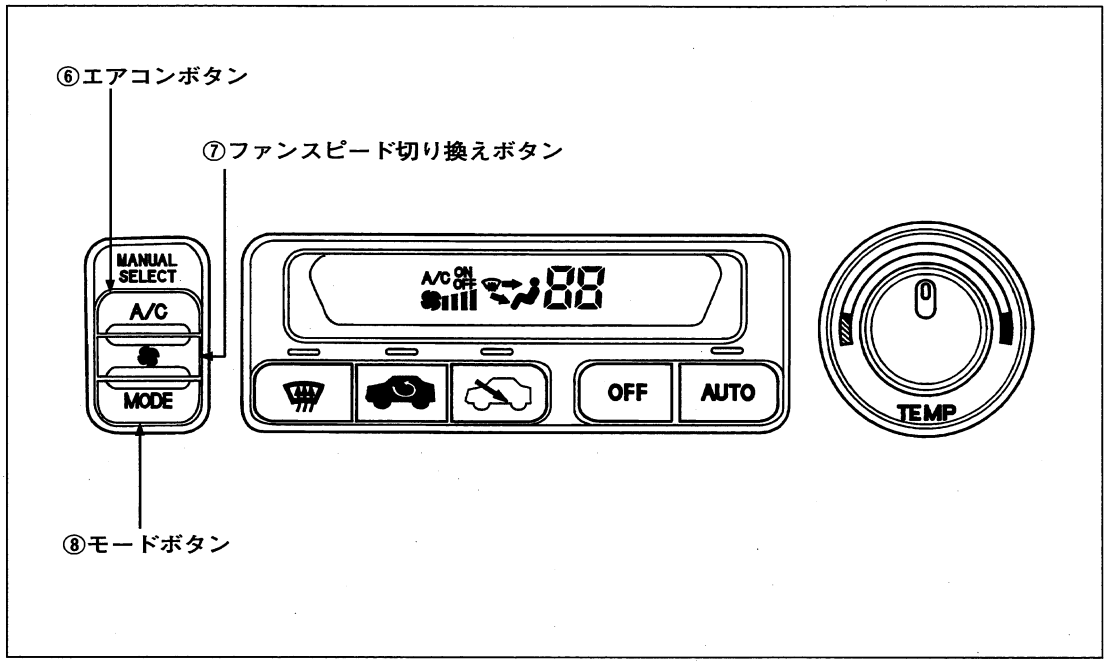
③温度調節ダイヤル
オートエアコンが作動しているとき、ダイヤルを回して温度を設定します。
表示部に設定温度が18～32の間で表示されます。

④内外気切り換えボタン
“  ”のボタンを押すと内気循環になり、
“  ”のボタンを押すと外気導入になります。

⑤デフロスターボタン
吹き出し口が前面および側面ガラスに切り換わります。ガラスの曇り取りなどに使用します。



●マニュアルセレクト



⑥エアコンボタン

ボタンを押すたびにエアコンの"ON""OFF"が切り換わり、それぞれの表示灯が点灯します。
冷房や除湿暖房をするときは"ON"にし、不要のときは"OFF"にします。

⑦ファンスピード切り換えボタン

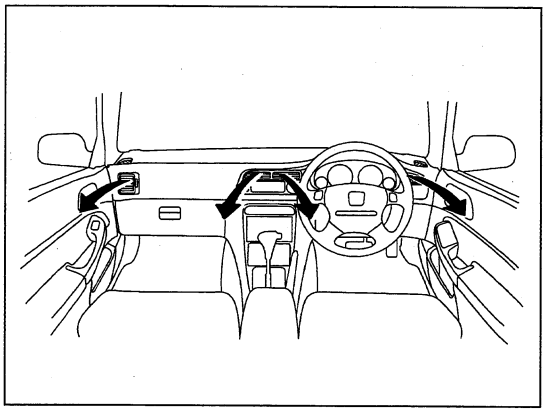
ボタンを押すたびにファンのスピードが切り換わり、それぞれの表示灯が点灯します。

表示灯の位置				
風量	弱	中	強	最強

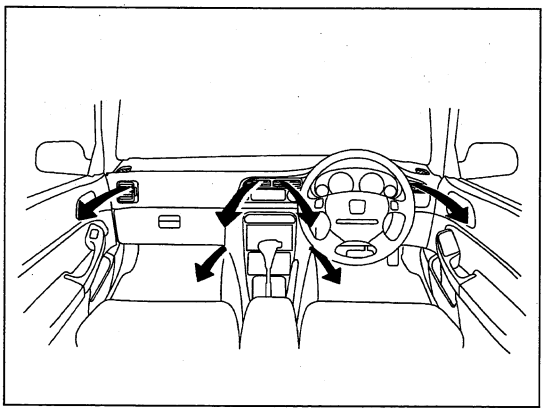
⑧モードボタン

ボタンを押すたびに吹き出し口が切り換わり、それぞれの表示灯が点灯します。

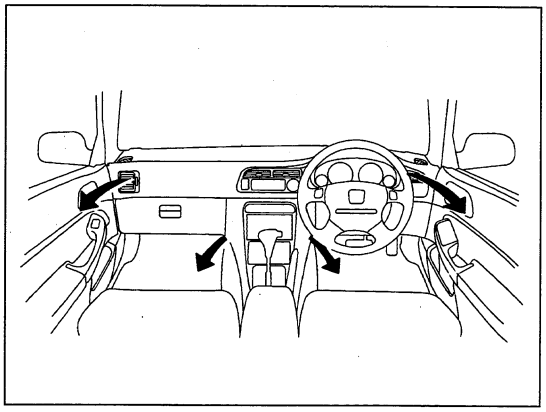
上半身に送風したいとき



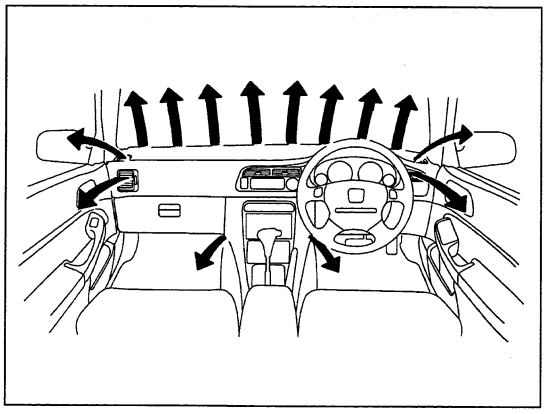
上半身、足元に送風したいとき



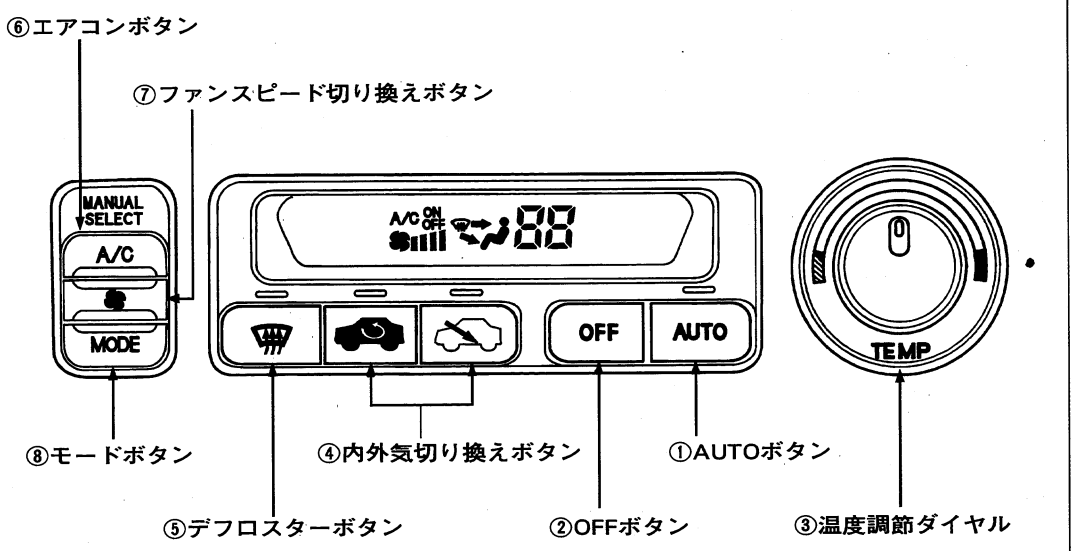
足元に送風したいとき



足元への送風と窓ガラスの曇りを取りたいとき



●使いかた



オートエアコンを使うとき

AUTOボタン①を押し、温度調節ダイヤル③を使って室内の温度を設定します。
風量、吹き出し口や内外気の切り換え、エアコンの"ON/OFF"などが自動制御されます。

アドバイス

- エンジンが冷えている場合、設定温度が室温より高いと冷風が吹き出すのを防ぐため、エンジンが暖まるまでしばらくファンは回転しません。
- 希望温度に設定したら、温度調節ダイヤルをむやみに動かさないでください。設定温度への到達時間が長くなることがあります。
- 長時間、冷風を直接体に当てないでください。冷やしすぎは健康上良くありません。
- 炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

停止するとき

OFFボタン②を押します。

急速に冷房、暖房したいとき

急速に冷房、暖房したいときは、AUTOボタン①を押し、温度調節ダイヤル③を回して温度表示を18(冷房)または32(暖房)にします。この場合は、自動制御されずに最大冷房または最大暖房のはたらきをします。

マニュアルで使うとき

内外気切り換えボタン④やデフロスターボタン⑤、マニュアルセレクトの3つのボタン⑥⑦⑧を組み合わせて使うことができます。
"AUTO"(自動)で使用中でも押したボタンの機能が優先されます。
このときAUTOボタンの作動表示灯は消えますが、押したボタンの機能以外は自動制御されます。
"AUTO"(自動)に戻したいときは、AUTOボタン①を押します。
停止するときは、OFFボタン②を押します。

・外気を室内に導入したくないとき

トンネルや渋滞地域などで汚れている外気を室内に入れたくないときは、内外気切り換えボタン④の"  "を押して内気循環にします。

・前面／側面ガラスの霜や曇りを取りたいとき

デフロスターボタン⑤を押します。自動的に外気導入に切り換わります。
急速に霜を取りたいときは、内外気切り換えボタン④の"  "を押し内気循環にし、温度調節ダイヤル③を回して温度表示を32にします。


アドバイス

●デフロスタースイッチを入れているときは、設定温度を最大冷房付近にしないでください。冷風が前面ガラスにあたるとガラスの外側が曇ることがあり、視界の妨げになります。

●内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。一度霜を取った後は外気導入で使ってください。

・エアコンが不要のとき

冷房や除湿暖房が不要のときはエアコンボタン⑥を押してエアコンを"OFF"にします。

・好みのファンスピードにしたいとき

ファンスピード切り換えボタン⑦を押して風量を調節します。

・吹き出し口を好みの位置にしたいとき

モードボタン⑧を押して吹き出し口を選択します。

●冷房を常用しないとき

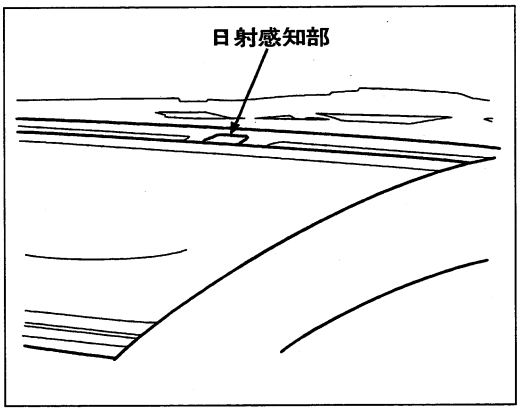
装置各部のオイルをきらさないために、ときどきエンジンを低回転させた状態で数分間冷房または除湿暖房をしてください。

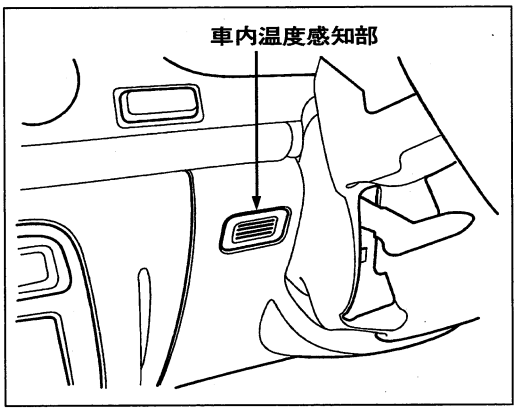
アドバイス

●室内の温度が低い場合は、エアコンが作動しないことがあります。このような場合には、内気循環で室内を暖めてからエアコンスイッチを入れると作動します。

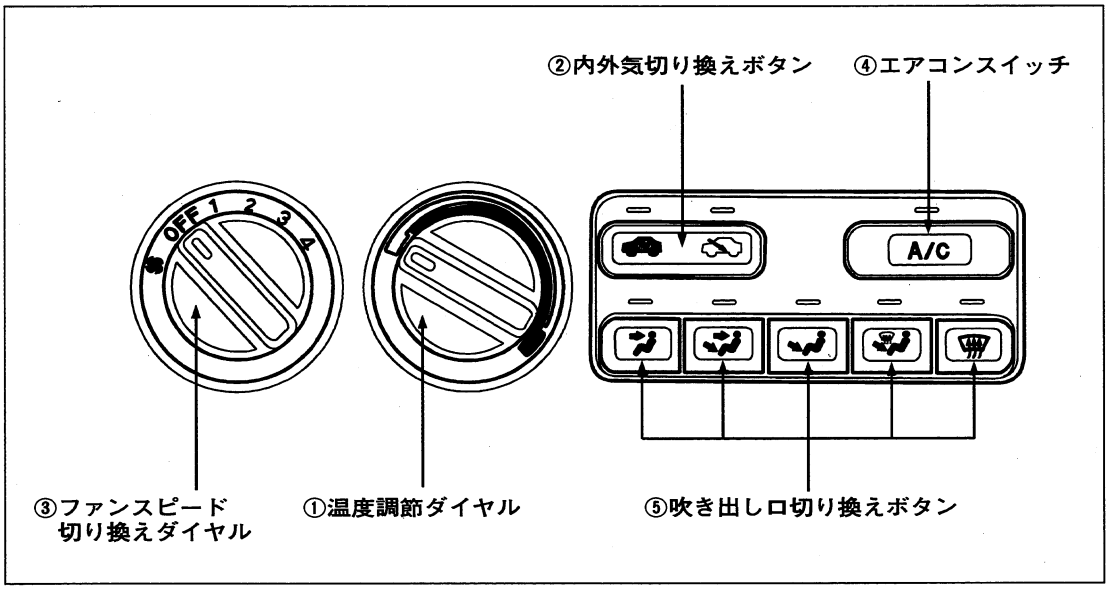
●温度感知装置

オートエアコンには、温度感知装置がついています。日射感知部や車内温度感知部の上に物を置いたり、水をかけたりしないでください。車内温度が設定温度とずれることがあります。





ヒーター・マニュアル式エアコン タイプ別装備



①温度調節ダイヤル

ダイヤルを左右に回し、吹き出し風の温度を調節します。右に回すと、吹き出し風の温度が高くなります。

②内外気切り換えボタン

ボタンを押して"🚗"の上の表示灯が点灯すると内気循環になり、もう一度ボタンを押して"↩"の上の表示灯が点灯すると外気導入になります。

通常の暖房時はガラスの曇りを防ぐため外気導入で使い、トンネルや渋滞地域などで外気が汚れているときは一時的に内気循環にしてください。

③ファンスピード切り換えダイヤル

ダイヤルを左右に回して吹き出す風の量を調節します。

④エアコンスイッチ エアコン装備車

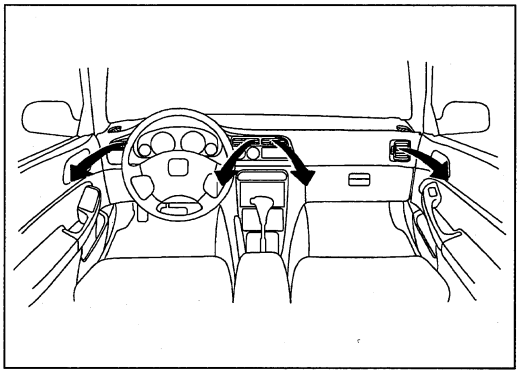
ファンスピード切り換えダイヤルが"OFF"以外のとき、エアコンスイッチを押すと、エアコンが作動し表示灯が点灯します。もう一度押すと切れます。

冷房や除湿暖房をするときに使います。

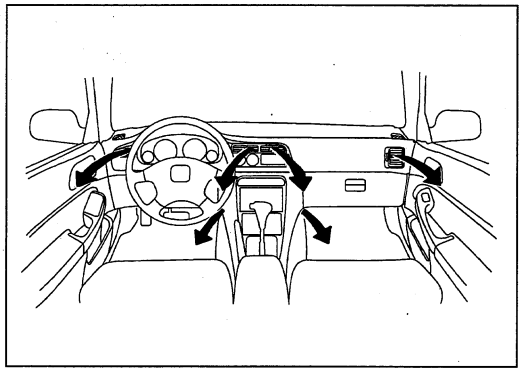
⑤吹き出し口切り換えボタン
各ボタンを押すことにより吹き出し口が変わり、表示灯が点灯します。

各モードの吹き出し口は次のようになります。

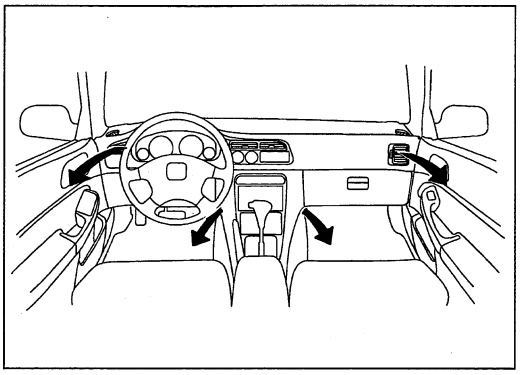
上半身に送風したいとき



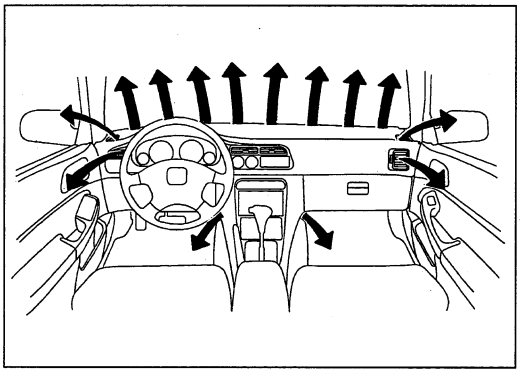
上半身、足元に送風したいとき



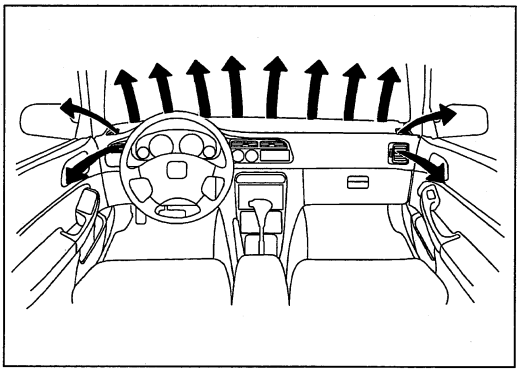
足元に送風したいとき



足元への送風と窓ガラスの曇りを取りたいとき

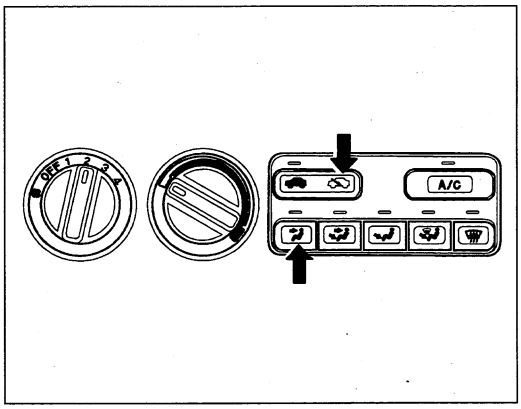


窓ガラスの曇りを取りたいとき

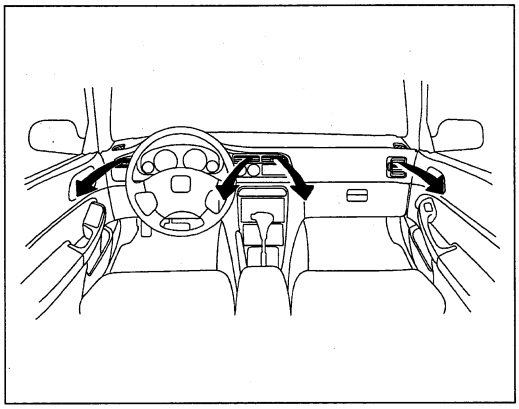


●換気

各ボタン／ダイヤルを図の位置にします。
エアコン装備車はエアコンスイッチを切っておきます。



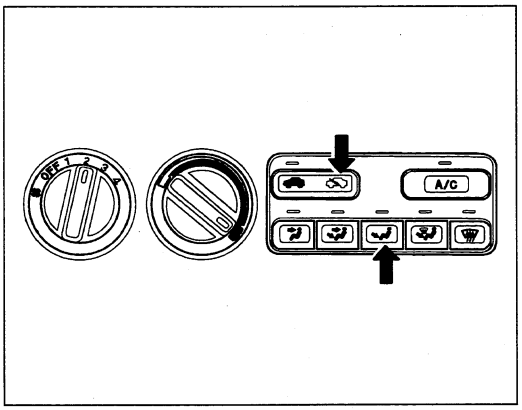
下図のように外気が吹き出します。



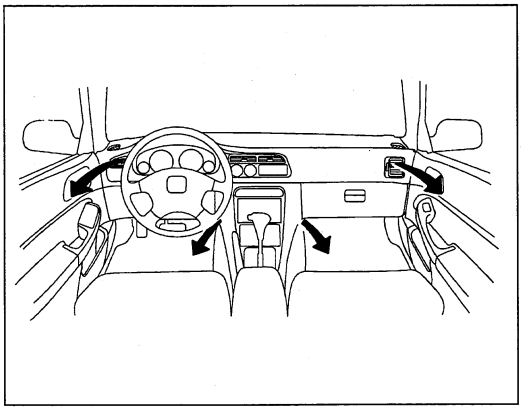
吹き出し口切り換えボタンを“ ”の位置にすると足元からも吹き出します。

●暖房

各ボタンを図の位置にします。
温度調節ダイヤル、ファンスピード切り換えダイヤルは好みの位置に合わせます。
エアコン装備車はエアコンスイッチを切っておきます。



下図のように温風が吹き出します。



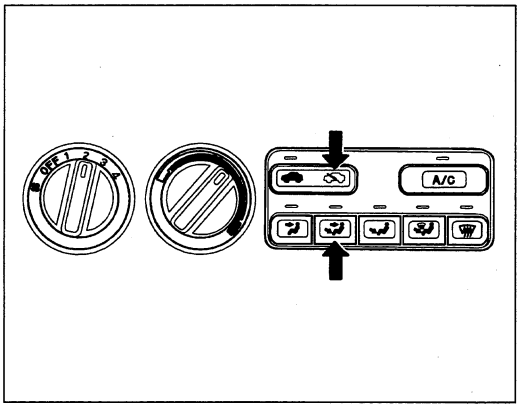
急速に車内を暖めたいときは内外気切り換えボタンを“ ”(内気循環)にし、ファンスピード切り換えダイヤルを最強にします。

アドバイス

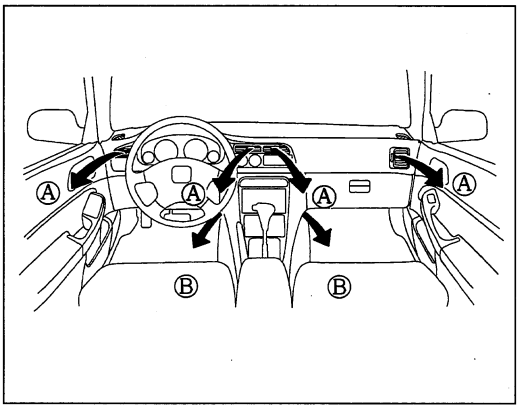
●内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。一度暖めた後は外気導入で使ってください。

頭寒足熱暖房

各ボタン／ダイヤルを図の位置にします。
ファンスピード切り換えダイヤルは好みの位置に合わせます。
エアコン装備車はエアコンスイッチを切っておきます。

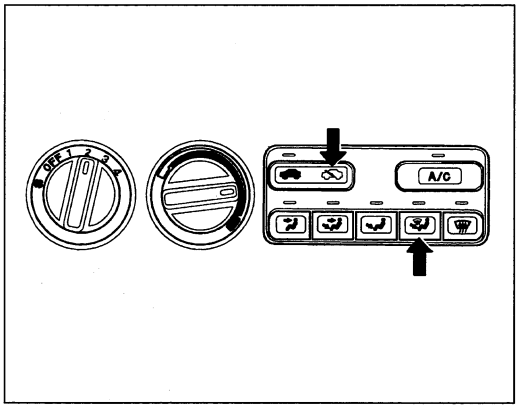


下図のように足元(Ⓑ)からは温風が、インストルメントパネル(Ⓐ)からは比較的温度の低い風が吹き出します。

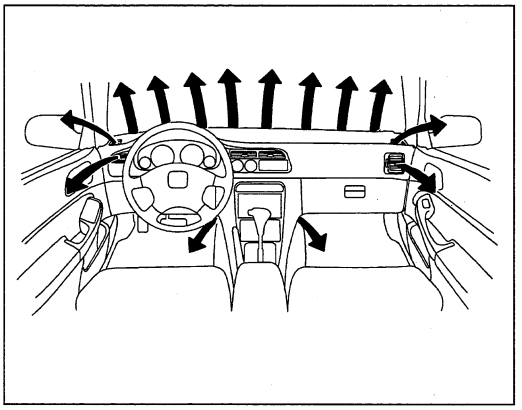


曇り止め暖房

各ボタンを図の位置にします。
温度調節ダイヤル、ファンスピード切り換えダイヤルは好みの位置に合わせます。



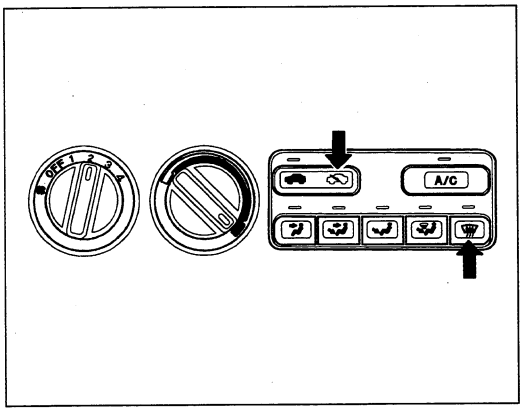
下図のように温風が吹き出します。



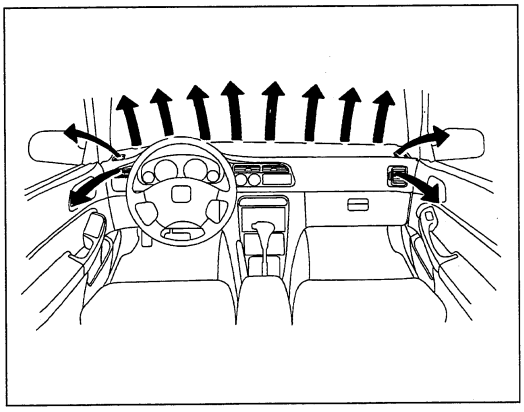
エアコン装備車は、エアコンスイッチを入れると除湿暖房ができます。
春、秋などの雨天でガラスが曇りやすいときに使います。外気が除湿され、乾燥した空気で暖めますので、曇り止めに役立ちます。

●前面／側面ガラス霜取り（デフロスター）、曇り取り

各ボタン／ダイヤルを図の位置にします。
ファンスピード切り換えダイヤルは好みの位置に合わせます。



下図のように温風が吹き出してガラスの曇りを取ります。



夏期の曇り止めには温度調節ダイヤルを適度に調節します。
エアコン装備車は、梅雨時など湿度の高いときにエアコンスイッチを入れると除湿された温風が吹き出し前面／側面ガラスの曇り止めに効果があります。

アドバイス

●エアコンスイッチを入れているときは、温度調節ダイヤルを左いっぱい(最大冷房)付近にしないでください。冷風が前面ガラスにあたるとガラスの外側が曇り、視界の妨げになります。

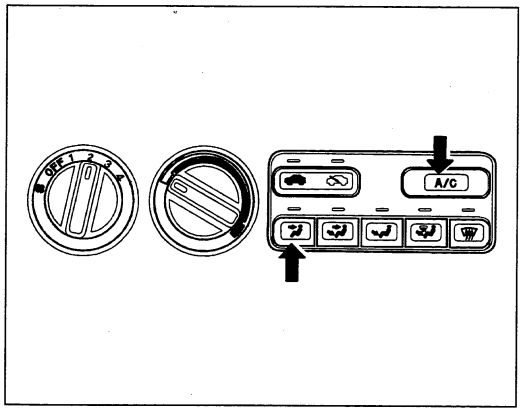
急速に霜を取りたいときは内外気切り換えボタンを“ ”(内気循環)にし、温度調節ダイヤルを右いっぱい(最大暖房)にしてファンスピード切り換えダイヤルを最強にします。

アドバイス

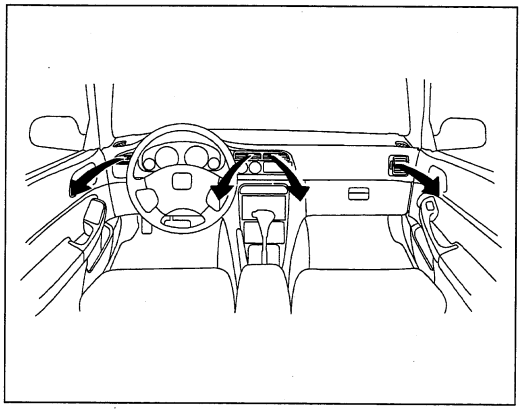
●内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。一度霜を取った後は外気導入で使ってください。

●冷房 エアコン装備車

各ボタンを図の位置にします。
温度調節ダイヤル、ファンスピード切り換えダイヤルは好みの位置に合わせます。



下図のように冷やされた外気が吹き出します。



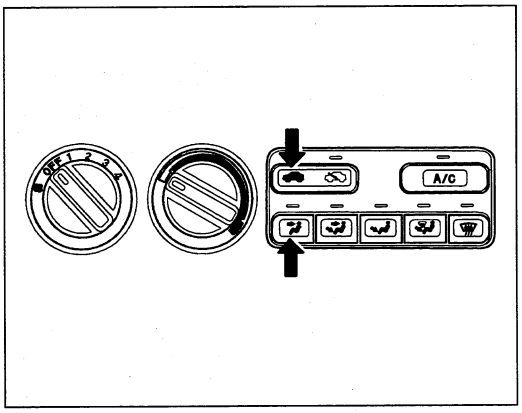
急速に車内を冷やしたいときは内外気切り換えボタンを"🚗"(内気循環)にし、温度調節ダイヤルを左いっぱい(最大冷房)にしてファンスピード切り換えダイヤルを最強にします。

アドバイス

- **急速冷房で車内が冷えたら外気導入にしてください。内気循環のまま長時間使うと車内の空気が汚れます。**
- **炎天下に駐車していたときは、熱気を追い出すため窓を開け、冷房を開始してください。**
- **長時間、冷風を直接体に当てないでください。冷やしすぎは健康上良くありません。**

●使用しないとき

内外気切り換えボタンを“ ”(内気循環)にし、ファンスピード切り換えダイヤルを“OFF”にします。



●冷房を常用しないとき

エアコン装備車

装置各部のオイルをきらさないために、ときどきエンジンを低回転させた状態で数分間冷房または除湿暖房をしてください。

アドバイス

●室内の温度が低い場合は、エアコンが作動しないことがあります。このような場合には、内気循環で室内を暖めてからエアコンスイッチを入れると作動します。

オーディオ

上手な使いかた

注意

●運転中の音量は、車外の音が聞こえる程度の音量でお使いください。車外の音が聞こえない状態で運転すると危険です。

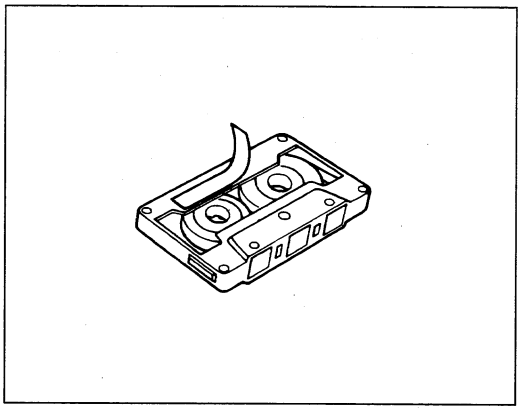
●ラジオについて

ラジオの受信については、アンテナの位置が刻々と変わるため電波の強さが変わったり、障害物や電車、信号機などの影響により最良な受信状態を維持することが困難な場合があります。

●カセットについて

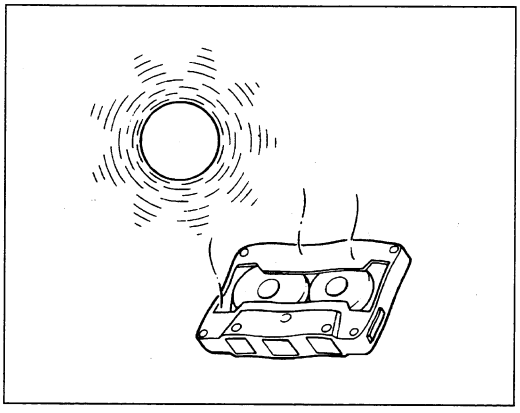
次のようなカセットテープは、故障の原因になりますので、ご使用はお避けください。

・ラベルがはがれかけていたり変形したカセットテープを使用すると、回転不良やテープが取り出せなくなる場合があります。

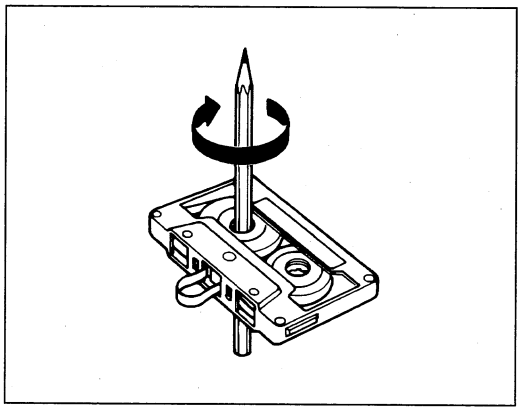


・120分テープは非常に薄いため、伸びたり、プレーヤーに巻き付いたりする場合があります。

カセットテープはケースに入れ、ほこり、直射日光や磁気のあるものの近くを避けて保管してください。



カセットテープは、プレーヤーにテープが巻き込まれたりしないように鉛筆などでたるみをとってから差し込んでください。



音が歪んだ場合は、市販のクリーニングテープなどでプレーヤーの手入れをしてください。

●CDについて

下記マークのついているディスク以外は使えません。



ディスクの信号面は直接手で触れないでください。指紋等の汚れが付くと、音とびなどをすることがあります。

ディスクはケースに入れ、直射日光や高温多湿を避けて保管してください。

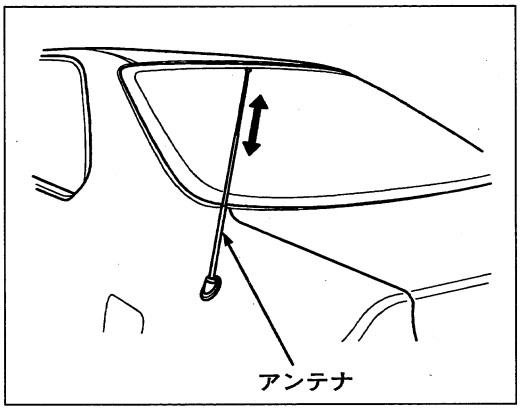
悪路走行などで激しく振動した場合、音とびすることがあります。

寒いときや雨降りのときは、プレーヤー内部に露(水滴)が生じ、正しく作動しなくなることがあります。その場合、ディスクを取り出し、換気または除湿をしてからお使いください。

アンテナ

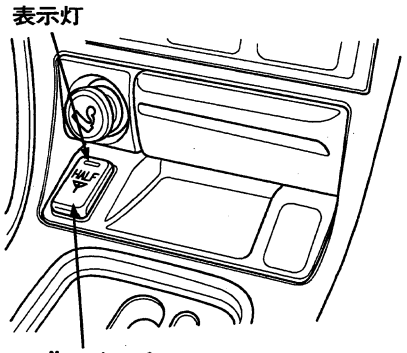
●オートアンテナ

エンジンスイッチが"ACC"または"ON"のとき、ラジオ／カセットステレオ／CDプレーヤーの電源がはいるとアンテナが自動的に伸びます。ラジオ／カセットステレオ／CDプレーヤーの電源が切れるとアンテナは自動的に収納されます。



ハーフスイッチ

このアンテナは長さを2段階に調節できます。通常は全部伸ばして使いますが、屋根の低い場所へ入るときなどには"HALF"スイッチを押せば表示灯が点灯し、約半分の長さに縮みます。またスイッチを始めから押しておけば、ラジオのスイッチを入れたときもアンテナは約半分しか伸びません。



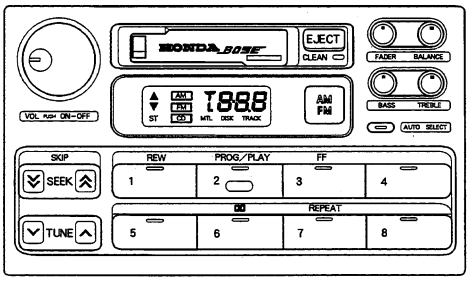
アドバイス

- アンテナの付近に人がいないことを確認してから、アンテナを作動させてください。
- 故障の原因となりますのでアンテナを手で引き出したり、押し込んだりしないでください。
- 屋根の低い場所、洗車場などではアンテナを伸ばしたままにしないでください。
  アンテナを曲げたりすると伸縮性を損います。

オーディオインデックス

AM/FMラジオー体式カセットステレオ
(BOSEサウンドシステム)

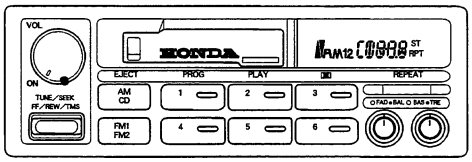
タイプ別装備



・音量、音質、バランス調節のしかた……124
・ラジオの使いかた……126
・カセットプレーヤーの使いかた……129
・CDチェンジャーコントローラー
(CDチェンジャー装備車)
使いかた……133
エラーコード……137

AM/FMラジオー体式カセットステレオ

タイプ別装備

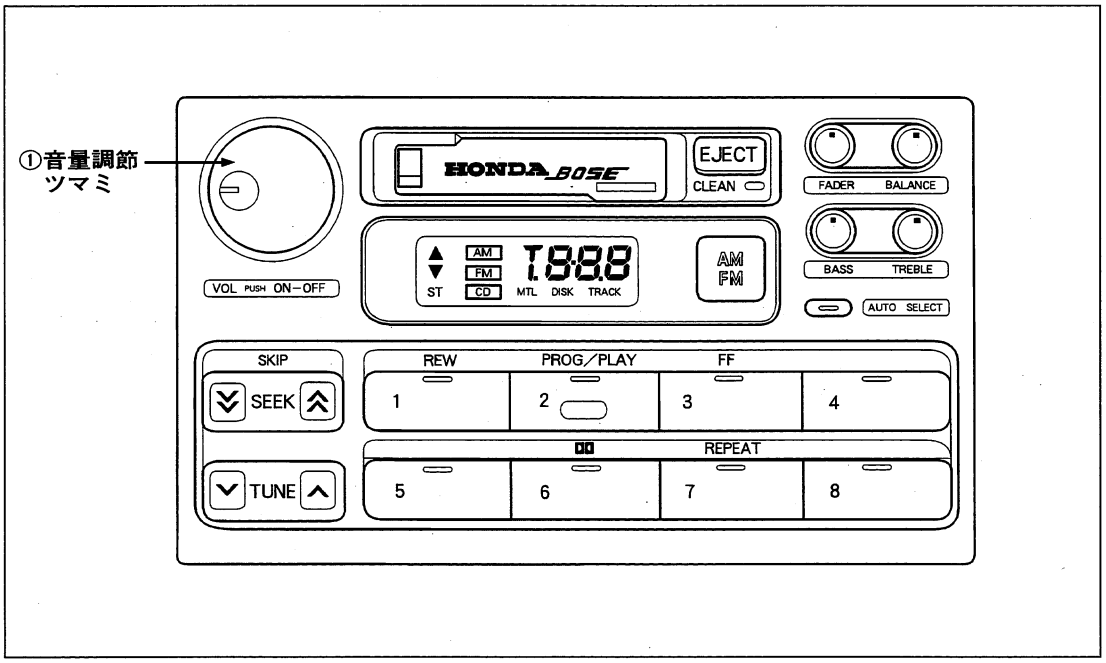


・音量、音質、バランス調節のしかた……138
・ラジオの使いかた……140
・カセットプレーヤーの使いかた……142
・CDチェンジャーコントローラー
(CDチェンジャー装備車)
使いかた……145
エラーコード……148

AM/FMラジオ一体式カセットステレオ (BOSEサウンドシステム)

タイプ別装備

●音量、音質、バランス調節のしかた



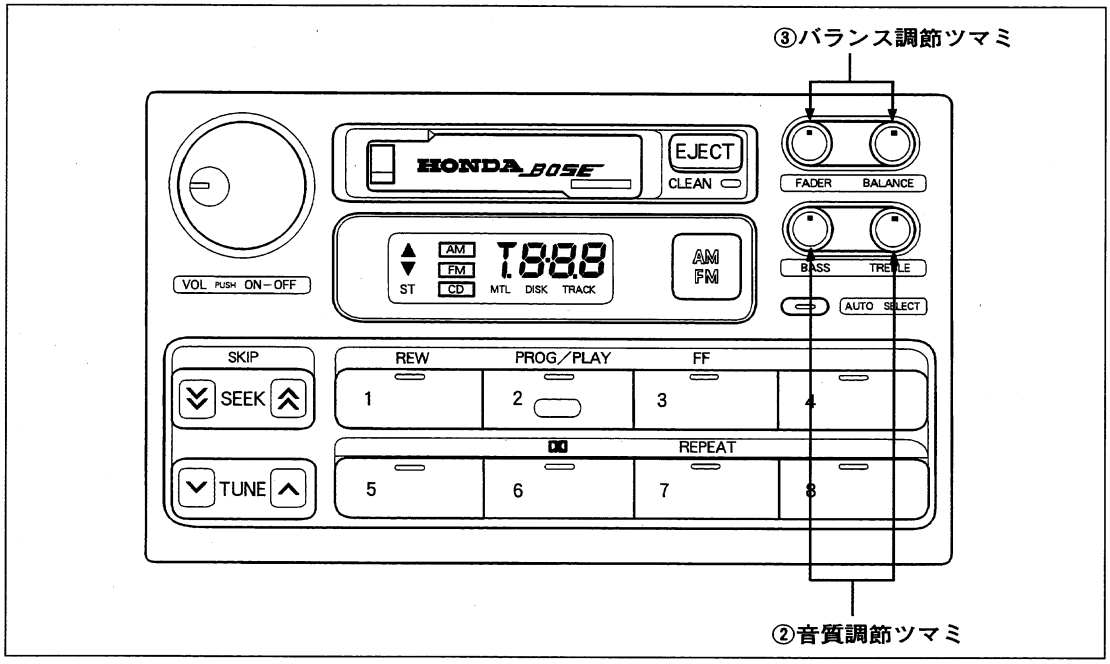
音量調節



音量調節ツマミ①で調節します。
右へ回すと音量は大きくなり、左へ回すと小さくなります。

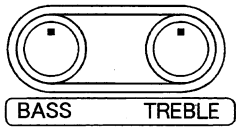
注意

●運転中の音量は、車外の音が聞こえる程度の音量でお使いください。車外の音が聞こえない状態で運転すると危険です。

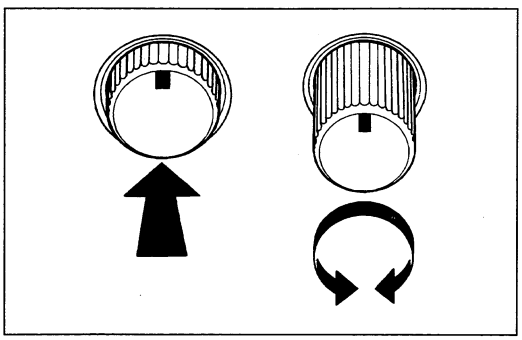


音質調節

・低音　　・高音

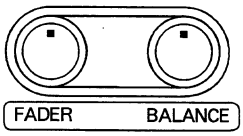


音質調節ツマミ②を押してとび出させて、低音と高音の音質を調節します。
ツマミをもう一度押すと元の位置にもどります。



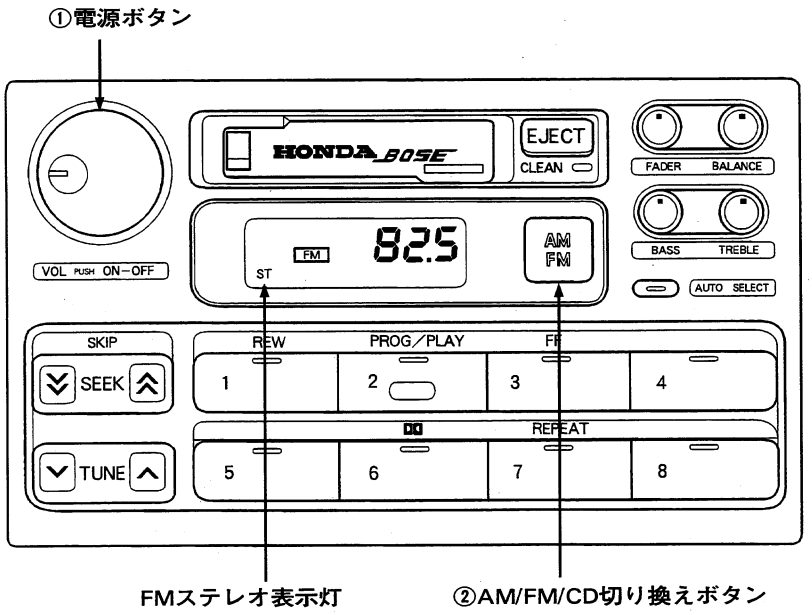
バランス調節

・前後　　・左右

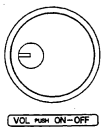


バランス調節ツマミ③を押してとび出させて、前後スピーカーと左右スピーカーの音量バランスを調節します。
ツマミをもう一度押すと元の位置にもどります。

●ラジオの使いかた



ラジオ受信のしかた

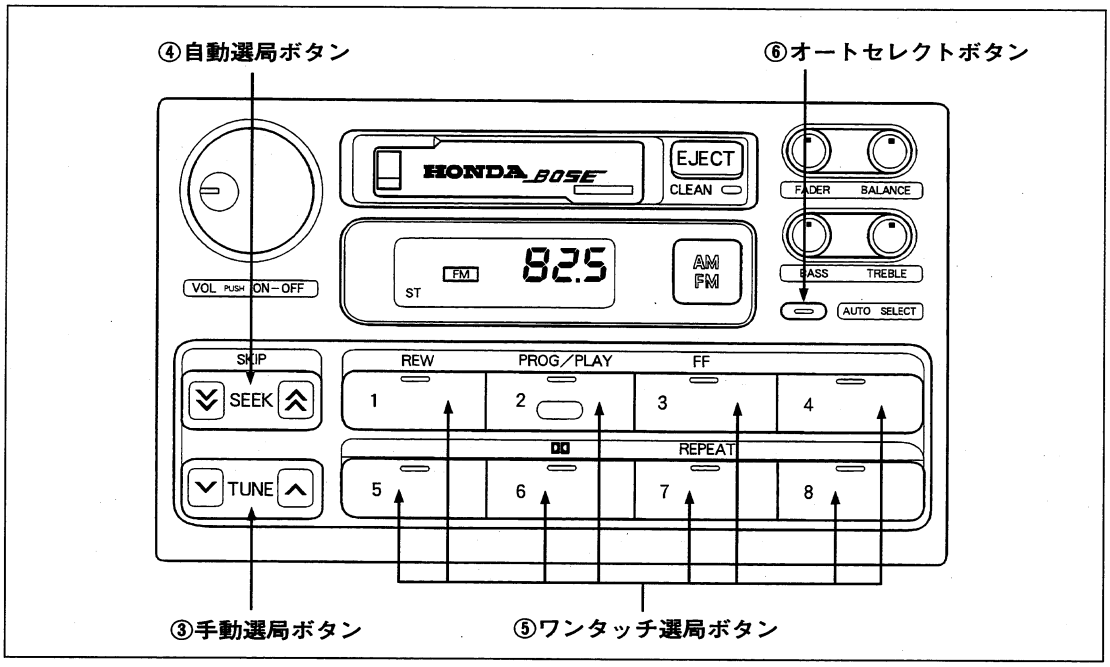


エンジンスイッチを"ACC"または"ON"にし、電源ボタン①を押してラジオの電源を入れます。

AM/FMの切り換え

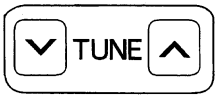


AM/FM/CD切り換えボタン②を押してAMまたはFM放送を選択します。表示部にバンド表示灯が点灯します。
FMステレオ放送が感度よく受信できたときは、表示部に"ST"のFMステレオ表示灯が点灯します。



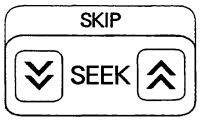
選局のしかた

• 手動選局



手動選局ボタン③を押します。
押すたびに受信周波数が少しづつ変わり選局できます。
周波数の高いほうへ選局するときは、右側を押します。
周波数の低いほうへ選局するときは、左側を押します。

• 自動選局

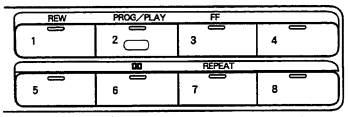


自動選局ボタン④を押すと自動選局し、放送を受信すると止まります。
周波数の高いほうへ選局するときは、右側を押します。
周波数の低いほうへ選局するときは、左側を押します。

アドバイス

●受信電波が弱いときは、自動選局できないことがあります。このようなときは手動で選局してください。

• ワンタッチ選局



ワンタッチ選局ボタン⑤を押すとあらかじめセットされた放送が受信できます。

〈セットのしかた〉
ワンタッチ選局ボタンにAM/FM各8局まで記憶させることができます。
1.手動選局ボタン③または自動選局ボタン④で選局します。
2.ワンタッチ選局ボタン⑤のいずれか一つを“ピッ”という電子音がするまで(約3秒間)押し続けます。

アドバイス
●一度電源が切れた場合(バッテリーを外したとき、ヒューズが切れたときなど)、記憶が消去されます。そのときは再度記憶操作をしてください。

オートセレクト

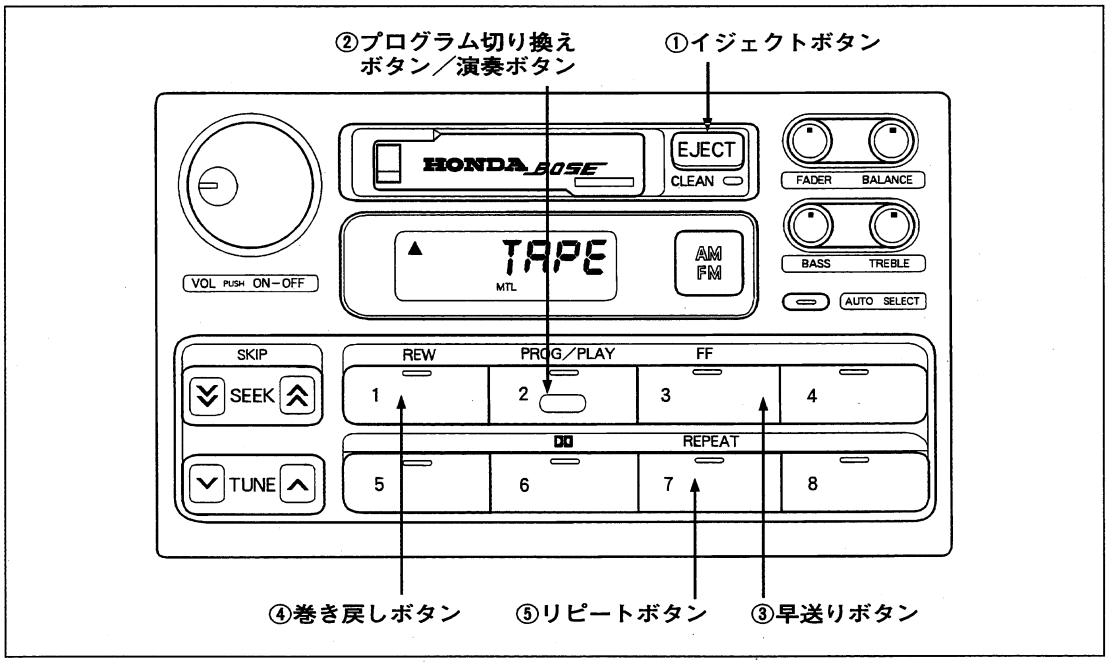
AUTO SELECT

放送局の違う地域へ出かけたときなど、セットされた放送局が聞けなくなった場合に操作します。
オートセレクトボタン⑥を押すとボタン内の表示灯が点滅し、自動選局を始めます。
自動選局された電波の強い放送局が、周波数の低い順からワンタッチ選局ボタン⑤にAM/FM各8局まで自動的に記憶され、ボタン内の表示灯が点滅から点灯に変わります。

アドバイス
●放送局が8局にみたない場合、残りのボタンには何も記憶されません。記憶されていないボタンを押すと、周波数が“0”と表示されます。
(例)
放送局が4局の場合、1から4のボタンを押すと周波数が表示され、5から8のボタンを押すと“0”が表示されます。

オートセレクトボタン⑥をもう一度押すと、ボタン内の表示灯は消灯されワンタッチ選局ボタンの記憶は、あらかじめセットされていた状態に戻ります。

●カセットプレーヤーの使いかた



テープの聞きかた

エンジンスイッチが"ACC"または"ON"のとき、カセットテープを挿入口に差し込むと、電源が入ります。
テープの演奏が開始され、表示部に"▼"または"▲"のテープ走行表示灯が点灯します。テープの片面が終了したときは、自動的にもう一面の演奏を開始します。

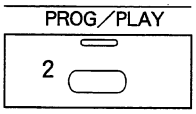
ラジオの電源が"ON"のままでも、テープを差し込めば自動的にテープ演奏に切り換わります。

テープ演奏の止めかた



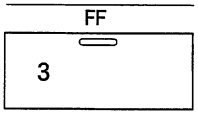
イジェクトボタン①を押してカセットテープを取り出します。同時に電源も切れます。
ラジオの電源が"ON"のとき、ラジオ放送に切り換わります。
テープ演奏中にエンジンスイッチを"LOCK"にすると、テープは差し込まれた状態で電源が切れますが、イジェクトボタン①を押すと取り出すことができます。

走行方向の切り換え

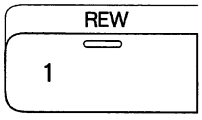


演奏の途中で走行方向を切り換えたいときは、プログラム切り換えボタン②を押します。
テープの片面が終了したときは、自動的にもう一面の演奏を開始します。

早送り、巻き戻し



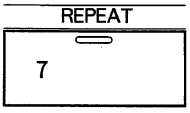
早送り



巻き戻し

早送りは早送りボタン③を押し、巻き戻しは巻き戻しボタン④を押します。同時にボタン内の表示灯が点灯します。
早送り、巻き戻しを止めるときは、演奏ボタン②を押します。

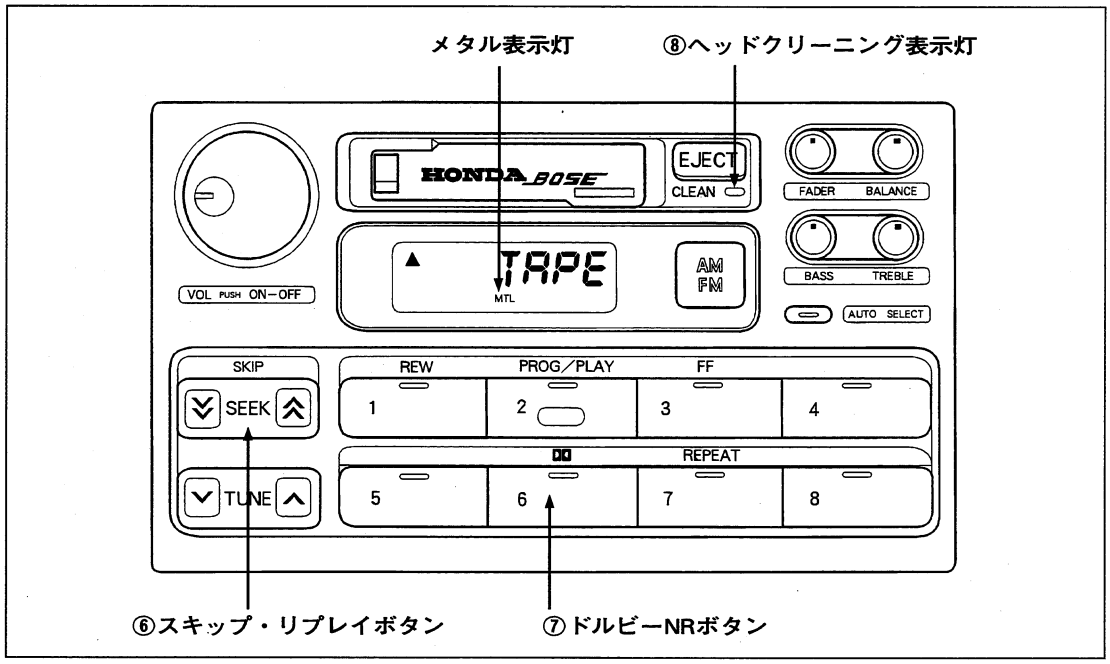
リピート



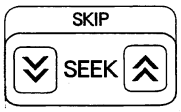
演奏中の曲を繰り返し聞きたいときは、リピートボタン⑤を押します。同時にボタン内の表示灯が点灯します。
リピート機能を解除するときは、もう一度リピートボタンを押します。



●次の場合、リピート機能がはたらかないことがあります。
—曲と曲の間の音が無い部分が4秒以下のとき。
—曲と曲の間に雑音が入っているとき。
—曲の途中に音が無い部分があるとき。



スキップ、リプレイ



• スキップ

曲の途中で次の曲に移りたいときは、スキップ・リプレイボタン⑥の右側を押します。

• リプレイ

演奏中の曲の途中でもう一度始めから聞きたいときは、スキップ・リプレイボタン⑥の左側を押します。

テープは巻き戻し／早送りされて、曲と曲の間の"あき"(4秒以上音のない部分)を見つけ出し、演奏を開始します。

アドバイス

●次の場合、スキップ、リプレイ機能がはたらかないことがあります。

—曲と曲の間の音が無い部分が4秒以下のとき。

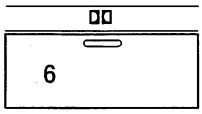
—曲と曲の間に雑音が入っているとき。

—曲の途中に音が無い部分があるとき。

オートテープセレクター

ノーマルテープ、クロームテープ、メタルテープが使えます。
クロームテープ、メタルテープ使用時には表示部に"MTL"のメタル表示灯が点灯します。

ドルビーNR



ドルビーNRボタン⑦を押すと、ドルビーNR再生およびその解除ができます。
ドルビーNR再生中は、ボタン内の表示灯が点灯します。ドルビーNR録音されたテープを再生すると、高域雑音の少ない演奏が楽しめます。

※ドルビーノイズリダクションはドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。
ドルビー、DOLBY及びダブルD記号 DD はドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションの登録商標です。

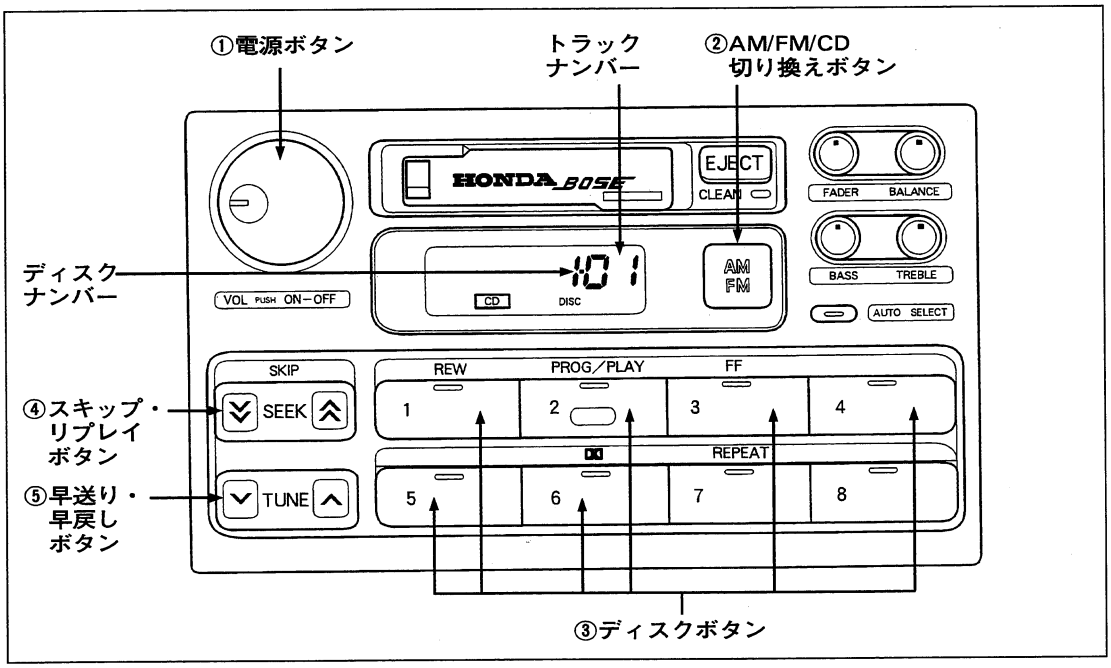
ヘッドクリーニング表示灯

CLEAN

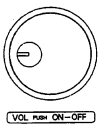
テープ演奏が50時間を超えると、ヘッドクリーニング表示灯⑧が点灯します。市販のクリーニングテープなどでプレーヤーの手入れをしてください。
ヘッドクリーニング表示灯⑧を3秒以上押し続けると消灯します。

●CDチェンジャーコントローラーの使いかた

CDチェンジャー装備車



CDの聞きかた



エンジンスイッチが"ACC"または"ON"のとき、電源ボタン①を押してラジオの電源を入れます。



AM/FM/CD切り換えボタン②を押してCDに切り換えます。

表示部にディスク及びトラックナンバーが表示され、演奏が開始されます。

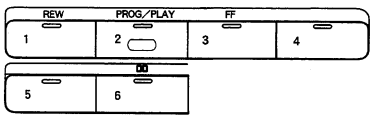
アドバイス

- ディスクの最後の曲の演奏が終わると、自動的に次のディスクの初めから演奏が始まります。
- ディスクマガジンの中の6枚目のディスクの最後の曲の演奏が終わると、自動的に1枚目のディスクの初めから演奏が始まります。

CD演奏の止めかた

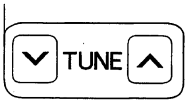
・AM/FM/CD切り換えボタン②を押すと、ラジオに切り換わります。
・テープを挿入すると、テープ演奏に切り換わります。
・電源ボタン①を押すと電源が切れます。または、エンジンスイッチを切ると電源が切れます。

ディスクの呼び出し



ディスクボタン③を押すことで、演奏させたいディスクを呼び出すことができます。ディスクボタンに続けてスキップ・リプレイボタン④を押すと、トラックナンバーの指定もできます。
ディスクはCDチェンジャー内のディスクマガジンに6枚までセットできます。
ディスクの番号は、ディスクマガジンの一番下が"1"で、一番上が"6"の順になっています。
ボタンを押すと表示部のディスクナンバーとトラックナンバーが点滅し、点灯にかわると演奏が始まります。
トラックナンバーの指定がないときは、そのディスクの初めの曲から演奏されます。
指定したディスクがCDチェンジャーにない場合は、ディスクナンバーは表示されますがトラックナンバーは"－－"と表示され、次のディスクを呼び出します。

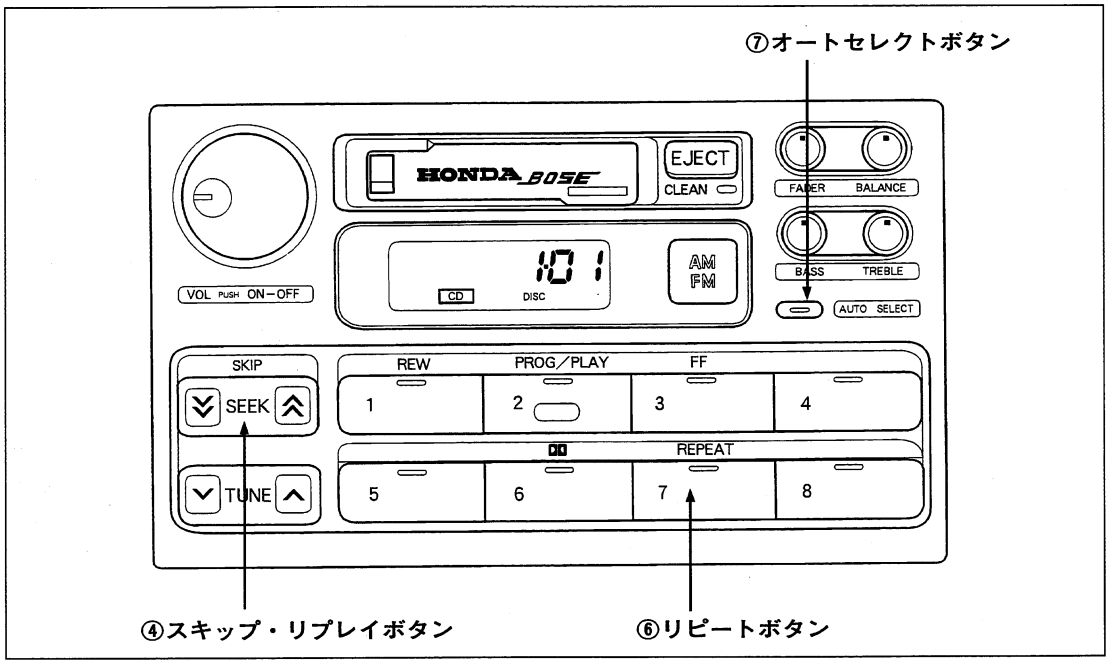
早送り、早戻し



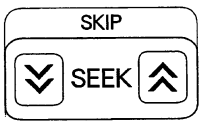
早送り・早戻しボタン⑤の右側を押し続けている間早送りされ、左側を押し続けている間早戻しされます。
ディスクの最初まで戻ると自動的に演奏を開始します。
また、ディスクの最後まで送ったときは、ポーズ状態になります。早送り以外のボタンを押せば解除されます。

アドバイス

●ランダム演奏時は、早戻しは現在演奏中の曲の初めまでしか戻りません。
また早送りは、演奏が終わると自動的に次のディスクへ移ります。



スキップ、リプレイ



スキップ、リプレイはスキップ・リプレイボタン④の左右を押して表示部のトラックナンバーを聞きたい曲番にします。

・スキップ

曲の途中で次の曲またはそれ以降の曲を聞きたいとき。
ボタンの右側を押します。
演奏中のディスクの最後の曲のときにボタンを押すと、そのディスクの最初の曲になります。

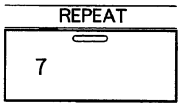
・リプレイ

演奏中の曲の初めに戻りたいときやそれ以前の曲を聞きたいとき。
ボタンの左側を押します。
演奏中のディスクの最初の曲のときにボタンを押すと、そのディスクの最後の曲になります。

アドバイス

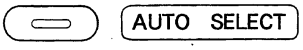
●ランダム演奏時は、リプレイは現在演奏中の曲の初めまでしか戻りません。
また、スキップは、演奏が終わると自動的に次のディスクへ移ります。

リピート



演奏中の曲を繰り返し聞きたいときに、リピートボタン⑥を押します。ボタン内の表示灯が点灯します。
もう一度押せば、リピート機能は解除され、ボタン内の表示灯は消灯します。

ランダム演奏



１枚のディスクの曲順をランダムに演奏します。
オートセレクトボタン⑦を押すと表示灯が点灯し、ランダム演奏が開始されます。
ランダム演奏は演奏中のディスクの中で行われ、演奏が終わると自動的に次のディスクに移り、ふたたびランダム演奏が開始されます。
ランダム演奏の機能を解除するには、もう一度ボタンを押します。
この場合、演奏中の曲から通常の演奏に戻ります。

エラーコード

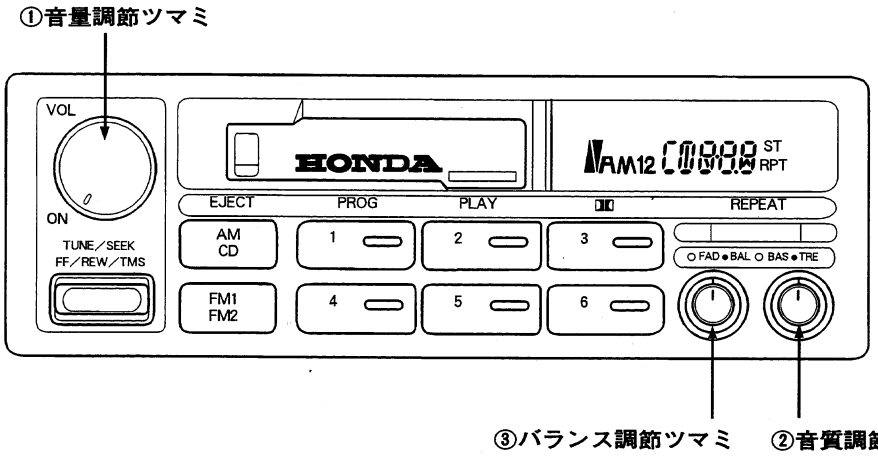
パネル表示部にエラーコードが表示されたときは、下表にしたがって点検してください。

エラーコード	原　　因	処　　置
E-01	ディスクチェンジの動作の異常	ホンダクリオ店で点検を受けてください。
E-02	ディスクがトランクユニット内部に残っている	トランクユニットのイジェクトスイッチを押してディスクマガジンを取り出した後、空のディスクマガジンを挿入してディスクを回収します。
E-03 E-04 E-05	ディスクチェンジの動作の異常	数秒間表示されることがありますが、エラー表示が消えれば問題はありません。 表示が消えないときは、ホンダクリオ店で点検を受けてください。
E-06	ディスクチェンジの動作の異常	トランクユニットのイジェクトスイッチを押して、ディスクマガジンを取り出します。エラー表示が消えれば問題はありません。表示が消えないとき、またはディスクマガジンが取り出せないときは、ホンダクリオ店で点検を受けてください。
E-07	ディスクマガジンがイジェクトできない(装着不良)	
---H	車内温度の上昇を検知	車内温度が適温に戻ると、エラー表示は消えます。
E-EE	チェンジャーと、CDプレーヤーの通信が不通	チェンジャーと、CDコントローラーの接続を確認してください。
----	チェンジャーにディスクマガジンが入っていない	チェンジャーにディスクマガジンを入れてください。

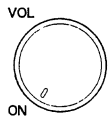
AM/FMラジオ一体式カセットステレオ

タイプ別装備

●音量、音質、バランス調節のしかた



音量調節

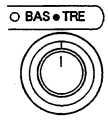


音量調節ツマミ①で調節します。
右へ回すと音量は大きくなり、左へ回すと小さくなります。

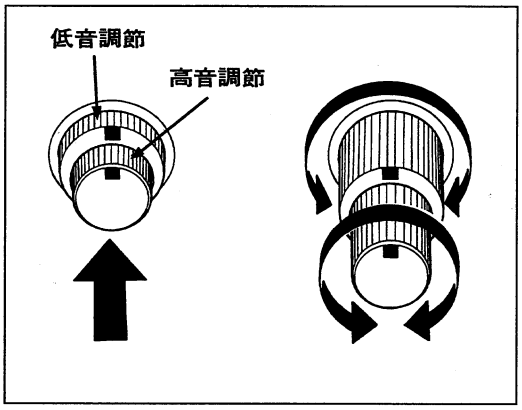
注意

●運転中の音量は、車外の音が聞こえる程度の音量でお使いください。車外の音が聞こえない状態で運転すると危険です。

音質調節



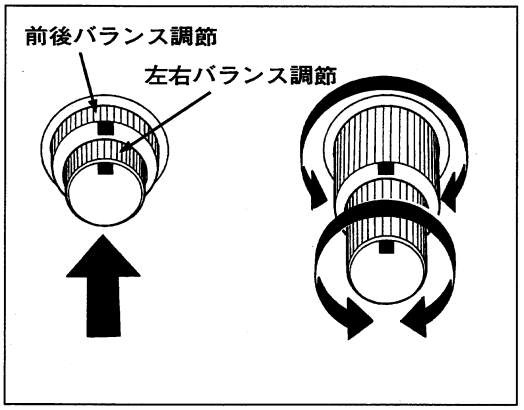
音質調節ツマミ②を押してとび出させて、低音と高音の音質を調節します。
ツマミをもう一度押すと元の位置にもどります。



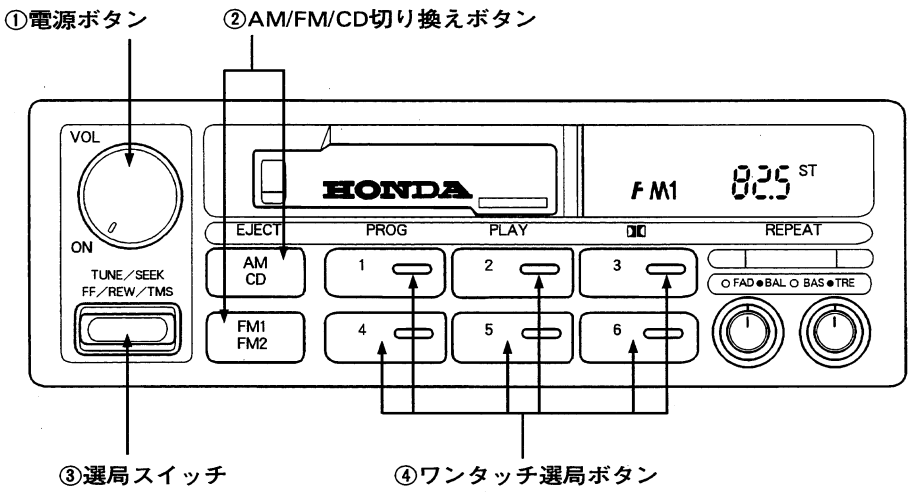
バランス調節



バランス調節ツマミ③を押してとび出させて、前後スピーカーと左右スピーカーの音量バランスを調節します。
ツマミをもう一度押すと元の位置にもどります。



●ラジオの使いかた

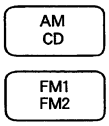


ラジオ受信のしかた



エンジンスイッチを"ACC"または"ON"にし、電源ボタン①を右に回してラジオの電源を入れます。

AM/FMの切り換え



AM/FM/CD切り換えボタン②を押してAMまたはFM(FM1、FM2)を選択します。AMは上側のボタンを、FM1またはFM2は下側のボタンを押します。表示部にバンド表示灯が点灯します。

FMステレオ放送が感度よく受信できたときは、表示部に"ST"のFMステレオ表示灯が点灯します。

選局のしかた

- **手動選局**



選局スイッチ③を軽く押します。
押すたびに受信周波数が少しづつ変わり選局できます。
周波数の高いほうへ選局するときは、上に押します。
周波数の低いほうへ選局するときは、下に押します。

• 自動選局

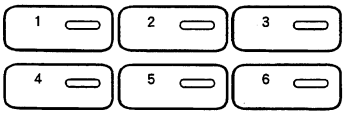


選局スイッチ③を"ピッ"という電子音がするまで押して離すと自動選局し、放送を受信すると止まります。
周波数の高いほうへ選局するときは、上に押します。
周波数の低いほうへ選局するときは、下に押します。

アドバイス

●受信電波が弱いときは、自動選局できないことがあります。このようなときは手動で選局してください。

• ワンタッチ選局

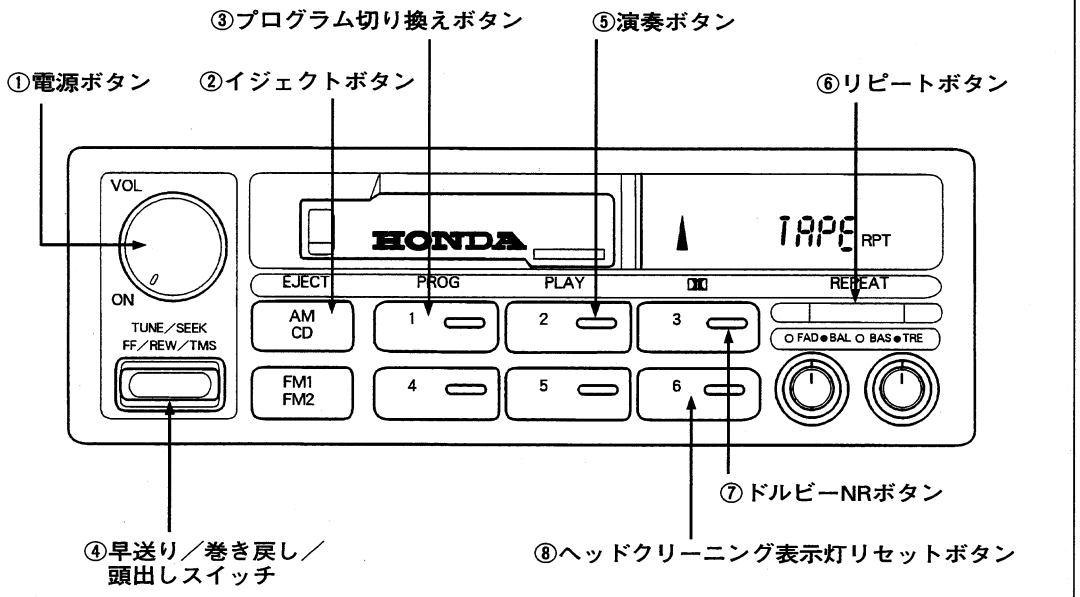


ワンタッチ選局ボタン④を押すとあらかじめセットされた放送が受信できます。
〈セットのしかた〉
ワンタッチ選局ボタン④にAM６局、FM12局(FM1、FM2それぞれ６局)まで記憶させることができます。
1.選局スイッチ③で選局します。
2.ワンタッチ選局ボタン④のいずれか一つを"ピッ"という電子音がするまで(約２秒間)押し続けます。

アドバイス

●一度電源が切れた場合(バッテリーを外したとき、ヒューズが切れたときなど)、記憶が消去されます。そのときは再度記憶操作をしてください。

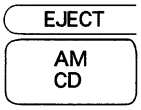
●カセットプレーヤーの使いかた



テープの聞きかた

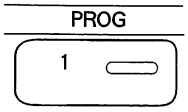
エンジンスイッチが"ACC"または"ON"のとき、電源ボタン①を右に回してラジオの電源を入れ、カセットテープを挿入口に差し込みます。
テープの演奏が開始され、表示部に"▼"または"▲"のテープ走行表示灯が点灯します。テープの片面が終了したときは、自動的にもう一面の演奏を開始します。

テープ演奏の止めかた



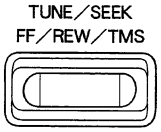
イジェクトボタン②を押します。
テープ演奏が停止しカセットテープが押し出され、ラジオ放送に切り換わります。
テープ演奏中にエンジンスイッチを"LOCK"にしたり、電源を切ったりすると、テープは自動的に押し出されます。

走行方向の切り換え



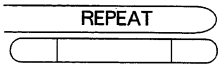
演奏の途中で走行方向を切り換えたいときは、プログラム切り換えボタン②を押します。
テープの片面が終了したときは、自動的にもう一面の演奏を開始します。

早送り、巻き戻し



早送りは早送り／巻き戻し／頭出しスイッチ④を上に軽く押し、巻き戻しは早送り／巻き戻し／頭出しスイッチ④を下に軽く押します。
同時に表示部には早送りのときは"FF"、巻き戻しのときは"REW"が表示されます。
早送り、巻き戻しを止めるときは、演奏ボタン⑤を押します。

リピート

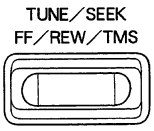


演奏中の曲を繰り返し聞きたいときは、リピートボタン⑥を押します。同時に表示部に"RPT"が点灯します。
リピート機能を解除するときは、もう一度リピートボタンを押します。

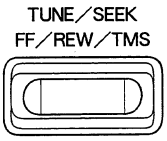

アドバイス

●次の場合、リピート機能がはたらかないことがあります。
—曲と曲の間の音が無い部分が4秒以下のとき。
—曲と曲の間に雑音が入っているとき。
—曲の途中に音が無い部分があるとき。

頭出し演奏



演奏中の曲の途中でもう一度始めから聞きたいときは、早送り／巻き戻し／頭出しスイッチ④を下に“ピッ”という電子音がするまで押し続けます。このとき表示部には“REW”の表示が点滅します。



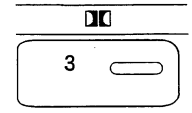
曲の途中で次の曲に移りたいときは、早送り／巻き戻し／頭出しスイッチ④を上に“ピッ”という電子音がするまで押し続けます。このとき表示部には“FF”の表示が点滅します。

テープは巻き戻し／早送りされて、曲と曲の間の“あき”(４秒以上音のない部分)を見つけ出し、演奏を開始します。

アドバイス

●次の場合、頭出し機能がはたらかないことがあります。
―曲と曲の間の音が無い部分が４秒以下のとき。
―曲と曲の間に雑音が入っているとき。
―曲の途中に音が無い部分があるとき。

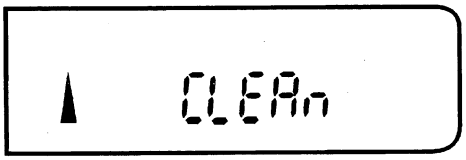
ドルビーNR



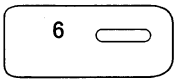
ドルビーNRボタン⑦を押すと、ドルビーNR再生およびその解除ができます。
ドルビーNR再生中は、ボタン内の表示灯が点灯します。ドルビーNR録音されたテープを再生すると、高域雑音の少ない演奏が楽しめます。

※ドルビーノイズリダクションはドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。
ドルビー、DOLBY及びダブルD記号 DOLBY はドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションの登録商標です。

ヘッドクリーニング表示灯



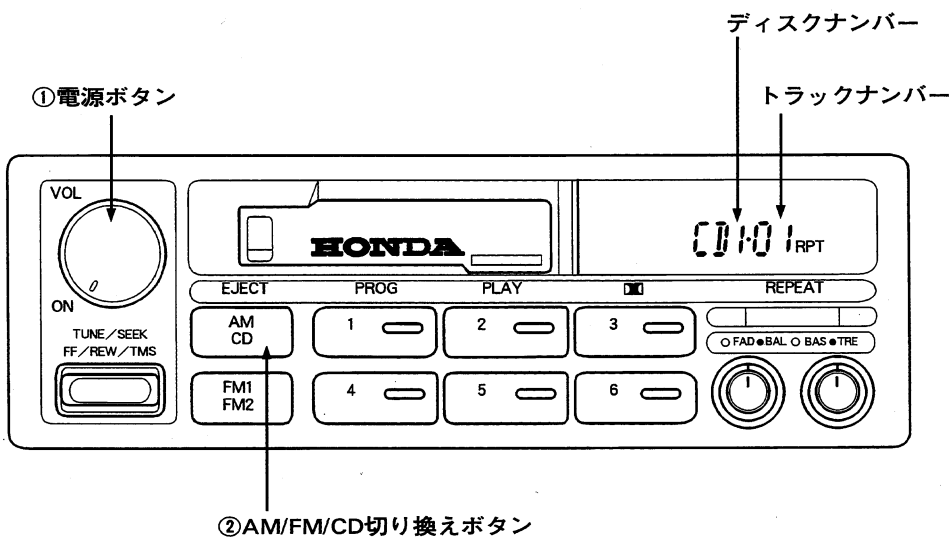
テープ演奏が50時間を超えると、カセットテープが挿入される毎に、表示部に“CLEAN”のヘッドクリーニング表示灯が約５秒間点滅します。市販のクリーニングテープなどでプレーヤーの手入れをしてください。



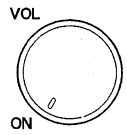
リセットするときは、リセットボタン⑧を“ピッ”という電子音がするまで(約３秒間)押し続けます。ボタンを押すと同時に表示部の“CLEAN”が点灯し、リセットされると消灯します。

●CDチェンジャーコントローラーの使いかた

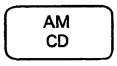
CDチェンジャー装備車

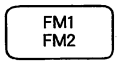


CDの聞きかた



エンジンスイッチが"ACC"または"ON"のとき、電源ボタン①を右に回してラジオの電源を入れます。



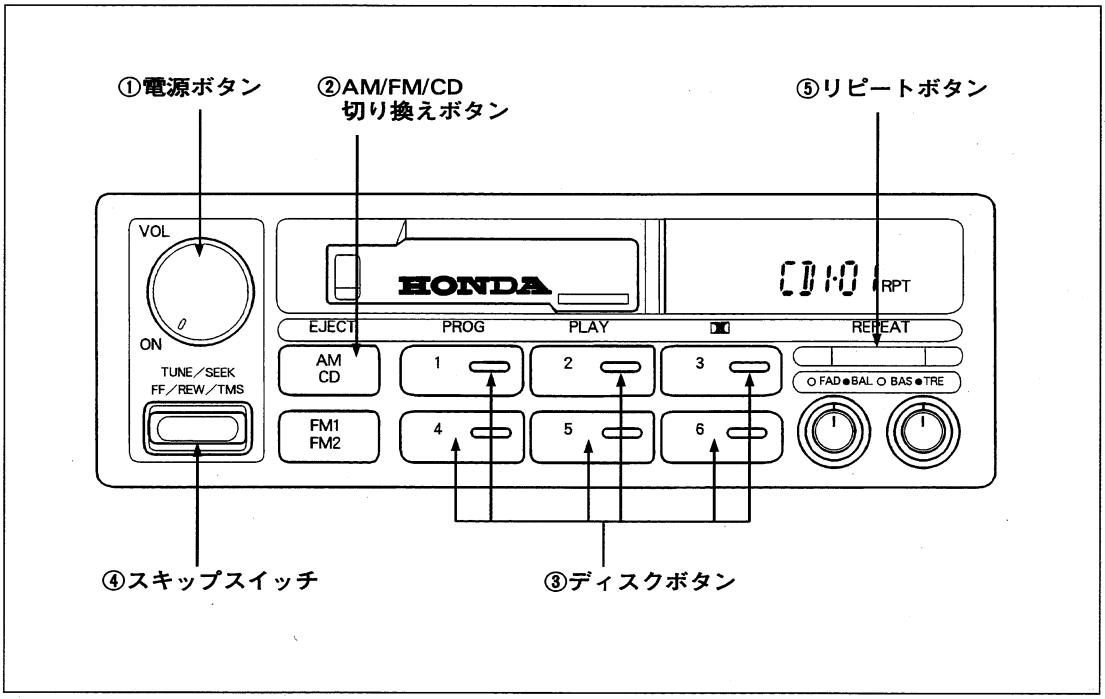


AM/FM/CD切り換えボタン②を押してCDに切り換えます。

表示部にディスク及びトラックナンバーが表示され、演奏が開始されます。

アドバイス

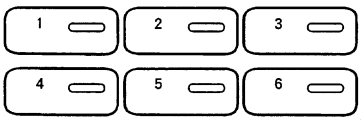
- ディスクの最後の曲の演奏が終わると、自動的に次のディスクの初めから演奏が始まります。
- ディスクマガジンの中の6枚目のディスクの最後の曲の演奏が終わると、自動的に1枚目のディスクの初めから演奏が始まります。



CD演奏の止めかた

・AM/FM/CD切り換えボタン②を押すと、ラジオに切り換わります。
・テープを挿入すると、テープ演奏に切り換わります。
・電源ボタン①を左へいっぱいに回すと電源が切れます。または、エンジンスイッチを切ると電源が切れます。

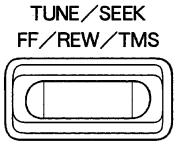
ディスクの呼び出し



ディスクボタン③を押すことで、演奏させたいディスクを呼び出すことができます。ディスクボタンに続けてスキップスイッチ④を軽く押して離すと、トラックナンバーの指定もできます。

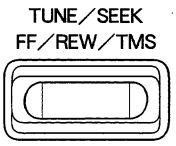
ディスクはCDチェンジャー内のディスクマガジンに6枚までセットできます。
ディスクの番号は、ディスクマガジンの一番下が"1"で、一番上が"6"の順になっています。
ボタンを押すと表示部のディスクナンバーとトラックナンバーが点滅し、点灯にかわると演奏が始まります。
トラックナンバーの指定がないときは、そのディスクの初めの曲から演奏されます。
指定したディスクがCDチェンジャーにない場合は、ディスクナンバーは表示されますがトラックナンバーは"ーー"と表示され、次のディスクを呼び出します。

早送り、早戻し



スキップスイッチ④を上に押し続けている間早送りされ、下に押し続けている間早戻しされます。
ディスクの最初まで戻ると自動的に演奏を開始します。
また、ディスクの最後まで送ったときは、ポーズ状態になります。早送り以外のボタンを押せば解除されます。

スキップ、リプレイ

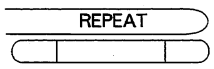


スキップ、リプレイはスキップスイッチ④を上下に押して表示部のトラックナンバーを聞きたい曲番にします。

• スキップ
曲の途中で次の曲またはそれ以降の曲を聞きたいとき。
スイッチを上に押します。
演奏中のディスクの最後の曲のときにスイッチを押すと、そのディスクの最初の曲になります。

• リプレイ
演奏中の曲の初めに戻りたいときやそれ以前の曲を聞きたいとき。
スイッチを下に押します。
演奏中のディスクの最初の曲のときにスイッチを押すと、そのディスクの最後の曲になります。

リピート



演奏中の曲を繰り返し聞きたいときは、リピートボタン⑤を押します。同時に表示部に“RPT”が点灯します。
リピート機能を解除するときは、もう一度リピートボタンを押します。

エラーコード

パネル表示部にエラーコードが表示されたときは、下表にしたがって点検してください。

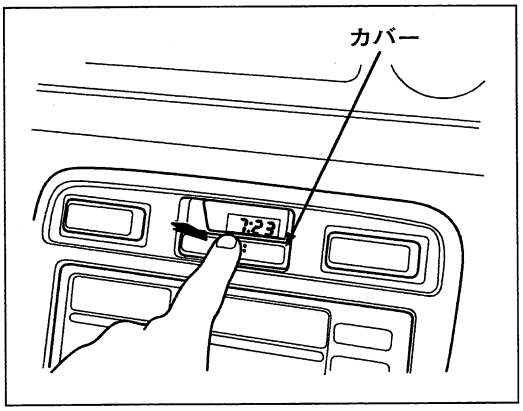
エラーコード	原　　因	処　　置
E-01	ディスクチェンジの動作の異常	ホンダクリオ店で点検を受けてください。
E-02	ディスクがトランクユニット内部に残っている	トランクユニットのイジェクトスイッチを押してディスクマガジンを取り出した後、空のディスクマガジンを挿入してディスクを回収します。
E-03 E-04 E-05	ディスクチェンジの動作の異常	数秒間表示されることがありますが、エラー表示が消えれば問題はありません。 表示が消えないときは、ホンダクリオ店で点検を受けてください。
E-06	ディスクチェンジの動作の異常	トランクユニットのイジェクトスイッチを押して、ディスクマガジンを取り出します。エラー表示が消えれば問題はありません。表示が消えないとき、またはディスクマガジンが取り出せないときは、ホンダクリオ店で点検を受けてください。
E-07	ディスクマガジンがイジェクトできない(装着不良)	
---H	車内温度の上昇を検知	車内温度が適温に戻ると、エラー表示は消えます。
E-EE	チェンジャーと、CDプレーヤーの通信が不通	チェンジャーと、CDプレーヤーの接続を確認してください。
----	チェンジャーにディスクマガジンが入っていない	チェンジャーにディスクマガジンを入れてください。

室内装備品

時計

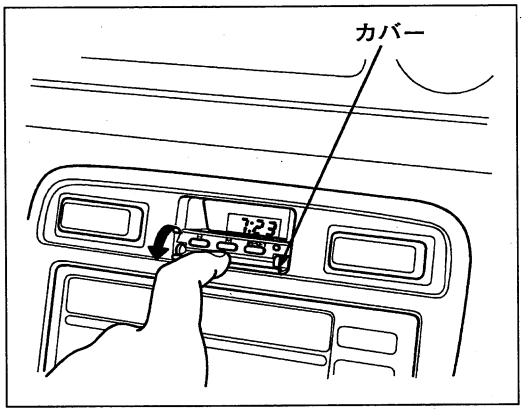
●時刻表示

エンジンスイッチが"ON"で表示されます。
エンジンスイッチが"LOCK"または"ACC"ではカバーを押している間、表示されます。



●表示の合わせかた

カバーを開け、エンジンスイッチを"ON"にします。



「時」の調整

"H"ボタンを押している間、「時」の早送りができます。

「分」の調整

"M"ボタンを押している間、「分」の早送りができます。

「時報合わせ」

時報と同時に"RESET"ボタンを押すと時報に合わせることができます。

（例） 1:01～1:29の場合は1:00に
1:30～1:59の場合は2:00に
なります。

アドバイス

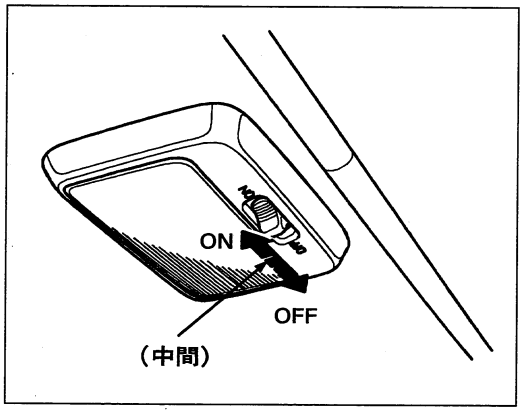
- 「秒」表示はありませんが、"RESET"ボタンを押すと0秒から作動を始めます。
- バッテリーの取り外し、ヒューズ切れなどで電源が切れ、再び電源が接続されると"1:00"の表示から始まります。
正しい時刻に合わせてください。

室内灯

"ON"
ドアの開閉に関係なく点灯します。

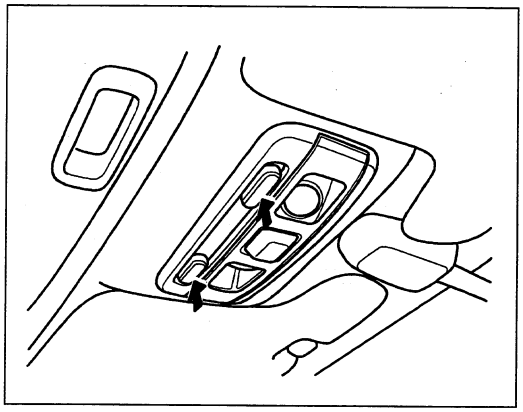
(中間)
ドアを開いたときのみ点灯します。

"OFF"
ドアの開閉に関係なく消灯します。



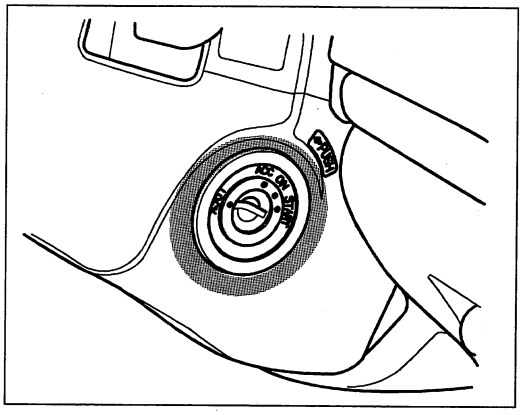
スポットライト

スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。
夜間、車を止めて地図などを見るときに便利です。



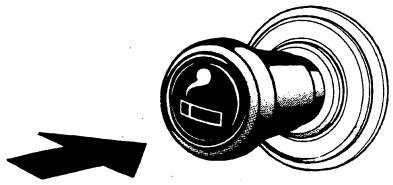
エンジンスイッチ照明灯

運転席ドアを開けると点灯します。
運転席ドアを閉めると数秒後に消灯します。



シガレットライター

エンジンスイッチが"ACC"または"ON"のときだけ使えます。
ライターを押し込んで、手を離し、元の位置に戻るまで待ちます。
ヒーター部が赤熱すると自動的に戻ります。



押して手を離す

ライター使用後は灰皿で灰を落としてからすみやかに元に戻してください。

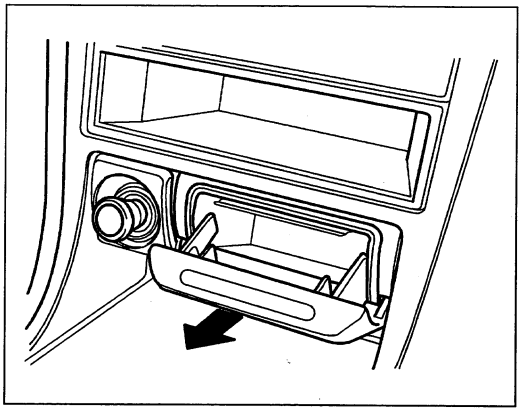
アドバイス

- シガレットライターの損傷を防ぐため、次のことをお守りください。
  - ・ライターを押し込んだあと、押さえ続けないでください。
  - ・ヒーター部に灰や異物が付着したまま使用しないでください。
  - ・ライターのさし込み口からは、ホンダ純正品以外の電気製品の電源を取り出さないでください。
- 他の車のライターを使ったり、自車のライターを修正したりしないでください。戻らなかったり、とび出したりするおそれがあります。
- ライターを押し込んでから、30秒以上たっても戻らないときは故障のおそれがありますので手で引き出し、ホンダクリオ店で点検を受けてください。

灰皿

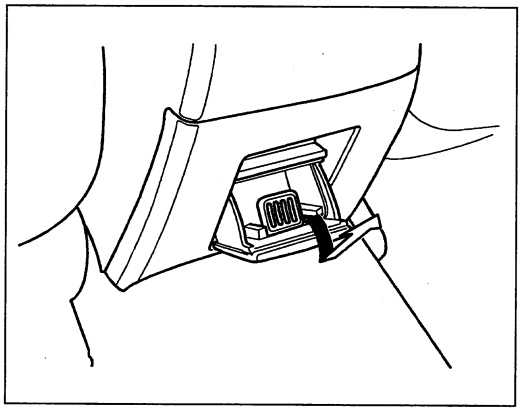
●前席用

清掃するときは図の状態で取り外します。



●後席用

清掃するときは図の状態で取り外します。

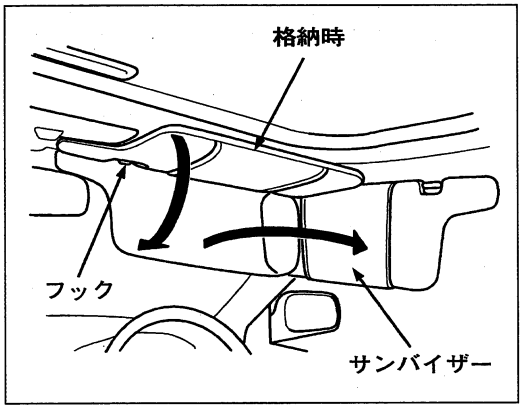


注意

●タバコ、マッチなどは確実に火を消してから灰皿に捨て、灰皿は必ず閉めてください。
また、吸いがらをためすぎたり、紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。
タバコの火が燃え広がるおそれがあります。

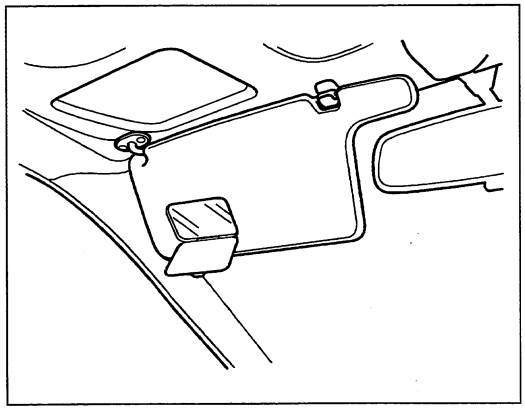
サンバイザー

サンバイザーを横にするときは、フックから外して行います。



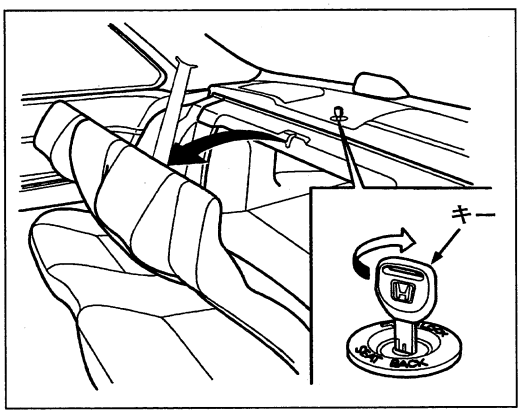
●バニティミラー（化粧鏡）

助手席のサンバイザーに鏡があります。
お化粧のときなどに便利です。

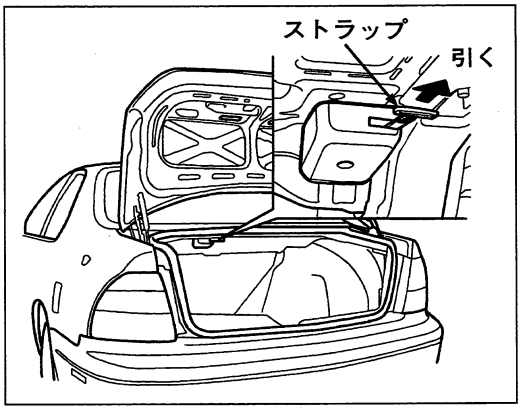


トランクスルー

キーを差し込み回してロックを解除すると、背もたれが倒せます。



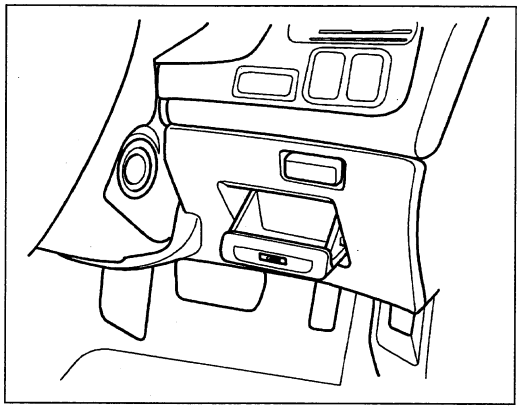
ストラップを引くと、トランクルーム内からも開けられます。



背もたれを元へ戻すときは、後へ押しつければ、自動的に固定します。

小銭入れ(コインボックス)

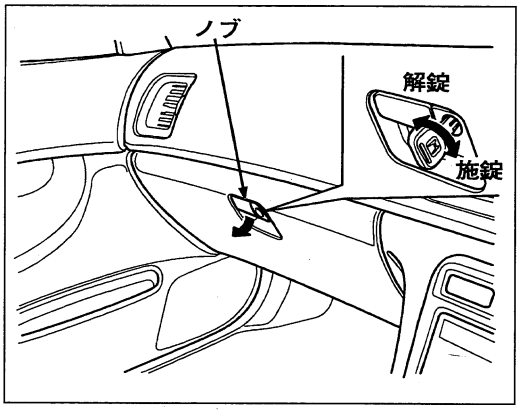
ふたを下げると開きます。小銭などを入れておくと有料道路の料金所などで便利です。



小物入れ

●グローブボックス

ノブを引くと開きます。
キーで施錠(解錠)できます。
バレットキーでは施錠(解錠)できません。
ライトスイッチが"OFF"以外のときグローブボックスのふたを開けると、照明灯が点灯します。

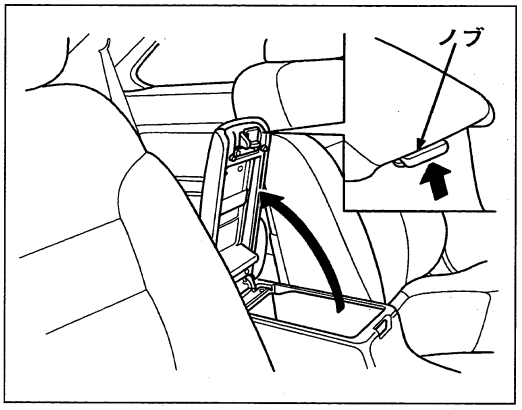


注意

●走行中は、グローブボックスのふたを必ず閉めておいてください。
万一の場合、グローブボックスのふたにぶつかったり、内部の小物が飛び出したりするおそれがあります。

●コンソールボックス

ノブを引くと開きます。

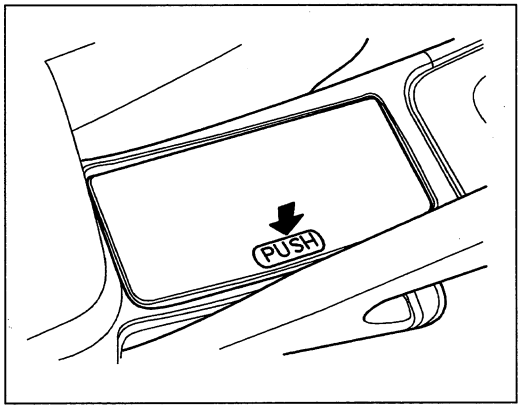


カップホルダー

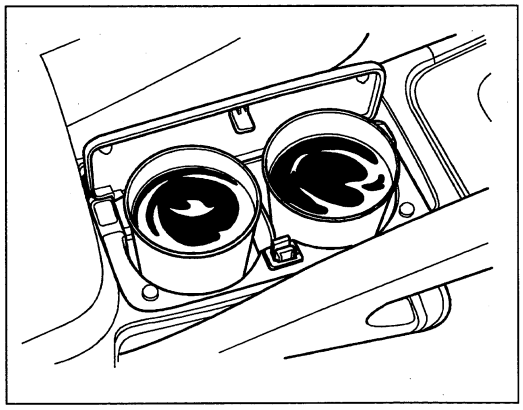
カップなどを置くときに使います。

●前席用

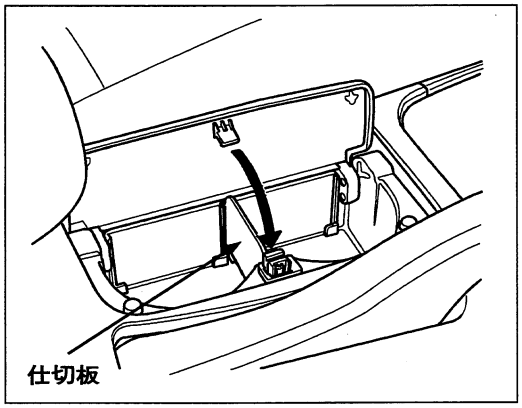
①矢印部を押します。



②ふたが開き、カップホルダーとして使えます。



カップホルダーを使わないときは、ふたを閉めてください。



アドバイス

- **急ブレーキや急せん回などでコップの中の飲み物がラジオ・カセットデッキ等にかかると、故障の原因となりますので注意してください。**
- **カップホルダー内の仕切板を外せば、小物入れとして使えます。**

MEMO

5

万一のとき

工具・スペアタイヤ・発炎筒

格納場所……158
工具の種類……159
発炎筒について……159

故障したとき

踏切で動けなくなったとき……160
高速道路で故障したとき……160
道路で動けなくなったとき……161
故障の修理について……161

事故が起きたとき……162

けん引

けん引されるとき
（ロープによるけん引）……163
故障車をけん引するとき……164

パンクしたとき

ジャッキの取り扱い……165
応急用スペアタイヤ……166
タイヤ交換……167

警告灯が点灯したとき……172

オーバーヒートしたとき……174

電気系統が異常のとき

バッテリーあがりのとき……175
ライト類が点灯しないとき、
電気装置が作動しないとき……176
サンルーフが作動しないとき……183

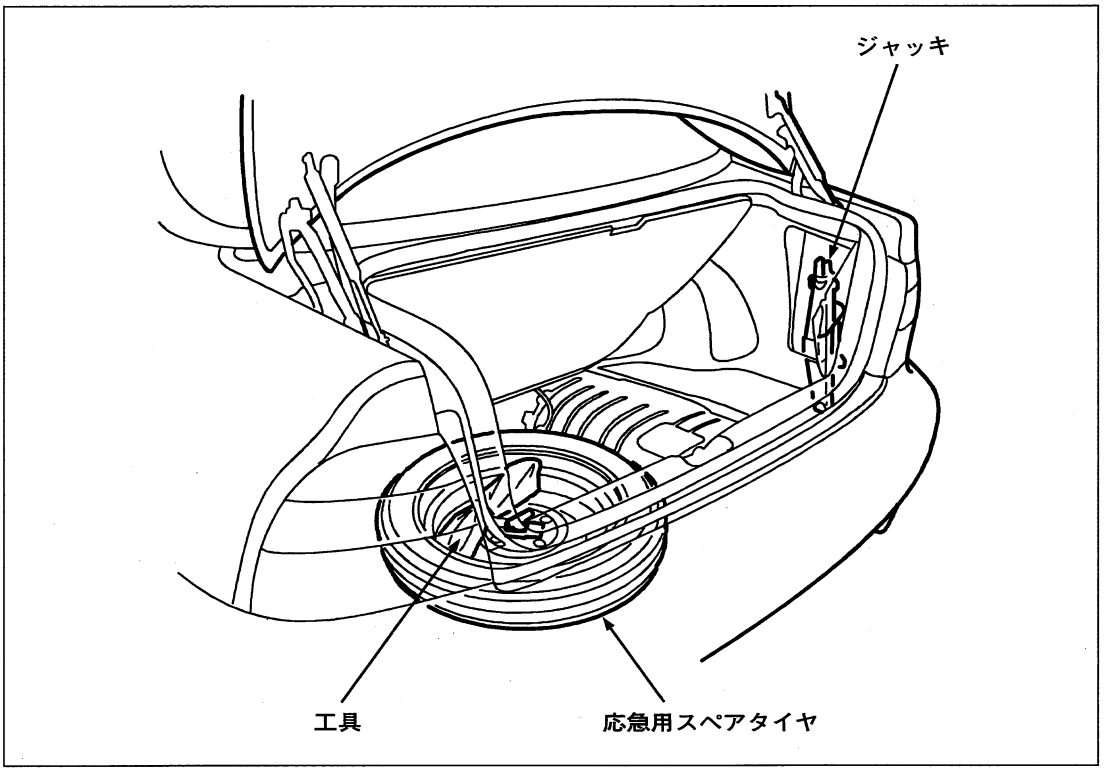
こんなことでお困りのとき……184

＊全国のホンダ販売店およびJAFの電話番号は別冊の「サービス網一覧」に記載してあります。

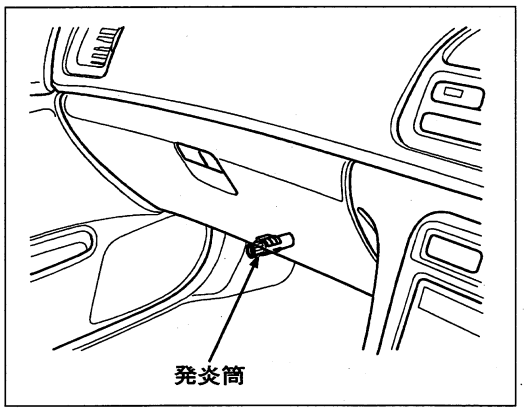
工具・スペアタイヤ・発炎筒

格納場所

●工具・スペアタイヤ

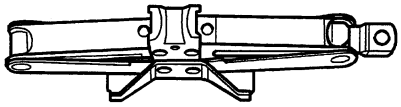


●発炎筒



発炎筒は助手席足元にあります。

工具の種類



ジャッキ



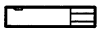
グリップ



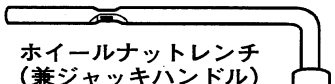
マイナスドライバー



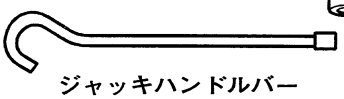
プラスドライバー



ボックスレンチ SiR
（プラグカバー脱着用）



ホイールナットレンチ
（兼ジャッキハンドル）



ジャッキハンドルバー



サンルーフレンチ
サンルーフ装備車

アドバイス

- 工具の種類、ジャッキ、発炎筒の使いかたなどは万一のとき困らないようあらかじめ確かめておきましょう。
- スペアタイヤ、ジャッキは走行中動かないように、所定の位置にしっかり固定してください。
- 高速道路で故障などにより停止するときは、停止表示器材による表示義務がありますので、停止表示板などを常時携帯するようにしましょう。

発炎筒について

高速道路、踏切などの危険な場所で故障したときに使います。
発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使いかた
- 発炎時間
- 使用上の注意
- 有効期限

注意

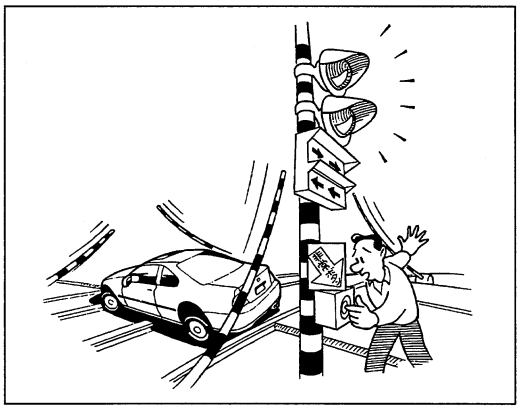
- お子さまにいじらせないでください。
- 発炎筒を使うとき顔やからだに向けるとやけどの危険があるのでやめてください。
- ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使うと火災を招く危険があるので避けてください。
- トンネル内で使うと視界を悪くするので危険です。
  トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

故障したとき

車を路肩に停め、非常点滅表示灯を点滅させます。必要に応じて停止表示板(または停止表示灯)、発炎筒を使い、後続する車に故障車とわかるようにします。

踏切で動けなくなったとき

脱輪などで踏切内で動けなくなったときは、踏切の非常ボタンを押してください。
非常ボタンがわからず、緊急を要するときは、発炎筒で合図をしてください。

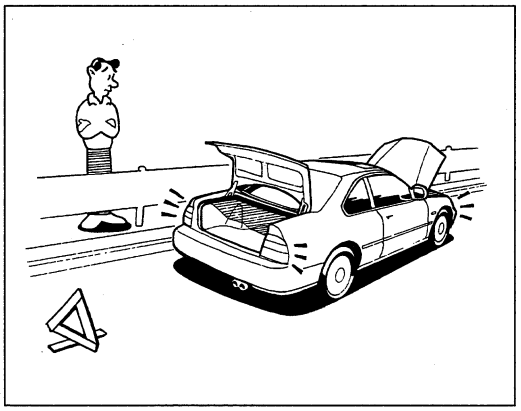


高速道路で故障したとき

車を路側帯に寄せ、非常点滅表示灯を点滅させ、車両後方に停止表示板(または停止表示灯)を置いて表示してください。
法律で義務づけられています。

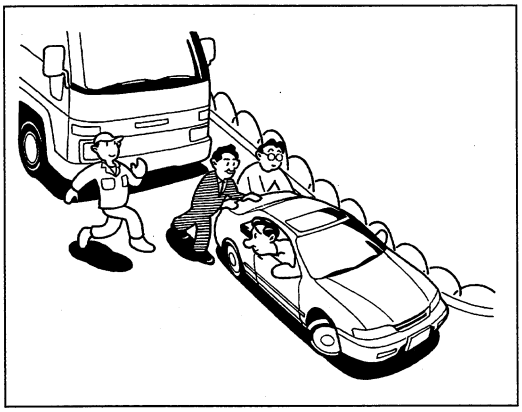
注意

●人は車からおりて、安全な場所に避難してください。



道路で動けなくなったとき

一般道路で動けなくなったときは、付近の人に安全な場所まで押してもらってください。

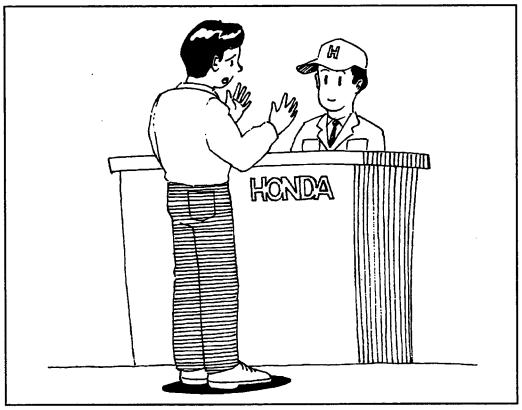


アドバイス

●オートマチック車はスターターを回して車を動かすことはできません。

故障の修理について

ホンダクリオ店へお申しつけください。



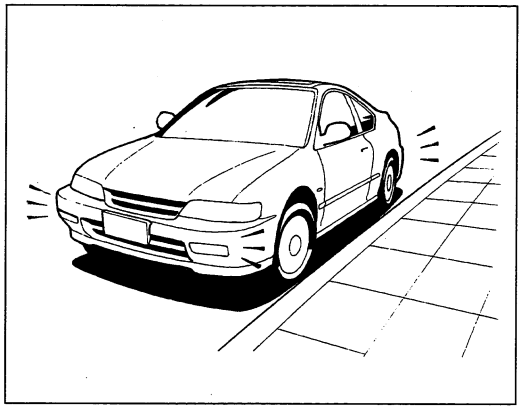
お持ちこみいただければ、簡単なものはその場で修理いたします。長くかかるものは、予定をお知らせします。
お持ちこみのむずかしいときには電話でご連絡ください。
遠出などのときは全国どこでもホンダ販売店へご連絡ください。
ホンダ販売店およびJAFの電話番号については別冊の「サービス網一覧」をご覧ください。

事故が起きたとき

あわてずに次の処置をとります。

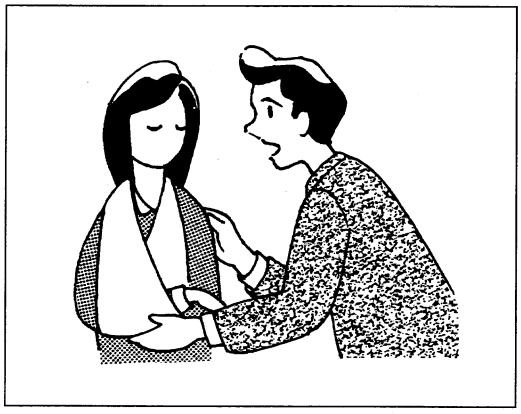
①事故の続発を防ぐ。

・他の交通の妨げにならないような安全な場所(路肩、あき地など)に車を移動させ、エンジンを止めます。



②負傷者がいる場合は、応急手当を行う。

・医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行います。
この場合、とくに頭部に傷などがあるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしますが、後続事故の心配があるときは安全な場所に移動させます。



アドバイス

●外傷がなくても医師の診断を受けましょう。後になってから後遺症が出るおそれがあります。

③警察へ連絡する。

・事故が発生した場所、状況、負傷者や負傷の程度などを警察官に報告し、指示を受けます。



④相手方、事故の状況をメモする。

⑤ご購入された販売店や保険会社へ連絡する。

けん引

けん引は専門業者に依頼し、できるだけ四輪または前輪を持ち上げて行ってください。

アドバイス

●車輪が動かないときなど動力伝達装置に異常があると思われるときは、必ず四輪または前輪を持ち上げてけん引してください。

けん引されるとき(ロープによるけん引)

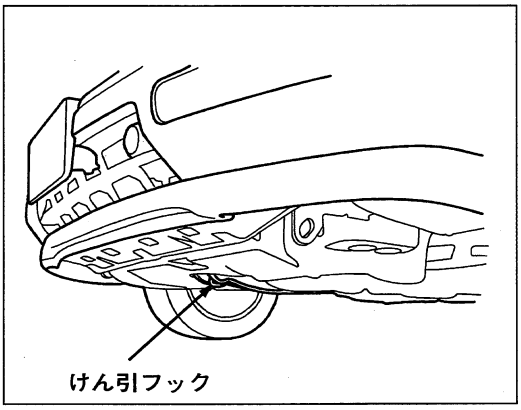
やむをえず四輪を接地させてロープでけん引を行う場合は、次の方法で行ってください。

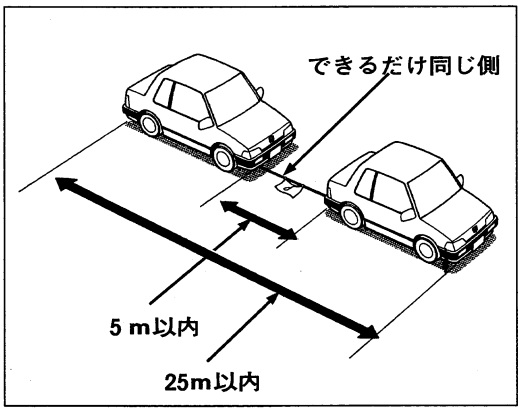
①トランスミッションオイルの量が目盛りの上限と下限の間にあるかを点検します。

トランスミッションオイル量の点検 →202ページ

下限より下がっている場合は、四輪または前輪を持ち上げてけん引してください。

②ロープをけん引フックにかけ、ロープ中央部に白い布(0.3m平方以上)を付けます。





③セレクトレバーはN(ニュートラル)に、エンジンスイッチは"ACC"または"ON"にします。

④駐車ブレーキを解除し、けん引されます。けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。

アドバイス

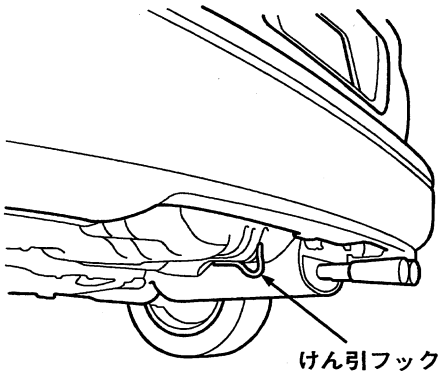
- けん引フックにロープをかけるときは、車体やフックの破損・変形を防ぐために次のことに気をつけてください。
  - ・けん引フック以外のところにロープをかけないでください。
  - ・けん引時にけん引フックに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。
- ワイヤーロープや金属性のチェーンなどを使ってけん引されるときは、車体にあたる部分のチェーンに布をまくなどして行ってください。
  そのままけん引されると、バンパーに傷をつけるおそれがあります。

アドバイス

- 速度30km/h以下、走行距離80km以内でけん引してください。
- エンジンが停止している状態でのけん引は、次のことに気をつけてください。
  - ・ブレーキの倍力装置がはたらかなくなるので、ブレーキのききが悪くなります。
  - ・パワーステアリングのパワー装置がはたらかなくなるので、ハンドル操作が重くなります。
- 長い下り坂では、ブレーキ部の温度が上がりブレーキがきかなくなるおそれがあります。レッカー車にけん引してもらってください。

故障車をけん引するとき

やむをえず故障車をけん引するときは、自車より重い車のけん引は避けてください。

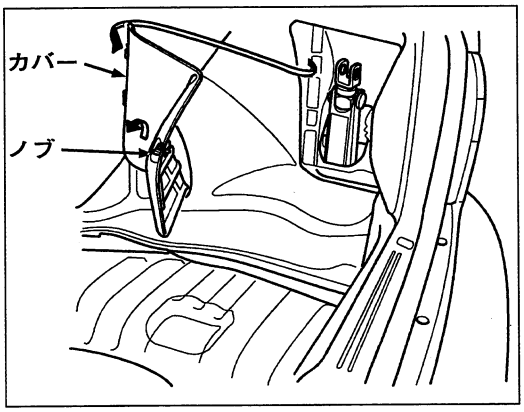


パンクしたとき

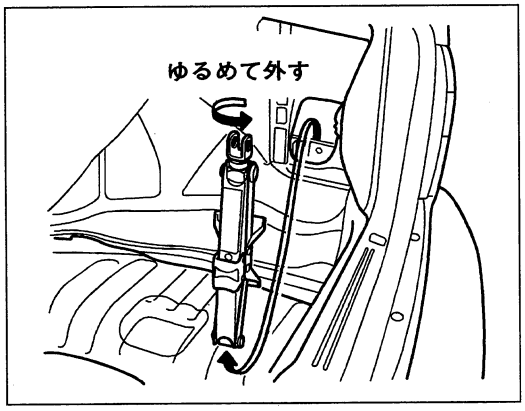
ジャッキの取り扱い

●ジャッキの取り出しかた

①ノブを回してカバーを外します。



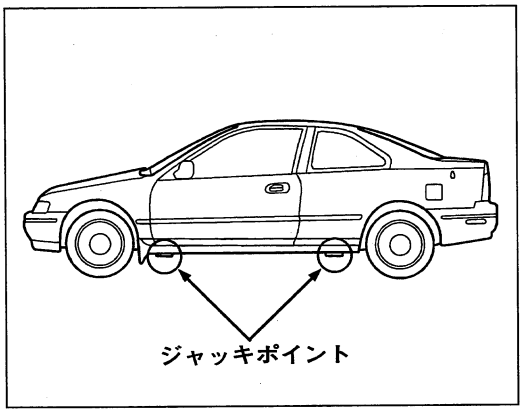
②ジャッキをゆるめて外します。



アドバイス

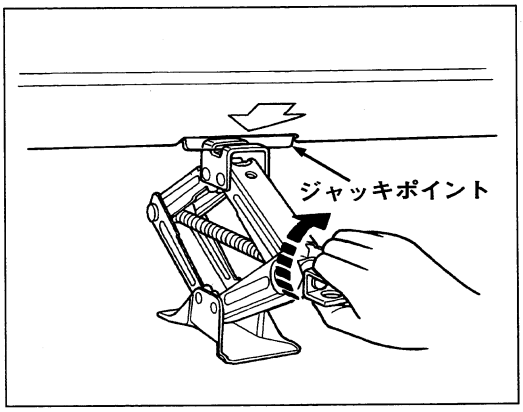
●ジャッキを格納するときはドライバーなどで無理に締めないでください。
ジャッキ取り付け部が変形するおそれがあります。

●ジャッキをかける位置

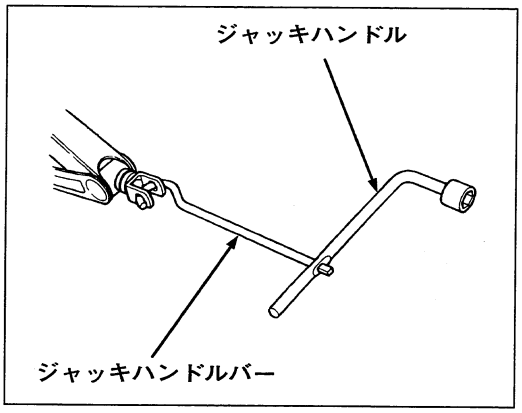


●ジャッキのかけかた

①地面が固い平らなところに車を停めます。
②ジャッキを地面に置き、手で回してジャッキの溝がジャッキポイントに入るまで上げます。



③ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤと地面が少し離れるまで車体を上げます。

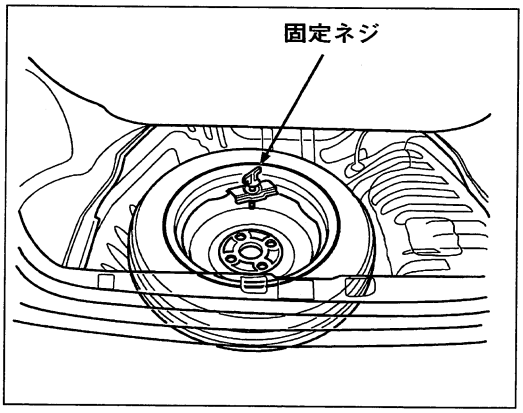


注意

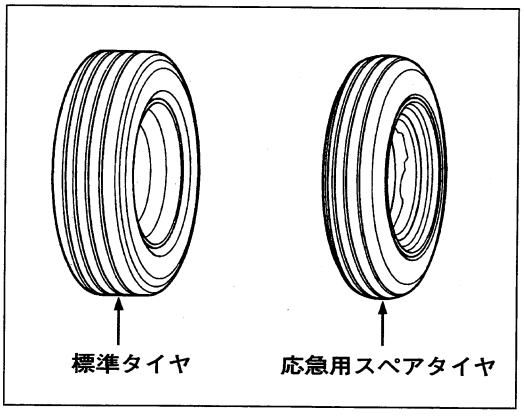
- ジャッキを使うときは安全のため、必ず指定された位置にかけ、乗っている人は降りてもらい、また荷物はおろしてください。
- 車がジャッキだけで支えられているときは、エンジンをかけたり、車の下に入ったりしないでください。
  万一、ジャッキが外れると非常に危険です。

応急用スペアタイヤ

固定ネジをゆるめて取り出します。



応急用スペアタイヤは、タイヤがパンクしたときの応急用としてのみに使うタイヤです。



アンチロックブレーキシステム装備車(ABS車)には、専用の応急用スペアタイヤをお使いください。

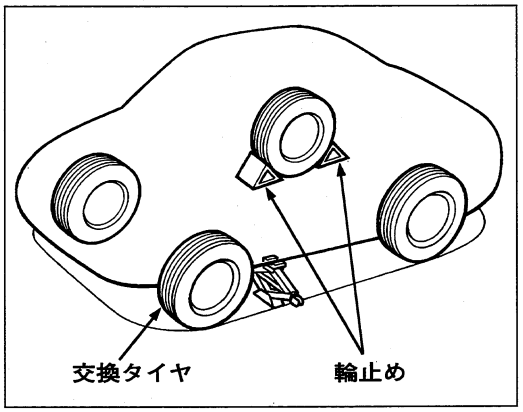
お使いになるときは次のことをお守りください。

アドバイス

- **空気圧はときどき点検し、指定空気圧でお使いください。（指定空気圧：4.2kg/cm²）**
- **応急用スペアタイヤを装着したときは、100km/h以下で走行し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。**
- **応急用スペアタイヤは標準タイヤと比べて直径が小さいため車高が低くなります。突起物など乗り越えるときは、車の下にひっかけないように注意してください。（ABS車を除く）**
- **この応急用スペアタイヤとホイールはこの車の専用品です。他のタイヤやホイールと組み合わせたり、他の車に使わないでください。**
- **応急用スペアタイヤにはタイヤチェーンは装着できません。チェーン装着時に前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に装着し、外した後輪タイヤを前輪に取り付け、これにタイヤチェーンを装着してください。**

タイヤ交換

①車を安全な場所に停め、工具類、応急用スペアタイヤを取り出します。
②駐車ブレーキを十分にかけ、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に石などで輪止めをします。

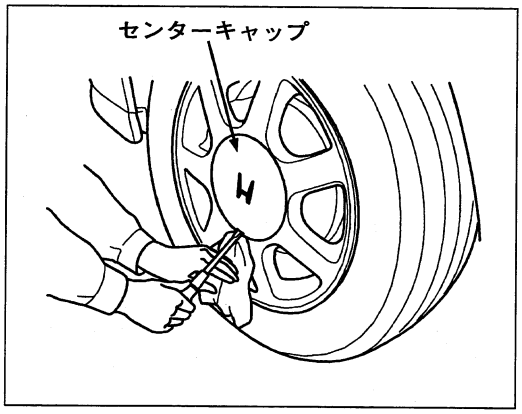


③応急用スペアタイヤは交換するタイヤ近くの車体の下にホイール表面を上にして置きます。

④ジャッキをセットします。

→165ページ

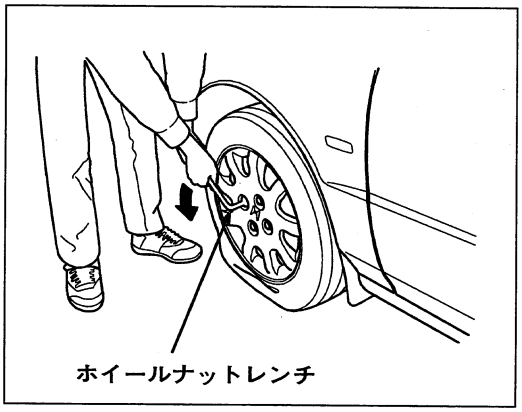
⑤センターキャップ付きのアルミホイール装備車は、センターキャップを外します。



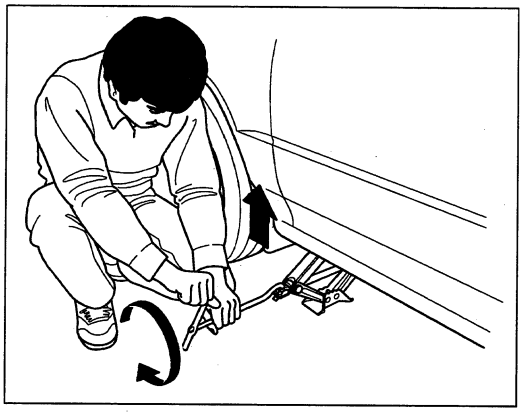
アドバイス

- ホイールの表面を傷つけないようにドライバーの先端に布等を巻いてください。
- センターキャップを取り外すときは、地面に落ちて傷がつかないように手でささえてください。

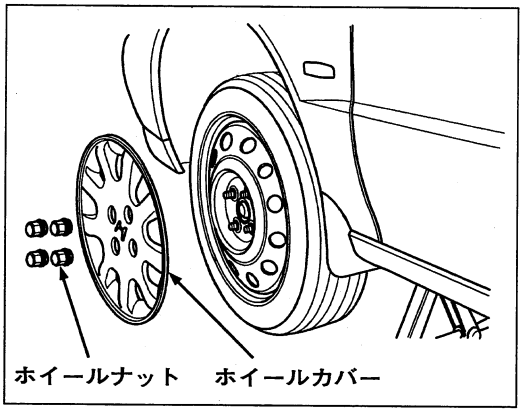
⑥ホイールナットをホイールナットレンチで少し(約1回転)ゆるめます。



⑦タイヤと地面が少し離れるまでジャッキで車体を上げます。



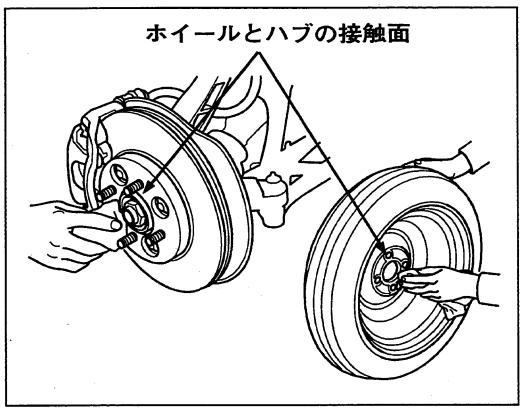
⑧ホイールナット、ホイールカバー(タイプ別装備)を外し、タイヤを外します。



アドバイス

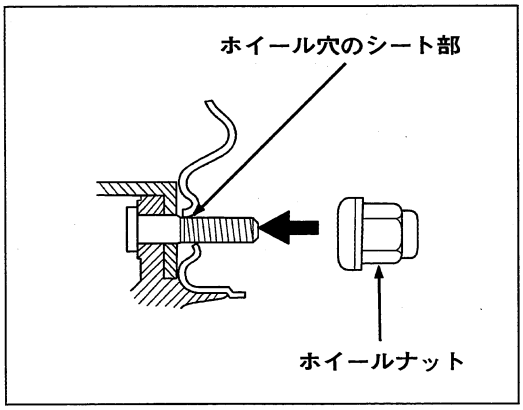
- タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にして置いてください。
  下にして置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。

⑨応急用スペアタイヤのホイールと、ハブの接触面のよごれをふき取ります。



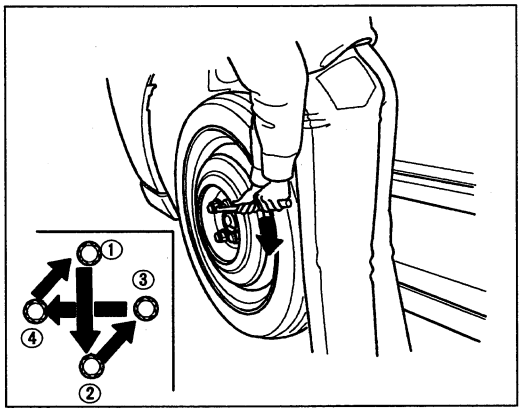
⑩応急用スペアタイヤを取り付けます。

⑪ホイールナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイールナットを締めます。



⑫ジャッキをおろし、図の番号順に2～3度にわたり、ホイールナットをしっかり締め付けます。

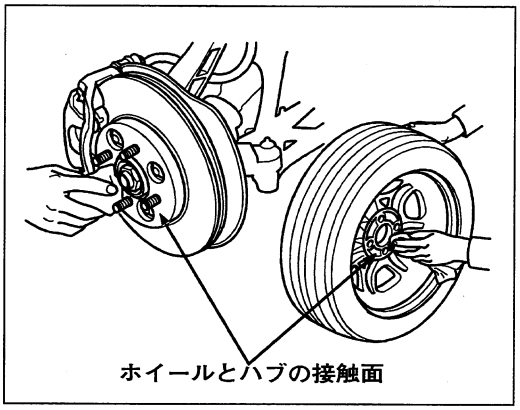
ホイールナット締め付けトルク:
10.0—12.0 kg-m



⑬パンクした標準タイヤはトランクにしまいます。

●標準タイヤを取り付けるとき

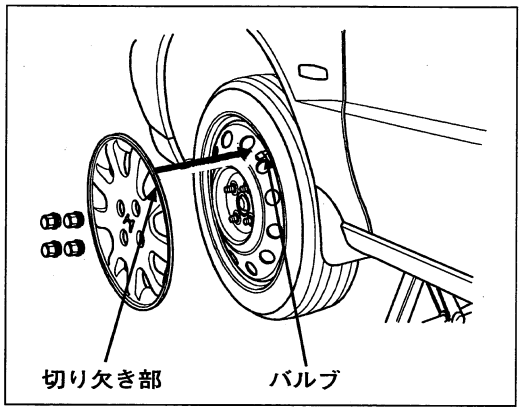
①標準タイヤのホイールと、ハブの接触面のよごれをふき取ります。



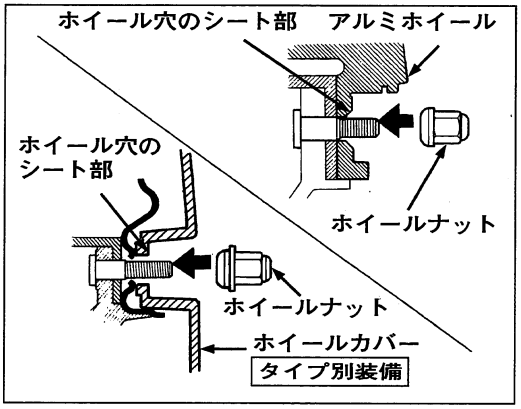
アドバイス

●タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にして置いてください。
下にして置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。

②ホイールカバー(タイプ別装備)を取り付けるときは、切り欠き部がバルブの位置にくるようにします。

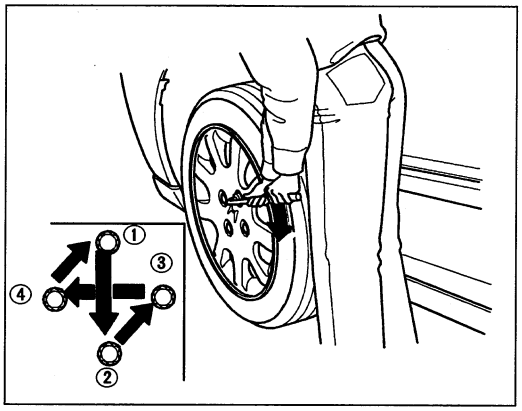


③ホイールナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイールナットを締めます。



④ジャッキをおろし、図の番号順に2～3度にわたり、ホイールナットをしっかり締め付けます。

ホイールナット締め付けトルク:
10.0—12.0 kg-m




アドバイス

●この車専用のホイールをお使いください。
専用以外のホイールを使うと走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換に際しては、必ずホンダクリオ店にご相談ください。
●レンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上に締め付けないでください。
トルクがかかりすぎることがあります。

アルミホイール装備車

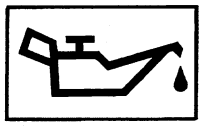
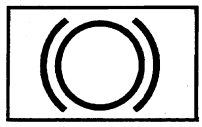
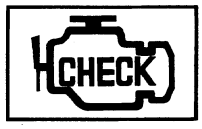
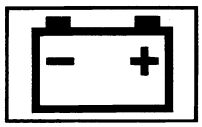
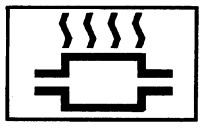
●パンク修理などでホイールを取り付け直したときには、念のため1,000km走行時にホイールナットのゆるみの有無を点検してください。


アドバイス

●パンク修理、タイヤの摩耗、リムの変形などでホイールバランスが狂うことがあります。車体の振動などの異常を感じたらホンダクリオ店で点検を受けてください。
●タイヤ交換は安全のため、地面の硬い平らな場所で、他の交通に十分注意して行ってください。必要に応じて停止表示板、非常点滅表示灯を使ってください。
●必ず指定サイズ、同一種類のタイヤを使ってください。指定サイズ以外のタイヤや種類の異なるタイヤを使うと安全性を損います。
●応急用スペアタイヤの空気圧は使うときに調整してください。
やむをえず、未調整のまま走る場合は、速度を控えめにしてください。
タイヤの空気圧　→223ページ
●ホイールカバー(タイプ別装備)は、ホイールナットを外さないと取り外しができません。ドライバーなどで無理にこじらないでください。

警告灯が点灯したとき

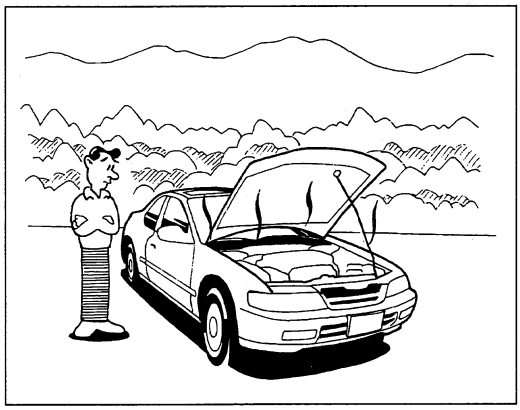
運転中、警告灯が点灯(点滅)したときは安全な場所に停車して下記の処置を行ってください。

警告灯	警告灯の名称	処置
	油圧警告灯	エンジンを止め、エンジンオイル量を点検してください。 エンジンオイルが減っていないのに点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、ただちにホンダクリオ店へご連絡ください。 →69ページ
	ブレーキ警告灯	ブレーキ液量を点検し、下限より下がっていたらホンダクリオ店へご連絡ください。 →69ページ
	トランスミッション警告灯 (点滅)	急発進、急加速を避けてただちにホンダクリオ店で点検を受けてください。 →69ページ
	PGM-FI警告灯	高速走行を避けてただちにホンダクリオ店で点検を受けてください。 →70ページ
	充電警告灯	エアコン、リヤデフロスタースイッチを“OFF”にして、ただちにホンダクリオ店で点検を受けてください。 →70ページ
	排気温警告灯	枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10分間以上エンジンを止めて触媒装置を冷やしてください。 一度点灯した警告灯は、修理するまで消灯しません。ただちにホンダクリオ店で点検を受けてください。 →70ページ

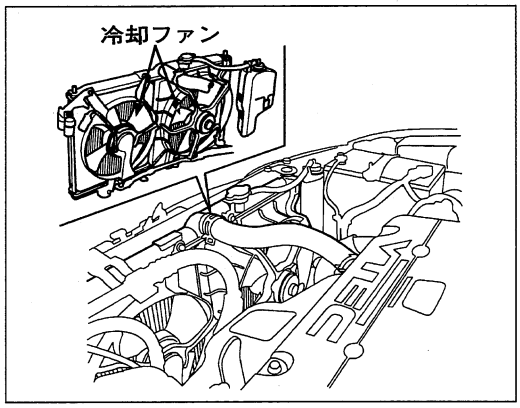
警告灯	警告灯の名称	処置
SRS	SRSエアバッグ システム警告灯	すみやかにホンダクリオ店で点検を受けてください。 →98ページ
ABS	アンチロックブレーキ システム(ABS) 警告灯	すみやかにホンダクリオ店で点検を受けてください。 →100ページ

オーバーヒートしたとき

①車を安全な場所に停め、エンジンをかけたままボンネットを開けて風通しをよくします。



②冷却ファンの作動を確認し、水温計の針が下がってきてからエンジンを止めます。



アドバイス

●冷却ファンが作動していない場合は、故障が考えられますので、すみやかにホンダクリオ店で点検を受けてください。

③エンジンが冷えてから、冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検します。

冷却装置の点検　→56ページ

④冷却水量が不足していたら補給します。

冷却水の補給　→200ページ

注意

●エンジンが十分に冷え水温が下がるまで、ラジエーターキャップを外さないでください。冷却水には圧力がかかっているため、蒸気や熱湯がふき出し、やけどの危険があります。

⑤なるべく早くホンダクリオ店で点検を受けてください。

●オーバーヒートとは

次のようなときは、オーバーヒートです。

・水温計の針が赤いマークに入ったり、エンジンの力が急に落ちる。
・エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている。

電気系統が異常のとき

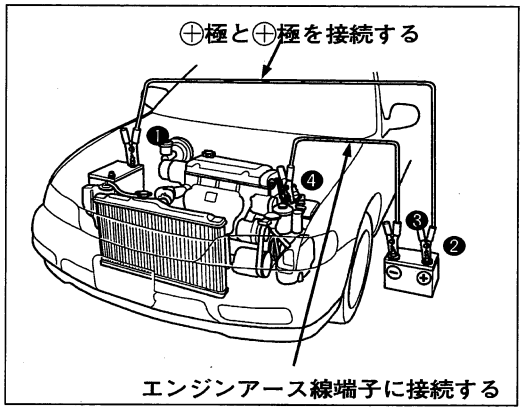
バッテリーあがりのとき

安全のため、押しがけはしないでください。
救援車のバッテリーを利用してエンジンを始動させます。

アドバイス
- **オートマチック車は、押しがけはできません。**
- **救援車には、12Vのバッテリーを装着している車を使用してください。**

①ブースターケーブルを次の順番でつなぎます。

1本目 ❶自車のバッテリーの⊕端子
❷救援車のバッテリーの⊕端子
2本目 ❸救援車のバッテリーの⊖端子
❹自車のエンジンのアース線端子



②救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。
③自車のエンジンをかけます。
④ブースターケーブルをつないだときと逆の順序で外します。
⑤ホンダ販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

注意
- **バッテリーからは可燃性のガスが発生しているので、引火すると爆発の危険があります。バッテリーを取り扱うときは、以下の点に十分注意してください。**
  - **放電したバッテリーの⊖極に直接コードをつないだり、⊕⊖極を間違えないでください。ショートして火花が出ることがあります。**
  - **換気に十分注意し、換気の悪い場所では行わないでください。**
- **バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに着くとその部分が侵されますので十分注意してください。**
  万一、付着したときは、すぐ多量の水ですくなくとも5分間以上洗浄し、専門医の診察を受けてください。
- **ブースターケーブルが冷却ファンやベルトに巻き込まれると危険です。十分注意してください。**

●バッテリーあがりとは

次のようなときは、バッテリーあがりです。
・スターターが回らないか、回っても回転が弱くエンジンがからない。
・ライトがいつもより極端に暗かったり、ホーンの音が小さい。

ライト類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

バッテリーがあがっていないときは、ヒューズ切れや電球(バルブ)切れが考えられます。

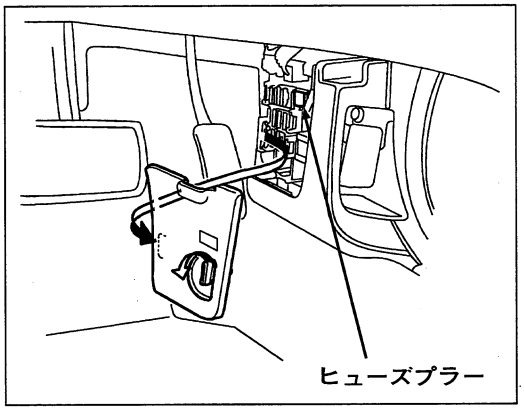
①エンジンスイッチを"LOCK"の位置にします。
②ヒューズが切れていないかを点検します。
・故障の状況から点検すべきヒューズをヒューズボックスの表示で確認し、点検します。
③必要に応じて、ヒューズや電球を交換します。

●ヒューズの点検、交換

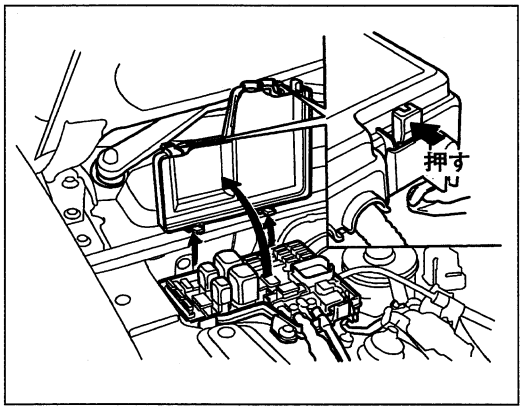
ヒューズボックス

ヒューズボックスは、運転席足元およびエンジンルーム内にあります。

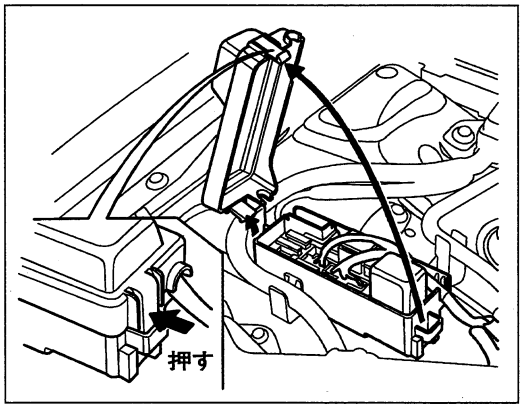
・運転席足元



• エンジンルーム内

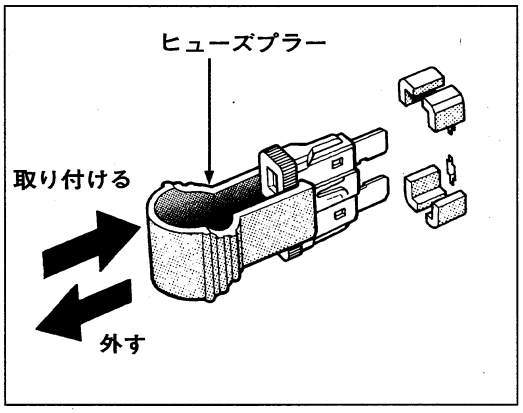


ABS装備車

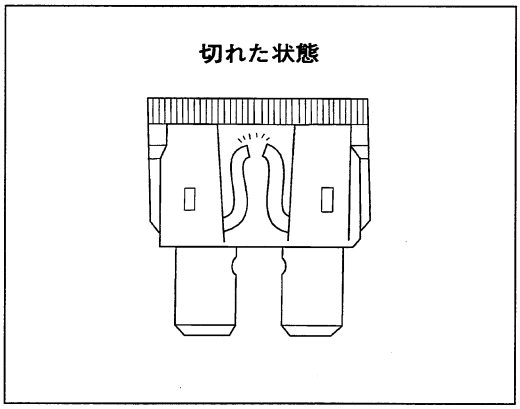


ヒューズの外しかた

備え付けのヒューズプラーでヒューズを外します。



ヒューズが切れているとき



ヒューズボックスの表示に従い規定容量のヒューズに交換します。

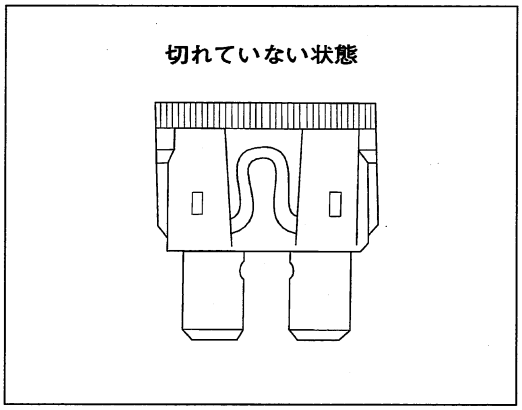
注意

●規定容量のヒューズ以外のものは絶対に使わないでください。配線コードなどを焼損させる原因となります。

アドバイス

●交換しても、またヒューズが切れる場合は、電気系統の異常が考えられますので、ホンダクリオ店で点検を受けてください。

ヒューズが切れていないとき



●ライト類が点灯しないときは、電球切れが考えられます。
電球を点検し、切れているときは交換してください。
電球(バルブ)の交換　→179ページ

アドバイス

●電球が切れていない場合は、電気系統の異常が考えられますので、ホンダクリオ店で点検を受けてください。

●ライト類以外の電気装置が作動しないときは、電気系統の異常が考えられますので、ホンダクリオ店で点検を受けてください。

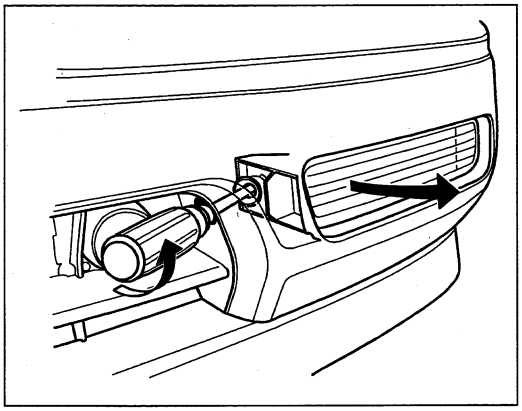
●電球(バルブ)の交換

アドバイス

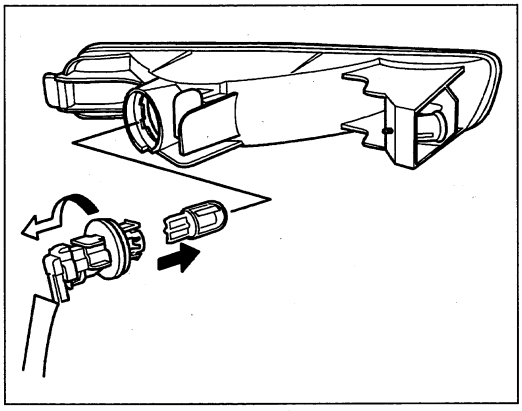
- ランプ本体やレンズを外すときは、ボディに傷を付けないように注意してください。
- 電球を交換するときはワット(W)数の違うものを使わないでください。
  電球のワット数 →221ページ
- ハロゲンバルブ(ヨウ素入り電球)を交換するときには、電球の表面に手などが触れないようにしてください。
  使用時電球が高温になるため、油などが付着すると寿命が短かくなります。
  万一、触れた場合は、中性洗剤の薄い水溶液を柔らかい布に含ませてよくふき取ってください。
- レンズを取り付けるときは、ネジを締めすぎないようにしてください。レンズを破損するおそれがあります。

前面方向指示器／前面非常点滅表示灯

①ネジをゆるめてランプ本体を外します。

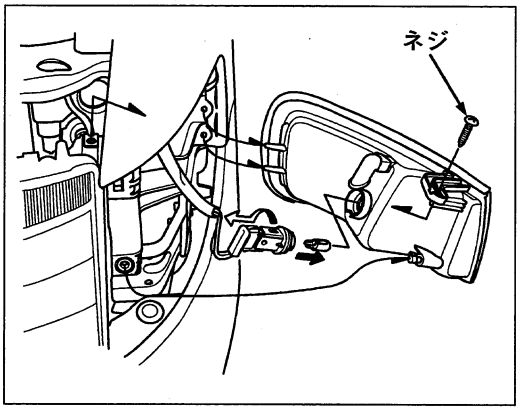


②ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。



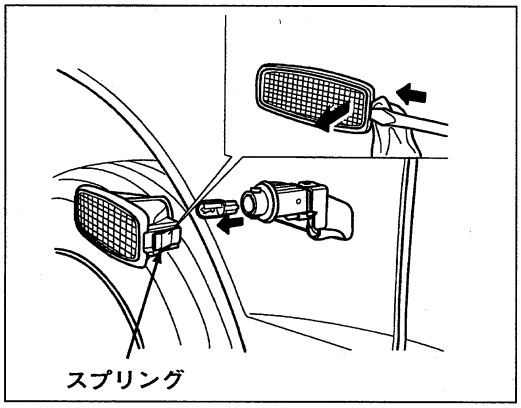
車幅灯

ネジをゆるめてランプ本体を外します。
ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。



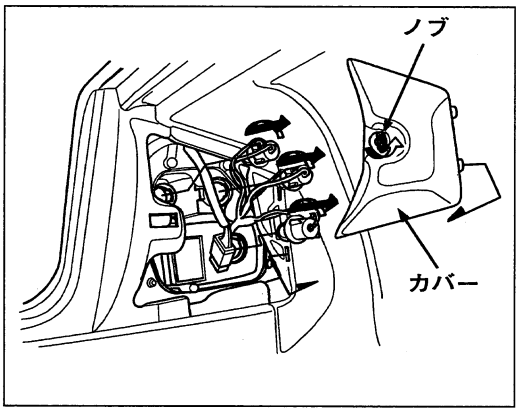
側面方向指示器／側面非常点滅表示灯

ドライバーの先端に布などを巻き、右側よりスプリングを押しながらランプ本体を外します。
ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。

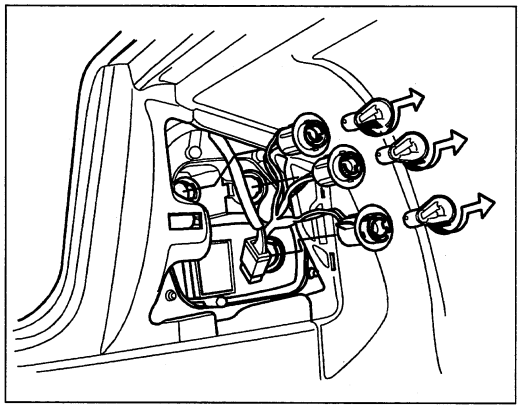


制動灯／尾灯、後面方向指示器／後面非常点滅表示灯、後退灯

①ノブを回してカバーを外します。

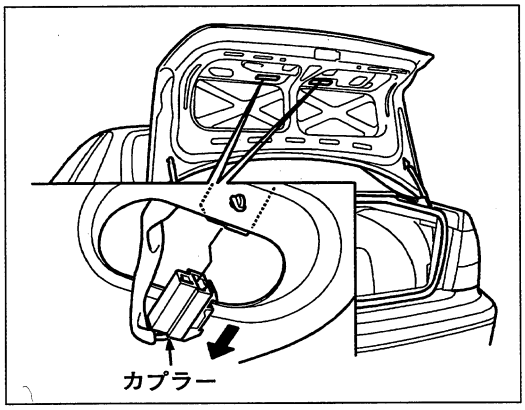


②ソケットを左へ回して外し、電球を押しながら左へ回して抜き取ります。

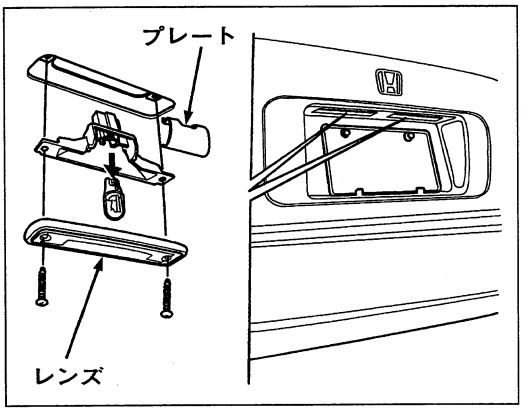


番号灯

①トランクリッドの内側から、ランプ本体に取り付けられているカプラーを外します。

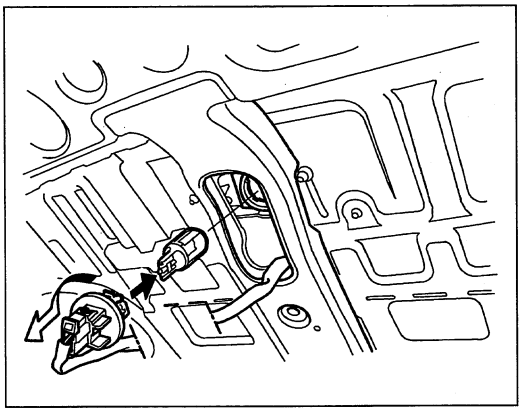


②ネジを外し、ランプ本体を外します。
レンズとプレートを外し、電球を抜き取ります。



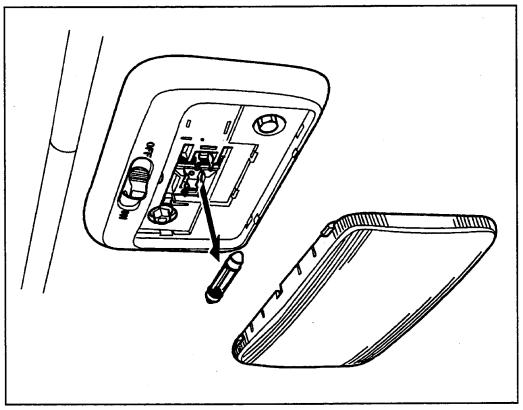
ハイマウントストップランプ

ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。



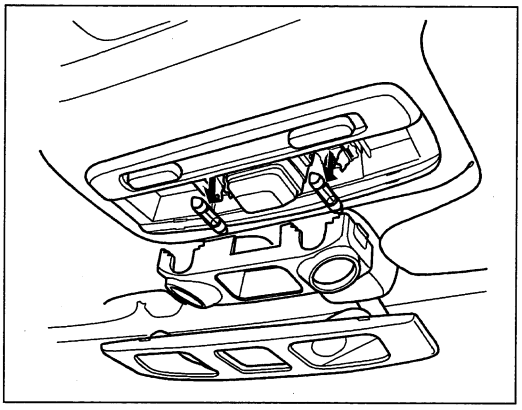
室内灯

レンズを外し、電球を抜き取ります。



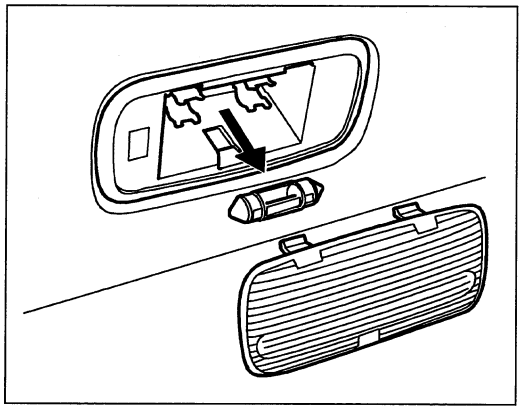
スポットライト

レンズを外し、内側のカバーを外して、電球を抜き取ります。



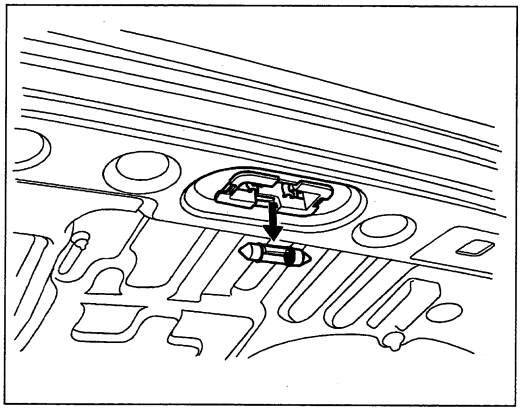
ドア開閉灯

レンズを外し、電球を抜き取ります。



トランク照明灯

電球を抜き取ります。



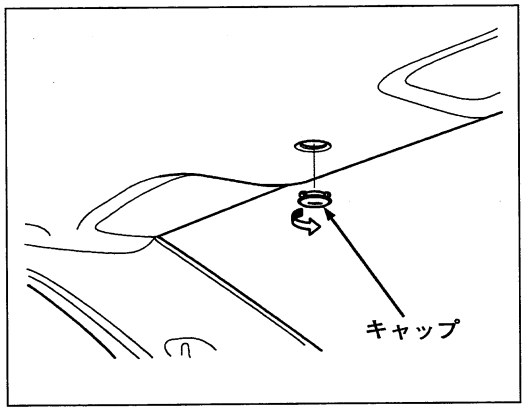
サンルーフが作動しないとき

サンルーフ装備車

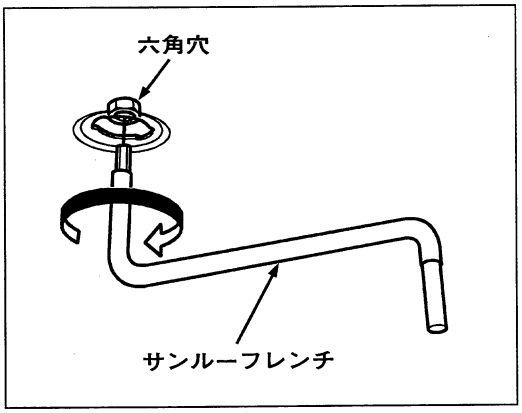
万一、電動でサンルーフが閉まらなくなった場合は、応急処置として工具袋内のサンルーフレンチを使って閉めてください。

工具　→159ページ

①後席ルーフ中央のキャップをコインなどで回し、キャップの溝が図のように前後を向いたところで取り外します。



②六角穴にサンルーフレンチを差し込んで回します。



アドバイス

●応急処置後はホンダクリオ店で点検を受けてください。

こんなことでお困りのとき

症　状	処　置
キーが回せない	**“LOCK”から“ACC”にまわらないとき** ・ハンドルを左右に動かしながらキーを回してください。 エンジンスイッチ　→73ページ **“ACC”から“LOCK”にまわらないとき** ・セレクトレバーがPに入っていますか。 キーインターロックについて　→73ページ
エンジンがかからない	・セレクトレバーがPかNに入っていますか。 ・ガソリンが入っていますか。 （メーター内の燃料計で確認してください。） ・バッテリーがあがっていませんか。 バッテリーあがりのとき　→175ページ
セレクトレバーがPから動かせない	・ブレーキペダルを踏んでから操作していますか。 （操作できないときは、キーをシフトロック解除穴に差し込み押しながらセレクトレバーを動かしてください。） ・エンジンスイッチを“ON”にしてから操作していますか。 シフトロック装置の正しい理解を　→23ページ

症　　状	処　　置
エンジンスイッチを"ON"にするとブザーが鳴る	・運転席シートベルトを着用しないでエンジンスイッチを"ON"にしていませんか。 シートベルト警告灯　→71ページ
ドアを開けるとブザーが鳴る	・キーをエンジンスイッチに差し込んだままになっていませんか。 キー抜き忘れ警告ブザー　→73ページ ・ライトを消し忘れたままになっていませんか。 ライト消し忘れ警告ブザー　→74ページ
キーを閉じ込めてしまった	・ホンダ販売店またはJAFへご連絡ください。
水温計の針が赤いマークに入った	・オーバーヒートのおそれがあります。 （安全な場所に停車して、エンジンを冷やしてください） オーバーヒートしたとき　→174ページ
エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている	
走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする	・ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。 （ホンダクリオ店で点検を行ってください。）

MEMO

6

車の手入れ

6か月点検

点検項目……188

簡単な整備

エンジンオイルの補給……198
冷却水の補給……199
ウォッシャー液の補給……200
バッテリー端子部の清掃……201
トランスミッションオイルの補給……202
パワーステアリング液の補給……203
タイヤの位置交換……203
エアクリーナーエレメントの交換……204
ワイパーブレードラバーの交換……205
塗装の手入れ……206
内装の手入れ……208
アルミホイールの取り扱い……209
エアコンの手入れ……210

6か月点検

自家用乗用車は法令によって、6か月、12か月、24か月の定期点検を行うことが義務づけられています。ホンダクリオ店で必ず点検を受けてください。
6か月点検については、乗用車の構造と装置についての基礎的な技術知識を有する方であれば、ご自身で行うことができます。
ご自身で6か月点検を行う場合は、次頁以降の点検方法に基づき作業してください。

アドバイス

●点検結果は所定の用紙に記録する必要があります。点検結果の記録用紙(定期点検整備記録簿)は、別冊「整備手帳」に掲載されています。
記録は2年間保存してください。

点検するときは安全に十分注意してください。

注意

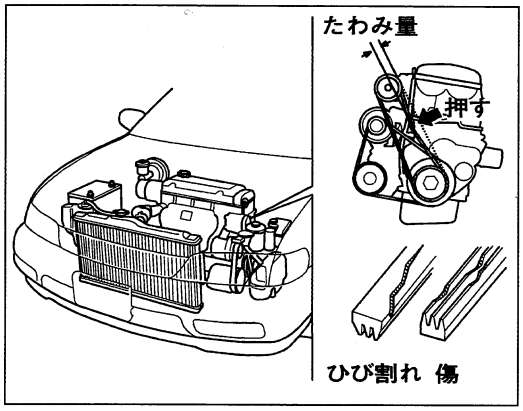
●静止状態での点検は安全のため平坦な場所で、車輪に輪止めをしてから行ってください。
●エンジンルーム内の点検は、エンジンの高熱部や自動的に回転したす冷却ファンに十分注意してください。やけどなど思わぬけがをすることがあります。
●換気の悪い車庫や屋内では、エンジンをかけたままにしないでください。一酸化炭素中毒をおこす危険があります。
●走行して点検するときは、周囲の交通事情に十分注意して行ってください。
●ジャッキアップして点検するときは、適切なジャッキを使ってください。(お車に備え付けのジャッキは、タイヤ交換時のみに使うものです。)

点検項目

パワーステアリング装置のベルトのゆるみ、損傷……189
ブレーキペダルの遊び、踏み込んだときの床板とのすき間……189
ブレーキのきき具合……190
駐車ブレーキレバーの引きしろ……190
ブレーキホース、パイプの漏れ、損傷、取り付け状態……191
リザーブタンクの液量……191
タイヤの空気圧……192
タイヤの亀裂、損傷……193
タイヤの溝の深さ、異状な摩耗……193
タイヤの金属片、石、その他の異物……194
バッテリーの液量……194
エンジンオイルの汚れ、量……196
冷却水の量……196
発電機ベルトのゆるみ、損傷……197
灯火装置、方向指示器の作用……197

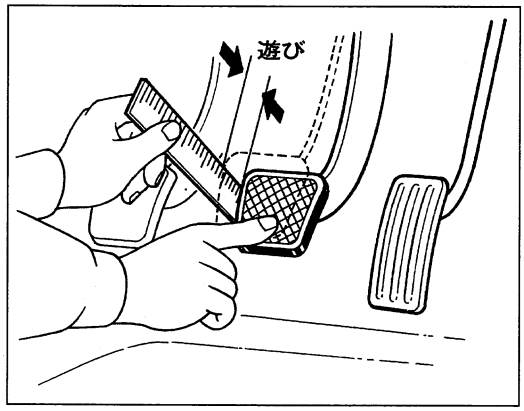
パワーステアリング装置のベルトのゆるみ、損傷

ベルトの中央部を強く押して(約10kgの力)、たわみ量を点検します。
このとき、ベルトに傷やひび割れがないかも点検します。
適正たわみ量： 13—16 mm



ブレーキペダルの遊び、踏み込んだときの床板とのすき間

●遊び
エンジンを停止させた状態で、2～3回ブレーキペダルを踏み込んだのちに、ブレーキペダルを指で押し、抵抗を感じるまでの移動量(遊び)を定規などで点検します。
適正遊び： 1—5 mm



●床板とのすき間

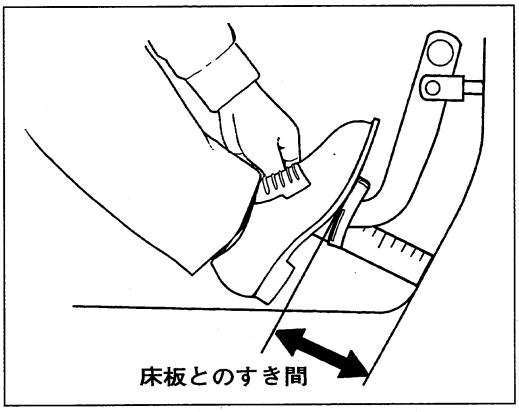
エンジンを始動し、2～3回ブレーキペダルを踏み込んだのち、ブレーキペダルを力強く(約20kgの力)5秒以上踏み続けて床板とのすき間を定規などで点検します。

適正な床板とのすき間:　90 mm以上
115 mm以上*

(参考値)

カーペットとのすき間:　64 mm以上
89 mm以上*

＊:左ハンドル車



アドバイス

●ブレーキペダルを踏み込んだときふわふわする感じがある場合、または踏み続けたときブレーキペダルがさらにはいり込む場合は、空気の混入や液漏れが考えられます。
このようなときには、ブレーキのきき不良や片ぎきのおそれがあります。
ただちにホンダクリオ店へご連絡ください。

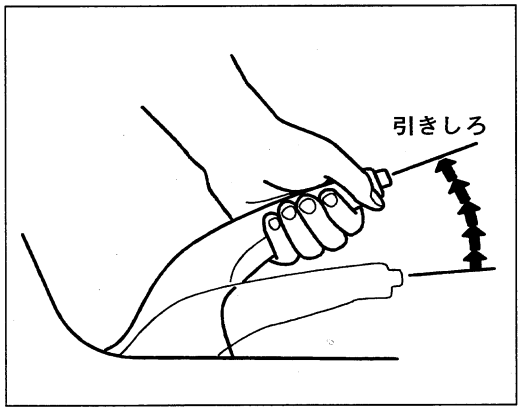
ブレーキのきき具合

乾燥した路面で低速走行して、ブレーキテストを行い、きき具合が十分か、片ぎきがないかを点検します。

駐車ブレーキレバーの引きしろ

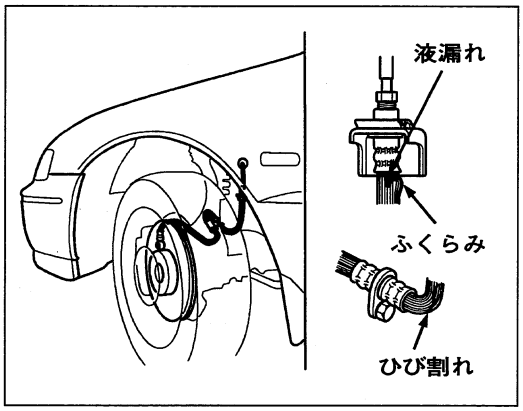
ブレーキレバーをいっぱいに戻した状態からゆっくり引き上げて(約20kgの力)、下記回数の引っかかり音でレバーがロックするかを点検します。

引きしろ:　7－11回



ブレーキホース、パイプの漏れ、損傷取り付け状態

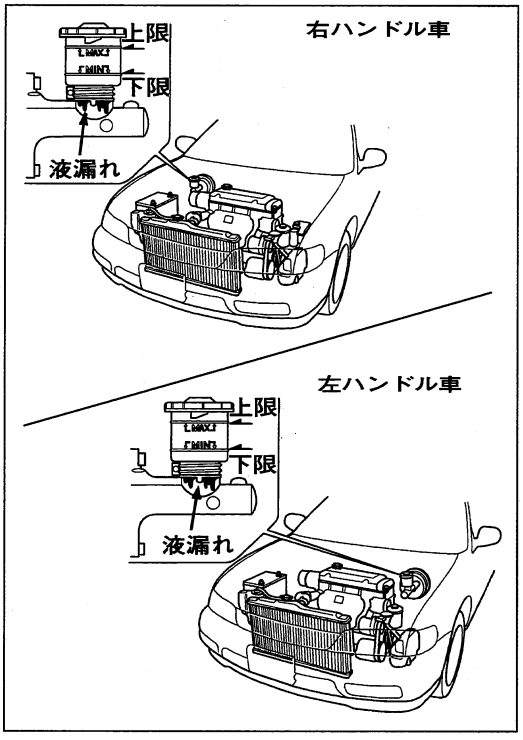
ハンドルを左と右にいっぱいに切った状態で、左側フロントブレーキのブレーキホースに傷、ひび割れ、ふくらみなどがないかを目視、または手でさわって点検します。
また、ホースが車体などと接触していないかやホースの接続部から液漏れがないかも点検します。
次に、右側のフロントブレーキについても左側同様に点検します。



リザーブタンクの液量

●ブレーキリザーブタンク

リザーブタンクの液量が上限(MAX)と下限(MIN)の間にあるか、タンク周辺から液漏れがないかを目視や手でさわって点検します。



液面が下限より下がっていたらただちにホンダクリオ店へご連絡ください。

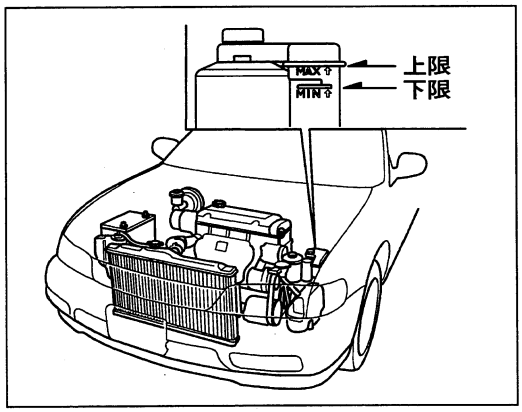
アドバイス

●リザーブタンクの液量は、ブレーキパッドの摩耗と共に徐々に減少しますが、異常ではありません。
液の減りかたが著しいときや、下限より下がっているときはブレーキ系統の液漏れなどが考えられ、この場合正常なブレーキ力が得られなくなるおそれがあります。

●アンチロックブレーキ リザーブタンク

ABS装備車

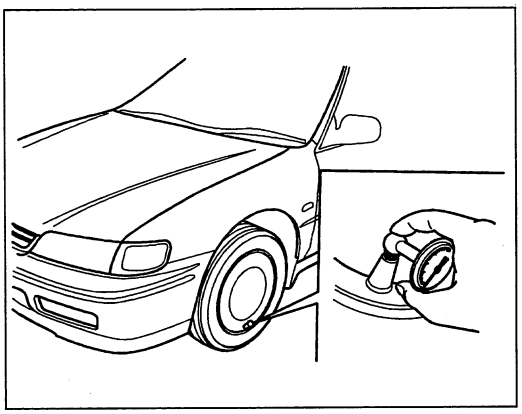
リザーブタンクの液量が上限(MAX)と下限(MIN)の間にあるかを点検します。



液面が下限より下がっていたらホンダクリオ店で点検を受けてください。

タイヤの空気圧

走行前、タイヤが冷えているときにタイヤゲージで空気圧を点検します。



• 標準タイヤ

(空車時：単位kg/cm²)

空気圧 / サイズ	前輪		後輪	
	一般	高速	一般	高速
185/70R14 88S 185/70R14 88H	2.1		2.1	
195/60R15 86H 195/60R15 88H	2.1		2.1	
205/55R15 87V	2.2		2.2	

• 応急用スペアタイヤ

（空車時：単位kg/cm²）

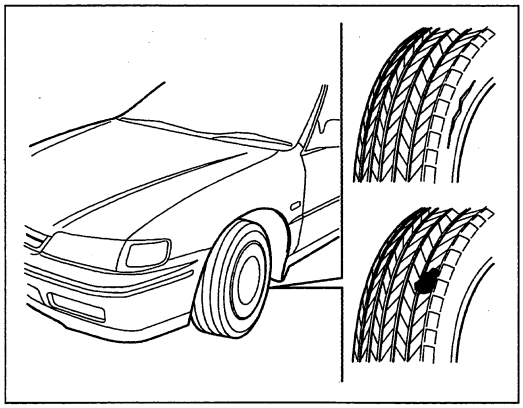
空気圧 / サイズ	前輪		後輪	
	一般	高速	一般	高速
T125/70D15	4.2			
T135/80D15				

アドバイス

●応急用スペアタイヤの空気圧は基準値より0.2kg/cm²くらい高めにしておき、使うときに調整してください。

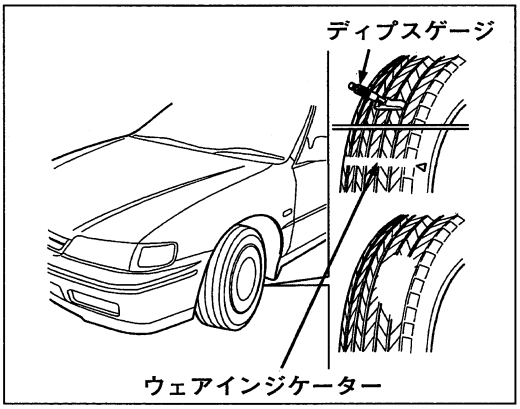
タイヤの亀裂、損傷

タイヤの接地面の全周と両側面に亀裂や損傷がないかを目視により点検します。



タイヤの溝の深さ、異状な摩耗

タイヤの接地面に表示されているウェアインジケーター（摩耗限度表示）またはディプスゲージ（またはノギス）により溝の深さが1.6mm以上あるかを点検します。
タイヤの全周に片減りや局部摩耗、段付き摩耗がないかを目視により点検します。

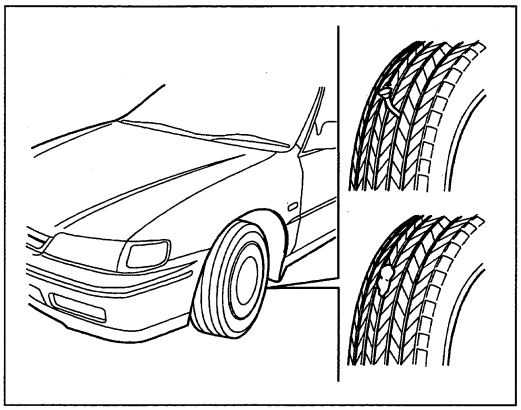


アドバイス

●ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が1.6mmだけ浅くなっています。

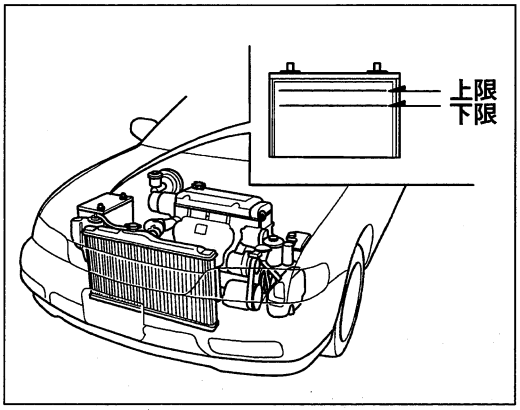
タイヤの金属片、石、その他の異物

タイヤの接地面と両側面に釘や異物がささったり、溝に石などがかみ込んだりしていないかを目視や手でさわって点検します。



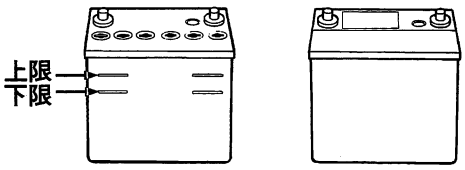
バッテリーの液量

バッテリーの液面が各槽とも上限と下限の間にあるかを目視により点検します。



メンテナンスフリーバッテリーはインジケーターでも点検ができます。
この車のバッテリーは液面の点検、補水の不要な密閉型です。

〈補水型バッテリー〉 〈密閉型バッテリー〉



注意

- バッテリーからは可燃性のガスが発生しているので、引火すると爆発の危険があります。バッテリーを取り扱うときはショートによる火花や火気に十分注意してください。
- バッテリー液は希硫酸です。
  目や皮ふにつくとその部分が侵されますので十分注意してください。
  万一、付着したときは、すぐ多量の水ですくなくとも5分間以上洗浄し、専門医の診断を受けてください。

• インジケーターの色

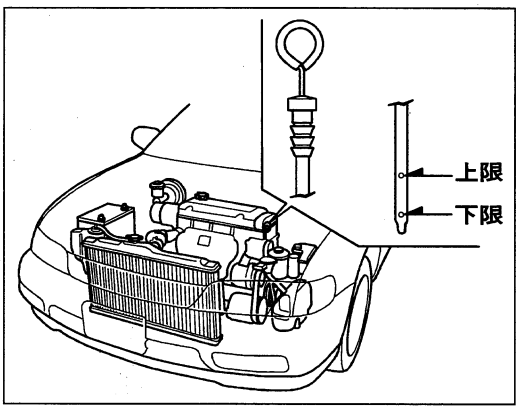
緑色：良好
エンジン始動できる状態

灰色：充電不足
バッテリー液の比重が低下し、エンジン始動ができない状態

エンジンオイルの汚れ、量

エンジンを停止させ、油量計(オイルレベルゲージ)により、油量が目盛りの上限と下限の間にあるかを目視により点検します。
また、油量計に付着したオイルを手でさわるか、または布などに付着させ、オイルの汚れ具合も点検します。

エンジンオイルの補給　→198ページ



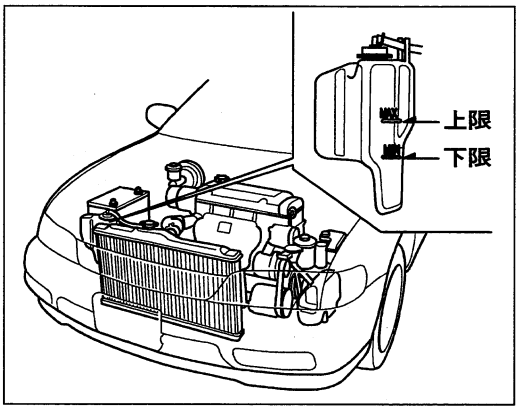
アドバイス

●正確にオイル量を点検するために次のことをお守りください。
・車を水平な場所に置いて行ってください。
・エンジン始動前か、エンジンを止めてから少なくとも3分以上たってから行ってください。

冷却水の量

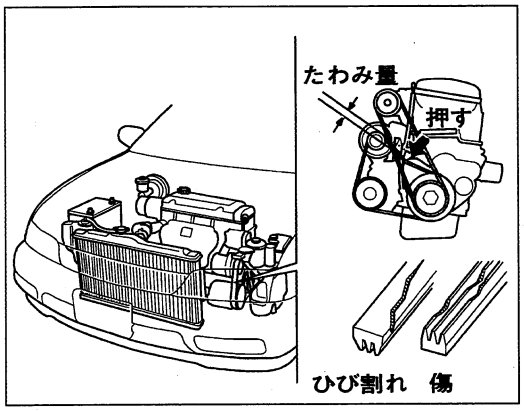
ラジエーターリザーブタンク内の冷却水量が上限(MAX)と下限(MIN)の間にあるかを目視により点検します。

冷却水の補給　→199ページ



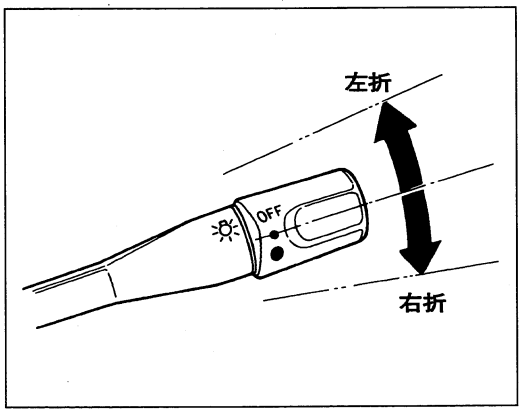
発電機ベルトのゆるみ、損傷

発電機ベルトの中央部を強く押して(約10kgの力)、たわみ量を点検します。
このときベルトに傷やひび割れがないかも調べます。
適正たわみ量：8—10.5 mm



灯火装置、方向指示器の作用

前照灯を点灯させ、明るさが不足していないか、照射方向が著しく狂っていないかを目視などにより点検します。
前照灯のレンズに破損、ひび割れがないかを目視により点検します。また、確実に取り付けられているか、手でさわって点検します。
車幅灯、尾灯、制動灯、後退灯(エンジンスイッチが"ON"の状態で確認)、番号灯などを作動させ、点灯、または点滅するかを目視により点検します。
各灯器のレンズに変色、破損、ひび割れがないかを目視により点検します。また、確実に取り付けられているか、手でさわって点検します。



エンジンスイッチを"ON"にして、方向指示器を左右に作動させ、毎分60～120回の一定の周期で点滅するかを点検します。
方向指示器のレンズに変色、破損、ひび割れがないかを目視により点検します。また、確実に取り付けられているか、手でさわって点検します。

簡単な整備

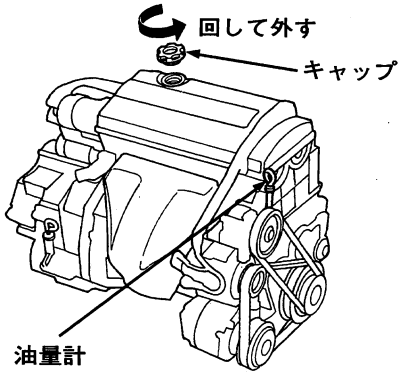
整備の際には次のことに注意してください。

注意

- 安全な場所を選んで行って下さい。
- 適切な工具を使ってください。
- 安全のためエンジンは停止状態で行ってください。
- 駐車ブレーキを十分にかけ、輪止めをするなどして、車を動かないようにして行ってください。
- 自動車をジャッキアップするときには、適切なジャッキを使ってください。（車に備え付けのジャッキは、タイヤ交換時にのみ使うものです。）
- エンジンルーム内の整備はエンジンの高熱部や自動的に回転しだす冷却ファンに十分注意してください。やけどなど思わぬけがをすることがあります。
- 取り出した部品はエンジンルーム内に置かないでください。エンジンルーム内に落としたり、万一のとき危険です。

エンジンオイルの補給

キャップを回して外し、油量計で確かめながら上限まで補給します。
補給後、キャップは確実に締め付けます。
補給がすんだらエンジンをかけ、1分間アイドリングした後、エンジンを停止し、3分以上たってから再度、油量計で確かめます。



アドバイス

- 作業は水平な場所で行ってください。
- 銘柄やグレードの違うオイルを混用したり、低品質オイルを使わないでください。
- 補給するときは、キャップ部からゴミなどが入らないようにしてください。
- オイルの量は上限を超えないようにしてください。
- オイルをこぼしたときは、完全にふき取ってください。

推奨オイル

ホンダ純正オイル(４サイクル四輪車用)

ウルトラMILD (API SG級 SAE 10W-30)

ウルトラLTD (API SG級 SAE 10W-30)

ウルトラGOLD SPECIAL (API SG級 SAE 10W-30)

ウルトラGOLD (API SG級 SAE 5W-30)※

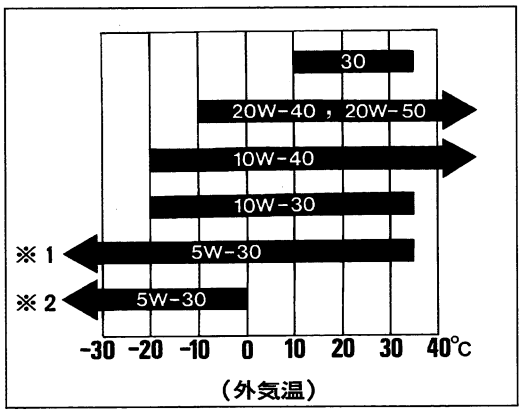
またはAPI SG級以上か、オイル缶にILSAC CERTIFICATION(イルサック サーティフィケーション)マークの入ったエンジンオイルをお使いください。

※：ウルトラGOLDは、SiRには使用できません。



ILSAC CERTIFICATIONマーク

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを下表にもとづきお使いください。



※1 ：2.2VTE

※2 ：SiR

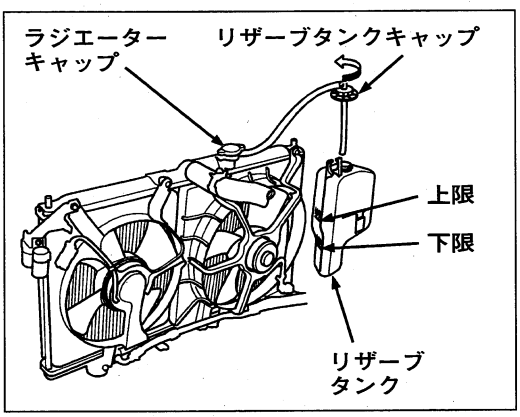
冷却水の補給

リザーブタンクのキャップをはずし、タンクの上限(MAX)まで補給します。

指定液の濃度を上水道(軟水)で下記濃度に薄めてお使いください。

冷却水の規定濃度：50%

指定液：ホンダ純正ウルトララジエーター液



液面は暖機時に上り、冷機時に下りますがエンジン温度に関係なく上限(MAX)まで補給します。

リザーブタンクに冷却水がないときはラジエーターにも補給します。ラジエーターキャップを回して外し、ラジエーターの口元まで冷却水を補給します。

注意

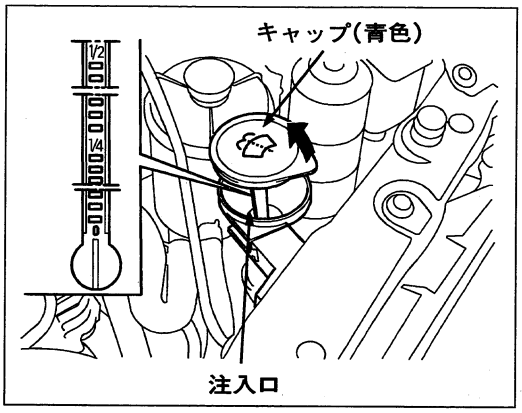
●エンジンが十分に冷え、水温が下がるまでラジエーターキャップを外さないでください。
冷却水には圧力がかかっていますので蒸気や熱湯がふき出し、やけどの危険があります。

アドバイス

●指定以外のラジエーター液や不適当な水を使うと、錆などの原因となります。
●冷却水の減り具合が著しいときは、水漏れが考えられます。
必ずホンダクリオ店で点検を受けてください。
●冷却水を車体にこぼしたときは、塗装面を傷めますので、すぐに水できれいに洗い流してください。

ウォッシャー液の補給

ボンネットを開け、ウォッシャータンクにウォッシャー液を入れて水で薄めます。

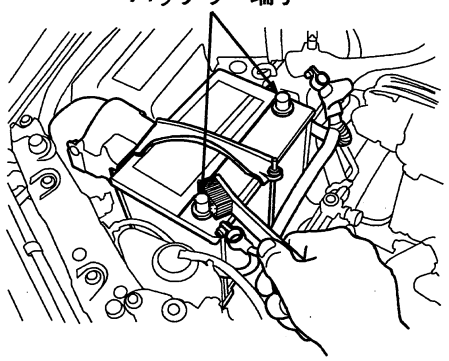


ウォッシャー液の量は、キャップに付いているウォッシャー液レベルゲージにより確認します。

アドバイス

●“ホンダウォッシャー液”には凍結防止剤が入っていますので気温に合わせた濃度でお使いください。
ウォッシャー液の濃度の使いわけおよび注意事項はウォッシャー液の容器に記載してあります。
●粗悪品や不凍液、石けん水を使うと塗装面などに害をあたえます。

バッテリー端子部の清掃



注意

●バッテリーからは可燃性のガスが発生しているので、引火すると爆発の危険があります。
バッテリーを取り扱うときはショートによる火花や火気に十分注意してください。

①端子部に汚れや腐食があるときは清掃します。端子に白い粉がついているときは、ぬるま湯で清掃します。

アドバイス

●清掃のときは、バッテリー槽内に異物がはいらないように、注液口のキャップは締めておいてください。

②端子部の腐食が著しい場合は、端子部を取り外して、ワイヤーブラシ、サンドペーパーなどでみがきます。
端子を取り付ける場合は、コードが車体やボルトなどに直接あたらないように取り付けます。

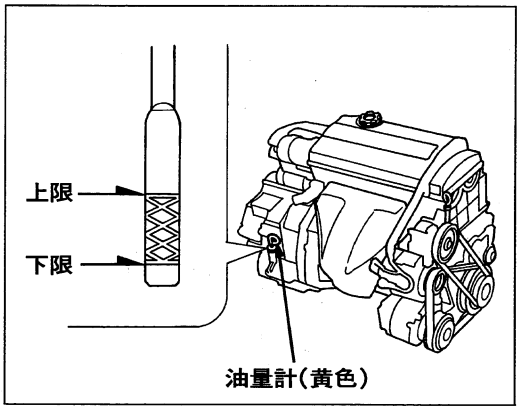
アドバイス

●ショートによる火花の発生を避けるため、端子を取り外す場合は、マイナス側の端子から外してください。
取り付ける場合は、プラス側の端子(赤色)から取り付けてください。
●端子部にゆるみが生じないよう確実に締め付けてください。

③清掃、締め付け後は、端子部にグリースを塗布します。
プラス側の端子には必ずカバー(赤色)を取り付けてください。

トランスミッション オイルの補給

①エンジン停止後１分以内に油量計(オイルレベルゲージ)により、油量が目盛りの上限と下限の間にあるかを目視により点検します。



②量が少ない場合は、油量計で確かめながら上限まで補給します。

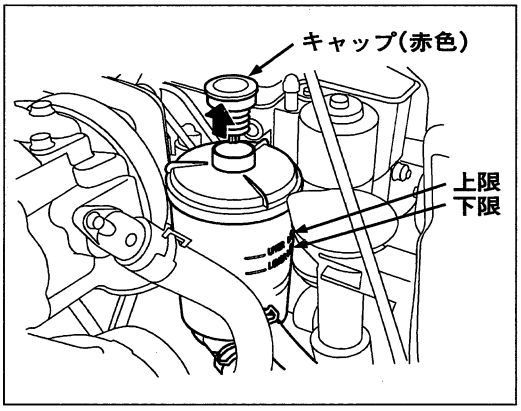
指定液：ホンダ純正ウルトラATF

アドバイス

- **作業は水平な場所で行ってください。**
- **トランスミッションオイルには指定液をお使いください。**
- **補給するときは、ゴミなどが入らないようにしてください。**
- **オイルの量は上限を超えないようにしてください。**
- **オイルをこぼしたときは、完全にふき取ってください。**

パワーステアリング液の補給

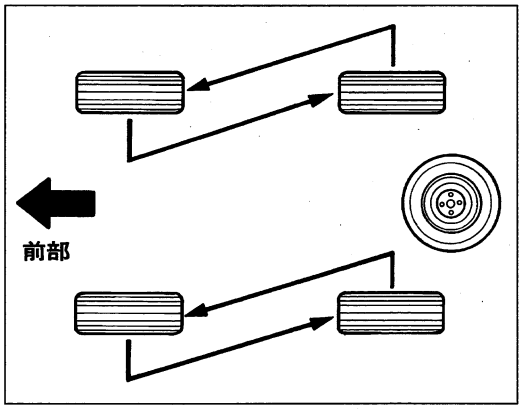
エンジンが冷えているとき、液面が目盛りの上限と下限の間にあることを点検します。
下限近くになっていたらキャップを外して上限まで補給します。
指定液：ホンダ純正ウルトラパワーステアリングフルード-V



アドバイス
- 補給するときは、ゴミなどが入らないようにしてください。
- パワーステアリング液には指定液をお使いください。
- パワーステアリング液をこぼしたときは、完全にふき取ってください。
- 液の減りかたが著しいときはパワーステアリング系統の異常が考えられます。
  ホンダクリオ店で点検を受けてください。

タイヤの位置交換（タイヤローテーション）

5,000kmごとにタイヤの位置を交換します。
同じ位置で長く走ると偏摩耗し、タイヤの寿命を縮めるたけでなく走行性、制動力にまで悪影響を与えます。



アドバイス
- 応急用スペアタイヤはタイヤの位置交換には使わないでください。タイヤがパンクしたときの応急用としてのみに使ってください。

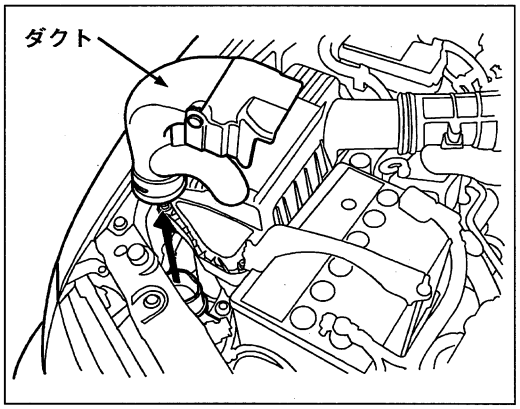
エアクリーナー エレメントの交換

推奨交換時期　40,000kmごと

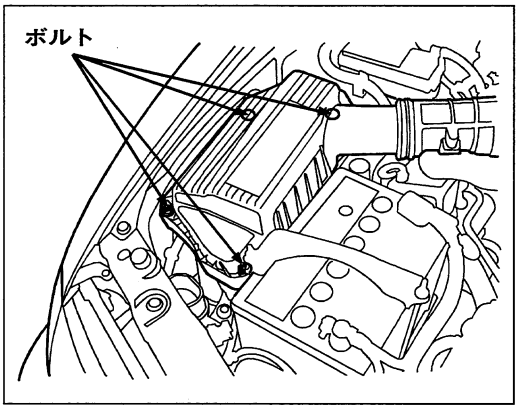
アドバイス

- ほこりの多い地区では早めに交換してください。
  よごれたまま使うと燃費不良や加速不良などの原因となります。
- エレメントはオイルを含んだタイプ(ビスカスタイプ)のため清掃は不要です。

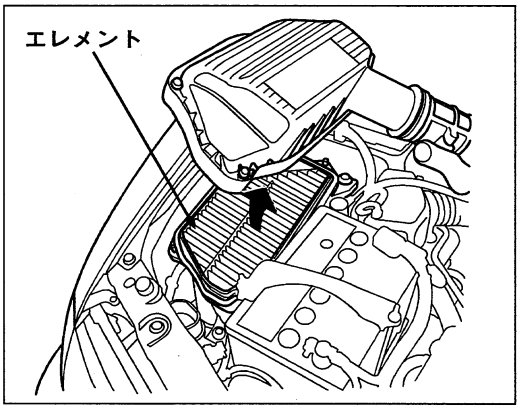
①ダクトを外します。



②ボルトをゆるめてカバーを外します。



③エレメントを交換し、カバーを元の位置に取り付け、ボルトで確実に固定します。
ダクトを取り付けます。



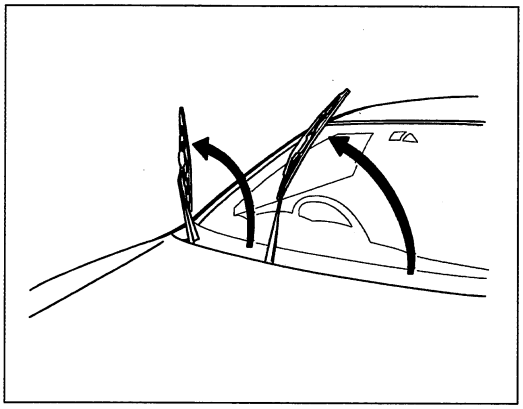
注意

- 取り外したカバーやボルトをエンジンルーム内に置いたままでエンジンをかけると、部品をこわしたり、けがをするおそれがあります。

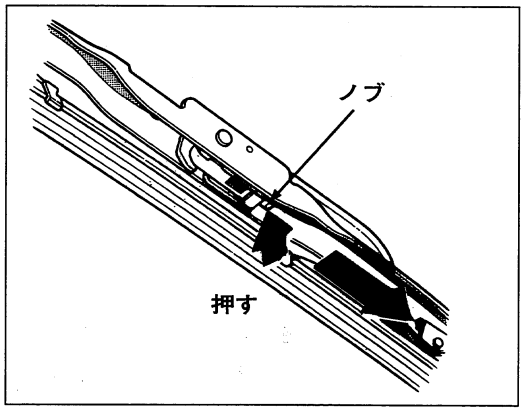
ワイパーブレードラバーの交換

ラバーが傷んでいると、ふきむらがあるばかりでなくウィンドーガラスを傷つけることがありますので、早めに交換してください。

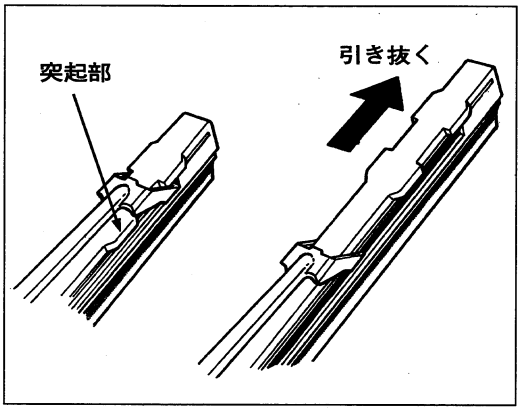
①ワイパーアームを起こします。



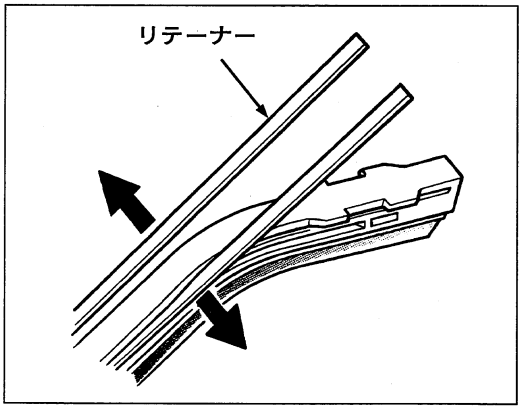
②ノブを押しながら、ワイパーブレードを手前に引いてアームから取り外します。



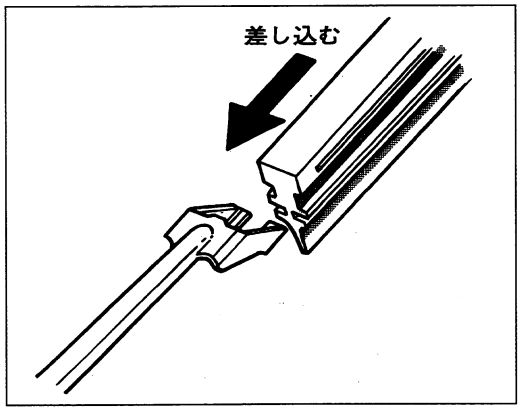
③ブレードの突起部が外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜きます。



④引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付けます。



⑤突起部と反対側からラバーをブレードに沿って差し込み、突起部を元の位置に入れます。



アドバイス

●左右のワイパーブレード、ラバー、リテーナーの長さが異なります。
取り付けるときは、左右を間違えないように注意してください。

塗装の手入れ

●お車を美しく保つために

①走行後は塗装面に付着したほこりを、毛ばたきなどではらい落としましょう。
②次の場合は必ず洗車してください。
- ●凍結防止剤を散布した道路を走行したとき。
- ●海岸地帯を走行したとき。
  以上のときは車体の下回り、フェンダーの内側を特に念入りに洗ってください。
- ●コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などがついた場合。
  化学変化で塗装面にむらができるので、中性洗剤で洗い、さらに水で完全に洗い落とし、必要に応じてポリシングワックス(ワックス乳液)で磨いてください。
  ポリシングワックスはホンダ純正ケミカル用品をお使いください。

③少なくとも月に一度は洗車してください。
④とび石などによる塗装の傷は錆の原因となります。見つけたら早めに補修してください。
⑤保管・駐車は風通しのよい車庫や、屋根のある場所をおすすめします。

●洗車のしかた

①十分に水をかけながらスポンジまたはセーム皮のような柔らかいもので洗います。
②よごれがひどい個所は中性洗剤で洗い、さらに水で完全に洗い落とします。
③水が、かわかないうちにふき取ります。

自動洗車機を使うとき

アドバイス

●自動洗車機を使うと、ブラシの傷がつき光沢が失なわれたり、劣化を早めることがあります。

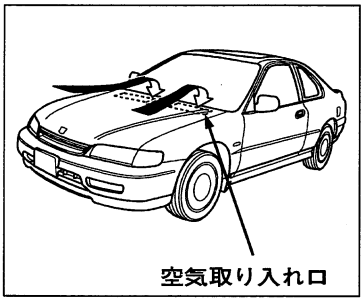
・アンテナやドアミラーを格納して洗車してください。
・ホイールカバー装備車は、自動洗車機のホイール専用ブラシを使わないでください。十分水をかけスポンジまたはセーム皮のような柔らかいもので洗ってください。

コイン洗車機を使うとき

洗車ノズルと車体の距離を十分に離して洗車してください。ドアガラスまわりは、特に注意して行ってください。近づけすぎると室内へ水が侵入することがあります。

アドバイス

●ボンネットの裏にインシュレーターが貼ってあるものは、直接インシュレーターに水をかけて洗わないでください。
●故意に空気取り入れ口やエンジンルーム内の電気部品に水をかけないでください。
故障のもとになります。



●ワックスがけのしかた

月に1回程度または水をはじかなくなったときに行ってください。
車体表面に水の残っていないことを確認し、日陰または車体表面が体温以下になっているとき行います。
ワックスはホンダ純正ケミカル用品をお使いください。



●みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。

●樹脂塗装部品について

樹脂塗装部品(バンパーなど)にガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着すると、しみの発生や塗膜がはがれる原因となります。すみやかに柔らかい布でふき取ってください。



●樹脂塗装部品の傷の補修をする場合は、ホンダクリオ店にご相談ください。不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

内装の手入れ

ビニール、レザー、プラスチック、布材の汚れ落としには、中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませてお使いください。
洗浄後、残った洗剤分は真水を含ませた柔らかい布でよく落としてください。



●乾燥は直射日光を避け、風通しのよい日陰で行ってください。
●ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤は変色、しみなどの原因となるので使わないでください。

●液体芳香剤、レザークリーナーについて

液体芳香剤、レザークリーナーはその成分によっては、樹脂部品、布材の変色、ひび割れをおこすことがあります。
取り扱いには十分ご注意ください。



●液体芳香剤はこぼさないように、容器を確実に固定してください。芳香剤のご使用にあたっては固形タイプのものをおすすめします。
●レザークリーナーを使用したあとは、必ずかわいた布で軽くふき取ってください。
また使用した布はそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

アルミホイールの取り扱い
アルミホイール装備車

アルミホイールは一般的なスチールホイールと取り扱いかたが異なります。アルミホイールの特性を維持するため、必ず次のことをお守りください。

●手入れ


アドバイス

- アルミホイールは、塩分や汚れを嫌いますので、海水や道路凍結防止剤などが付いたときには、スポンジに中性洗剤を含ませ、汚れを早めに落してください。
- ホイールの光沢を維持するため、時々ワックスがけをしてください。
- アルミホイールは傷つきやすいので、砂入り石鹸や硬いブラシを使わないでください。
  高速洗車機(ホイール専用ブラシ付のもの)によるホイールの洗浄は避けてください。
- スチーム洗浄などで、熱湯がホイールに直接かからないようにしてください。
  光沢を失うおそれがあります。

●取り扱い


アドバイス

- この車専用のホイールをお使いください。
  専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。
  ホイール交換に際しては、必ずホンダクリオ店にご相談ください。
- パンク修理などでホイールを取り付け直した際には、念のため1,000km走行時にホイールナットのゆるみの有無を点検してください。

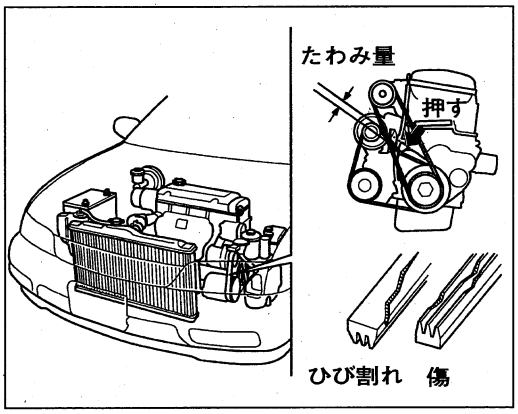

アドバイス

- アルミホイールは傷つきやすいので歩道の縁石などに乗り上げたり、すり当てたりすることを、避けてください。
- バランスウェイトやバルブはホンダ純正のアルミホイール専用品をお使いください。
  ホイールに傷をつけたり、機能を損なうことがあります。
- アルミホイールにタイヤチェーンを装着するときは、正しく装着してください。ホイールに対して片寄ったり、ゆるかったりするとホイールに傷をつけるおそれがありますので注意して装着してください。

エアコンの手入れ

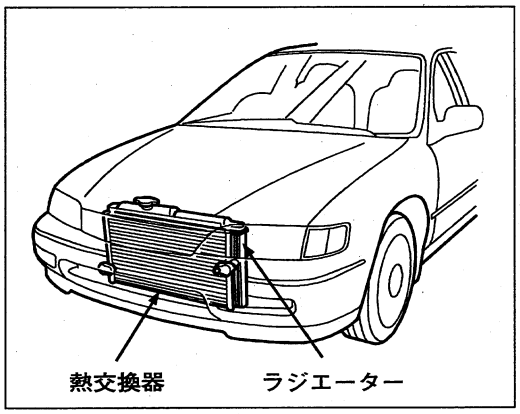
●ベルトの点検

ベルトの中央部を強く押して(約10kgの力)、たわみ量を点検します。
このときベルトに傷がないかも調べます。
適正たわみ量: 8—10.5 mm



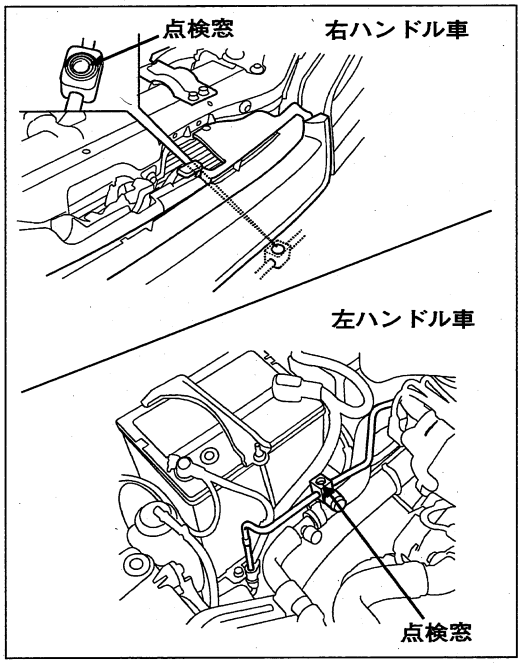
●熱交換器の清掃

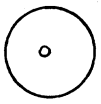
洗車の際は水を強くかけて、ラジエーターや熱交換器に付着している泥やゴミ、虫を洗い落とし、通気性をよくします。



●冷媒(ガス)量の点検

冷媒(ガス)が不足していると、冷房性能が低下します。エンジン回転を1,500rpmくらいに上げて、2～3分間冷房した後、点検窓で点検します。





:冷媒量適正
ほとんど透明です。
エンジン回転を上げ下げすると気泡が流れることがあります。



:冷媒量不足

冷媒(ガス)量が不足している場合は、ホンダクリオ店で点検、補充を受けてください。

●冷媒について

この車の冷媒は、環境保護のため、新冷媒HFC-134a(R-134a)を使用しています。
補充・交換が必要な場合は、ホンダクリオ店にご相談ください。

7

車との上手なつきあいかた

純正部品 ……212

車にあった部品の使用 ……212

経済走行のために ……212

積雪・寒冷時の取り扱い

運転するまえ ……213

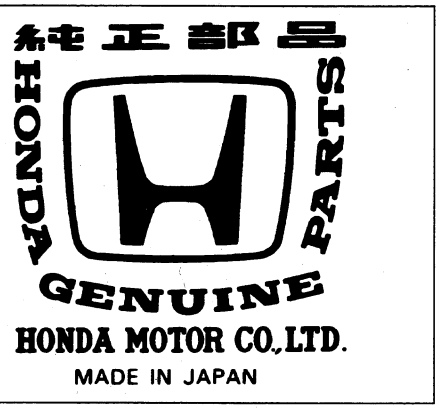
運転するとき ……214

駐車するとき ……218

冬期の手入れ ……219

純正部品

車の性能、品質を維持するために、ホンダ車に最も適したホンダ純正部品をお使いください。
純正部品は厳しい検査を実施し、ホンダ車に適合するように作られています。
ホンダクリオ店でお求めになれます。
純正部品には、つぎのマークがついています。



車にあった部品の使用

車の性能や機能に影響する個所にはホンダ純正部品以外は使わないでください。
また、車の改造は法律に触れることはもちろん、思いがけない事故を起す場合があります。
ラジオ、カーステレオ、アクセサリー部品などを装着する場合でも、装着に際してはホンダクリオ店にご相談ください。

経済走行のために

アドバイス

- 不必要な急加速、急減速などアクセルペダルをバタつかせるような運転をしないでください。
- 高速道路でも不必要な高速走行は避けましょう。
- 変速位置の選択は、走行速度に応じて適切に行ってください。

→84ページ

- 長すぎる暖機運転をしないようにしましょう。
- 車間距離は十分取り、不必要な急ブレーキをかけないでください。

積雪・寒冷時の取り扱い

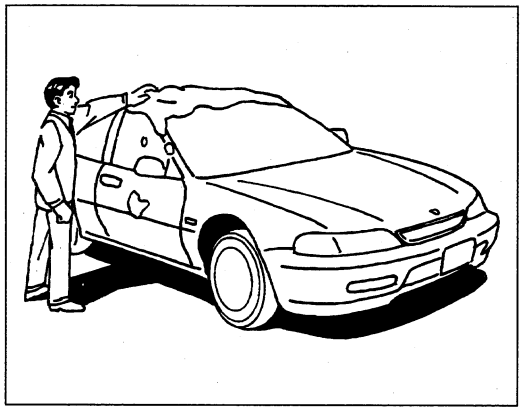
運転するまえ

●車に積った雪や着氷は取り除く

屋根に積った雪

走行時にガラス面に落ちた雪が視界の妨げとなり危険です。走行する前に取り除いてください。

・氷結している部分を無理に取り除くと塗装などを傷めます。氷が溶けてから取り除いてください。



ガラス面の雪や霜

プラスチックの板などを使うとガラスに傷をつけずに落とすことができます。

足まわりの着氷

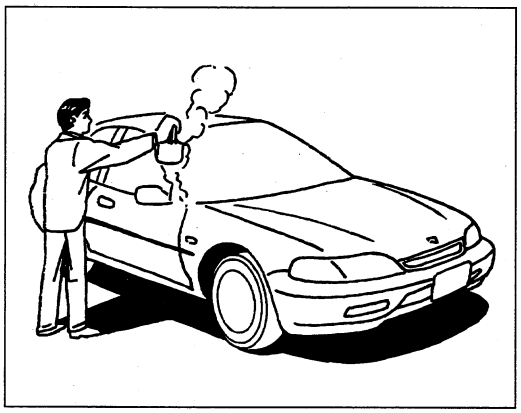
足まわりなどに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないように十分注意して取り除いてください。

●凍結しているとき

ドアの凍結

無理に開けるとドアまわりのゴムがはがれたりするので、お湯をかけて氷を溶かしてから開けてください。

・ドアキー穴部には、お湯をかけないでください。凍結すると、キーが差し込めなくなります。



お湯をかけたあとは、凍結防止のために水分をよくふき取ってください。

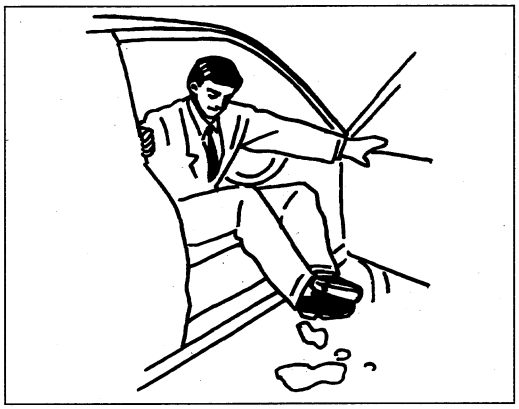
ワイパーの凍結(ガラス面が着氷、積雪しているとき)

ワイパーブレード(ゴム部)を損傷したり、モーターの故障となりますので、氷や雪を取り除いてから動かしてください。

●乗車するとき

靴にこびりついた雪をよく落としてから、乗車してください。

・ペダル類を操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったりすることがあります。



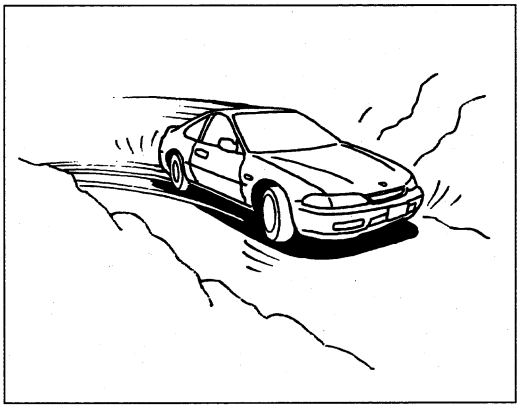
運転するまえに

ペダル類やハンドルの動きが円滑かどうか確認してください。

運転するとき

●雪道や凍結路では、たいへん滑りやすくなっているので、速度を落とし車間距離を十分とって運転しましょう。
また、ハンドルやブレーキの操作はとくに慎重にしてください。

・急加速、急減速、急ブレーキや急ハンドルは横すべりを起こして方向性を失い危険です。



●タイヤチェーン、冬用タイヤを装着して走行してください。

チェーンサイズ　→216ページ
タイヤチェーンの取り付けかた
→216ページ

・冬用タイヤを装着するときは、四輪とも同じ種類のものに交換してください。

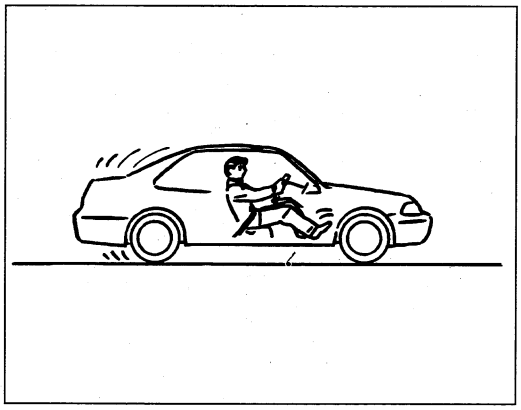
・地区条例により違いがありますので、その地区の条例に従ってください。

アドバイス

●冬用タイヤを装着したときには、安全のため高速走行は避けてください。

●ブレーキのききについて

ブレーキ装置に付着した雪や水が凍結し、ブレーキのききが悪くなることがあります。
その際には、前後の車に十分注意して、ブレーキペダルを軽く踏みながら低速で走行し、ブレーキのしめりを乾かしてください。

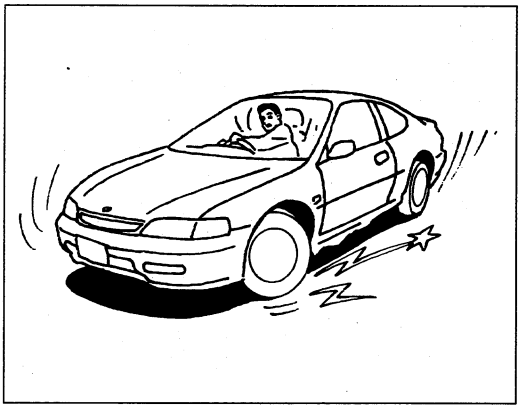


アドバイス

●ブレーキのききが回復しないときは、ブレーキ系統に異常が考えられますので、ただちにホンダクリオ店で点検を受けてください。

●ハンドルのきれについて（タイヤまわりの着氷）

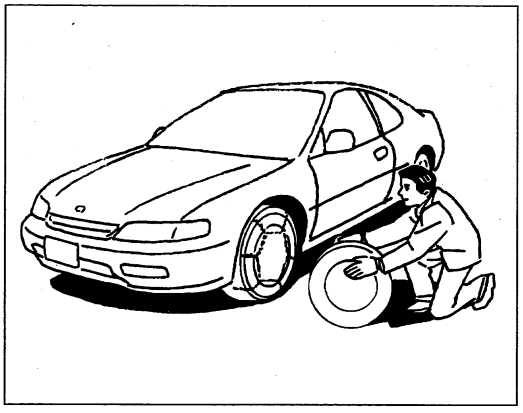
フェンダー裏側に付着した雪が氷結し、次第にたい積してハンドルのきれが悪くなることがあります。
ときどき確認し、着氷が大きくなる前に取り除いてください。



●パンクしたとき（タイヤチェーン装着時）

前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に付け、外した後輪タイヤを前輪に付けてタイヤチェーンを装着します。

・応急用スペアタイヤには、タイヤチェーンは装着できません。



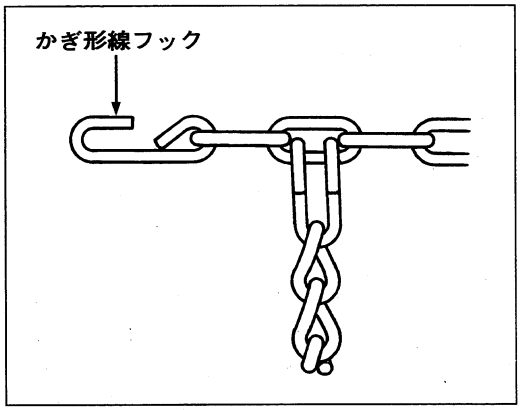
●タイヤチェーンのつけかた

チェーンサイズ

お求めはホンダクリオ店へお申しつけください。

タイヤサイズ	適合チェーンサイズ
185/70R14 88S 185/70R14 88H	スチールチェーン 45192(新JIS)
195/60R15 86H 195/60R15 88H	
205/55R15 87V	ホンダ純正スーパーグリップチェーン または同等品

スチールチェーンは内側のフック形状が、かぎ形線フックのものをお使いください。



注意

●タイヤチェーンはタイヤに合った適正なサイズのものをお使いください。サイズの合わないものを使うと、ブレーキ配管やフェンダーを破損するおそれがあります。

アドバイス

●205/55R15 87Vのタイヤ装着車にスチールチェーンを装着すると、フェンダーやホイール表面を傷つけるおそれがあります。

標準的なタイヤチェーンの取り付けかた

前輪駆動車ですので、タイヤチェーンは前輪に装着してください。

アドバイス

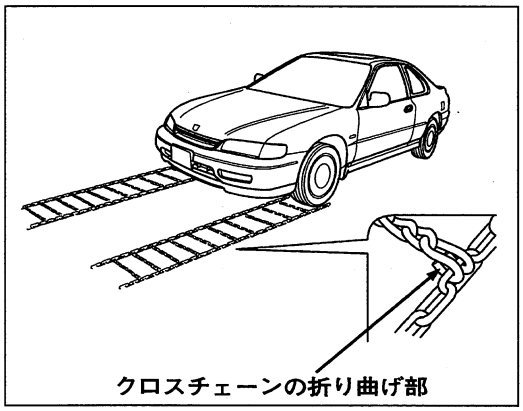
●スチールチェーン以外のタイヤチェーンをご使用になる場合は、タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従って、正しく取り付けてください。

●タイヤチェーンは平らな所で他の交通に十分注意して取り付けてください。
必要に応じて非常点滅表示灯などを使ってください。

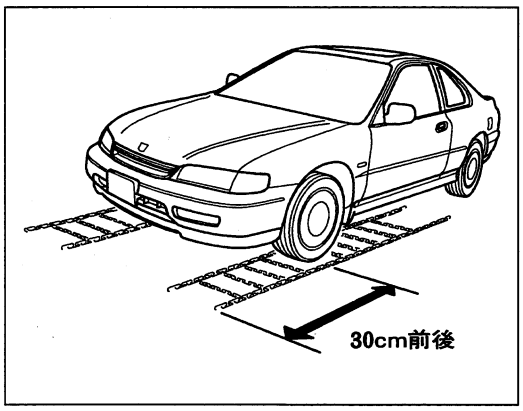
●応急用スペアタイヤには、タイヤチェーンは装着できません。
チェーン装着時に前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に装着し、外した後輪タイヤを前輪に取り付け、これに標準タイヤ用のタイヤチェーンを装着してください。

●タイヤチェーンを取り付けたときには、安全のため雪道、凍結路では30km/h以下の速度で運転してください。
なお乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したままで走行するのは避けてください。チェーンの摩耗を早めます。

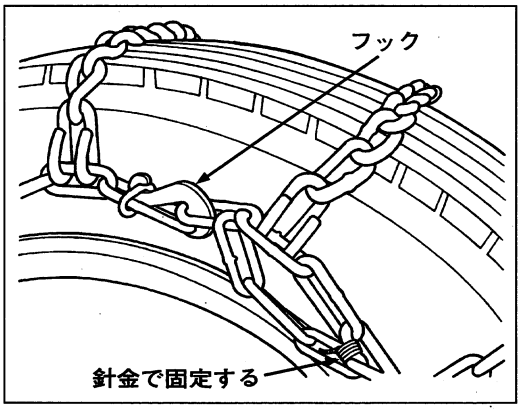
①前輪を直進状態にします。
②クロスチェーンの折り曲げ部が下側になるようにしてチェーンを前輪のすぐ前に敷きます。



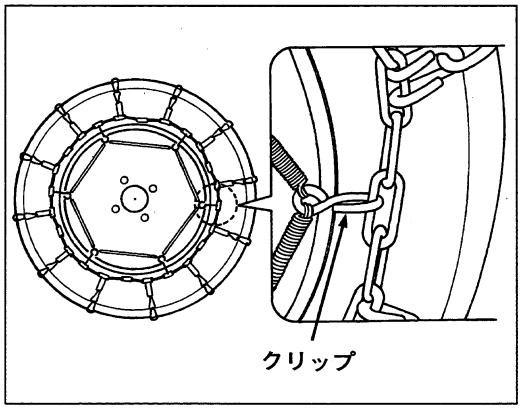
③先端のフックから30cm前後の位置まで前輪を移動させます。



④チェーンをタイヤにまきつけていっぱいに引き、内側のフックを先に連結して次に外側のフックを連結します。
⑤連結してチェーンが余った場合は、ボディなどに当たるのを防ぐために針金で固定します。



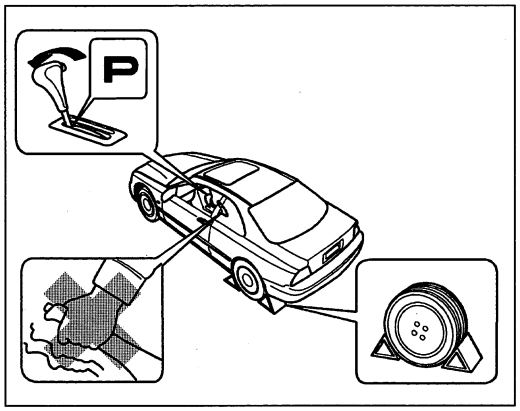
⑥チェーンバンドのクリップを外向きにしてチェーンをいっぱいに張ります。



⑦試走してチェーンのゆるみ、はずれなどがないかを確認します。

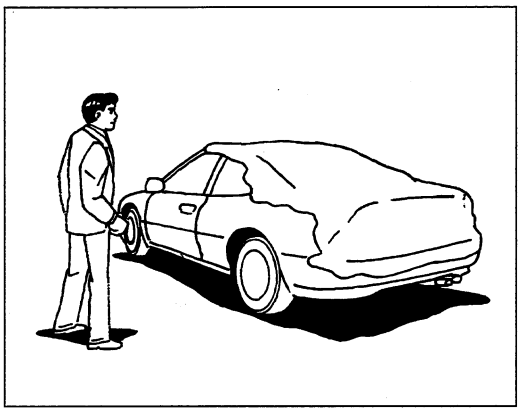
駐車するとき

駐車ブレーキの凍結を防ぐために、駐車ブレーキは使わないでください。
セレクトレバーをPに入れます。
石などで輪止めをしておきます。



●屋外に駐車するとき

- エンジンの冷えすぎを防ぐために、車の前部を風下や日の当たる方向に向けて止めてください。
  - ・エンジンが冷えすぎると始動しにくくなることがあります。
- 落雪や積雪を避けるために、軒下や樹木の下などには止めないでください。
  - ・車の屋根などがへこむことがあります。
- ワイパーアームは起こしてください。
  - ・雪の重みでアームの取り付け部がこわれることがあります。



●長期間使わないで屋外におくとき

塗装面の保護とドアまわりの凍結を防ぐために、ボディカバーを使ってください。

注意

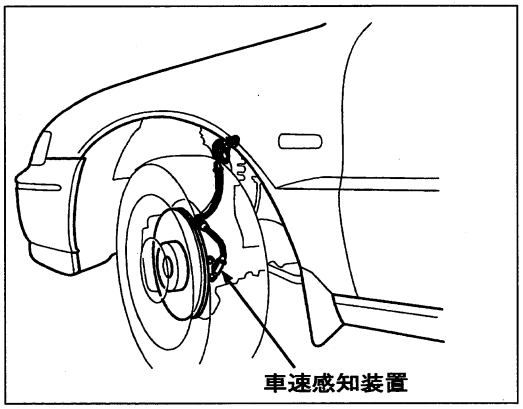
- 格納するとき、エンジン部を毛布で覆ったり、フロントグリル内側に段ボールや新聞紙をはさみ込んだりしないでください。そのまま走行すると、火災のおそれがあります。

冬期の手入れ

●雪道走行後の手入れ

フェンダー裏側や足まわりに付着した泥、雪は周囲の部品を損傷しないように取り除いてください。

アンチロックブレーキシステム装備車は、足まわり(前、後輪の4か所)に車速感知装置が取り付けてありますので、傷をつけないように特に注意してください。



●点検・整備

バッテリーについて

気温が下がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

バッテリー液量の点検　→195ページ

エンジンオイルについて

冬期はオイルの劣化が激しくなります。

冬期に主として短距離、または市街地を運転される方は、早めに交換してください。

冷却水について

冷却水の凍結を防ぐために点検してください。

冷却水の補給　→199ページ

ウォッシャー液について

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、ウォッシャー液の濃度をあげてください。

ウォッシャー液の補給　→200ページ

項目		サービスデータ		
点火プラグ※1	タイプ	2.2Vi	NGK	[ZFR5F-11] ※2 ZFR6F-11 ※2
			NIPPONDENSO	[KJ16CR-L11] ※2 KJ20CR-L11 ※2
		SiR※3	NGK	[PZFR6F-11] ※2 PFR7G-11
			NIPPONDENSO	[PKJ20CR-L11] ※2 PKJ22PR-L11
	電極のすき間	1.0—1.1 mm 白金プラグ(限度値)：1.3 mm		

[ ]内は標準装備

※1：ISO(国際標準化機構)規格品を使用しています。(ISO)のマークがついています。

※2：突出しタイプのプラグを使用しています。(NGK)のマークがついています。

※3：白金プラグを使用していますので、次のことに注意してください。

・白金チップの微粒子膜を損傷するおそれがあるので、ワイヤーブラシ等による清掃は行わないでください。

・プラグギャップは調整できません。限度値をこえているものは交換してください。
（清掃はクリーナーにて20秒以下で行ってください。）

項目		サービスデータ	
発電機ベルト	たわみ量	8—10.5 mm（約10kgの力）	
パワーステアリングベルト	たわみ量	13—16 mm（約10kgの力）	
エアコンディショナーベルト	たわみ量	8—10.5 mm（約10kgの力）	
ブレーキペダル	遊び	1—5 mm	
	床板とのすき間	右ハンドル車	90 mm 以上(約20kgの力)
		左ハンドル車	115 mm 以上(約20kgの力)
	カーペットとのすき間（参考値）	右ハンドル車	64 mm 以上(約20kgの力)
		左ハンドル車	89 mm 以上(約20kgの力)
駐車ブレーキ	引きしろ	7—11回（約20kgの力）	
ウォッシャータンク	容量	2.5 ℓ	
バッテリー	容量	52AH(5) 55AH(5)	
燃料	使用燃料	無鉛ガソリン SiRは無鉛プレミアムガソリン(無鉛ハイオク)仕様車です。	
	タンク容量	64 ℓ	
電球（バルブ）	W（ワット）数	前照灯(ハロゲンバルブ)(外側)・・・・・・・・・・12V—60/55W (内側)・・・・・・・・・・12V—55W 前面方向指示器／前面非常点滅表示灯・・・・12V—21W 車幅灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12V—5W 側面方向指示器／側面非常点滅表示灯・・・・12V—5W 後面方向指示器／後面非常点滅表示灯・・・・12V—21W 番号灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12V—8W 制動灯／尾灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12V—27/5W ハイマウントストップランプ・・・・・・・・・・・・12V—21W 後退灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12V—21W 室内灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12V—8W スポットライト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12V—5W ドア開閉灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12V—3.4W トランク照明灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12V—3.4W	

項目		サービスデータ		
タイミングベルト※1	推奨交換時期	100,000kmごと		
エンジンオイル	交換時期	10,000kmごとまたは6か月ごとのどちらか早い方		
	推奨オイル	ホンダ純正オイル(4サイクル四輪車用) ウルトラMILD (API SG級 SAE 10W-30) ウルトラLTD (API SG級 SAE 10W-30) ウルトラGOLD SPECIAL (API SG級 SAE 10W-30) ウルトラGOLD (API SG級 SAE 5W-30)※2		
	規定量	オイル交換時	2.2Vi	4.0 ℓ
			SiR	4.5 ℓ
		オイル、オイルフィルター同時交換時	2.2Vi	4.3 ℓ
			SiR	4.8 ℓ
エンジンオイルフィルター	推奨交換時期	20,000kmごと		
トランスミッションオイル	交換時期	40,000kmごと		
	指定液	オートマチック	ホンダ純正ウルトラATF	
	規定量	オートマチック(交換時)	2.4 ℓ	
冷却水	推奨交換時期	2年ごと(第1回目 3年)		
	指定液	ホンダ純正ウルトララジエーター液		
	規定濃度	50%		
	規定量(交換時リザーブタンク0.6ℓ含む)	オートマチック(交換時)	2.2Vi	5.3 ℓ
			SiR	5.8 ℓ
ブレーキ液	指定液	ホンダ純正ウルトラブレーキフルードDOT3またはDOT4		
パワーステアリング液	指定液	ホンダ純正ウルトラパワーステアリングフルード-V		
エアクリーナーエレメント	推奨交換時期	40,000kmごと		

※1：推奨交換時期は、運転席ドア開口部のラベルにも表示してあります。
このラベルには、交換実施日とそのときの走行距離が記入されます。

※2：ウルトラGOLDは、SiRには使用できません。

タイヤ / タイプ	標準タイヤ	応急用スペアタイヤ
2.2Vi	185/70R14 88S 185/70R14 88H 195/60R15 86H 195/60R15 88H	T125/70D15
SiR	195/60R15 88H 205/55R15 87V	T135/80D15

項目 / タイヤサイズ		タイヤ空気圧（空車時：kg/cm²）				※リムサイズ		タイヤの残溝の深さ	位置交換時期（タイヤローテーション）
		前輪		後輪					
		一般	高速	一般	高速	スチールホイール	アルミホイール		
標準タイヤ	185/70R14 88S 185/70R14 88H	2.1		2.1		14×5J	14×5½JJ	1.6 mm 以上	5,000kmごと
	195/60R15 86H 195/60R15 88H	2.1		2.1		15×5½JJ	15×5½JJ		
	205/55R15 87V	2.2		2.2			15×6JJ		
応急用スペアタイヤ	T125/70D15	4.2				15×4T			
	T135/80D15								

※：この車専用のホイールをお使いください。
専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。
ホイール交換に際しては、必ずホンダクリオ店にご相談ください。

名　称	型　式	エンジン型式	排気量(cm³)	車体形状	タイプ
アコード クーペ	E－CD7	F22B	2,156	2ドア ノッチバック	2.2Vi
	E－CD8	H22A	2,156		SiR

ア

アルミホイール……209
アンチロックブレーキシステム(ABS)
　液量……55・192
　警告灯……100
　装置について……99
アンテナ……121

イ

イグニッション(エンジン)
　キー……32
　スイッチ……73

ウ

ウィンドー……40
ウォッシャー液
　スイッチ……77
　タンクの容量……221
　冬期の手入れ……219
　補給……200
運行前点検……53
運転のしかた……82

エ

エアクリーナー
　エレメント……204
エアコン
　使いかた……106・113
　手入れ……210
　熱交換器……210
　ベルト……210・221
　冷媒量……210
AM/FMラジオ一体式カセットステレオ……124・138
SRSエアバッグシステム
　警告灯……98
　装置について……96
エンジンオイル・フィルター
　オイル量……56・196・222
　交換時期……222
　冬期の手入れ……219
　補給……198
エンジンキー(キー)……32
エンジンスイッチ……73
エンジンのかけかた……81
エンジンブレーキ……17・88
エンジンルーム……54
エンジンをかける前に……80

オ

応急用スペアタイヤ
　格納場所……158
　空気圧……59・193・223
　サイズ……59・193・223
　スペアタイヤについて……166
オーディオ……124・138
オートエアコン……106
オートマチック
トランスミッション
　運転のしかた……85
　オイル……202・222
　セレクトレバー……82
オーバーヒートしたとき……174
オドメーター……65
温度感知装置……112

カ

格納……218
カップホルダー……155
換気……14
寒冷時の取り扱い……213

キ

キー……32
キーインターロック……73
キー抜き忘れ警告ブザー……73
キーレスエントリー……34
キックダウン……20

ク

曇り止り(デフロスター)・111・117
クリープ現象……20
クルーズコントロール
　作動表示灯……67
　使いかた……91
車にあった部品の使用……212
車の積雪について……213
グローブボックス……154

ケ

警告灯
　警告灯が点灯したとき……172
　警告灯類……68
　電球切れの点検……72
経済走行……212
けん引
　けん引されるとき……163
　故障車をけん引するとき…164

コ

工具(ツール)
　格納場所……158
　種類……159
後写鏡の点検……61
後席シートベルト……51
高速道路で故障したとき……160
後退灯(バックランプ)
　電球の交換……180
　点検……58・197
　W(ワット)数……221
故障したとき……160
故障の修理について……161
小銭入れ(コインボックス)…154
小物入れ……154
コンソールボックス……154

サ

サービスデータ……220
サンバイザー……153
サンルーフ
　作動しないとき……183
　操作……42

シ

シート
　マニュアルシート……45
シートベルト……49
　警告灯……71
　サービスアーム……50
シガレットライター……151
事故が起きたとき……162
室内灯(ルームランプ)
　使いかた……150
　電球の交換……181
　W(ワット)数……221
シフトロック装置……23・82・87
霜取り・曇り止め
　前面／側面ガラス……111・117
ジャッキの取り扱い……165
車幅灯(ポジションランプ)
　電球の交換……180
　点検……58・197
　W(ワット)数……221
充電警告灯……70
樹脂塗装部品……208
純正部品……212

ス

水温計……65
スイッチの使いかた……73
スノータイヤ(冬用タイヤ)…214
スパークプラグ(点火プラグ)・220
スピードメーター……65
スポットライト
　使いかた……150
　電球の交換……182
　W(ワット)数……221

セ

セーフティインジケーター…72
制動灯(ブレーキランプ)
　電球の交換……180
　点検……58・197
　W(ワット)数……221
整備……198
積雪・寒冷時の取り扱い
　運転するとき……214
　運転するまえ……213
　駐車するとき……218
　冬期の手入れ……219
セレクトレバー
　操作……82
　ポジション表示灯……67
洗車……207
前照灯(ヘッドライト)
　上向きと下向きの切り換え‥75
　上向き表示灯……67
　追い越し合図(パッシング)‥75
　スイッチ……74
　点検……58・197
　W(ワット)数……221
前席シートベルト……50

ソ

速度計……65
速度範囲……84
その他の安全装備……102

タ

タイヤ
位置交換
(ローテーション)……203
応急用スペアタイヤ……166
空気圧……59・193・223
交換……167
サイズ……59・193・223
スノータイヤ……214
チェーン……216
点検……59・193
タコメーター……65

チ

チェーン……216
チャイルドシート……49
駐車
坂道……25
積雪・寒冷時の取り扱い…213
駐車ブレーキ
(パーキングブレーキ)
警告灯……69
積雪・寒冷時の取り扱い…213
操作……80
点検……61・190・221
チルトステアリング
(上下調節式ハンドル)……47

テ

点火プラグ……220
電気系統が異常のとき……175
電気装置が作動しないとき…176
電球(バルブ)
交換……179
W(ワット)数……221
点検
運行前点検……53
6か月点検……188
電動リモコンドアミラー……48

ト

ドア
開閉警告灯……72
施錠・解錠……32
積雪・寒冷時の取り扱い…213
ドア開閉灯(カーテシーランプ)
電球の交換……182
W(ワット)数……221
ドアミラー……48
灯火装置の点検……58・197
冬期の手入れ……219
道路で動けなくなったとき…161
時計……149
塗装の手入れ……206
トランク
開閉……37
開閉警告灯……72
トランク照明灯
電球の交換……182
W(ワット)数……221
トランスミッション
オイルの補給……202
オイルの容量……222
警告灯……69
トリップメーター……65

ナ

内装の手入れ……208
ナンバープレートの点検……58

ネ

熱交換器……210
燃料(ガソリン)
使用燃料……39・221
タンク容量……39・221
燃料計……65
燃料残量警告灯……71
補給口……39
量の点検……62

ハ

排気温警告灯……70
灰皿……152
ハイドロプレーニング現象……17
ハイビーム表示灯……67
ハイマウントストップランプ
　電球の交換……181
　点検……58・197
　W(ワット)数……221
発炎筒
　格納場所……158
　発炎筒について……159
バックミラー(後写鏡)
　使いかた……48
　点検……61
バッテリー
　液量……194
　充電……175
　端子部の清掃……194
　冬期の手入れ……219
　バッテリーあがり……175
　容量……221
発電機ベルト……57・197・221
バニティミラー(化粧鏡)……153
パワーウィンドー……40
パワーステアリング
　液の補給……203
　点検……189
パワードアロック
(オートドアロック)……32
パンク
　積雪・寒冷時の取り扱い…215
　パンクしたとき……165
番号灯(ライセンスランプ)
　電球の交換……181
　点検……58・197
　W(ワット)数……221
反射器の点検……58

ヒ

PGM-FI警告灯……70
ヒーター・エアコン
　オートエアコン……106
　ヒーター・マニュアル式
　エアコン……113
　吹き出し風の調節……105
非常点滅表示灯(ハザードランプ)
　スイッチ……76
　電球の交換……179・180
　点検……58・197
　W(ワット)数……221
尾灯
　電球の交換……180
　点検……58・197
　W(ワット)数……221
ヒューズ……176
表示灯……66

フ

吹き出し風の調節……105
踏切で動けなくなったとき…160
フューエルリッド……39
プラグ……220
ブレーキ
　液量の点検……55・195
　きき具合……190
　警告灯……69
　積雪・寒冷時の取り扱い…213
　倍力装置……16
　ペダル……62・189・221

ヘ

ヘッドレスト……45

ホ

ホーンスイッチ……79
ホイールサイズ……223
ホイールの交換について……171
芳香剤……208
方向指示器
　スイッチ……75
　電球の交換……179・180
　点検……58・197
　表示灯……67
　W(ワット)数……221
ボンネット……35

マ

マニュアルシート……45
万一のとき……157

ミ

ミラー
　ドアミラー……48
　ルームミラー……48

ム

無線装置……28

メ

メーター(計器類)……64

ユ

油圧警告灯……69

ラ

ライト消し忘れ警告ブザー……74
ライトスイッチ……74
ライト類が点灯しないとき…176

リ

リザーブタンク
　ブレーキ液……55・191
リムサイズ……223
リモートコントロール
　ドアミラー……48
リヤデフロスター……78

ル

ルームミラー
(防眩式室内後写鏡)……48

レ

冷却水(ラジエーター液)
　交換時期……222
　水量……57・196・222
　冬期の手入れ……219
　補給……199
冷却装置(ラジエーター)
　点検……56
冷媒量……210
レザークリーナー……208

ロ

6か月点検……188

ワ

ワイパー
　スイッチ……77
　積雪・寒冷時の取り扱い…213
　ブレードラバーの交換……205
ワックスがけ……208

MEMO

お問い合わせ、ご相談はお買い求めのクリオ店もしくは全国共通のフリーダイヤル0120-112010（イイフルアイオ）で下記のお客様相談センターがお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

地　区	郵便番号	所　在　地
札　幌	065	北海道札幌市東区本町２条10－２－29
仙　台	983	宮城県仙台市若林区六丁の目西町１－10
東　京	107	東京都港区南青山２－１－１
名古屋	454	愛知県名古屋市中川区五月通４－22
大　阪	572	大阪府寝屋川市池田中町２－12
福　岡	811-01	福岡県粕屋郡新宮町大字下府字塩出599

・所在地が変更になることがありますのでご了承ください。